
2016年度

シラバス

言語文化学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部 養：国際教養学部 経：経済学部

法：法学部

独：ドイツ語学科

済：経済学科

律：法律学科

英：英語学科

営：経営学科

国：国際関係法学科

仏：フランス語学科

環：国際環境経済学科

総：総合政策学科

交：交流文化学科 全：言語文化学科以外の全学部学科

免：2013年度以降入学の教職課程登録者

2. シラバスページの見方(右図参照)

①適用学生

13年度以降：2013年度以降入学者対象科目

12年度以前：2007年度～2012年度入学者対象科目

※2006年度以前の入学者は全て履修できません。

②入学年度に対応した科目名

入学年度に対応した科目名が記載されています。

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤到達目標

⑥事前・事後学修の内容

⑦授業で使用するテキスト、参考文献

⑧評価方法について

⑨原則としてページ上段は春学期科目、下段は秋学期科目です。

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	
春学期		
到達目標	⑤	
事前・事後 学修の内容	⑥	
テキスト・ 参考文献	⑦	
評価方法	⑧	

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	
秋学期		
到達目標	⑤	
事前・事後 学修の内容	⑥	
テキスト・ 参考文献	⑦	
評価方法	⑧	

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

定員を設けている科目があります。各科目の定員は、『授業時間割表』を参照してください。

国際教養学部言語文化学科授業科目(2013年度以降入学者用)

目次 学科基盤科目

「学科基盤科目」部門

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	基礎演習	各担当教員	木4	2	1	全	1
秋	言語文化論	二宮 哲	月4	2	1	全	1
春	哲学Ⅰ	林 永強	金4	2	1	全	2
春	哲学Ⅱ	林 永強	金3	2	4	全	3
秋	哲学Ⅱ	林 永強	金3	2	4	全	3

「外国語科目基盤科目」部門

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	英語Ⅰ(IE)	各担当教員		1	1	全	4
春	英語Ⅰ(S)	各担当教員		1	1	全	5
春	英語Ⅰ(W)	各担当教員		1	1	全	6
秋	英語Ⅱ(IE)	各担当教員		1	1	全	4
秋	英語Ⅱ(S)	各担当教員		1	1	全	5
秋	英語Ⅱ(W)	各担当教員		1	1	全	6
春	英語Ⅲ(IE)	各担当教員		1	2	全	7
春	英語Ⅲ(W)	各担当教員		1	2	全	8
秋	英語Ⅳ(IE)	各担当教員		1	2	全	7
秋	英語Ⅳ(W)	各担当教員		1	2	全	8
春	スペイン語Ⅰ(総合1)	各担当教員		1	1	全	10
春	スペイン語Ⅰ(総合2)	各担当教員		1	1	全	11
春	スペイン語Ⅰ(入門)	各担当教員		1	1	全	12
春	スペイン語Ⅰ(会話)	各担当教員		1	1	全	13
秋	スペイン語Ⅱ(総合1)	各担当教員		1	1	全	10
秋	スペイン語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	11
秋	スペイン語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	12
秋	スペイン語Ⅱ(会話)	各担当教員		1	1	全	13
春	スペイン語Ⅲ(総合)	各担当教員		1	2	全	14
春	スペイン語Ⅲ(講読)	各担当教員		1	2	全	15
春	スペイン語Ⅲ(会話1)	各担当教員		1	2	全	16
春	スペイン語Ⅲ(会話2)	各担当教員		1	2	全	17
秋	スペイン語Ⅳ(総合)	各担当教員		1	2	全	14
秋	スペイン語Ⅳ(講読)	各担当教員		1	2	全	15
秋	スペイン語Ⅳ(会話1)	各担当教員		1	2	全	16
秋	スペイン語Ⅳ(会話2)	各担当教員		1	2	全	17
春	中国語Ⅰ(総合1)	各担当教員		1	1	全	18
春	中国語Ⅰ(総合2)	各担当教員		1	1	全	19
春	中国語Ⅰ(入門)	各担当教員		1	1	全	20
春	中国語Ⅰ(会話)	各担当教員		1	1	全	21
秋	中国語Ⅱ(総合1)	各担当教員		1	1	全	18
秋	中国語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	19
秋	中国語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	20
秋	中国語Ⅱ(会話)	各担当教員		1	1	全	21
春	中国語Ⅲ(総合)	各担当教員		1	2	全	22
春	中国語Ⅲ(講読)	各担当教員		1	2	全	23
春	中国語Ⅲ(会話1)	各担当教員		1	2	全	24
春	中国語Ⅲ(会話2)	各担当教員		1	2	全	25
秋	中国語Ⅳ(総合)	各担当教員		1	2	全	22
秋	中国語Ⅳ(講読)	各担当教員		1	2	全	23
秋	中国語Ⅳ(会話1)	各担当教員		1	2	全	24
秋	中国語Ⅳ(会話2)	各担当教員		1	2	全	25

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	韓国語Ⅰ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	26
春	韓国語Ⅰ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	27
春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	28
春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	29
秋	韓国語Ⅱ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	26
秋	韓国語Ⅱ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	27
秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	28
秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	29
春	韓国語Ⅲ(文法・読解1)	各担当教員		1	2	全	30
春	韓国語Ⅲ(文法・読解2)	各担当教員		1	2	全	31
春	韓国語Ⅲ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	2	全	32
春	韓国語Ⅲ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	2	全	33
秋	韓国語Ⅳ(文法・読解1)	各担当教員		1	2	全	30
秋	韓国語Ⅳ(文法・読解2)	各担当教員		1	2	全	31
秋	韓国語Ⅳ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	2	全	32
秋	韓国語Ⅳ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	2	全	33

「外国語科目進展科目」部門

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	英語上級	J. ハント	月3	2	3	全	34
春	英語上級	K. A. クラウン	火3	2	3	全	35
春	英語上級	K. A. クラウン	金1	2	3	全	36
春	英語上級	M. ハルデイン	火3	2	3	全	37
春	英語上級	M. ハルデイン	金1	2	3	全	38
春	英語上級	J. ワインバーグ	金1	2	3	全	39
春	英語上級	J. G. ショールツ	火3	2	3	全	40
春	英語上級	J. G. ショールツ	金1	2	3	全	41
春	英語上級	奥平 文子	月3	2	3	全	42
春	英語上級	関戸 冬彦	金1	2	3	全	43
春	英語上級	山本 英政	月3	2	3	全	44
秋	英語上級	J. ハント	月3	2	3	全	34
秋	英語上級	K. A. クラウン	火3	2	3	全	35
秋	英語上級	K. A. クラウン	金1	2	3	全	36
秋	英語上級	M. ハルデイン	火3	2	3	全	37
秋	英語上級	M. ハルデイン	金1	2	3	全	38
秋	英語上級	B. ゲンチ	金1	2	3	全	39
秋	英語上級	J. G. ショールツ	火3	2	3	全	40
秋	英語上級	J. G. ショールツ	金1	2	3	全	41
秋	英語上級	奥平 文子	月3	2	3	全	42
秋	英語上級	関戸 冬彦	金1	2	3	全	43
秋	英語上級	山本 英政	月3	2	3	全	44
春	英語上級(再履修)	奥平 文子	月4	2	3	全	45
秋	英語上級(再履修)	奥平 文子	月4	2	3	全	45
春	英語演習Ⅰ	山本 英政	水2	2	2	全	46
春	英語演習Ⅰ	木村 正美	水3	2	2	全	47
春	英語演習Ⅰ	小島 章子	木3	2	2	全	48
春	英語演習Ⅰ	小瀬 百合子	水4	2	2	全	49
秋	英語演習Ⅰ	B. ゲンチ	火3	2	2	全	46
秋	英語演習Ⅰ	木村 正美	水3	2	2	全	47
秋	英語演習Ⅰ	小島 章子	木3	2	2	全	48
秋	英語演習Ⅰ	小瀬 百合子	水4	2	2	全	49
春	英語演習Ⅱ	J. ハント	月4	2	3	全	50
春	英語演習Ⅱ	S. K. エリス	木4	2	3	全	51
春	英語演習Ⅱ	渡部 富栄	火4	2	3	全	52
春	英語演習Ⅱ	奥平 文子	月2	2	3	全	53
春	英語演習Ⅱ	齋藤 雪絵	金3	2	3	全	54
春	英語演習Ⅱ	関戸 冬彦	木3	2	3	全	55
秋	英語演習Ⅱ	J. ハント	月4	2	3	全	50
秋	英語演習Ⅱ	S. K. エリス	木4	2	3	全	51
秋	英語演習Ⅱ	渡部 富栄	火4	2	3	全	52
秋	英語演習Ⅱ	奥平 文子	月2	2	3	全	53
秋	英語演習Ⅱ	齋藤 雪絵	金3	2	3	全	54
秋	英語演習Ⅱ	関戸 冬彦	木3	2	3	全	55

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単 位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	翻訳通訳論・英語	渡部 富栄	火2	2	3		56
秋	翻訳通訳実習・英語	渡部 富栄	火2	2	3		56
春	スペイン語上級	各担当教員		2	3	全	57
秋	スペイン語上級(再履修)	各担当教員		2	3	全	57
春	スペイン語演習	J. マルティネス	火1	2	3	全※1	58
春	スペイン語演習	N. ウエチ	木1	2	3	全※1	59
秋	スペイン語演習	J. マルティネス	火1	2	3	全※1	58
秋	スペイン語演習	N. ウエチ	木1	2	3	全※1	59
秋	スペイン語演習	M. サンチェス	水3	2	3	全※1	60
秋	スペイン語演習	J. I. ドメネク・アロンソ	水3	2	3	全※1	61
秋	スペイン語演習	二宮 哲	金3	2	3	全※1	62
秋	スペイン語演習	P. ラゴ	金2	2	3	全※1	63
春	翻訳通訳論・スペイン語	柴田 バネッサ	火3	2	3		64
秋	翻訳通訳実習・スペイン語	柴田 バネッサ	火3	2	3		64
春	中国語上級	各担当教員		2	3	全	65
秋	中国語上級(再履修)	各担当教員		2	3	全	65
春	中国語演習	永田 小絵	火1	2	3	全※1	66
春	中国語演習	蔡 曉軍	火1	2	3	全※1	67
春	中国語演習	劉 岸麗	木3	2	3	全※1	68
春	中国語演習	武信 彰	水2	2	3	全※1	69
春	中国語演習	永田 小絵	木4	2	3	全※1	70
秋	中国語演習	永田 小絵	火1	2	3	全※1	66
秋	中国語演習	蔡 曉軍	火1	2	3	全※1	67
秋	中国語演習	劉 岸麗	木3	2	3	全※1	68
秋	中国語演習	吉田 桂子	金3	2	3	全※1	69
秋	中国語演習	吉田 桂子	金2	2	3	全※1	70
春	翻訳通訳論・中国語	永田 小絵	火2	2	3		71
秋	翻訳通訳実習・中国語	永田 小絵	火2	2	3		71
春	韓国語上級	各担当教員		2	3	全	72
秋	韓国語上級(再履修)	各担当教員		2	3	全	72
春	韓国語演習	沈 元燮	水4	2	3	全※1	73
秋	韓国語演習	沈 元燮	水4	2	3	全※1	73
秋	韓国語演習	沈 民珪	木1	2	3	全※1	74
秋	韓国語演習	白 寅英	金2	2	3	全※1	75
春	翻訳通訳論・韓国語	柳 蓮淑	月3	2	3		76
秋	翻訳通訳実習・韓国語	柳 蓮淑	月3	2	3		76

※1:交流文化学科は除く

「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単 位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	スペイン研究概論	二宮 哲	月5	2	1	全	79
春	ラテンアメリカ研究概論	佐藤 勘治	月4	2	1	全	80
春	スペインの言語と歴史・文化	二宮 哲	月4	2	2		86
秋	スペイン語研究	二宮 哲	月2	2	2		79
秋	スペイン語圏の文学	中井 博康	月3	2	2		80
春	ラテンアメリカの歴史と文化	佐藤 勘治	木4	2	2		81
春	ラテンアメリカの政治と社会	浦部 浩之	木2	2	2		82
春	ラテンアメリカの経済と社会	今井 圭子	月3	2	2		84
秋	ラテンアメリカ近現代史	佐藤 勘治	木4	2	2		81
秋	ラテンアメリカの国際関係	浦部 浩之	木2	2	2		82
春	ブラジル研究	E. ウラノ	火2	2	2	全	83
秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(ラテンアメリカ経済発展論)	今井 圭子	月3	2	2		84
春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究a)	P. ラゴ	月3	2	2		85
秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究b)	P. ラゴ	月3	2	2		85
春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	倉田 量介	火3	2	2	全	87
	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	2016年度不開講		2	2		
春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(カリブ海域研究)	中村 隆之	水4	2	2	全	88
秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(専門講読)	浦部 浩之	月4	2	2		86
	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(英西語学演習)	2016年度不開講		2	2		

「中国研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	中国研究概論	松岡 格	火4	2	1		89
秋	中国言語文化論	武信 彰	月4	2	2		92
秋	中国社会論	松岡 格	火4	2	2		89
秋	中国地域論	松岡 格	水2	2	2		93
春	現代中国論Ⅰ	松岡 格	金4	2	2	法	90
秋	現代中国論Ⅱ	松岡 格	金4	2	2	法	90
春	中国史Ⅰ	張 士陽	木4	2	2	全	91
秋	中国史Ⅱ	張 士陽	木4	2	2	全	91
春	中国特殊研究(日中比較文化研究a)	大澤 昇	水3	2	2		94
秋	中国特殊研究(日中比較文化研究b)	大澤 昇	水3	2	2		94
春	中国特殊研究(中国文学研究a)	近藤 光雄	木3	2	2		95
秋	中国特殊研究(中国文学研究b)	近藤 光雄	木3	2	2		95
春	中国特殊研究(日中交流史)	武信 彰	月4	2	2		92
春	中国特殊研究(専門講読)	松岡 格	木3	2	2		93

「韓国研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	韓国研究概論	佐藤 厚	金5	2	1	全	96
秋	韓国社会論Ⅰ	佐藤 厚	金5	2	2	全	96
秋	韓国社会論Ⅱ	柳 蓮淑	月4	2	2	全	97
	韓国経済論	2016年度不開講		2	2	全	
春	韓国史	佐藤 厚	金3	2	2	全	98
秋	日韓比較文化論	金 熙淑	火4	2	2	全	98
春	日韓比較教育論	小島 優生	木2	2	2	全	99
秋	日韓交流史	金 熙淑	月3	2	2	全	99
秋	韓国研究情報収集法	金 熙淑	月4	2	2	全	100
春	韓国特殊研究(韓国政治論)	吳 吉煥	金1	2	2	全	100
春	韓国特殊研究(韓国前近代史)	佐藤 厚	木1	2	2	全	103
秋	韓国特殊研究(韓国の宗教)	佐藤 厚	金3	2	2	全	103
秋	韓国特殊研究(韓国の言語文化)	金 秀晶	水3	2	2	全	104
春	韓国特殊研究(韓国文学史)	沈 元燮	水2	2	2	全	102
春	韓国特殊研究(韓国小説の世界)	沈 元燮	火4	2	2		101
秋	韓国特殊研究(韓国詩の世界)	沈 元燮	火4	2	2		101
秋	韓国特殊研究(専門講読)	沈 元燮	水2	2	3		102

「日本研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	日本研究概論Ⅰ	宇津木 言行	火3	2	1	全	105
秋	日本研究概論Ⅱ	生田 守	木4	2	1	全	105
春	日本文学論・古代Ⅰ	福沢 健	月5	2	1	全	106
秋	日本文学論・古代Ⅱ	福沢 健	月5	2	1	全	106
春	日本文学論・中世Ⅰ	城崎 陽子	水3	2	1	全	107
春	日本文学論・中世Ⅱ	飯島 一彦	水2	2	1	全	108
春	日本文学論・近現代Ⅰ	佐藤 毅	木1	2	1	全	109
秋	日本文学論・近現代Ⅱ	佐藤 毅	木1	2	1	全	109
春	民俗学	林 英一	木1	2	1	全	110
	日本史Ⅰ	2016年度不開講		2	1	全	
	日本史Ⅱ	2016年度不開講		2	1	全	
	日本思想史Ⅰ	2016年度不開講		2	2	全	
	日本思想史Ⅱ	2016年度不開講		2	2	全	
春	日本特殊研究(日本文学作品研究a)	宇津木 言行	火4	2	2	全	111
秋	日本特殊研究(日本文学作品研究b)	飯島 一彦	木4	2	2	全	111
秋	日本特殊研究(日本文学作品研究c)	城崎 陽子	水3	2	2	全	112
春	日本特殊研究(日本文学作品研究d)	城崎 陽子	水4	2	2	全	112
秋	日本特殊研究(日本文学作品研究e)	宇津木 言行	火3	2	2	全	113
秋	日本特殊研究(日本文化研究a)	飯島 一彦	水1	2	2	全	114
秋	日本特殊研究(日本文化研究b)	宇津木 言行	火4	2	2	全	115
秋	日本特殊研究(日本文化研究c)	林 英一	木1	2	2	全	116
秋	日本特殊研究(日本文化研究d)	飯島 一彦	水2	2	2	全	117
春	日本特殊研究(日本史研究a)	丸浜 昭	水1	2	2	全	118
秋	日本特殊研究(日本史研究b)	丸浜 昭	水1	2	2	全	118

「言語教育研究科目群」

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単 位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	言語学概論	安間 一雄	火3	2	1	全	119
春	英語学概論	未定	火3	2	1	全	120
春	日本語教育概論	石塚 京子	月3	2	1	全	122
春	応用言語学Ⅰ	臼井 芳子	水1	2	2	全	123
秋	応用言語学Ⅱ	臼井 芳子	水1	2	2	全	123
春	英語圏の文学Ⅰ	大熊 昭信	金5	2	1	全	124
秋	英語圏の文学Ⅱ	大熊 昭信	金5	2	1	全	124
秋	英語圏の文学・文化・批評Ⅱ	前沢 浩子	火4	2	2	全	125
春	英語圏の文学・文化・批評Ⅰ	片山 亜紀	火4	2	2	全	125
秋	英語圏の文学・文化・批評Ⅱ	児嶋 一男	月3	2	2	全	126
春	国際語としての英語	臼井 芳子	木3	2	2		126
春	日本語教授法Ⅰa	野原 ゆかり	火1	2	3		128
秋	日本語教授法Ⅰb	野原 ゆかり	火1	2	3		128
春	日本語教授法Ⅱ	野原 ゆかり	木2	2	4		129
春	日本語音声学	磯村 一弘	水5	2	2		127
春	日本語文法論Ⅰ	浅山 佳郎	月3	2	1	全※2	130
秋	日本語文法論Ⅱ	浅山 佳郎	月3	2	1	全※2	130
秋	日本語コミュニケーション論	城崎 陽子	水4	2	1	全	122
春	英語教育特殊研究(専門講読a)	関戸 冬彦	木1	2	2		131
秋	英語教育特殊研究(専門講読b)	関戸 冬彦	木1	2	2		131
秋	英語教育特殊研究(授業分析と実践a)	臼井 芳子	木3	2	3		132
	英語教育特殊研究(授業分析と実践b)	2016年度不開講		2	3		
春	英語教育特殊研究(早期外国語教育)	居村 啓子	月4	2	3		132
	英語教育特殊研究(英西語学演習)	2016年度不開講		2	2		
春/秋	日本語教育特殊研究(教育実習)	各担当教員	その他	2	4		134
春	日本語教育特殊研究(教育教材論)	小山 慎治	月2	2	2		135
春	日本語教育特殊研究(意味論)	武田 明子	火2	2	2	全	136
秋	日本語教育特殊研究(談話論)	浅山 佳郎	木4	2	2	全	136
春	日本語教育特殊研究(専門講読)	田川 麻央	水4	2	2		133
秋	日本語教育特殊研究(年少者日本語教育)	宇津木 奈美子	火4	2	2		133
秋	日本語教育特殊研究(日本語教育のための社会言語学)	野原 ゆかり	水2	2	2		135

※2:14年度以降入学者は除く

「グローバル社会研究科目群」

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単 位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	異文化間コミュニケーションⅠ	岡村 圭子	木3	2	1		137
秋	異文化間コミュニケーションⅡ	山本 英政	月2	2	1	全	137
春	多文化共生研究Ⅰ	佐藤 唯行	火3	2	2		138
秋	多文化共生研究Ⅱ	佐藤 唯行	火3	2	2		138
秋	比較文化論	岡村 圭子	木3	2	2		140
春	大衆文化論	木本 玲一	月5	2	2	全	139
春	ローカル・メディア論	岡村 圭子	火3	2	2	全	140
春	英語圏の文化	山本 英政	木2	2	2	全	141
秋	英語圏事情	山本 英政	木2	2	2	全	141
春	国際関係論	佐藤 俊輔	月4	2	1	全	142
春	国際協力論	浦部 浩之	水3	2	1		145
秋	南北問題	浦部 浩之	水3	2	1		145
秋	NGO論	清水 俊弘	水2	2	1	全	148
春	国際政治論Ⅰ	岡垣 知子	水1	2	2	全	143
秋	国際政治論Ⅱ	岡垣 知子	水1	2	2	全	143
春	国際経済論Ⅰ	益山 光央	火2	2	2	全	144
秋	国際経済論Ⅱ	益山 光央	火2	2	2	全	144
春	日本政治外交史Ⅰ	福永 文夫	金2	2	2	全	146
秋	日本政治外交史Ⅱ	福永 文夫	金2	2	2	全	146
春	国際機構と法Ⅰ	鈴木 淳一	月1	2	3	全	147
秋	国際機構と法Ⅱ	鈴木 淳一	月3	2	3	全	147
春	地域研究論	浦部 浩之	月4	2	2		148
秋	グローバル社会特殊研究(滞日外国人研究)	田房 由起子	土2	2	2	法	149
春	グローバル社会特殊研究(在外日本人研究)	山本 英政	月4	2	2	全	149
秋	グローバル社会特殊研究(アメリカ合衆国のラティノ社会)	佐藤 勘治	月4	2	2		150

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	グローバル社会特殊研究(東南アジアの経済と地域統合a)	高安 健一	金1	2	2	全	151
秋	グローバル社会特殊研究(東南アジアの経済と地域統合b)	高安 健一	金1	2	2	全	151
春	グローバル社会特殊研究(東南アジアの開発と社会)	江藤 双恵	火1	2	2	全	150
春	グローバル社会特殊研究(地球環境と法a)	一之瀬 高博	木2	2	3	全	152
秋	グローバル社会特殊研究(地球環境と法b)	一之瀬 高博	木2	2	3	全	152
	グローバル社会特殊研究(ポストコロナ研究)	2016年度不開講		2	2	全	

「人間発達科学研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	教育学概論Ⅰ(教職論)	萩原 真美	火5	2	1	全	153
春	教育学概論Ⅰ(教職論)	桑原 憲一	月3	2	1	全	153
秋	教育学概論Ⅰ(教職論)	桑原 憲一	月4	2	1	全	153
春	教育学概論Ⅱ(教育の原理)	萩原 真美	火4	2	1	全	154
秋	教育学概論Ⅱ(教育の原理)	萩原 真美	火4	2	1	全	154
秋	教育学概論Ⅱ(教育の原理)	萩原 真美	火5	2	1	全	154
秋	教育学概論Ⅱ(教育の原理)	川村 肇	木3	2	1	全	154
春	心理学概論Ⅰ(こころの世界)	田口 雅徳	木2	2	1	全	155
秋	心理学概論Ⅱ(心理検査法と自己理解)	田口 雅徳	木4	2	2	全	155
春	スポーツ・レクリエーション概論	和田 智	金4	2	1	全	156
春	スポーツ科学概論	依田 珠江	水1	2	1	全	157
春	教育の歴史Ⅰ	長谷部 圭彦	木5	2	2	全	158
秋	教育の歴史Ⅱ	長谷部 圭彦	木5	2	2	全	158
春	比較教育制度論	桑原 憲一	月4	2	2	全	159
春	比較教育制度論	小島 優生	木1	2	2	全	159
秋	比較教育制度論	小島 優生	木1	2	2	全	159
春	教育課程論	安井 一郎	水2	2	2	全	160
春	教育課程論	桑原 憲一	火4	2	2	全	160
秋	教育課程論	桑原 憲一	火5	2	2	全	160
春	教育心理学	白砂 佐和子	火4	2	1	全	161
秋	教育心理学	白砂 佐和子	火4	2	1	全	161
春	教育心理学	田口 雅徳	金1	2	1	全	161
秋	教育心理学	田口 雅徳	金1	2	1	全	161
	カウンセリング論	2016年度不開講	木3	2	2	全	
	パーソナリティ理論	2016年度不開講	木3	2	2	全	
春	学校カウンセリング	山本 良	金2	2	2	全	162
秋	学校カウンセリング	山本 良	金2	2	2	全	162
秋	学校カウンセリング	鈴木 乙史	木4	2	2	全	162
	人間発達科学特殊研究(子ども論a)	2016年度不開講		2	2	全	
	人間発達科学特殊研究(子ども論b)	2016年度不開講		2	2	全	
秋	人間発達科学特殊研究(教師と語る)	川村 肇	金3	2	1	全	165
春	人間発達科学特殊研究(認知科学)	田口 雅徳	水2	2	2	全	163
秋	人間発達科学特殊研究(認知科学)	田口 雅徳	木2	2	2	全	163
春	人間発達科学特殊研究(社会心理学a)	樋口 匡貴	金2	2	2	外	164
秋	人間発達科学特殊研究(社会心理学b)	樋口 匡貴	金2	2	2	外	164
春	人間発達科学特殊研究(スポーツ科学実習)	依田 珠江	木2	2	2	全	166
秋	人間発達科学特殊研究(スポーツ指導実習)	松原 裕	水3	2	2	全	166
春	人間発達科学特殊研究(リーダーシップ論)	和田 智	金2	2	2	全	165
春	人間発達科学特殊研究(スポーツマネジメント)	川北 準人	月3	2	2	全	167
秋	人間発達科学特殊研究(ボランティア論)	山口 友佑	金2	2	2	全	167

「総合科学研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	社会学Ⅰ	岡村 圭子	土1	2	1	全	168
秋	社会学Ⅱ	岡村 圭子	土1	2	1	全	168
春	文化人類学Ⅰ	松岡 格	金2	2	1	全	169
秋	文化人類学Ⅱ	松岡 格	金2	2	1	全	169
春	倫理学Ⅰ	松丸 壽雄	木4	2	1	全	170
秋	倫理学Ⅱ	松丸 壽雄	木4	2	1	全	170
春	文化史入門	古川 堅治	木2	2	1	全	171

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	東洋思想史Ⅰ	松丸 壽雄	水2	2	1	全	172
秋	東洋思想史Ⅱ	松丸 壽雄	水2	2	1	全	172
春	文明史研究Ⅰ	櫻井 悠美	月2	2	1	全	173
秋	文明史研究Ⅱ	櫻井 悠美	月2	2	1	全	173
春	比較宗教史	松丸 壽雄	木3	2	1	全	174
春	科学史Ⅰ	野澤 聡	金4	2	1	全	175
秋	科学史Ⅱ	野澤 聡	金4	2	1	全	175
春	科学技術基礎論Ⅰ	野澤 聡	月2	2	1	全	176
秋	科学技術基礎論Ⅱ	野澤 聡	月2	2	1	全	176
春	数学Ⅰ	東 孝博	月2	2	1	全	177
秋	数学Ⅱ	東 孝博	月2	2	1	全	177
春	物理学Ⅰ	東 孝博	月4	2	1	全	178
秋	物理学Ⅱ	東 孝博	月4	2	1	全	178
春	天文学Ⅰ	内田 俊郎	木4	2	1	全	179
秋	天文学Ⅱ	内田 俊郎	木4	2	1	全	179
春	生物学Ⅰ	飯泉 恭一	月3	2	1	全	180
秋	生物学Ⅱ	飯泉 恭一	月3	2	1	全	180
春	生理学Ⅰ	依田 珠江	木4	2	1	全	181
秋	生理学Ⅱ	依田 珠江	木4	2	1	全	181
春	地球環境論Ⅰ	北崎 幸之助	金4	2	1	全	182
秋	地球環境論Ⅱ	北崎 幸之助	金4	2	1	全	182
春	コンピュータと言語	呉 浩東	月2	2	1	全	183
春	情報科学各論Ⅰ	松山 恵美子	水2	2	1	全	184
秋	情報科学各論Ⅰ	松山 恵美子	水2	2	1	全	184
春	情報科学各論Ⅰ	金子 憲一	木3	2	1	全	184
秋	情報科学各論Ⅰ	田中 雅英	火4	2	1	全	184
春	情報科学各論Ⅱ	金子 憲一	木4	2	1	全	185
秋	情報科学各論Ⅱ	金子 憲一	木4	2	1	全	185
秋	情報科学各論Ⅱ	金子 憲一	月3	2	1	全	185
秋	情報科学各論Ⅱ	田中 雅英	火3	2	1	全	185
春	データ構造とアルゴリズム論	黄 海湘	水4	2	2	全	186
秋	データベース論	黄 海湘	水3	2	2	全	186
春	社会調査法	田端 章明	木2	2	2	全	187
春	統計と調査法	安岡 一雄	水2	2	2	全	188
秋	総合科学特殊研究(世界の宗教と文化ー一神教と多神教)	古川 堅治	木2	2	2		189
秋	総合科学特殊研究(思想と文化)	松丸 壽雄	金4	2	2		190
春	総合科学特殊研究(地中海世界の宗教と文化a)	櫻井 悠美	水2	2	2		191
秋	総合科学特殊研究(地中海世界の宗教と文化b)	櫻井 悠美	水2	2	2		191
春	総合科学特殊研究(アラブ文化・芸術a)	師岡 カリマ エルサムニー	月2	2	2	全	192
秋	総合科学特殊研究(アラブ文化・芸術b)	師岡 カリマ エルサムニー	月2	2	2	全	192
	総合科学特殊研究(科学技術と社会a)	2016年度不開講		2	1	全	
秋	総合科学特殊研究(科学技術と社会b)	野澤 聡	水1	2	1	全	193
春	総合科学特殊研究(宇宙論a)	東 孝博	火1	2	1	全	194
秋	総合科学特殊研究(宇宙論b)	東 孝博	火1	2	1	全	194
春	総合科学特殊研究(自然観察a)	飯泉 恭一	月2	2	2	全	195
秋	総合科学特殊研究(自然観察b)	飯泉 恭一	月2	2	2	全	195
	総合科学特殊研究(観察と実験生物学a)	2016年度不開講		2	2	全	
	総合科学特殊研究(観察と実験生物学b)	2016年度不開講		2	2	全	
秋	総合科学特殊研究(生理学実習)	依田 珠江	水1	2	2	全	196
春	総合科学特殊研究(サイエンスライティングa)	東 孝博	木4	2	2	全	197
秋	総合科学特殊研究(サイエンスライティングb)	東 孝博	木4	2	2	全	197
春	総合科学特殊研究(情報検索演習)	黄 海湘	水3	2	2	全	196
春	総合科学特殊研究(自然言語処理a)	呉 浩東	木1	2	2		198
	総合科学特殊研究(自然言語処理b)	2016年度不開講		2	2		
春	総合科学特殊研究(プログラミング論a)	呉 浩東	月4	2	2		199
秋	総合科学特殊研究(プログラミング論b)	呉 浩東	月5	2	2		199
春	総合科学特殊研究(マルチメディア論)	田中 雅英	火4	2	2	全	200
秋	総合科学特殊研究(コンピュータ構造論)	呉 浩東	月2	2	2	全	200
春	総合科学特殊研究(科学の方法と実験a)	内田 正夫	木3	2	2	全	201
秋	総合科学特殊研究(科学の方法と実験b)	内田 正夫	木3	2	2	全	201
秋	総合科学特殊研究(コーパス言語学)	呉 浩東	木1	2	2	全	198

「演習・卒業研究等」

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単 位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春/秋	卒業研究	各担当教員		2	4	全	202

全学総合科目

「スポーツ・レクリエーション部門」

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単 位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム)	各担当教員		1	1	全	203

「日本語科目」(外国人学生・帰国学生専用)

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単 位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
秋	日本語1	各担当教員		1	1	全	204
春/秋	日本語2	各担当教員		1	1	全	205
春/秋	日本語3	各担当教員		1	1	全	206
春/秋	専門日本語	各担当教員		1	1	全	207

※関連教養科目は、教職課程登録者のみ履修可能です。シラバスは、「免許課程」の「教科に関する科目」を参照してください。

国際教養学部言語文化学科授業科目(2012年度以前入学者用)

目次

必須教養科目群

「学科基礎」部門

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	基礎演習a	2016年度不開講		2	1	全	
	基礎演習b	2016年度不開講		2	1	全	
秋	言語文化論	二宮 哲	月4	2	1	全	1
春	哲学Ⅰ	林 永強	金4	2	1	全	2
	現代世界論	2016年度不開講		2	1	全	
春	哲学Ⅱ	林 永強	金3	2	4	全	3
秋	哲学Ⅱ	林 永強	金3	2	4	全	3

「外国語」部門

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	英語Ⅰ(IE)	2016年度不開講※		1	1	全	
	英語Ⅰ(S)	2016年度不開講※		1	1	全	
	英語Ⅰ(W)	2016年度不開講※		1	1	全	
	英語Ⅱ(IE)	2016年度不開講※		1	1	全	
	英語Ⅱ(S)	2016年度不開講※		1	1	全	
	英語Ⅱ(W)	2016年度不開講※		1	1	全	
	英語Ⅲ(IE)	2016年度不開講※		1	2	全	
	英語Ⅲ(S)	2016年度不開講※		1	2	全	
	英語Ⅲ(W)	2016年度不開講※		1	2	全	
	英語Ⅳ(IE)	2016年度不開講※		1	2	全	
	英語Ⅳ(S)	2016年度不開講※		1	2	全	
	英語Ⅳ(W)	2016年度不開講※		1	2	全	
	英語Ⅴ(AE)	2016年度不開講※		1	3	全	
	英語Ⅵ(AE)	2016年度不開講※		1	3	全	
春	英語Ⅴ(AE)再履修	臼井 芳子		1	3	全	9
秋	英語Ⅴ(AE)再履修	臼井 芳子		1	3	全	9
春	英語Ⅵ(AE)再履修	臼井 芳子		1	3	全	9
秋	英語Ⅵ(AE)再履修	臼井 芳子		1	3	全	9
春	スペイン語Ⅰ(総合1)	各担当教員		1	1	全	10
春	スペイン語Ⅰ(総合2)	各担当教員		1	1	全	11
春	スペイン語Ⅰ(入門)	各担当教員		1	1	全	12
春	スペイン語Ⅰ(会話)	各担当教員		1	1	全	13
秋	スペイン語Ⅱ(総合1)	各担当教員		1	1	全	10
秋	スペイン語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	11
秋	スペイン語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	12
秋	スペイン語Ⅱ(会話)	各担当教員		1	1	全	13
春	スペイン語Ⅲ(総合)	各担当教員		1	2	全	14
春	スペイン語Ⅲ(講読)	各担当教員		1	2	全	15
春	スペイン語Ⅲ(会話1)	各担当教員		1	2	全	16
春	スペイン語Ⅲ(会話2)	各担当教員		1	2	全	17
秋	スペイン語Ⅳ(総合)	各担当教員		1	2	全	14
秋	スペイン語Ⅳ(講読)	各担当教員		1	2	全	15
秋	スペイン語Ⅳ(会話1)	各担当教員		1	2	全	16
秋	スペイン語Ⅳ(会話2)	各担当教員		1	2	全	17
	スペイン語Ⅴ(応用1)	2016年度不開講※		1	3	全	
	スペイン語Ⅴ(応用2)	2016年度不開講※		1	3	全	
	スペイン語Ⅵ(応用1)	2016年度不開講※		1	3	全	
	スペイン語Ⅵ(応用2)	2016年度不開講※		1	3	全	

※必修科目で2016年度不開講科目を再履修する場合は、
教務課 国際教養学部係窓口に相談してください(整理券必要)。

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	中国語Ⅰ(総合1)	各担当教員		1	1	全	18
春	中国語Ⅰ(総合2)	各担当教員		1	1	全	19
春	中国語Ⅰ(入門)	各担当教員		1	1	全	20
春	中国語Ⅰ(会話)	各担当教員		1	1	全	21
秋	中国語Ⅱ(総合1)	各担当教員		1	1	全	18
秋	中国語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	19
秋	中国語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	20
秋	中国語Ⅱ(会話)	各担当教員		1	1	全	21
春	中国語Ⅲ(総合)	各担当教員		1	2	全	22
春	中国語Ⅲ(講読)	各担当教員		1	2	全	23
春	中国語Ⅲ(会話1)	各担当教員		1	2	全	24
春	中国語Ⅲ(会話2)	各担当教員		1	2	全	25
秋	中国語Ⅳ(総合)	各担当教員		1	2	全	22
秋	中国語Ⅳ(講読)	各担当教員		1	2	全	23
秋	中国語Ⅳ(会話1)	各担当教員		1	2	全	24
秋	中国語Ⅳ(会話2)	各担当教員		1	2	全	25
	中国語Ⅴ(応用1)	2016年度不開講※		1	3	全	
	中国語Ⅴ(応用2)	2016年度不開講※		1	3	全	
	中国語Ⅵ(応用1)	2016年度不開講※		1	3	全	
	中国語Ⅵ(応用2)	2016年度不開講※		1	3	全	
春	韓国語Ⅰ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	26
春	韓国語Ⅰ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	27
春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	28
春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	29
秋	韓国語Ⅱ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	26
秋	韓国語Ⅱ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	27
秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	28
秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	29
春	韓国語Ⅲ(文法・読解1)	各担当教員		1	2	全	30
春	韓国語Ⅲ(文法・読解2)	各担当教員		1	2	全	31
春	韓国語Ⅲ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	2	全	32
春	韓国語Ⅲ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	2	全	33
秋	韓国語Ⅳ(文法・読解1)	各担当教員		1	2	全	30
秋	韓国語Ⅳ(文法・読解2)	各担当教員		1	2	全	31
秋	韓国語Ⅳ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	2	全	32
秋	韓国語Ⅳ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	2	全	33
	韓国語Ⅴ(応用1)	2016年度不開講※		1	3	全	
	韓国語Ⅴ(応用2)	2016年度不開講※		1	3	全	
	韓国語Ⅵ(応用1)	2016年度不開講※		1	3	全	
	韓国語Ⅵ(応用2)	2016年度不開講※		1	3	全	

※必修科目で2016年度不開講科目を再履修する場合は、
教務課 国際教養学部係窓口に相談してください(整理券必要)。

選択教養科目群

「外国語演習科目群」

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	英語演習Ⅰ	中村 香代子	水4	2	3	全	77
春	英語演習Ⅰ	ロン 美香	水1	2	3	全	78
秋	英語演習Ⅱ	中村 香代子	水4	2	3	全	77
秋	英語演習Ⅱ	ロン 美香	水1	2	3	全	78
春	スペイン語演習Ⅰ	J. マルティネス	火1	2	3	全※1	58
春	スペイン語演習Ⅰ	N. ウエチ	木1	2	3	全※1	59
秋	スペイン語演習Ⅱ	J. マルティネス	火1	2	3	全※1	58
秋	スペイン語演習Ⅱ	N. ウエチ	木1	2	3	全※1	59
秋	スペイン語演習Ⅱ	M. サンチェス	水3	2	3	全※1	60
秋	スペイン語演習Ⅱ	J. I. ドメネク・アロンソ	水3	2	3	全※1	61
秋	スペイン語演習Ⅱ	二宮 哲	金3	2	3	全※1	62
秋	スペイン語演習Ⅱ	P. ラゴ	金2	2	3	全※1	63
春	中国語演習Ⅰ	永田 小絵	火1	2	3	全※1	66
春	中国語演習Ⅰ	蔡 暁軍	火1	2	3	全※1	67
春	中国語演習Ⅰ	劉 岸麗	木3	2	3	全※1	68
春	中国語演習Ⅰ	武信 彰	水2	2	3	全※1	69
春	中国語演習Ⅰ	永田 小絵	木4	2	3	全※1	70
秋	中国語演習Ⅱ	永田 小絵	火1	2	3	全※1	66
秋	中国語演習Ⅱ	蔡 暁軍	火1	2	3	全※1	67
秋	中国語演習Ⅱ	劉 岸麗	木3	2	3	全※1	68
秋	中国語演習Ⅱ	吉田 桂子	金3	2	3	全※1	69
秋	中国語演習Ⅱ	吉田 桂子	金2	2	3	全※1	70
春	韓国語演習Ⅰ	沈 元燮	水4	2	3	全※1	73
秋	韓国語演習Ⅱ	沈 元燮	水4	2	3	全※1	73
秋	韓国語演習Ⅱ	沈 民珪	木1	2	3	全※1	74
秋	韓国語演習Ⅱ	白 寅英	金2	2	3	全※1	75

※1: 交流文化学科は除く

「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰ(スペイン)	二宮 哲	月5	2	1	全	79
春	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ(ラテンアメリカ)	佐藤 勤治	月4	2	1	全	80
春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅰ(ラテンアメリカの歴史と社会)	佐藤 勤治	木4	2	2		81
春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅱ(ラテンアメリカの政治と社会)	浦部 浩之	木2	2	2		82
春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅲ(ラテンアメリカの経済と社会)	今井 圭子	月3	2	2		84
春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅳ(スペイン語圏の言語文化)	二宮 哲	月4	2	2		86
秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅰ(ラテンアメリカ近現代史)	佐藤 勤治	木4	2	2		81
秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅱ(ラテンアメリカ国際関係論)	浦部 浩之	木2	2	2		82
秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅲ(ラテンアメリカ経済発展論)	今井 圭子	月3	2	2		84
秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅳ(スペイン語学)	二宮 哲	月2	2	2		79
春	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅴ(ブラジル研究)	E. ウラノ	火2	2	2	全	83
	スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法	2016年度不開講		2	2	全	
春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅰ(スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究a)	P. ラゴ	月3	2	2		85
秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅱ(スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究b)	P. ラゴ	月3	2	2		85
春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅲ(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	倉田 量介	火3	2	2	全	87
	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅳ(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	2016年度不開講		2	2	全	

「中国研究科目群」

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	中国研究入門	松岡 格	火4	2	1		89
秋	中国研究Ⅰ(中国社会論)	松岡 格	火4	2	2		89
	中国研究Ⅱ(中国の思想・文学)	2016年度不開講		2	2		
春	中国研究Ⅲ(中国史a)	張 士陽	木4	2	2	全	91
秋	中国研究Ⅳ(中国史b)	張 士陽	木4	2	2	全	91
春	中国研究各論Ⅰ(現代中国論a)	松岡 格	金4	2	2	法	90
秋	中国研究各論Ⅱ(現代中国論b)	松岡 格	金4	2	2	法	90
春	中国研究各論Ⅲ(日中交流史)	武信 彰	月4	2	2		92
	中国研究各論Ⅳ(中国の芸能・芸術)	2016年度不開講		2	2		
秋	中国研究各論Ⅴ(言語文化論)	武信 彰	月4	2	2		92
春	中国特殊研究Ⅰ(日中比較文化論a)	大澤 昇	水3	2	2		94
秋	中国特殊研究Ⅱ(日中比較文化論b)	大澤 昇	水3	2	2		94
春	中国特殊研究Ⅲ(中国文学研究古典)	近藤 光雄	木3	2	2		95
秋	中国特殊研究Ⅳ(中国文学研究現代)	近藤 光雄	木3	2	2		95

※必修科目で2016年度不開講科目を再履修する場合は、
教務課 国際教養学部係窓口に相談してください(整理券必要)。

「韓国研究科目群」

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	韓国研究入門	佐藤 厚	金5	2	1	全	96
春	韓国研究Ⅰ(韓国史)	佐藤 厚	金3	2	2	全	98
秋	韓国研究Ⅱ(韓国社会論)	柳 蓮淑	月4	2	2	全	97
秋	韓国研究Ⅲ(韓国の言語文化)	金 秀晶	水3	2	2	全	104
秋	韓国研究各論Ⅰ(韓国社会各論a)	佐藤 厚	金5	2	2	全	96
	韓国研究各論Ⅱ(韓国社会各論b)	2016年度不開講		2	2	全	
秋	韓国研究各論Ⅲ(日韓交流史)	金 熙淑	月3	2	2	全	99
春	韓国研究各論Ⅳ(韓国文化各論a)	呉 吉煥	金1	2	2	全	100
秋	韓国研究各論Ⅴ(韓国文化各論b)	佐藤 厚	金3	2	2	全	103
春	韓国研究各論Ⅵ(韓国文化各論c)	佐藤 厚	木1	2	2	全	103
秋	韓国研究情報収集法	金 熙淑	月4	2	2	全	100
秋	韓国特殊研究Ⅰ(日韓比較文化論a)	金 熙淑	火4	2	2	全	98
春	韓国特殊研究Ⅱ(日韓比較文化論b)	小島 優生	木2	2	2	全	99
秋	韓国特殊研究Ⅲ(文献読解)	沈 元燮	水2	2	2	全	102

「日本研究科目群」

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	日本研究Ⅰ(日本文学古典)	福沢 健	月5	2	1	全	106
秋	日本研究Ⅱ(日本文学現代)	佐藤 毅	木1	2	1	全	109
春	日本研究Ⅲ(日本史a)	丸浜 昭	水1	2	1	全	118
秋	日本研究Ⅳ(日本史b)	丸浜 昭	水1	2	1	全	118
	日本研究Ⅴ(日本経済論a)	2016年度不開講		2	1	全	
	日本研究Ⅵ(日本経済論b)	2016年度不開講		2	1	全	
春	日本研究Ⅶ(日本文化論)	宇津木 言行	火3	2	1	全	105
秋	日本研究各論Ⅰ(民俗芸能)	飯島 一彦	水1	2	2	全	114
	日本研究各論Ⅱ(企業経営)	2016年度不開講		2	2	全	
秋	日本研究各論Ⅲ(地域文化)	林 英一	木1	2	2	全	116
春	日本研究各論Ⅳ(古典芸能)	宇津木 言行	火4	2	2	全	111
春	日本特殊研究Ⅰ(民俗学)	林 英一	木1	2	2	全	110
秋	日本特殊研究Ⅱ(文献読解)	城崎 陽子	水3	2	2	全	112
春	日本特殊研究Ⅲ(写本を読む)	城崎 陽子	水4	2	2	全	112
秋	日本特殊研究Ⅳ(碑文を読む)	飯島 一彦	木4	2	2	全	111

「多言語間交流研究科目群」

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	多言語間交流研究Ⅰ(言語学a)	安間 一雄	火3	2	1	全	119
春	多言語間交流研究Ⅱ(言語学b)	安間 一雄	金1	2	1	全	120
秋	多言語間交流研究Ⅲ(英語学a)	未定	火3	2	1	全	120
秋	多言語間交流研究Ⅳ(英語学b)	未定	火4	2	1	全	121
春	多言語間交流研究Ⅴ(英語圏の文学)	大熊 昭信	金5	2	1	全	124
秋	多言語間交流研究Ⅴ(英語圏の文学)	大熊 昭信	金5	2	1	全	124
春	多言語間交流研究各論Ⅰ(応用言語学)	臼井 芳子	水1	2	2	全	123
秋	多言語間交流研究各論Ⅱ(第二言語習得)	臼井 芳子	水1	2	2	全	123
春	多言語間交流研究各論Ⅲ(英語圏の小説a)	片山 亜紀	火4	2	2	全	125
	多言語間交流研究各論Ⅳ(英語圏の小説b)	2016年度不開講		2	2	全	
	多言語間交流研究各論Ⅴ(英語圏の詩a)	2016年度不開講		2	2	全	
	多言語間交流研究各論Ⅵ(英語圏の詩b)	2016年度不開講		2	2	全	
秋	多言語間交流研究各論Ⅶ(英語圏の演劇b)	前沢 浩子	火4	2	2	全	125
秋	多言語間交流研究各論Ⅷ(英語圏の演劇b)	児嶋 一男	月3	2	2	全	126
春	多言語間交流研究各論Ⅸ(国際語としての英語)	臼井 芳子	木3	2	2	全	126
	多言語間交流研究各論Ⅹ(多言語環境と英語)	2016年度不開講		2	2	全	
春	多言語間交流研究各論ⅩⅠ(英語圏の文化)	山本 英政	木2	2	2	全	141
秋	多言語間交流研究各論ⅩⅡ(英語圏事情)	山本 英政	木2	2	2	全	141
春	多言語間交流特殊研究Ⅰ(翻訳通訳論・英語)	渡部 富栄	火2	2	2		56
春	多言語間交流特殊研究Ⅱ(翻訳通訳論・中国語)	永田 小絵	火2	2	2		71
春	多言語間交流特殊研究Ⅲ(翻訳通訳論・スペイン語)	柴田 バネッサ	火3	2	2		64
秋	多言語間交流特殊研究Ⅳ(翻訳通訳実習・英語)	渡部 富栄	火2	2	2		56
秋	多言語間交流特殊研究Ⅴ(翻訳通訳実習・中国語)	永田 小絵	火2	2	2		71
秋	多言語間交流特殊研究Ⅵ(翻訳通訳実習・スペイン語)	柴田 バネッサ	火3	2	2		64

※必修科目で2016年度不開講科目を再履修する場合は、
教務課 国際教養学部係窓口にご相談ください(整理券必要)。

「多文化共生研究科目群」

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	多文化共生研究Ⅰ(文化人類学a)	松岡 格	金2	2	1	全	169
秋	多文化共生研究Ⅱ(文化人類学b)	松岡 格	金2	2	1	全	169
春	多文化共生研究Ⅲ(社会学a)	岡村 圭子	土1	2	1	全	168
秋	多文化共生研究Ⅳ(社会学b)	岡村 圭子	土1	2	1	全	168
春	多文化共生研究Ⅴ(異文化間コミュニケーションa)	岡村 圭子	木3	2	1	全	137
秋	多文化共生研究Ⅵ(異文化間コミュニケーションb)	山本 英政	月2	2	1	全	137
春	多文化共生研究各論Ⅰ(アメリカの多文化共生a)	佐藤 唯行	火3	2	2		138
秋	多文化共生研究各論Ⅱ(アメリカの多文化共生b)	佐藤 唯行	火3	2	2		138
	多文化共生研究各論Ⅲ(異文化社会の認識と世界観a)	2016年度不開講		2	2	全	
	多文化共生研究各論Ⅳ(異文化社会の認識と世界観b)	2016年度不開講		2	2	全	
	多文化共生研究各論Ⅴ(比較社会論)	2016年度不開講		2	2	全	
秋	多文化共生研究各論Ⅵ(比較文化論)	岡村 圭子	木3	2	2		140
春	多文化共生研究各論Ⅶ(大衆文化論)	木本 玲一	月5	2	2	全	139
春	多文化共生研究各論Ⅷ(地域メディア論)	岡村 圭子	火3	2	2	全	140
秋	多文化共生特殊研究Ⅰ(滞日外国人研究)	田房 由起子	土2	2	2	法	149
秋	多文化共生特殊研究Ⅱ(アメリカ合衆国のラティーノ社会)	佐藤 勤治	月4	2	2		150
春	多文化共生特殊研究Ⅲ(カリブ海域社会の民族関係)	中村 隆之	水4	2	2		88

「国際交流研究科目群」

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	国際交流研究Ⅰ(国際関係論)	佐藤 俊輔	月4	2	1	全	142
春	国際交流研究Ⅱ(国際協力論)	浦部 浩之	水3	2	1		145
春	国際交流研究Ⅲ(国際機構論)	鈴木 淳一	月1	2	1	全	147
秋	国際交流研究Ⅳ(NGO論)	清水 俊弘	水2	2	1	全	148
秋	国際交流研究Ⅴ(南北問題)	浦部 浩之	水3	2	1		145
	国際交流研究Ⅵ(情報とメディア)	2016年度不開講		2	1		
春	国際交流研究各論Ⅰ(国際政治論a)	岡垣 知子	水1	2	2	全	143
秋	国際交流研究各論Ⅱ(国際政治論b)	岡垣 知子	水1	2	2	全	143
春	国際交流研究各論Ⅲ(国際経済論a)	益山 光央	火2	2	2	全	144
秋	国際交流研究各論Ⅳ(国際経済論b)	益山 光央	火2	2	2	全	144
春	国際交流特殊研究Ⅰ(日本政治外交史a)	福永 文夫	金2	2	2	全	146
秋	国際交流特殊研究Ⅱ(日本政治外交史b)	福永 文夫	金2	2	2	全	146
春	国際交流特殊研究Ⅲ(アジア太平洋地域交流a)	高安 健一	金1	2	2	全	151
秋	国際交流特殊研究Ⅳ(アジア太平洋地域交流b)	高安 健一	金1	2	2	全	151
春	国際交流特殊研究Ⅴ(グローバル・ガバナンスa)	一之瀬 高博	木2	2	2	全	152
秋	国際交流特殊研究Ⅵ(グローバル・ガバナンスb)	一之瀬 高博	木2	2	2	全	152

「宗教・文化・歴史研究科目群」

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	宗教・文化・歴史研究Ⅰ(文化史入門)	古川 堅治	木2	2	1	全	171
春	宗教・文化・歴史研究Ⅱ(東洋思想史a)	松丸 壽雄	水2	2	1	全	172
秋	宗教・文化・歴史研究Ⅲ(東洋思想史b)	松丸 壽雄	水2	2	1	全	172
春	宗教・文化・歴史研究Ⅳ(文明史研究a)	櫻井 悠美	月2	2	1	全	173
秋	宗教・文化・歴史研究Ⅴ(文明史研究b)	櫻井 悠美	月2	2	1	全	173
春	宗教・文化・歴史研究Ⅵ(倫理学a)	松丸 壽雄	木4	2	1	全	170
秋	宗教・文化・歴史研究Ⅶ(倫理学b)	松丸 壽雄	木4	2	1	全	170
春	宗教・文化・歴史研究各論Ⅰ(地中海世界の宗教と文化a)	櫻井 悠美	水2	2	2		191
秋	宗教・文化・歴史研究各論Ⅱ(地中海世界の宗教と文化b)	櫻井 悠美	水2	2	2		191
春	宗教・文化・歴史研究各論Ⅲ(比較宗教史)	松丸 壽雄	木3	2	2	全	174
	宗教・文化・歴史研究各論Ⅳ(日本思想史1)			2	2	全	
	宗教・文化・歴史研究各論Ⅴ(日本思想史2)			2	2	全	
春	宗教・文化・歴史研究各論Ⅵ(アラブ文化・芸術a)	師岡 カリーマ エルサムニー	月2	2	2	全	192
秋	宗教・文化・歴史研究各論Ⅶ(アラブ文化・芸術b)	師岡 カリーマ エルサムニー	月2	2	2	全	192
秋	宗教・文化・歴史特殊研究Ⅰ(世界の宗教と文化――神教と多神教)	古川 堅治	木2	2	2		189
秋	宗教・文化・歴史特殊研究Ⅱ(思想と文化)	松丸 壽雄	金4	2	2		190

※必修科目で2016年度不開講科目を再履修する場合は、
教務課 国際教養学部係窓口にご相談してください(整理券必要)。

「日本語教育研究科目群」

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	日本語教育研究Ⅰ(日本語教育概説)	石塚 京子	月3	2	1	全	122
秋	日本語教育研究Ⅱ(日本事情とコミュニケーション教育)	城崎 陽子	水4	2	1	全	122
春	日本語教育研究各論Ⅰ(日本語教授法1a)	野原 ゆかり	火1	2	2		128
秋	日本語教育研究各論Ⅱ(日本語教授法1b)	野原 ゆかり	火1	2	2		128
春	日本語教育研究各論Ⅲ(日本語音声学)	磯村 一弘	水5	2	2		127
春	日本語教育研究各論Ⅳ(日本語文法形態論)	浅山 佳郎	月3	2	2	全※1	130
秋	日本語教育研究各論Ⅴ(日本語文法統語論)	浅山 佳郎	月3	2	2	全※1	130
秋	日本語教育研究各論Ⅵ(日本語談話論)	浅山 佳郎	木4	2	2	全※2	136
春	日本語教育研究各論Ⅶ(日本語意味論・語用論)	武田 明子	火2	2	2		136
	日本語教育特殊研究Ⅰ(対照言語学・誤用分析a)	2016年度不開講		2	2		
	日本語教育特殊研究Ⅱ(対照言語学・誤用分析b)	2016年度不開講		2	2		
春	日本語教育特殊研究Ⅲ(文献読解a)	田川 麻央	水4	2	2		133
	日本語教育特殊研究Ⅳ(文献読解b)	2016年度不開講		2	2		
春	日本語教育特殊研究Ⅴ(日本語教授法2)	野原 ゆかり	木2	2	4		129
	日本語教育特殊研究Ⅵ(日本語教授法2)	2016年度不開講		2	4		
春	日本語教育特殊研究Ⅶ(日本語教育教材論)	小山 慎治	月2	2	2	全※2	135
春/秋	日本語教育特殊研究Ⅷ(教育実習)	各担当教員	その他	2	4		134

※1:07年度入学者は除く、※2:08年度以降入学者は除く

「教育科学研究科目群」

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	萩原 真美	火4	2	1	全	154
秋	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	萩原 真美	火4	2	1	全	154
秋	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	萩原 真美	火5	2	1	全	154
秋	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	川村 肇	木3	2	1	全	154
春	教育科学研究Ⅱ(教育の歴史1)	長谷部 圭彦	木5	2	1	全	158
秋	教育科学研究Ⅲ(教育の歴史2)	長谷部 圭彦	木5	2	1	全	158
春	教育科学研究Ⅳ(教職論)	萩原 真美	火5	2	1	全	153
春	教育科学研究Ⅳ(教職論)	桑原 憲一	月3	2	1	全	153
秋	教育科学研究Ⅳ(教職論)	桑原 憲一	月4	2	1	全	153
春	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	白砂 佐和子	火4	2	1	全	161
秋	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	白砂 佐和子	火4	2	1	全	161
春	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	田口 雅徳	金1	2	1	全	161
秋	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	田口 雅徳	金1	2	1	全	161
春	教育科学研究Ⅵ(こころの世界)	田口 雅徳	木2	2	1	全	155
春	教育科学研究各論Ⅰ(比較教育制度論)	桑原 憲一	月4	2	2	全	159
春	教育科学研究各論Ⅰ(比較教育制度論)	小島 優生	木1	2	2	全	159
秋	教育科学研究各論Ⅰ(比較教育制度論)	小島 優生	木1	2	2	全	159
春	教育科学研究各論Ⅱ(教育課程論)	安井 一郎	水2	2	2	全	160
春	教育科学研究各論Ⅱ(教育課程論)	桑原 憲一	火4	2	2	全	160
秋	教育科学研究各論Ⅱ(教育課程論)	桑原 憲一	火5	2	2	全	160
	教育科学研究各論Ⅲ(カウンセリング論)	2016年度不開講		2	2	全	
	教育科学研究各論Ⅳ(パーソナリティ理論)	2016年度不開講		2	2	全	
春	教育科学研究各論Ⅴ(学校カウンセリング)	山本 良	金2	2	2	全	162
秋	教育科学研究各論Ⅴ(学校カウンセリング)	山本 良	金2	2	2	全	162
秋	教育科学研究各論Ⅴ(学校カウンセリング)	鈴木 乙史	木4	2	2	全	162
	教育科学研究各論Ⅵ(こども論)	2016年度不開講		2	2	全	
春	教育科学研究各論Ⅶ(認知科学)	田口 雅徳	水2	2	2	全	163
秋	教育科学研究各論Ⅶ(認知科学)	田口 雅徳	木2	2	2	全	163
	教育科学特殊研究Ⅰ(異文化理解教育)	2016年度不開講		2	2	全	
秋	教育科学特殊研究Ⅱ(教師と語る)	川村 肇	金3	2	2	全	165
秋	教育科学特殊研究Ⅲ(心理検査法と自己理解)	田口 雅徳	木4	2	2	全	155
春	教育科学特殊研究Ⅳ(スポーツコーチ学a)	依田 珠江	木2	2	2	全	166
秋	教育科学特殊研究Ⅴ(スポーツコーチ学b)	松原 裕	水3	2	2	全	166
春	教育科学特殊研究Ⅵ(リーダーシップ論)	和田 智	金2	2	2	全	165
春	教育科学特殊研究Ⅶ(体育経営スポーツマネジメント)	川北 準人	月3	2	2	全	167
秋	教育科学特殊研究Ⅷ(ボランティア論)	山口 友佑	金2	2	2	全	167

※必修科目で2016年度不開講科目を再履修する場合は、
教務課 国際教養学部係窓口に相談してください(整理券必要)。

「自然・環境研究科目群」

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	自然・環境研究Ⅰ(科学史a)	野澤 聡	金4	2	1	全	175
秋	自然・環境研究Ⅱ(科学史b)	野澤 聡	金4	2	1	全	175
春	自然・環境研究Ⅲ(数学a)	東 孝博	月2	2	1	全	177
秋	自然・環境研究Ⅳ(数学b)	東 孝博	月2	2	1	全	177
春	自然・環境研究Ⅴ(宇宙論a)	東 孝博	火1	2	1	全	194
秋	自然・環境研究Ⅵ(宇宙論b)	東 孝博	火1	2	1	全	194
春	自然・環境研究Ⅶ(天文学a)	内田 俊郎	木4	2	1	全	179
秋	自然・環境研究Ⅷ(天文学b)	内田 俊郎	木4	2	1	全	179
春	自然・環境研究各論Ⅰ(地球環境論a)	北崎 幸之助	金4	2	2	全	182
秋	自然・環境研究各論Ⅱ(地球環境論b)	北崎 幸之助	金4	2	2	全	182
	自然・環境研究各論Ⅲ(科学技術交流史研究a)	2016年度不開講		2	2	全	
	自然・環境研究各論Ⅳ(科学技術交流史研究b)	2016年度不開講		2	2	全	
春	自然・環境特殊研究Ⅰ(自然観察a)	飯泉 恭一	月2	2	2	全	195
秋	自然・環境特殊研究Ⅱ(自然観察b)	飯泉 恭一	月2	2	2	全	195
春	自然・環境特殊研究Ⅲ(観察と実験生物学a)	内田 正夫	木3	2	2	全	201
秋	自然・環境特殊研究Ⅳ(観察と実験生物学b)	内田 正夫	木3	2	2	全	201

「多言語情報処理研究科目群」

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春	多言語情報処理研究Ⅰ(コンピュータと言語)	呉 浩東	月2	2	1	全	183
春	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	松山 恵美子	水2	2	2	全	184
春	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	金子 憲一	木3	2	2	全	184
秋	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	松山 恵美子	水2	2	2	全	184
秋	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	田中 雅英	火4	2	2	全	184
春	多言語情報処理研究各論Ⅱ(情報検索と加工)	黄 海湘	水3	2	2	全	196
春	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	金子 憲一	木4	2	2	全	185
秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	金子 憲一	木4	2	2	全	185
秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	金子 憲一	月3	2	2	全	185
秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	田中 雅英	火3	2	2	全	185
秋	多言語情報処理研究各論Ⅳ(データベース)	黄 海湘	水3	2	2		186
春	多言語情報処理研究各論Ⅴ(統計と調査法)	安間 一雄	水2	2	2	全	188
秋	多言語情報処理研究各論Ⅵ(コーパス言語学)	呉 浩東	木1	2	2		198
春	多言語情報処理特殊研究Ⅰ(自然言語処理a)	呉 浩東	木1	2	2		198
	多言語情報処理特殊研究Ⅱ(自然言語処理b)	2016年度不開講		2	2		
春	多言語情報処理特殊研究Ⅲ(プログラミング論a)	呉 浩東	月4	2	2		199
秋	多言語情報処理特殊研究Ⅳ(プログラミング論b)	呉 浩東	月5	2	2		199
秋	多言語情報処理特殊研究Ⅴ(コンピュータ構造論)	呉 浩東	月2	2	2	全	200
春	多言語情報処理特殊研究Ⅵ(マルチメディア論)	田中 雅英	火4	2	2	全	200

「卒業研究」

開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春/秋	卒業研究	各担当教員		2	4	全	202

※必修科目で2016年度不開講科目を再履修する場合は、
教務課 国際教養学部係窓口に相談してください(整理券必要)。

13 年度以降	基礎演習	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「基礎演習」の目的は、今後 4 年間の大学における学び、とりわけ 2 年次以降の専門教育（演習）に対応できる力を準備することにある。 そのために、図書館・PC の利活用を含む『読む・書く・聞く・話す』の基礎力を高めていくことを主な課題とする。		1. クラス別オリエンテーション 2.～13. 図書館実習（1 回） 図書館の利用、資料検索の仕方 観察学習（1 回） 大学外の施設における学習 読む・書く・聞く・話すなどの基礎力の養成（10 回） 文章を読む、要約をする、ノートをとる、講義を受ける、ディスカッション、プレゼンテーション、PC スキルなどの学習 （各クラスによって学習順序や方法は異なる） 14. 2 年生以降の「演習」に向けて 15. まとめ	
到達目標	論理的思考、授業に臨む姿勢、レポート作成法、コンピュータリテラシーを習得し、大学において基本的な学習ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各担当教員から指示される。		
テキスト、参考文献	各担当教員から指示される。その他、指定の課題図書を購入する必要がある。		
評価方法	レポート課題および授業での発表内容などに基づいて総合的に評価する。		

13 年度以降 12 年度以前	言語文化論 言語文化論	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 言語文化学科が学科の目的とする国際的な教養としての「言語」と「文化」が、全体としてどのようなものであるかを認識するための授業である。学科が設置している各研究科目群にはおおまかにどのような分野があり、それぞれの担当教員がどのような演習を開講しているかを把握し、学生 諸君自身による今後の履修のための「設計図」をえがくことを目的とする。 講義概要 講義概要としては、各研究科目群についての概説、2 年次以降の演習担当教員による内容紹介、2 年次以降のシミュレーションの 3 種類で構成される。第 1 の概説はこの科目の担当者による、第 2 は、毎回学科の専任教員をゲストにむかえておこなう。第 3 は出席者全員で行う。授業中の学生からの質問を、つよく要求する。 なお、右記の予定は、各研究科目群担当教員の状況により前後する場合がある。		1. イントロダクション・「言語」と「文化」を学ぶ意味 2. 国際教養学部のカリキュラムについて 3. スペイン・ラテンアメリカ研究科目群 4. 中国研究科目群 5. 韓国研究科目群 6. 日本研究科目群 7. 言語教育研究科目群 8. グローバル社会研究科目群 9. 人間発達科学研究科目群 10. 総合科学研究科目群 11. 演習選択について 12. 学生による履修シミュレーション 1 13. 学生による履修シミュレーション 2 14. 学生による履修シミュレーション 3 15. 2 年生になるに当たって・「学ぶ」ということの意味	
到達目標	国際教養と言語文化の概念を理解し、言語と文化について、自分なりの問題設定ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	『演習の手引き』を読み、各研究科目群についての理解を深めておく。		
テキスト、参考文献	言語文化学科『演習の手引き』。また、適宜プリントを配布。		
評価方法	授業への参加度（50%）、レポート（50%）		

13 年度以降 12 年度以前	哲学 I 哲学 I	担当者	林 永強
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、哲学における形而上学、認識論、また倫理学という三つの分野を考察しながら、現代社会の諸問題との関係を掘り下げる。 授業のやり方としては、講義、発表、さらに討論を通して取り組む。毎回それぞれの分野に関する文献を取り上げ、概観的講義で纏めた上で、履修生がグループごとに発表し、その後全クラスの形で議論を深めていく。 哲学は一つの思想的実験として、思考力、分析力、想像力、また創造力をも求められる。そこから現実的世界に向け、人間のあり方や生き方を探求し、価値観を根本的再考する。		1. 授業計画の説明とグループ分け 2. 形而上学 I 3. 形而上学 II 4. 形而上学 III 5. 形而上学 IV、第一、第二グループの発表と討論 6. 認識論 I、第三、第四グループの発表と討論 7. 認識論 II、第五、第六グループの発表と討論 8. 認識論 III、第七、第八グループの発表と討論 9. 認識論 IV、第九、第十グループの発表と討論 10. 倫理学 I、第十一、第十二グループの発表と討論 11. 倫理学 II、第十三、第十四グループの発表と討論 12. 倫理学 III、第十五、第十六グループの発表と討論 13. 倫理学 IV、第十七、第十八グループの発表と討論 14. 授業の総まとめ 15. 授業の総まとめ	
到達目標	現代の諸問題について、他者の意見を尊重しつつ、積極的・自主的なディスカッションができるようにする。さらに、人間と世界との関係を理性的に理解し、かつ説明できるようにする。		
事前・事後学修の内容	文献を事前に精読しておいてください。また、毎回出された課題を解いて次回に議論してください。		
テキスト、参考文献	授業時に適宜指示		
評価方法	発表と討論の貢献度（40％）と、それに基づく個人のレポート評価（60％）		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	哲学Ⅱ 哲学Ⅱ	担当者	林 永強
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、現代社会が直面している諸問題を哲学的に考えていく。その中で価値の問題における認識、分析、判断、さらに実行まで、論理的に検討する一方、あらゆる打開策をも模索する。 授業のやり方としては、講義、発表、また討論を通して取り組む。講義ごとに関連文献を取り上げ、概観的講義で纏めた上で、履修生がグループごとに発表し、その後全クラスの形で議論を深めていく。 なお、授業の使用言語は全て英語である。レポートも英語で書く。		1. 授業計画の説明とグループ分け 2. 規範倫理学Ⅰ 3. 規範倫理学Ⅱ 4. 規範倫理学Ⅲ 5. 規範倫理学Ⅳ、第一、第二グループの発表と討論 6. 人間学Ⅰ、第三、第四グループの発表と討論 7. 人間学Ⅱ、第五、第六グループの発表と討論 8. 人間学Ⅲ、第七、第八グループの発表と討論 9. 人間学Ⅳ、第九、第十グループの発表と討論 10. 公と私Ⅰ、第十一、第十二グループの発表と討論 11. 公と私Ⅱ、第十三、第十四グループの発表と討論 12. 公と私Ⅲ、第十五、第十六グループの発表と討論 13. 公と私Ⅳ、第十七、第十八グループの発表と討論 14. 授業の総まとめ 15. 授業の総まとめ	
到達目標	4 年間の大学生活を振り返りながら、「哲学Ⅰ」の学習成果をふまえ、現代世界の諸問題について自主的に取り組み、その背景を理解し、現代世界の諸問題とその解決策を英語で発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	文献を事前に精読しておいてください。また、毎回出された課題を解いて次回に議論してください。		
テキスト、参考文献	授業時に適宜指示		
評価方法	発表と討論の貢献度（40％）と、それに基づく個人のレポート評価（60％）		

13 年度以降 12 年度以前	哲学Ⅱ 哲学Ⅱ	担当者	林 永強
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、現代社会が直面している諸問題を哲学的に考えていく。その中で価値の問題における認識、分析、判断、さらに実行まで、論理的に検討する一方、あらゆる打開策をも模索する。 授業のやり方としては、講義、発表、また討論を通して取り組む。講義ごとに関連文献を取り上げ、概観的講義で纏めた上で、履修生がグループごとに発表し、その後全クラスの形で議論を深めていく。 なお、授業の使用言語は全て英語である。レポートも英語で書く。		1. 授業計画の説明とグループ分け 2. 規範倫理学Ⅰ 3. 規範倫理学Ⅱ 4. 規範倫理学Ⅲ 5. 規範倫理学Ⅳ、第一、第二グループの発表と討論 6. 人間学Ⅰ、第三、第四グループの発表と討論 7. 人間学Ⅱ、第五、第六グループの発表と討論 8. 人間学Ⅲ、第七、第八グループの発表と討論 9. 人間学Ⅳ、第九、第十グループの発表と討論 10. 公と私Ⅰ、第十一、第十二グループの発表と討論 11. 公と私Ⅱ、第十三、第十四グループの発表と討論 12. 公と私Ⅲ、第十五、第十六グループの発表と討論 13. 公と私Ⅳ、第十七、第十八グループの発表と討論 14. 授業の総まとめ 15. 授業の総まとめ	
到達目標	4 年間の大学生活を振り返りながら、「哲学Ⅰ」の学習成果をふまえ、現代世界の諸問題について自主的に取り組み、その背景を理解し、現代世界の諸問題とその解決策を英語で発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	文献を事前に精読しておいてください。また、毎回出された課題を解いて次回に議論してください。		
テキスト、参考文献	授業時に適宜指示		
評価方法	発表と討論の貢献度（40％）と、それに基づく個人のレポート評価（60％）		

13 年度以降	英語 I (IE)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディングおよびディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。また、より正確かつ効率的に読めるよう、様々なリーディングストラテジーを学習する。内容理解の表現方法としては、口頭・筆記双方でパラフレイズや要約（英語）ができるようになることを目的とする。テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ、リーディング素材などを通して問題提起を学習した後、ディスカッションや調査によってより深く問題探究することを目標とする。このほかに、課外活動として多読学習を取り入れ、英語読書習慣の形成を図る。 授業の使用言語は英語とする。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、身近な話題に関して自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回とも予習（課題の熟読やディスカッション課題の準備、口頭発表の準備など）やライティング課題に取り組むこと。また、英語読書を日課とすること。		
テキスト、参考文献	[Class A] New Directions (CUP), [Classes B, C, D, E, F, G, H] Pathways 2 (Heinle Cengage Learning)		
評価方法	課題（20%）、多読関連(20%)、語彙テスト（20%）、期末テスト(40%) 出席: 出席を大前提とし 8 回以上欠席した場合は不合格とする。		

13 年度以降	英語Ⅱ（ⅡE）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
英語Ⅰ（ⅡE）に引き続き、多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディングおよびディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。また、より正確かつ効率的に読めるよう、様々なリーディングストラテジーを学習する。内容理解の表現方法としては、口頭・筆記双方でパラフレイズや要約（英語）ができるようになることを目的とする。テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ、リーディング素材などを通して問題提起を学習した後、ディスカッションや調査によってより深く問題探究することを目標とする。このほかに、課外活動として多読学習を取り入れ、英語読書習慣の形成を図る。 授業の使用言語は英語とする。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、「英語Ⅰ」より普遍性の高い話題に関して自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回とも予習（課題の熟読やディスカッション課題の準備、口頭発表の準備など）やライティング課題に取り組むこと。また、英語読書を日課とすること。		
テキスト、参考文献	[Class A] New Directions (CUP), [Classes B, C, D, E, F, G, H] Pathways 2 (Heinle Cengage Learning)		
評価方法	課題（20%）、多読関連(20%)、語彙テスト（20%）、期末テスト(40%) 出席: 出席を大前提とし 8 回以上欠席した場合は不合格とする。		

13 年度以降	英語 I （S）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
基礎的な言語表現形式を口頭で使いこなす能力を養う。ここでは、音声言語の受容・産出効率を高めるために定型言語形式の使用練習や発音練習をする。また、プレゼンテーションスキルを学び、身近なテーマに関するプレゼンテーションの練習をする。受講者は毎回の授業における学習記録を付けることが求められる。 授業は英語で行われる。学生も英語で参加することが求められる。		・各担当教員が初回の授業で指示する。	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、身近な話題に関して自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。		
テキスト、参考文献	テキストはクラスにより異なる。 ・ Present Yourself, Level 2, 2nd ed. (Cambridge UP, 2014; ISBN 978-1107435780) ・ その他		
評価方法	参加態度・予習・努力等（10%）、口頭発表（30%）、期末ペアインタビュー（30%）、課題到達度（30%）		

13 年度以降	英語Ⅱ（S）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語Ⅰ（S）」に示した内容と目標を継承し、さらに発展的な学習を行う。定型言語形式の使用練習においては、自発的な発話場面においても、適切に使用できることを目標とする。また、プレゼンテーションスキルを学び、アカデミックなテーマに関するプレゼンテーションの練習をする。受講者は毎回の授業における学習記録を付けることが求められる。 授業は英語で行われる。学生も英語で参加することが求められる。		・各担当教員が初回の授業で指示する。 ・与えられたテーマによるプレゼンテーションのコンテスト Presentation Championship がクラスを超えた規模で行われる。	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、「英語Ⅰ」より普遍性の高い話題に関して自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。		
テキスト、参考文献	春学期に同じ。		
評価方法	春学期に同じ。		

13 年度以降	英語 I (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
エッセイライティングの基礎を学ぶ。パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、記述・意見表示・比較対象・原因・結果などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的作文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレンストーミング、アウトラインプロセッシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる。 授業は英語で行われる。学生も英語で参加することが求められる。		・各担当教員が初回の授業で指示する。	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、身近な話題に関して自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。		
テキスト、参考文献	テキストはクラスにより異なる。 ・ Chin, Koizumi, Reid, Wray, Yamazaki, Academic Writing Skills 1 (Cambridge UP; ISBN 9781107636224)		
評価方法	テーマ毎の課題作文による到達目標の達成度 (50%)、期末作文課題 (20%)、授業参加態度 (20%)、ポートフォリオ (10%)		

13 年度以降	英語Ⅱ（W）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
エッセイライティングの基礎を学ぶ。「英語Ⅰ(W)」に示した内容と目標を継承し、さらに発展的な学習を行う。パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、記述・意見表示・比較対象・原因・結果などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的作文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレンストーミング、アウトラインプロセッシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる。授業は英語で行われる。学生も英語で参加することが求められる。		・各担当教員が初回の授業で指示する。	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、「英語Ⅰ」より普遍性の高い話題に関して自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。		
テキスト、参考文献	春学期に同じ。		
評価方法	春学期に同じ。		

13 年度以降	英語Ⅲ（IE）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
英語Ⅱ(IE)に引き続き、多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディングおよびディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。この授業では、受講者は読んだ内容を的確に要約し、それを口頭でも再構築する。また、読んだ内容を建設的に批判し、自らの知識・経験と結びつけて問題解決方法を調査し提案することが求められる。最後に、そのユニットで学んだことを総合的に評価し、自分の意見を文章にまとめる。この他に、課外活動として引き続き多読学習を行う。 授業の使用言語は英語とする。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、「英語Ⅱ」よりも高いレベルで自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回とも予習（課題の熟読やディスカッション課題の準備、口頭発表の準備など）やライティング課題に取り組むこと。また、英語読書を日課とし、ビブリオバトルに積極的に参加すること。		
テキスト、参考文献	[Class A] New Directions (CUP), [Classes B, C, D, E, F, G, H] Pathways 3 (Heinle Cengage Learning)		
評価方法	課題（20%）、多読関連(20%)、語彙テスト（20%）、期末テスト(40%) 出席：出席を大前提とし 8 回以上欠席した場合は不合格とする。		

13 年度以降	英語Ⅳ（ⅠE）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
英語Ⅲ(ⅠE)に引き続き、多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディングおよびディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。この授業では、受講者は読んだ内容を的確に要約し、それを口頭でも再構築する。また、読んだ内容を建設的に批判し、自らの知識・経験と結びつけて問題解決方法を調査し提案することが求められる。最後に、そのユニットで学んだことを総合的に評価し、自分の意見を文章にまとめる。この他に、課外活動として引き続き多読学習を行う。 授業の使用言語は英語とする。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、「英語Ⅱ」よりも高いレベルで自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回とも予習（課題の熟読やディスカッション課題の準備、口頭発表の準備など）やライティング課題に取り組むこと。また、英語読書を日課とし、ビブリオバトルに積極的に参加すること。		
テキスト、参考文献	[Class A] New Directions (CUP), [Classes B, C, D, E, F, G, H] Pathways 3 (Heinle Cengage Learning)		
評価方法	課題（20%）、多読関連(20%)、語彙テスト（20%）、期末テスト(40%) 出席: 出席を大前提とし 8 回以上欠席した場合は不合格とする。		

13 年度以降	英語Ⅲ（W）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
実質的なエッセイライティングを学ぶ。1パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、複数パラグラフによる文章構成法・変化の記述・原因・結果・説得・分類・対立意見の表現などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的論文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレンストーミング、アウトラインプロセッシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる。 授業は英語で行われる。学生も英語で参加することが求められる。		・各担当教員が初回の授業で指示する。	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、「英語Ⅱ」よりも高いレベルで自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。		
テキスト、参考文献	・ Basic Steps to Writing Research Papers (Cengage) クラスにより追加教材が使用される。		
評価方法	テーマ毎の課題作文による到達目標の達成度（50%）、期末作文課題（20%）、授業参加態度（20%）、ポートフォリオ（10%）		

13 年度以降	英語Ⅳ（W）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語Ⅲ（W）」に引き続き、実質的なエッセイライティングを学ぶ。1 パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、複数パラグラフによる文章構成法・変化の記述・原因・結果・説得・分類・対立意見の表現などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための練習を行うが、いずれもより高度な内容を含み、より安定したスキルの証明が求められる。教科書に基づいたフォーマルな課題の練習の他、受講者各自の知識・関心・経験に関連する課題作文の練習を行う。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる。授業は英語で行われる。学生も英語で参加することが求められる。		・各担当教員が初回の授業で指示する。	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、「英語Ⅱ」よりも高いレベルで自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。		
テキスト、参考文献	春学期に同じ。		
評価方法	春学期に同じ。		

12 年度以前	英語Ⅴ (AE)_再履修(Japanese Images in the World) 英語Ⅵ (AE)_再履修(Japanese Images in the World)	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way ② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way ③ can narrow down a topic effectively ④ can write a good thesis statement ⑤ can organize ideas in an outline format ⑥ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation ⑦ can write an abstract for the completed research paper ⑧ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.		Week 1: Introduction / Reading 1 Week 2: Reading 1 // opinion paper 1 Week3/4: Reading 2 // opinion paper 2 Week 5: Reading 3/4 Week 6: research paper topic & bibliography Week 7: research paper detailed outline Week 8: Reading 5 Week 9: research paper draft 1 & conferencing 1 Week 10: Reading 6 Week 11: research paper draft 2 & peer review Week 12: research paper draft 3 & conferencing 2 Week 13: research paper due // abstract Week 14: oral presentation (Group 1) Week 15: oral presentation (Group 2)	
到達目標			
事前・事後学修の内容	各回とも予習（課題資料を熟読やディスカッション課題の準備、口頭発表の準備など）をする。また、ライティング課題は必ず提出すること。		
テキスト、参考文献	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		
評価方法	準備・参加（10%）, 課題（15%）, research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%） 出席: 出席を大前提とし 8 回以上欠席した場合は不合格とする。		

12 年度以前	英語Ⅴ (AE)_再履修(Diversity in Japan) 英語Ⅵ (AE)_再履修(Diversity in Japan)	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view of becoming independent learners.		Week 1: Introduction / Reading 1 Week 2: Reading 1 // opinion paper 1 Week3/4: Reading 2 // opinion paper 2 Week 5: Reading 3/4 Week 6: research paper topic & bibliography Week 7: research paper detailed outline Week 8: Reading 5 Week 9: research paper draft 1 & conferencing 1 Week 10: Reading 6 Week 11: research paper draft 2 & peer review Week 12: research paper draft 3 & conferencing 2 Week 13: research paper due // abstract Week 14: oral presentation (Group 1) Week 15: oral presentation (Group 2)	
到達目標			
事前・事後学修の内容	各回とも予習（課題資料を熟読やディスカッション課題の準備、口頭発表の準備など）をする。また、ライティング課題は必ず提出すること。		
テキスト、参考文献	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		
評価方法	準備・参加（10%）, 課題（15%）, research paper（55%: outline, drafts, final product）, 口頭発表（20%） 出席: 出席を大前提とし、8 回以上欠席した場合は不合格とする。		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅰ（総合1） スペイン語Ⅰ（総合1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （総合）は、スペイン語Ⅰの中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語の習得を目的とする。 なお、この授業はスペイン語Ⅰ（総合2）とのペア授業である。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。		① 発音・アクセント ② 発音・アクセント ③ 名詞の性・数、冠詞 ④ 名詞の性・数、冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ ser, estar 動詞の使い方 ⑦ ser, estar 動詞の使い方 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑨ 代名詞の用法 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑪ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑫ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑬ 動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑭ 動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑮ 今学期の復習	
到達目標	スペイン語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、挨拶、現在形の文をつかった習慣や情報、希望などを伝達、および聞きとりができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza MayorⅠ（青い表紙）” 朝日出版社 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。		
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅱ（総合 1） スペイン語Ⅱ（総合 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅱ（総合 1）は、スペイン語Ⅰ（総合 1, 2）の継続の授業である。接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （総合）は、スペイン語Ⅱの中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使い方、および複文を使った多様な表現について、書き、話し、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。 なお、この授業はスペイン語Ⅱ（総合 2）とのペア授業である。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。		① 春学期の復習 ② 動詞の活用 --- 再帰動詞 ③ 再帰動詞と諸用法 ④ 動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形 ⑥ 比較表現 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑨ 点過去と線過去の違い ⑩ 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形 ⑪ 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形 ⑫ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑬ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑭ 命令表現 ⑮ 今学期の復習	
到達目標	スペイン語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、過去形の使い方と接続法の活用、および日常生活に支障のない作文、聞きとりができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I（青い表紙）” 朝日出版社		
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅰ（総合 2） スペイン語Ⅰ（総合 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅰ（総合2）はスペイン語Ⅰ（総合1）とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語Ⅰ（総合1）と同（総合2）のふたつを同時に履修することになる。		スペイン語Ⅰ（総合1）に同じ。	
到達目標	スペイン語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、挨拶、現在形の文をつかった習慣や情報、希望などを伝達、および聞きとりができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	スペイン語Ⅰ（総合1）に同じ。		
評価方法	基本的にスペイン語Ⅰ（総合1）と同じ評価基準である。		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅱ（総合 2） スペイン語Ⅱ（総合 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅰ（総合 2）の継続の授業である。 スペイン語Ⅱ（総合 2）はスペイン語Ⅱ（総合 1）との ペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語Ⅱ（総 合 1）と同（総合 2）のふたつを同時に履修することにな る。		スペイン語Ⅱ（総合 1）に同じ。	
到達目標	スペイン語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、過去形の使い方と接続法の活用、および日 常生活に支障のない作文、聞きとりができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、 参考文献	スペイン語Ⅱ（総合 1）に同じ。		
評価方法	基本的にスペイン語Ⅱ（総合 1）と同じ評価基準である。		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅰ（入門） スペイン語Ⅰ（入門）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （入門）では、英語以外の言語としてあらたに学ぶことになるスペイン語はどのような言語か、どんな地域で使われているのか、学ぶ意味がどこにあるのかなどについて考え、スペイン語学習の動機付けにする。また、スペイン語Ⅰ（総合1, 2）の補いとしてスペイン語を学ぶ大学生が知っておくべき用語・基礎単語、日常会話でよく使われる簡単な構文をつかって作文・聞き取りの練習をする。		学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ（総合 1, 2）の項目と同じであるが、（入門）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅰ（総合 1, 2）の「授業計画」を参照のこと。	
到達目標	スペイン語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、挨拶、現在形の文をつかった習慣や情報、希望などを伝達、および聞きとりができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。		
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅱ（基礎表現） スペイン語Ⅱ（基礎表現）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅰ（入門）の継続の授業である。接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （基礎表現）では、（総合 1, 2）の文法項目と語彙を補いながら、基礎的構文を使った表現法をまなぶ。また、簡単な文の読解力の養成を目的とする。		学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱ（総合 1, 2）の項目と同じであるが、（基礎表現）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅱ（総合 1, 2）の「授業計画」を参照のこと。	
到達目標	スペイン語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、過去形の使い方と接続法の活用、および日常生活に支障のない作文、聞きとりができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅰ（会話） スペイン語Ⅰ（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （会話）では、スペイン語Ⅰ（総合1, 2）での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的にする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。		学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ（総合1, 2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅰ（総合1, 2）の「授業計画」を参照のこと。	
到達目標	スペイン語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、挨拶、現在形の文をつかった習慣や情報、希望などを伝達、および聞きとりができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。		
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅱ（会話） スペイン語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅰ（会話）の継続の授業である。 接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （会話）では、スペイン語Ⅱ（総合 1, 2）での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。		学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱ（総合 1, 2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅱ（総合 1, 2）の「授業計画」を参照のこと。	
到達目標	スペイン語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、過去形の使い方と接続法の活用、および日常生活に支障のない作文、聞きとりができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅲ（総合） スペイン語Ⅲ（総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
（総合）の授業では、初級文法のうち、1 年目で不十分だった接続法を中心に扱う。また、中級用の教材を用いて、未来・過去未来、大過去、関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を図る。そのため、作文には力を入れる。 この授業では特に予習が不可欠である。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、接続法を中心とした表現や、比較的平易な物語・小説・評論の講読、および基本的な聞きとりと場面設定に合わせた受け答えができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		
評価方法	授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅳ（総合） スペイン語Ⅳ（総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅲ（総合）の継続の授業である。 （総合）の授業では、初級文法のうち、1 年目で不十分だった接続法を中心に扱う。また、中級用の教材を用いて、未来・過去未来、大過去、関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を図る。そのため、作文には力を入れる。 この授業では特に予習が不可欠である。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、各種テーマに関する意見発表や、語彙が豊富な物語・小説・評論を講読できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		
評価方法	授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅲ（講読） スペイン語Ⅲ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
（講読）の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなう。それとともに（総合）の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使い語彙を増強することも意図する。 この授業では特に予習が不可欠である。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、接続法を中心とした表現や、比較的平易な物語・小説・評論の講読、および基本的な聞きとりと場面設定に合わせた受け答えができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		
評価方法	授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅳ（講読） スペイン語Ⅳ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅲ（講読）の継続の授業である。 （講読）の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなう。それとともに（総合）の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使い語彙を増強することも意図する。 この授業では特に予習が不可欠である。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、各種テーマに関する意見発表や、語彙が豊富な物語・小説・評論を講読できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		
評価方法	授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅲ（会話 1） スペイン語Ⅲ（会話 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
（会話 1）、（会話 2）のいずれかの担当教員が（LL）の授業を担当し、他方が（会話）の授業を担当する。 （会話）の授業では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら練習するとともに、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用いてその文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。 （LL）の授業では、総合的オーディオヴィジュアル教材を用いて、基本文法事項に沿った聞き取り能力を定着させ、また場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も図る。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、接続法を中心とした表現や、比較的平易な物語・小説・評論の講読、および基本的な聞き取りと場面設定にあわせた受け答えができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		
評価方法	授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅳ（会話 1） スペイン語Ⅳ（会話 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅲ（会話 1）の継続である。 （会話 1）、（会話 2）のいずれかの担当教員が（LL）の授業を担当し、他方が（会話）の授業を担当する。 （会話）の授業では、（総合）での文法項目に沿った口答練習をおこない、自らの意見を述べる力、他の意見を聞き取る力を養成する。中級用の教材を用いて文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進めるとともに、テーマを定めて意見発表を行う練習およびニュースや映画などの聞き取り練習をおこなう。 （LL）の授業では、総合的オーディオヴィジュアル教材を用いて、スペイン語Ⅲに引き続いて、聞き取り能力を定着させ、また場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も図る。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、各種テーマに関する意見発表や、語彙が豊富な物語・小説・評論を講読できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		
評価方法	授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅲ（会話 2） スペイン語Ⅲ（会話 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
（会話 1）、（会話 2）のいずれかの担当教員が（LL）の授業を担当し、他方が（会話）の授業を担当する。 （会話）の授業では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら練習するとともに、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用いてその文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。 （LL）の授業では、総合的オーディオヴィジュアル教材を用いて、基本文法事項に沿った聞き取り能力を定着させ、また場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も図る。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、接続法を中心とした表現や、比較的平易な物語・小説・評論の講読、および基本的な聞き取りと場面設定にあわせた受け答えができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		
評価方法	授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語Ⅳ（会話 2） スペイン語Ⅳ（会話 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅲ（会話 2）の継続である。 （会話 1）、（会話 2）のいずれかの担当教員が（LL）の授業を担当し、他方が（会話）の授業を担当する。 （会話）の授業では、（総合）での文法項目に沿った口答練習をおこない、自らの意見を述べる力、他の意見を聞き取る力を養成する。中級用の教材を用いて文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進めるとともに、テーマを定めて意見発表を行う練習およびニュースや映画などの聞き取り練習をおこなう。 （LL）の授業では、総合的オーディオヴィジュアル教材を用いて、スペイン語Ⅲに引き続いて、聞き取り能力を定着させ、また場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も図る。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、各種テーマに関する意見発表や、語彙が豊富な物語・小説・評論を講読できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		
評価方法	授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅰ（総合Ⅰ） 中国語Ⅰ（総合Ⅰ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。		1. 発音（基本母音・声調）・ピンイン 2. 発音（声母）・ピンイン 3. 発音（韻母）・ピンイン 4. 基本語順、人称代詞、指示代詞、否定詞“不” 5. 反復疑問文、疑問詞疑問文、当否疑問文、連体修飾 6. 形容詞述語文、選択疑問文 7. 中間試験 8. 二重目的文、量詞 9. 連動文、年月日・曜日の言い方 10. “有／没有”、“几／多少”、方位詞、数詞 11. “在”、金額の表現 12. 助動詞、語気助詞“了” 13. 動態助詞“了”、時量・回数と時点、時間量の言い方 14. 学期のまとめと期末試験 15. 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
到達目標	中国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。		
テキスト、参考文献	『中国語一年目の教科書 ユニバーサル・ユース』（好文出版）		
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70％、授業への参加度 30％		

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅱ（総合 1） 中国語Ⅱ（総合 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。		1. 主述述語文、程度補語、離合詞 2. 進行相、動詞の重ね型 3. 方向補語、結果補語 4. 持続相、可能補語 5. 経験相、将然相、時刻の表現 6. 存現文 7. 中間試験 8. “把”字文、定着表現、到達表現 9. 比較の表現 10. 受身文 11. 様態補語 12. 使役文、後置修飾 13. “（是）…的”構文 14. 学期のまとめと期末試験 15. 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
到達目標	中国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本語彙の増強を図ったうえで、各種の表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。		
テキスト、参考文献	『中国語一年目の教科書 ユニバーサル・ユース』（好文出版）		
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70％，授業への参加度 30％		

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅰ（総合 2） 中国語Ⅰ（総合 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、構文・作文力の基礎を養成する。		1. 発音（基本母音・声調）・ピンイン 2. 発音（声母）・ピンイン 3. 発音（韻母）・ピンイン 4. 第 1 課 姓名の表現 5. 第 2 課 判断の表現 6. 復習 7. 中間試験 8. 第 3 課 程度の表現（Ⅰ） 9. 第 4 課 行為の表現 10. 第 5 課 時間の表現 11. 復習 12. 第 6 課 所有の表現 13. 第 7 課 存在の表現（Ⅰ） 14. 学期のまとめと期末試験 15. 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
到達目標	中国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。		
テキスト、参考文献	『新表現の達人Ⅰ』[基本ブック]（白帝社）		
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70％、授業への参加度 30％		

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅱ（総合 2） 中国語Ⅱ（総合 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、構文・作文力の基礎を養成する。		1. 第 8 課 生活習慣の表現 2. 第 9 課 行為完了の表現 3. 第 10 課 可能と許可の表現（Ⅰ） 4. 第 11 課 願望と感情の表現 5. 第 12 課 条件と選択の表現 6. 第 13 課 状態の持続と経験の表現 7. 中間試験 8. 第 14 課 程度の表現（Ⅱ） 9. 第 15 課 比較の表現（Ⅰ） 10. 第 16 課 動作の時間的な量と回数の表現 11. 復習 12. 第 17 課 動作の結果の表現（Ⅰ） 13. 第 18 課 可能の表現（Ⅱ） 14. 学期のまとめと期末試験 15. 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
到達目標	中国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本語彙の増強を図ったうえで、各種の表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。		
テキスト、参考文献	『新表現の達人Ⅰ』[基本ブック]（白帝社）		
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%		

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅰ（入門） 中国語Ⅰ（入門）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、発音指導を中心に、簡単な挨拶表現・応答表現などを学ぶ。		1. 発音（基本母音・声調）・ピンイン 2. 発音（声母）・ピンイン 3. 発音（韻母）・ピンイン 4. 第1課 5. 第2課 6. 第3課 7. 中間試験 8. 復習 9. 第4課 10. 第5課 11. 復習 12. 第7課 13. 第8課 14. 学期のまとめと期末試験 15. 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
到達目標	中国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。		
テキスト、参考文献	『 新版 例解中国語入門 你问我答〔第2版〕』（白帝社）		
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70％、授業への参加度 30％		

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅱ（基礎表現） 中国語Ⅱ（基礎表現）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、反復練習・暗誦を通し基礎表現を身につけさせる。		1. 第 9 課 2. 第 10 課 3. 第 11 課 4. 第 12 課 5. 第 13 課 6. 第 14 課 7. 中間試験 8. 第 15 課 9. 第 16 課 10. 第 17 課 11. 第 18 課 12. 第 19 課 13. 第 20 課 14. 学期のまとめと期末試験 15. 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
到達目標	中国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本語彙の増強を図ったうえで、各種の表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。		
テキスト、参考文献	『 新版 例解中国語入門 你问我答〔第 2 版〕』（白帝社）		
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%		

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅰ（会話） 中国語Ⅰ（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）		1. 発音（基本母音・声調）・ピンイン 2. 発音（声母）・ピンイン 3. 発音（韻母）・ピンイン 4. 第1課 姓名の表現 5. 第2課 判断の表現 6. 復習 7. 中間試験 8. 第3課 程度の表現（Ⅰ） 9. 第4課 行為の表現 10. 第5課 時間の表現 11. 復習 12. 第6課 所有の表現 13. 第7課 存在の表現（Ⅰ） 14. 学期のまとめと期末試験 15. 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
到達目標	中国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。		
テキスト、参考文献	『表現の達人Ⅰ』[発展ブック]（白帝社）		
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70％、授業への参加度 30％		

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅱ（会話） 中国語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）		1. 第 8 課 生活習慣の表現 2. 第 9 課 行為完了の表現 3. 第 10 課 可能と許可の表現（Ⅰ） 4. 第 11 課 願望と感情の表現 5. 第 12 課 条件と選択の表現 6. 第 13 課 状態の持続と経験の表現 7. 中間試験 8. 復習 9. 第 14 課 程度の表現（Ⅱ） 10. 第 15 課 比較の表現（Ⅰ） 11. 第 16 課 動作の時間的な量と回数の表現 12. 第 17 課 動作の結果の表現（Ⅰ） 13. 第 18 課 可能の表現（Ⅱ） 14. 学期のまとめと期末試験 15. 復習	
到達目標	中国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本語彙の増強を図ったうえで、各種の表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。		
テキスト、 参考文献	『表現の達人Ⅰ』【発展ブック】（白帝社）		
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%		

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅲ（総合） 中国語Ⅲ（総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに、単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また、補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め、同時に語彙力を増強し、識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下、作文のための基本文法を整理し、併せて虚詞（機能語）・文型を学んで、文の組み立てをしっかりとつかませる。		1. 第 1 課 2. 第 2 課 3. 第 3 課 4. 第 4 課 5. 第 5 課 6. 第 6 課 7. 中間試験 8. 第 7 課 9. 第 8 課 10. 第 9 課 11. 第 10 課 12. 第 11 課 13. 第 12 課 14. 学期のまとめと期末試験 15. 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。		
テキスト、参考文献	『作文ルール 6 6 — 日中翻訳技法 — 』（朝日出版社）		
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70％、授業への参加度 30％		

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅳ（総合） 中国語Ⅳ（総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし、一定の長さをもった内容について、リスニングとスピーキングの訓練を積み、基礎的運用能力を養う。また、多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し、もって作文力と読解力を向上させる。」中国語Ⅳの学習目標の下、作文のための基本文法を整理し、併せて虚詞（機能語）・文型を学んで、文の組み立てをしっかりとつかませる。		1. 第 13 課 2. 第 14 課 3. 第 15 課 4. 愛 16 課 5. 第 17 課 6. 第 18 課 7. 中間試験 8. 第 19 課 9. 第 20 課 10. 第 21 課 11. 第 22 課 12. 第 23 課 13. 第 24 課 14. 学期のまとめと期末試験 15. 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。		
テキスト、参考文献	『作文ルール 6 6 — 日中翻訳技法 — 』（朝日出版社）		
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%		

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅲ（講読） 中国語Ⅲ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに、単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また、補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め、同時に語彙力を増強し、識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下、一般的な文章を読み読解力の基礎を養成する。		1. 第 1 課 2. 第 2 課 3. 復習 4. 第 3 課 5. 第 4 課 6. 復習 7. 中間試験 8. 第 5 課 9. 第 6 課 10. 復習 11. 第 7 課 12. 読み物（プリント教材） 13. 読み物（プリント教材） 14. 学期のまとめと期末試験 15. 復習	
到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。		
テキスト、参考文献	『系統的に学ぼう 中国語 2 中級読解コース』（白帝社） ＋（各クラス担当者作成の）プリント教材		
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70％，授業への参加度 30％		

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅳ（講読） 中国語Ⅳ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし、一定の長さをもった内容について、リスニングとスピーキングの訓練を積み、基礎的運用能力を養う。また、多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し、もって作文力と読解力を向上させる」中国語Ⅳの学習目標の下、一般的な文章を読み読解力の基礎を養成する。		1. 第 8 課 2. 第 9 課 3. 復習 4. 第 10 課 5. 第 11 課 6. 復習 7. 中間試験 8. 第 12 課 9. 第 13 課 10. 復習 11. 第 14 課 12. 読み物（プリント教材） 13. 読み物（プリント教材） 14. 学期のまとめと期末試験 15. 復習	
到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。		
テキスト、 参考文献	『系統的に学ぼう 中国語 2 中級読解コース』（白帝社） ＋（各クラス担当者作成の）プリント教材		
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%		

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅲ（会話 1） 中国語Ⅲ（会話 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
練習問題を中心に中国語の基本的な表現を習得すること を目標とします。 スムーズな会話を成立させるためには、 1. 相手の話した音声を正確にキャッチする 2. 音声を語として理解する 3. 語の意味を捉える 4. 語の並び方（語法）によって文の意味と発言の意図を 理解する 5. 相手の発言を聴きながら自分の応対を考える 6. 聞き終わったあとに自分の考えを音声化して発話する という一連の作業が必要になります。以上のプロセス を意識した会話の能力を養います。 3 課進むごとに復習テストを実施します。		1. ガイダンス・P C による中国語の入力練習 2. 第 1 課 発音の復習 3. 第 2 課 新しい単語 4. 第 3 課 お名前は？ 5. 1～3 課 復習テスト 解答と解説 6. 第 4 課 何時に起きますか？ 7. 第 5 課 いつですか？ 8. 第 6 課 いくらですか？ 9. 4～6 課復習テスト 解答と解説 10. 第 7 課 新しい単語 11. 第 8 課 なにがありますか？ 12. 第 9 課 どこにありますか？ 13. 第 10 課 なにが好きですか？ 14. 7～10 課復習テスト 解答と解説 15. 学期のまとめと総復習	
到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前にテキストの進出単語を暗記する。事後に「まとめの会話」を暗記する。		
テキスト、 参考文献	『音で覚える中国語会話特訓』 同学社		
評価方法	試験（復習テスト・期末テスト）75%、授業への参加度 25%で評価する。		

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅳ（会話 1） 中国語Ⅳ（会話 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
練習問題を中心に中国語の基本的な表現を習得すること を目標とします。 スムーズな会話を成立させるためには、 1. 相手の話した音声を正確にキャッチする 2. 音声を語として理解する 3. 語の意味を捉える 4. 語の並び方（語法）によって文の意味と発言の意図を 理解する 5. 相手の発言を聴きながら自分の応対を考える 6. 聞き終わったあとに自分の考えを音声化して発話する という一連の作業が必要になります。以上のプロセス を意識した会話の能力を養います。 3 課進むごとに復習テストを実施します。		1. 春学期の復習 2. 第11課 何時間寝ましたか？ 3. 第12課 新しい単語 4. 第13課 誰に買ってあげますか？ 5. 11～13課 復習テスト 解答と解説 6. 第14課 どこで勉強しますか？ 7. 第15課 なにが盗まれましたか？ 8. 第16課 何をしていますか？ 9. 14～16課 復習テスト 解答と解説 10. 第17課 新しい単語 11. 第18課 見たことがありますか？ 12. 第19課 たばこを吸ってもいいですか？ 13. 第20課 これより安いですか？ 14. 17～20課 復習テスト 解答と解説 15. 学期のまとめ、総復習	
到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前にテキストの進出単語を暗記する。事後に「まとめの会話」を暗記する。		
テキスト、 参考文献	『音で覚える中国語会話特訓』 同学社		
評価方法	試験（復習テスト・期末テスト）75%、授業への参加度 25%で評価する。		

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅲ（会話 2） 中国語Ⅲ（会話 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに、単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また、補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め、同時に語彙力を増強し、識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下、話題をめぐってまとめた内容を話す練習を行い、会話力に話題の広さと内容の深さを具わせる。 ※ 教科書の話題に沿って会話練習を行う。 会話練習の中で語彙や表現を補い、日中の習慣の違いも学ぶ。		1. 第 1 課 2. 同上の応用練習 3. 第 2 課 4. 同上の応用練習 5. 第 3 課 6. 同上の応用練習 7. 中間試験 8. 第 4 課 9. 同上の応用練習 10. 第 5 課 11. 同上の応用練習 12. 第 6 課 13. 第 7 課 14. 第 6 課・第 7 課の応用練習 15. 学期のまとめと期末試験 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。		
テキスト、参考文献	『[スリム版] 表現する中国語Ⅱ』（白帝社）		
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70％、授業への参加度 30％		

13 年度以降 12 年度以前	中国語Ⅳ（会話 2） 中国語Ⅳ（会話 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし、一定の長さをもった内容について、リスニングとスピーキングの訓練を積み、基礎的運用能力を養う。また、多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し、もって作文力と読解力を向上させる」中国語Ⅳの学習目標の下、話題をめぐってまとめた内容を話す練習を行い、会話力に話題の広さと内容の深さを具わせる。 ※ 教科書の問題に沿って会話練習を行う。 会話練習の中で語彙や表現を補い、日中の習慣の違いも学ぶ。		- 第 8 課 - 第 9 課 - 第 8 課・第 9 課の応用練習 - 第 10 課 - 第 11 課 买东西 - 第 10 課・第 11 課の応用練習 - 中間試験 - 第 12 課 - 第 13 課 - 第 12 課・第 13 課の応用練習 - 第 14 課用練習 - 第 14 課 - 第 15 課 - 第 14 課・第 15 課の応用練習 - 学期のまとめと期末試験 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。		
テキスト、参考文献	『[スリム版] 表現する中国語Ⅱ』（白帝社）		
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%		

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅰ（文法・読解 1） 韓国語Ⅰ（文法・読解 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は韓国語の基礎的知識を習得することを目標とし、主に「読み」「書き」に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめて簡単な挨拶、自己紹介、道をたずねるなど、旅行や日常生活に必要な基本文と共に、基礎的かつ重要な文法をしっかりと身に付けていく。 よく、「韓国語は日本語と似ているから習得しやすい」と言われるが、そうした思い込みは捨ててほしい。カタカナ読みの韓国語ではなく、「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。		1. ハングルのしくみ① 2. ハングルのしくみ② 3. ハングルのしくみ③ 4. あいさつ① 5. あいさつ② 6. 名詞文 7. 存在文 8. 用言文 9. 数詞① 10. 数詞② 11. 否定形 12. 尊敬形 13. 連用形 14. 해요体 15. 해요体の尊敬形	
到達目標	韓国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現、聞き取り、日常会話、意思疎通、パソコンでのハングル入力ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		
評価方法	小テスト、中間テスト、期末テスト		

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅱ（文法・読解 1） 韓国語Ⅱ（文法・読解 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、韓国語Ⅰで学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。		1. 基本事項の確認① 2. 基本事項の確認② 3. 過去形 4. 連体形① 5. 連体形② 6. 未来意思形 7. ㄷ語幹 8. ㄷ変則用言 9. ㄴ変則用言 10. ㄹ変則用言 11. ㅎ変則用言 12. ㄹ変則用言 13. 変則用言のまとめ 14-15. まとめと復習	
到達目標	韓国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、語彙の増強と言語文化的基礎知識の獲得をふまへ、日常生活に必要な作文、簡単な文章読解、会話、意思疎通ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		
評価方法	小テスト、中間テスト、期末テスト		

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅰ（文法・読解 2） 韓国語Ⅰ（文法・読解 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は「韓国語Ⅰ（文法・読解 1）」で学んだ文法や単語を教室内で実際に使用してみることにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。 主に「読み・書き」に力を入れていく。		1. ハングルのしくみ① 2. ハングルのしくみ② 3. ハングルのしくみ③ 4. あいさつ① 5. あいさつ② 6. 名詞文 7. 存在文 8. 用言文 9. 数詞① 10. 数詞② 11. 否定形 12. 尊敬形 13. 連用形 14. 해요 体 15. 해요 体の尊敬形	
到達目標	韓国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現、聞き取り、日常会話、意思疎通、パソコンでのハングル入力ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		
評価方法	小テスト、中間テスト、期末テスト		

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅱ（文法・読解 2） 韓国語Ⅱ（文法・読解 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、韓国語Ⅱ（文法・読解 1）で学んだ単語、文法を教室内で使用してみるにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。		1. 基本事項の確認① 2. 基本事項の確認② 3. 過去形 4. 連体形① 5. 連体形② 6. 未来意思形 7. ㄷ語幹 8. ㄷ変則用言 9. ㄹ変則用言 10. ㄱ変則用言 11. ㅎ変則用言 12. ㄹ変則用言 13. 変則用言のまとめ 14-15. まとめと復習	
到達目標	韓国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、語彙の増強と言語文化的基礎知識の獲得をふまへ、日常生活に必要な作文、簡単な文章読解、会話、意思疎通ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		
評価方法	小テスト、中間テスト、期末テスト		

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅰ（コミュニケーションⅠ） 韓国語Ⅰ（コミュニケーションⅠ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語初習者向けの授業。文法・言語文化的基礎知識・会話の構成をとる。文法の授業では項目をおいながら基礎的な表現とその聞き取りができる総合的能力の習得を目的とする。		1. 母音字（短母音、二重母音など） 2. 子音字（平音、激音、濃音、鼻音、流音） 3. バッチム 4. 第1課 基本文型 5. 第3課 自己紹介 6. 第5課 否定文 7. ハングル keyboard 練習 8. 第7課 時間の表現（曜日） 9. 第9課 過去時制 10. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 11. 第11課 電話の表現 12. 第13課 注文 13. 第15課 目的表現、指示表現 14. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 15. まとめ	
到達目標	韓国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現、聞き取り、日常会話、意思疎通、パソコンでのハングル入力ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	ソウル大学言語教育院,『韓国語Ⅰ』Moonjin Media, 2006		
評価方法	評価方法：期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。		

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅱ（コミュニケーション 1） 韓国語Ⅱ（コミュニケーション 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語Ⅰに引き続き、文法では、連体形までの基礎的文法事項をまなび初級文法を終える。初級学習者に不足しがちな語彙力の増加、見落としがちな正しい発音への矯正にも配慮する。韓国語を学ぶ上での言語文化的基礎知識の一層の獲得を目指す。		1. 前期の復習 2. 第 17 課 家族・事実の確認 3. 第 19 課 誕生日・同時、接続表現 4. 第 21 課 購入・希望表現・可能表現 5. 第 23 課 薬局 6. 第 23 課 推測表現・連体形 7. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 8. 第 25 課 一日中の出来事 9. 第 25 課 要請・背景の表現 10. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 11. 第 27 課 故郷紹介 12. 第 27 課 進行形・条件 13. 第 29 課 両替・話題転換 14. 第 29 課 感嘆表現 15. まとめ	
到達目標	韓国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、語彙の増強と言語文化的基礎知識の獲得をふまえて、日常生活に必要な作文、簡単な文章読解、会話、意思疎通ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	ソウル大学言語教育院,『韓国語 1』 Moonjin Media, 2006		
評価方法	評価方法：期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。		

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅰ（コミュニケーションⅡ） 韓国語Ⅰ（コミュニケーションⅡ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語初習者向けの授業。文法・言語文化的基礎知識・会話の構成をとる。文法の授業では項目をおいながら基礎的な表現とその聞き取りができる総合的能力の習得を目的とする。		1. 母音字（短母音、二重母音など） 2. 子音字（平音、激音、濃音、鼻音、流音） 3. バッチム 4. 第 2 課 基本文型 5. 第 4 課 場所表現、敬語 6. 第 6 課 天気表現 7. 第 8 課 位置と数字、요 form) 8. 第 10 課 不規則動詞変化・漢数字 9. 中間テスト 10. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 11. 第 12 課 買い物 12. 第 14 課 交通手段 13. 第 16 課 招待不規則活用、時間表現 14. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 15. まとめ	
到達目標	韓国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現、聞き取り、日常会話、意思疎通、パソコンでのハングル入力ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	ソウル大学言語教育院,『韓国語 1』Moonjin Media, 2006		
評価方法	評価方法：期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。		

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅱ（コミュニケーションⅡ） 韓国語Ⅱ（コミュニケーションⅡ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語Ⅰに引き続き、文法では、連体形までの基礎的文法事項をまなび初級文法を終える。初級学習者に不足しがちな語彙力の増加、見落としがちな正しい発音への矯正にも配慮する。韓国語を学ぶ上での言語文化的基礎知識の一層の獲得を目指す。		1. 前期の復習 2. 第 18 課 趣味 3. 第 18 課 理由・提案・義務・お断り表現 4. 第 20 課 旅行 5. 第 20 課 連体形 6. 第 22 課 週末計画 7. 第 22 課 談話表現・未来時制 8. 中間テスト 9. 第 24 課 喫茶店 10. 第 24 課 お詫び表現 11. 第 26 課 喫茶店 12. 第 26 課 値段の比較・不規則活用 13. 第 28 課 本屋さん・比較表現 14. 第 30 課 週末・否定疑問文 15. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習	
到達目標	韓国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、語彙の増強と言語文化的基礎知識の獲得をふまえて、日常生活に必要な作文、簡単な文章読解、会話、意思疎通ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	ソウル大学言語教育院,『韓国語 1』 Moonjin Media, 2006		
評価方法	評価方法：期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。		

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅲ（文法・読解 1） 韓国語Ⅲ（文法・読解 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を復習しつつ、新しい文法の知識と語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。		1 前年度の復習 2 ぞんざいな文末表現① 3 ぞんざいな文末表現② 4 昔話（1） 5 未来連体形を使う表現 6 昔話（2） 7 引用形① 8 引用形② 9 昔話（3） 1 0 名詞化語尾① 1 1 名詞化語尾② 1 2 受身形 1 3 さまざまな慣用句 1 4 — 1 5 使役形	
到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	『ことばの架け橋中級表現編』生越直樹著 『昔話で学ぶ韓国語中級リーディング』金京子著		
評価方法	課題提出、中間テスト、期末テスト		

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅳ（文法・読解 1） 韓国語Ⅳ（文法・読解 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、これまで学んだ文法や単語、表現を生かしより実践的な韓国語能力の習得をめざす。上級へのステップアップとして、語彙、表現を増やしていく。		1 春学期の復習 2 第 1 課 3 第 2 課 4 第 3 課 5 第 4 課 6 第 5 課 7 第 6 課 8 中間テスト 9 第 7 課 10 第 8 課 11 第 9 課 12 第 10 課 13 第 11 課 14 第 12 課 15 第 13 課	
到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	『総合韓国語 4』油谷幸利ほか著（白帝社） 『昔話で学ぶ韓国語中級リーディング』金京子著		
評価方法	課題提出、中間テスト、期末テスト		

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅲ（文法・読解 2） 韓国語Ⅲ（文法・読解 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を復習しつつ、新しい文法の知識と語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。		1 前年度の復習 2 ぞんざいな文末表現 3 昔話（1） 4 未来連体形を使う表現① 5 未来連体形を使う表現② 6 昔話（2） 7 引用形 8 昔話（3） 9 名詞化語尾 10 昔話（4） 11 受身形① 12 受身形② 13 さまざまな慣用句 14—15 書き言葉の表現	
到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	『ことばの架け橋中級表現編』生越直樹著 『昔話で学ぶ韓国語中級リーディング』金京子著		
評価方法	課題提出、中間テスト、期末テスト		

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅳ（文法・読解 2） 韓国語Ⅳ（文法・読解 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、これまで学んだ文法や単語、表現を生かし、より実践的な韓国語能力の習得をめざす。上級へのステップアップとして、語彙、表現を増やしていく。		1 春学期の復習 2 第 1 課 3 第 2 課 4 第 3 課 5 第 4 課 6 第 5 課 7 第 6 課 8 中間テスト 9 第 7 課 10 第 8 課 11 第 9 課 12 第 10 課 13 第 11 課 14 第 12 課 15 学期のまとめと期末テスト	
到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	『総合韓国語 4』油谷幸利ほか著（白帝社） 『昔話で学ぶ韓国語中級リーディング』金京子著		
評価方法	課題提出、中間テスト、期末テスト		

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅲ（コミュニケーション 1） 韓国語Ⅲ（コミュニケーション 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
文法の補強、講読力の養成、リスニング力の強化、表現力の増強を目指す。文法では、韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ初級文法のうち、初級レベルの説明では不十分である文法項目を中心に扱い理解の深化と定着を図る。		1. 第 1 課 新学期 2. 第 3 課 天気予報 3. 第 5 課 お部屋探し 4. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 5. 第 7 課 お引っ越し祝い 6. 第 9 課 銀行 7. 中間テスト 8. 第 11 課 約束 9. 第 13 課 お料理 10. 第 15 課 お引っ越し 11. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 12. 第 17 課 遊園地 13. 第 19 課 ソンピョン 14. 第 21 課 なぞなぞ 15. 聞き取り練習・スピーキング練習	
到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、 参考文献	ソウル大学言語教育院,『韓国語 3』Moonjin Media, 2006		
評価方法	評価方法：期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。		

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅳ（コミュニケーション 1） 韓国語Ⅳ（コミュニケーション 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語Ⅲに引き続き、文法の補強、講読力の養成、リスニング力の強化、表現力の増強を目指す。		1. 復習 2. 第 23 課 テレビの故障中 3. 第 25 課 結婚 4. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 5. 第 27 課 書堂 6. 第 29 課 演劇 7. 5 分 speech(前半) 8. 第 29 課 演劇練習 9. 第 29 課 演劇発表会(グループ別) 10. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 11. 第 31 課 ハングル 12. 第 33 課 韓国の山 13. 5 分 speech(後半) 14. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 15. まとめ	
到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、 参考文献	ソウル大学言語教育院,『韓国語 3』Moonjin Media, 2006		
評価方法	評価方法：期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。		

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅲ（コミュニケーション 2） 韓国語Ⅲ（コミュニケーション 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
文法の補強、講読力の養成、リスニング力の強化、表現力の増強を目指す。文法では、韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ初級文法のうち、初級レベルの説明では不十分である文法項目を中心に扱い理解の深化と定着を図る。		1. 第 2 課 終了式 2. 第 4 課 お見舞い 3. 第 6 課 下宿 4. 第 8 課 お住まい 5. 第 10 課 クリーニング屋さん 6. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 7. 3 分 speech（前半） 8. 第 12 課 案内放送 9. 第 14 課 ブルゴギ 10. 第 16 課 育児 11. 第 18 課 秋夕 12. 3 分 speech（後半） 13. 第 20 課 口論 14. 第 22 課 写真館 15. まとめ	
到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	ソウル大学言語教育院,『韓国語 3』Moonjin Media, 2006		
評価方法	評価方法：期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。		

13 年度以降 12 年度以前	韓国語Ⅳ（コミュニケーション 2） 韓国語Ⅳ（コミュニケーション 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語Ⅲに引き続き、文法の補強、講読力の養成、リスニング力の強化、表現力の増強を目指す。		1. 復習 2. 第 24 課 テレビの修理 3. 第 26 課 友たちの結婚式 4. 第 28 課 宝くじの当たり 5. 中間テスト 6. 第 29 課 演劇グループ別練習 7. 第 29 課 演劇発表会(グループ別) 8. 第 30 課 旅行(1) 9. 第 30 課 旅行(2) 10. 第 32 課 記念日(1) 11. 第 32 課 記念日(2) 12. 第 34 課 韓国の童謡 13. 第 34 課 韓国の詩(1) 14. 第 34 課 韓国の詩(2) 15. まとめ・復習	
到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	ソウル大学言語教育院,『韓国語 3』 Moonjin Media, 2006		
評価方法	評価方法：期末試験の結果(60%)によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績(40%)も評価対象とする。		

13 年度以降	英語上級（AE）（A Global Issue）	担当者	J. ハント
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.		Week 1: Introduction and Objectives Week 2: Defining the Issue Week 3: Citations Week 4: Researching the Issue 1 Week 5: Researching the Issue 2 Week 6: Research Proposals Week 7: 1 st draft Week 8: Editing Workshop 1 Week 9: Conferencing 1 Week 10: 2 nd draft Week 11: Editing Workshop 2 Week 12: Conferencing 2 Week 13: Final draft. Presentation Skills Week 14: Presentation Workshop Week 15: Final Presentations Class schedule may change due to academic calendar	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Before-class preparation and after-class review each week.		
テキスト、参考文献	・ Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1) Additional text to be announced.		
評価方法	評価基準：準備・参加(10%)、課題（15%）、research paper（55%：outline, drafts, final product）、口頭発表（20%） 出席：出席を大前提とし、4 回以上欠席した場合は不合格とする。		

13 年度以降	英語上級（AE）（An Environmental Issue）	担当者	J．ハント
講義目的、講義概要		授業計画	
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners		Week 1: Introduction and Objectives Week 2: Defining the Issue Week 3: Citations Week 4: Researching the Issue 1 Week 5: Researching the Issue 2 Week 6: Research Proposals Week 7: 1 st draft Week 8: Editing Workshop 1 Week 9: Conferencing 1 Week 10: 2 nd draft Week 11: Editing Workshop 2 Week 12: Conferencing 2 Week 13: Final draft. Presentation Skills Week 14: Presentation Workshop Week 15: Final Presentations Class schedule may change due to academic calendar	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	春学期に同じ。		
テキスト、参考文献	春学期に同じ。		
評価方法	春学期に同じ。		

13 年度以降	英語上級（AE）（Environmental Issues）_火 3	担当者	K. A. クラウン
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.		1. Introduction to the course 2. Earth Day 3. Effects of Overconsumption 4. Research Paper: Format and Title 5. Pollution 6. Eco-conscious shopping 7. Review Exam #1 8. Research Paper: Thesis Statement 9. Research Paper: Cluster Diagrams 10. Research Paper: Introduction and Conclusion 11. Submission of First Draft: Living in harmony 12. Group presentations 13. Review Exam #2 14. Final Research Paper Submission; oral pres. 15. Oral presentations	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Review previous lesson and preview the next		
テキスト、参考文献	Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1) Looking Back,Moving Forward: Reading and Discussion,Chris Summerville (Macmillan Languagehouse, 2006)		
評価方法	評価基準：準備・参加(10%), 課題 (15%), research paper (55% : outline, drafts, final product), 口頭発表 (20%) 出席：出席を大前提とし、4 回以上欠席した場合は不合格とする。		

13 年度以降	英語上級（AE）(Global Issues) _火 3	担当者	K. A. クラウン
講義目的、講義概要		授業計画	
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners		1. Introduction to the course 2. Information and misinformation 3. Research proposal submission 4. Research Paper: Format and Title 5. Happioness 6. Research Paper: Thesis statement 7. Review Exam #1 8. Research Paper:Cluster Diagrams 9. Research Paper: structure of the paper 10. First Draft Submission: Poverty 11. Millenium Development Goals 12. Review Exam #2 13. Final Research Paper Submission; oral pres. 14. Oral presentations 15. Oral presentations	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Review previous lesson and pre4view the next		
テキスト、参考文献	Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1) Confronting the Issues, David Peaty, (Kinseido, 2008)		
評価方法	春学期に同じ.		

13 年度以降	英語上級（AE）（Environmental Issues）_金 1	担当者	K. A. クラウン
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.		1. Introduction to the course 2. Earth Day 3. Effects of Overconsumption 4. Research Paper: Format and Title 5. Pollution 6. Eco-conscious shopping 7. Review Exam #1 8. Research Paper: Thesis Statement 9. Research Paper: Cluster Diagrams 10. Research Paper: Introduction and Conclusion 11. Submission of First Draft: Living in harmony 12. Group presentations 13. Review Exam #2 14. Final Research Paper Submission; oral pres. 15. Oral presentations	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Review previous lesson and preview the next		
テキスト、参考文献	Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1) Looking Back,Moving Forward: Reading and Discussion,Chris Summerville (Macmillan Languagehouse, 2006)		
評価方法	評価基準：準備・参加(10%)、課題（15%）、research paper（55%：outline, drafts, final product）、口頭発表（20%） 出席：出席を大前提とし、4 回以上欠席した場合は不合格とする。		

13 年度以降	英語上級（AE）（Global Issues）_金 1	担当者	K. A. クラウン
講義目的、講義概要		授業計画	
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners		1. Introduction to the course 2. Information and misinformation 3. Research proposal submission 4. Research Paper: Format and Title 5. Happioness 6. Research Paper: Thesis statement 7. Review Exam #1 8. Research Paper:Cluster Diagrams 9. Research Paper: structure of the paper 10. First Draft Submission: Poverty 11. Millenium Development Goals 12. Review Exam #2 13. Final Research Paper Submission; oral pres. 14. Oral presentations 15. Oral presentations	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Review previous lesson and pre4view the next		
テキスト、参考文献	Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1) Confronting the Issues, David Peaty, (Kinseido, 2008)		
評価方法	春学期に同じ.		

13 年度以降	英語上級 (AE) (Japanese Film)_火 3	担当者	M. ハルデイン
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.		1. Introduction: Features of Japanese Cinema 2. 楢山節考 (1958) 3. はなれ瞽女おりん / 赤線地帯 4. ゴジラ 5. 人情紙風船 / 丹下左膳余話 百萬両の壺 6. 蛍の墓 7. 鬼婆 / 砂の女 8. 切腹 9. 用心棒 / 椿三十郎 10. 海と毒薬 11. 雨月物語 / 山椒大夫 12. 東京物語 (1953) 13. 七人の侍 14. Presentations (1) 15. Presentations (2)	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Watch the film(s) and take notes.		
テキスト、参考文献	・ Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1)		
評価方法	評価基準：準備・参加(10%)、課題 (15%)、research paper (55% : outline, drafts, final product)、口頭発表 (20%) 出席：出席を大前提とし、4 回以上欠席した場合は不合格とする。		

13 年度以降	英語上級（AE）(Japanese Cinema) _火 3	担当者	M. ハルデイン
講義目的、講義概要		授業計画	
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners		1. Introduction: Aspects of Japanese Cinema 2. 楢山節考 (1958) 3. はなれ瞽女おりん / 赤線地帯 4. ゴジラ 5. 人情紙風船 / 丹下左膳余話 百萬両の壺 6. 蛍の墓 7. 鬼婆 / 砂の女 8. 切腹 9. 用心棒 / 椿三十郎 10. 海と毒薬 11. 雨月物語 / 山椒大夫 12. 東京物語 (1953) 13. 七人の侍 14. Presentations (1) 15. Presentations (2)	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Watch the film(s) and take notes.		
テキスト、参考文献	春学期に同じ.		
評価方法	春学期に同じ.		

13 年度以降	英語上級 (AE) (Japanese Film)_金 1	担当者	M. ハルデイン
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.		1. Introduction: Features of Japanese Cinema 2. 楢山節考 (1958) 3. はなれ瞽女おりん / 赤線地帯 4. ゴジラ 5. 人情紙風船 / 丹下左膳余話 百萬両の壺 6. 蛍の墓 7. 鬼婆 / 砂の女 8. 切腹 9. 用心棒 / 椿三十郎 10. 海と毒薬 11. 雨月物語 / 山椒大夫 12. 東京物語 (1953) 13. 七人の侍 14. Presentations (1) 15. Presentations (2)	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Watch the film(s) and take notes.		
テキスト、参考文献	・ Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1)		
評価方法	評価基準：準備・参加(10%)、課題 (15%)、research paper (55% : outline, drafts, final product)、口頭発表 (20%) 出席：出席を大前提とし、4 回以上欠席した場合は不合格とする。		

13 年度以降	英語上級（AE）(Japanese Cinema)_金 1	担当者	M. ハルデイン
講義目的、講義概要		授業計画	
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners		1. Introduction: Aspects of Japanese Cinema 2. 楢山節考 (1958) 3. はなれ瞽女おりん / 赤線地帯 4. ゴジラ 5. 人情紙風船 / 丹下左膳余話 百萬両の壺 6. 蛍の墓 7. 鬼婆 / 砂の女 8. 切腹 9. 用心棒 / 椿三十郎 10. 海と毒薬 11. 雨月物語 / 山椒大夫 12. 東京物語 (1953) 13. 七人の侍 14. Presentations (1) 15. Presentations (2)	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Watch the film(s) and take notes.		
テキスト、参考文献	春学期に同じ.		
評価方法	春学期に同じ.		

13 年度以降	英語上級（AE）（Learning to Write Better Research Papers）	担当者	J．ワインバーグ
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.		Week 1: Introduction to the course. Section 1: Getting Started. Week 2: Unit 4 Descriptive paragraphs Week 3: Unit 5: Comparison and Contrast paragraphs Week 4: Unit 6: Process Paragraphs Week 5: Unit 7: Narrative Paragraphs Week 6: Unit 8: Summary Paragraphs Week 7: Unit 9: Analysis Paragraphs Week 8: Unit 10: Cause and Effect Paragraphs Week 9: Unit 11: Persuasive Paragraphs Week 10: Unit 12: Problem-Solution Paragraphs Week 11: Unit 13: About the Essay Week 12: Unit 14: Changing a Paragraph into an Essay Week 13: Unit 15: Writing an Essay from the Beginning Week 14: Research paper presentations Week 15: Research paper presentations	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read the unit in the textbook corresponding to the week's lesson before the class meets, then complete all assignments before the following class dates		
テキスト、参考文献	・ Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1) ・ Kluge & Taylor, Basic Steps to Academic Writing. (Cengage; ISBN 978-4-86312-209-3)		
評価方法	評価基準：準備・参加(10%)、課題（15%）、research paper（55%：outline, drafts, final product）、口頭発表（20%） 出席：出席を大前提とし、4 回以上欠席した場合は不合格とする。		

13 年度以降	英語上級（AE）（Literary Rogues）	担当者	B. ゲンチ
講義目的、講義概要		授業計画	
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners		1. Introduction: Literary Rogues 2. American Gothic: Poe 3. French Realism: Flaubert 4. Decadent Literature (1): Baudelaire 5. Decadent Literature (2): Wilde 6. The Lost Generation (1): Fitzgerald 7. The Lost Generation (2): Hemingway 8. Southern Gothic: Faulkner 9. The Beat Generation: Ginsberg 10. Dead Poet Society: Berryman 11. The Workshop: Carver 12. Literary Rogues of Japan (1): Tanizaki 13. Literary Rogues of Japan (2): Murakami 14. Presentations (1) 15. Presentations (2)	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	For an active class discussion, students are required to write a reflection paper (no more than 500 words) before each class on the reading materials.		
テキスト、参考文献	Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1) Other materials will be supplied by the teacher. Shaffer, Andrew. <i>Literary Rogues: A Scandalous History of Wayward Authors</i> . New York: Harper Perennial, 2013 (optional)		
評価方法	春学期に同じ.		

13 年度以降	英語上級（AE）（History of the Home: 1800s)_火 3	担当者	J． G． ショールツ
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.		1. Introduction 2. Topics and sources 3. The working outline/research discussion 4. “ “ 5. Style/research discussion 6. Writing the introduction/research discussion 7. Writing the first draft/group share 8. Writing the body/group share 9. “ “ 10. First draft/group share 11. Avoiding Plagiarism 12. Evaluating and rewriting 13. “ “ 14. Presentations (1) 15. Presentations (2)	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Outside class work is to include course reading, research, writing, and preparation for quizzes.		
テキスト、参考文献	・ Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1) ・ Bill Bryson, <i>At Home: A Short History of Private Life</i> . (Black Swan; ISBN 978-0-552772-55-6)		
評価方法	評価基準：準備・参加(10%)，課題 (15%)，research paper (55% : outline, drafts, final product)，口頭発表 (20%) 出席：出席を大前提とし，4 回以上欠席した場合は不合格とする。		

13 年度以降	英語上級（AE）（History of the Home: 1900s）_火 3	担当者	J． G． ショールツ
講義目的、講義概要		授業計画	
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners			
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	春学期に同じ。		
テキスト、参考文献	春学期に同じ。		
評価方法	春学期に同じ。		

13 年度以降	英語上級（AE）（History of the Home: 1800s)_金 1	担当者	J． G． ショールツ
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.		1. Introduction 2. Topics and sources 3. The working outline/research discussion 4. “ “ 5. Style/research discussion 6. Writing the introduction/research discussion 7. Writing the first draft/group share 8. Writing the body/group share 9. “ “ 10. First draft/group share 11. Avoiding Plagiarism 12. Evaluating and rewriting 13. “ “ 14. Presentations (1) 15. Presentations (2)	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Outside class work is to include course reading, research, writing, and preparation for quizzes.		
テキスト、参考文献	・ Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1) ・ Bill Bryson, <i>At Home: A Short History of Private Life</i> . (Black Swan; ISBN 978-0-552772-55-6)		
評価方法	評価基準：準備・参加(10%)，課題（15%），research paper (55%：outline, drafts, final product)，口頭発表（20%） 出席：出席を大前提とし，4 回以上欠席した場合は不合格とする。		

13 年度以降	英語上級（AE）（History of the Home: 1900s）_金 1	担当者	J． G． ショールツ
講義目的、講義概要		授業計画	
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners			
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	春学期に同じ。		
テキスト、参考文献	春学期に同じ。		
評価方法	春学期に同じ。		

13 年度以降	英語上級（AE）（Global Understanding）	担当者	奥平 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.		Week 1: Orientation / Academic skills 2: Patterns of organization (1) Reading (1) / Discussion and Facilitation (1) 3: Patterns of organization (2) Reading (2) / Discussion and Facilitation (2) 4: Patterns of organization (3) Reading (3) / Model conference 5: Patterns of organization (4) Reading (4) / Opinion paper 6: Patterns of organization (5) Reading (5) / Oral presentations (groups) 7-13: Readings / Research paper -topics -sources -note taking -thesis statement and plan -abstract -outline -drafts -conferencing -final product 14-15: Power Point presentations (individual) / Evaluation	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Reading handouts / Preparation for classroom activities		
テキスト、参考文献	*Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1) *Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) / Handouts *Reading materials: TBA		
評価方法	評価基準：準備・参加(10%)、課題 (15%), research paper (55% : outline, drafts, final product), 口頭発表 (20%) 出席：出席を大前提とし、4 回以上欠席した場合は不合格とする。		

13 年度以降	英語上級（AE）（Global Understanding）	担当者	奥平 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners		Week 1: Orientation / Academic skills 2: Patterns of organization Discussion and Facilitation (1) 3: Reading (1) / Discussion and Facilitation (2) 4. Reading (2) / Model conference 5: Reading (3) / Opinion paper 6: Reading (4) / Oral presentations (groups) 7-13: Readings / Research paper -topics -sources -note taking -thesis statement and plan -abstract -outline -drafts -conferencing -final product 14-15: Power Point presentations (individual) / Evaluation	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Reading handouts / Preparation for classroom activities		
テキスト、参考文献	春学期に同じ。		
評価方法	春学期に同じ。		

13 年度以降	英語上級（AE）（Daily Issues in Our Society）	担当者	関戸 冬彦
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.		1 Introduction & Guideline for the course 2 Topic 1-1 through Reading 3 Topic 1-2 with Discussion 4 Topic 2-1 through Reading 5 Topic 2-2 with Discussion 6 Gathering information & Sharing references 7 Mid-term Presentation 8 Topic 3-1 through Reading 9 Topic 3-2 with Discussion 10 Topic 4-1 through Reading 11 Topic 4-2 with Discussion 12 Gathering information & Sharing references 13 Final Presentation 1 14 Final Presentation 2 15 Review for the final paper	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前（トピック収集とプレゼンテーション準備）、事後（ディスカッションした内容のまとめ）		
テキスト、参考文献	・ Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1)		
評価方法	評価基準：準備・参加(10%)、課題（15%）、research paper (55%：outline, drafts, final product)、口頭発表（20%） 出席：出席を大前提とし、4 回以上欠席した場合は不合格とする。		

13 年度以降	英語上級（AE）(Several Issues in the World)	担当者	関戸 冬彦
講義目的、講義概要		授業計画	
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners		1 Introduction & Guideline for the course 2 Topic 1-1 through Reading 3 Topic 1-2 with Discussion 4 Topic 2-1 through Reading 5 Topic 2-2 with Discussion 6 Gathering information & Sharing references 7 Mid-term Presentation 8 Topic 3-1 through Reading 9 Topic 3-2 with Discussion 10 Topic 4-1 through Reading 11 Topic 4-2 with Discussion 12 Gathering information & Sharing references 13 Final Presentation 1 14 Final Presentation 2 15 Review for the final paper	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前（トピック収集とプレゼンテーション準備）、事後（ディスカッションした内容のまとめ）		
テキスト、参考文献	春学期に同じ。		
評価方法	春学期に同じ。		

13 年度以降	英語上級（AE）（ハラスメントとアメリカ）	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.		1 covering the theme 2 details of the story 3 detail of the story 4 watching film to discuss 5 // 6 opinion paper to discuss 7 choosing a topic to write 8 as to doing research 9 discussing how to approach the topic 10 examples of good research papers 11 presenting your approach to discuss 12 // 13 // 14 reviewing the story 15 reviewing your paper	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献の熟読		
テキスト、参考文献	Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1) ・Basic Steps to Writing Research Papers Copies		
評価方法	評価基準：準備・参加(10%)、課題（15%）、research paper（55%：outline, drafts, final product）、口頭発表（20%） 出席：出席を大前提とし、4 回以上欠席した場合は不合格とする。		

13 年度以降	英語上級（AE）（アメリカとヒロイズム）	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners		1 covering the theme 2 details of the story 3 detail of the story 4 watching film to discuss 5 // 6 opinion paper to discuss 7 choosing a topic to write 8 as to doing research 9 discussing how to approach the topic 10 examples of good research papers 11 presenting your approach to discuss 12 // 13 // 14 reviewing the story 15 reviewing your paper	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献の熟読		
テキスト、参考文献	Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1) ・Basic Steps to Writing Research Papers Copies		
評価方法	春学期に同じ.		

13 年度以降	英語上級_再履修	担当者	奥平 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: (1) can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way (2) can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way (3) can narrow down a topic effectively (4) can write a good thesis statement (5) can organize ideas in an outline format (6) can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation (7) can write an abstract for the completed research paper (8) can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written Class is taught and participated in English.		Week 1: Introduction and Orientation 2: Review (Academic skills) 3: Reading / Critique / Discussion 4: Reading / Critique / Discussion and Facilitation 5: Group presentations / Debate 6-13: Reading and Research paper [Research paper] ・ topics ・ sources ・ note taking ・ thesis statement ・ outline ・ abstract ・ drafts ・ conferencing ・ final product 14-15: Power Point presentations (individual) / Evaluation	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Reading handouts / Preparation for classroom activities		
テキスト、参考文献	・ Kluge & Taylor, Basic Steps to Writing Research Papers. (Cengage; ISBN 978-4-902902-89-1) ・ Reading materials: TBA		
評価方法	評価基準：準備・参加(10%)、課題 (15%)、research paper (55% : outline, drafts, final product)、口頭発表 (20%) 出席：出席を大前提とし、4 回以上欠席した場合は不合格とする。		

13 年度以降	英語上級_再履修	担当者	奥平 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
Continued from the spring semester's Advanced Academic English (AE), students seek further progress and achievement in English skills with a view to becoming independent learners		Week 1: Introduction and Orientation 2: Review (Academic skills) 3: Reading / Critique / Discussion 4: Reading / Critique / Discussion and Facilitation 5: Group presentations / Debate 6-13: Reading and Research paper [Research paper] ・ topics ・ sources ・ note taking ・ thesis statement ・ outline ・ abstract ・ drafts ・ conferencing ・ final product 14-15: Power Point presentations (individual) / Evaluation	
到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Reading handouts / Preparation for classroom activities		
テキスト、参考文献	春学期に同じ。		
評価方法	春学期に同じ。		

13 年度以降	英語演習 I (アメリカ文化を覗き見る) (2013 年度以降入学者用)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
英語を読み、内容について語る、発話力を向上させるにはこのことに尽きるのではないか。アメリカに興味のある人にとって、楽しんで読め、しかも疑問が生まれ、それについて話し合える題材として、アメリカの新聞に載る人生相談を選んでみた。 彼らがなにに悩んでいるのかを垣間見るのは結構、たのしい。さらに、それに対する回答を読むとかなりの異文化を体験できる。 割と気楽な文章なので、日常的な表現もたくさん文章の中に盛られていて、会話表現の参考になると思う。		1. ガイダンス 2. Chapter1 3. Chapter2 4. Chapter3 5. Chapter4 6. Presentation 7. Presentation 8. Chapter5 9. Chapter6 10. Chapter7 11. Chapter8 12. Discussion 13. Chapter9 14. Chapter10 15. まとめ	
到達目標	「英語 I ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定された資料を読み、授業時の発話、ディスカッションの準備をする		
テキスト、参考文献	プリントの配布		
評価方法	小テスト		

13 年度以降	英語演習 I (City in Literature) (2013 年度以降入学者用)	担当者	B. ゲンチ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will focus on urban literature from the early 19 th century through the late 20 th century. We will learn how cities across ages suggest different and/or similar ways of thinking about the modern experience, particularly in the nostalgic and/or melancholic responses to modernity. On the one hand, we will consider the ‘chaos’ of city life as empowering the individual, particularly flaneur-artist figure. On the other hand, we will also draw attention to the debilitating effects of city life. Additionally, we will look at how this dual nature of metropolitan existence and modern experience is reflected and/or modified in peripheral (non-Western and off the city centre) geographies.		1. Introduction 2. Melancholy, Nostalgia and Urban Modernity (1): Baudelaire 3. Melancholy, Nostalgia and Urban Modernity (2): Poe 4. Melancholy, Nostalgia and Urban Modernity (3): Gogol 5. Melancholy, Nostalgia and Urban Modernity (4): Poe Revisited 6. The 20th Century Literary Representation of the City (1): Virginia Woolf 7. The 20th Century Literary Representation of the City (2): Fernando Pessoa 8. Perspectives on Istanbul (1): Joseph Brodsky 9. Perspectives on Istanbul (2): Orhan Pamuk 10. The Chronicler of Tokyo (1): Nagai Kafu 11. The Chronicler of Tokyo (2): Nagai Kafu 12. Tokyo under Surveillance (1): Haruki Murakami 13. Tokyo under Surveillance (2): Haruki Murakami 14. Presentations 15. Presentations	
到達目標	「英語 I ～IV」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	For an active class discussion, students are required to write a reflection paper (no more than 500 words) before each class on the reading materials. Reading secondary sources on the topic of discussion after the class might help to familiarize themselves with different approaches to the same topic.		
テキスト、参考文献	Murakami, Haruki. <i>After Dark</i> . Trans. Jay Rubin. London: Vintage, 2008. All other materials will be supplied by the teacher.		
評価方法	準備・参加（10%），課題（15%），口頭発表（20%），Research paper（outline, draft, final product）（55%） 出席：出席を大前提とし、4 回以上欠席した場合は不合格とする。		

13 年度以降	英語演習 I (U.S. History since 1865) (2013 年度以降入学者用)	担当者	木村 正美
講義目的、講義概要		授業計画	
This course is the second half of a U.S. history survey from 1865, covering the period from Reconstruction to the end of the Cold War. We will chronologically follow and see intertwined key political, economic, and socio-cultural developments to understand how American “liberalism” developed during this period. The objective of this English Seminar is not simply to gain and deepen knowledge about American history from the 1860s to the 1980s. The course is also designed to improve your <u>general English skills</u>, from reading and writing, to speaking and listening – most importantly your <u>reading comprehension skills</u> – through various activities. You can expect to nurture your critical and analytical thinking abilities on historical issues as well.		1. Introduction 2. End of the Civil War/ Reconstruction 3. Westward Expansion and Indian Policy 4. Industrialization and the Gilded Age 5. Progressivism 6. U.S. Overseas Expansion 7. WWI 8. 1920s 9. New Deal 10. WWII 11. Beginning of the Cold War 12. 1950s 13. Civil Rights Movement 14. Vietnam War 15. Conclusion: 1970s-1980s	
到達目標	「英語 I ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	You are expected to finish and comprehend a weekly reading assignment; when you give a presentation, you need to prepare and submit your presentation outline prior to class		
テキスト、参考文献	James L. Roark et al., <i>The American Promise: A Compact History Volume II: From 1865</i> (Boston: Bedford/ St. Martin’s, 2010), 4 th ed.		
評価方法	(Open-Book) Quizzes 20% (5% x 4), Presentation 30%, Participation in Class Activities 30%, Final Paper 20%		

13 年度以降	英語演習 I (The U.S. and the Vietnam War) (2013 年度以降入学者用)	担当者	木村 正美
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will look at a political-diplomatic history of U.S. involvement in the Vietnam War, dealing with a variety of related issues: French colonialism in Vietnam, the rise of Vietnamese nationalism, the roles of the Soviet Union and the People's Republic of China (PRC), American military engagement, and the legacies and memories of the Vietnam War. The objective of this English Seminar is not only to learn about key facts and events relating to the Vietnam War or to reevaluate U.S. policy for Vietnam. The course is also designed to improve your <u>general English skills</u>, from reading and writing, to speaking and listening – particularly your <u>reading comprehension skills</u> – through various activities. You can expect to nurture your critical and analytical thinking abilities on historical issues as well.		1. Introduction 2. Vietnam and the U.S. before 1945 3. End of WWII/ Beginning of the Cold War 4. Dien Bien Phu and the Geneva Accords 5. Eisenhower Administration and Diem 6. Analyzing 1950s U.S.-Vietnam Relations 7. Kennedy's Commitment to Vietnam 8. Johnson's "Americanization" of War 9. On the War Front 10. Tet Offensive 11. Nixon's Policy toward Vietnam 12. Antiwar Movement 13. U.S. Withdrawal and Peace Accords 14. Aftermath and Legacies of War 15. Conclusion: Evaluating U.S. Involvement in Vietnam	
到達目標	「英語 I ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	You are expected to finish and comprehend a weekly reading assignment; when you give a presentation, you need to prepare and submit your presentation outline prior to class		
テキスト、参考文献	George C. Herring, <i>America's Longest War: The United States and Vietnam, 1950-1975</i> (New York: McGraw-Hill, 2013), 5th ed., and others		
評価方法	(Open-Book) Quizzes 20% (5% x 4), Presentation 30%, Participation in Class Activities 30%, Film Critiques 20% (10% x 2)		

13 年度以降	英語演習 I (Let's introduce Japanese culture in English) (2013 年度以降入学者用)	担当者	小島 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
この演習では、まず「伝統的な日本文化」、「現代の日本文化」を英語で学び、それを海外の人に理解してもらえるだけの知識と英語の表現力をつけることを目的とします。そのために、まず基礎となる英語のエッセイを読んだり、海外の人の日本の印象を聞いたりしながら、練習問題などを通して語彙や表現を学びます。また文化についてのディスカッションも行います。学生は、まとめとして実際に日本文化を紹介するプレゼンを行います。 In this course, students will learn how to explain Japanese culture in English. Through reading essays about traditional and modern culture, students will familiarize themselves with vocabulary and expressions. They will also have discussions on differences among other cultures in aesthetics, society, and history. Students will make presentations in the middle and towards the end of the semester.		1. Introduction 2. View on Japan 3. View on Japan 4. View on Japan 5. The Spirit of Japanese Hospitality 6. Tokyo Skytree 7. Japanese Seasonal Charms 8. Mini Presentation 9. Japanese High-Quality Technology 10. Healthy and Colorful Japanese Cuisine 11. Japanese Stage Art 12. Japanese Robots 13. Final Presentation 14. Final Presentation 15. Final Presentation	
到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：毎回、次回勉強する内容を指示されるので、予習をする。 事後学修：授業で新たに学んだことを復習、それを基にしてプレゼンのためのリサーチをする。		
テキスト、参考文献	『Let's Introduce Japanese Culture!』(英宝社：2014)		
評価方法	Class Participation 50% Presentations 50%		

13 年度以降	英語演習 I (Let's introduce Japanese culture in English) (2013 年度以降入学用)	担当者	小島 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、この演習では、まず「伝統的な日本文化」、「現代の日本文化」を英語で学び、それを海外の人に理解してもらえるだけの知識と英語の表現力をつけることを目的とします。そのために、まず基礎となる英語のエッセイを読んだり、海外の人の日本の印象を聞いたりしながら、練習問題を通して語彙や表現を学びます。また、文化についてのディスカッションも行います。学生は、まとめとして、日本文化を紹介するプレゼンを行います。 In this course, students will learn how to explain Japanese culture in English. Through reading essays about traditional and modern culture, students will familiarize themselves with vocabulary and expressions. They will also have discussions on differences among other cultures in aesthetics, society, and history. Students will make presentations in the middle and towards the end of the semester.		1. Introduction 2. View on Japan 3. View on Japan 4. Samurai Spirit 5. Anime 6. Hot Springs 7. Video Games 8. Mini Presentation 9. Calligraphy 10. <i>Kawaii</i> Going Global 11. Japanese Ceramics 12. Shintoism 13. Final Presentation 14. Final Presentation 15. Final Presentation	
到達目標	「英語 I ～IV」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する語文獻研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：毎回、次回勉強する内容を指示されるので、予習をする。 事後学修：授業で新たに学んだことを復習、それを基にしてプレゼンのためのリサーチをする。		
テキスト、参考文献	『Let's Introduce Japanese Culture!』(英宝社：2014)		
評価方法	Class Participation 50% Presentations 50%		

13 年度以降	英語演習 I (英語でディスカッション・プレゼンテーション I) (2013 年度以降入学者用)	担当者	小瀬 百合子
講義目的、講義概要		授業計画	
この演習では、1年次のスピーキングで学習したディスカッションとプレゼンテーションの能力をさらに向上させることを目的とする。 ディスカッションのテーマは最初の数回は教員が提示するが、その後は学生が順にディスカッションリーダーを担当し、テーマを提示、他の学生への質問をする。そして、円滑で内容の濃いディスカッションが出来るように工夫する。この活動を通し、参加者全員にとって益となるディスカッションとはどのようなものを学ぶ。 プレゼンテーションは、与えられた課題に沿って一人ずつプレゼンを行い、どのプレゼンが最も説得力があったかを票をとる。この活動を通して聴衆を説得するプレゼンの要素について学ぶ。 スピーチ、映画、ドラマなどから 1 セクションを選び、それを真似し、どれだけオリジナルに近いかを競う。この活動を通し、英語の音とイントネーションを身に付ける。		1. Overview, Self-introduction, Discussion 1 2. Discussion 2 3. Discussion 3 4. Discussion 4 5. Discussion 5 6. Presentation 1 7. Discussion 6 8. Discussion 7 9. Discussion 8 10. Discussion 9 11. Discussion 10 12. Presentation 2 13. Choosing a scene from a movie, Practice 14. Practice 15. In-class competition	
到達目標	「英語 I ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ディスカッション・プレゼンテーション・アフレコの準備。		
テキスト、参考文献	なし。プリントを配布する。		
評価方法	授業への参加度 20%, ディスカッションリーダー 30% プレゼンテーション 30% アフレコ 20%		

13 年度以降	英語演習 I (英語でディスカッション・プレゼンテーション II) (2013 年度以降入学用)	担当者	小瀬 百合子
講義目的、講義概要		授業計画	
この演習では、1年次のスピーキングで学習したディスカッションとプレゼンテーションの能力をさらに向上させることを目的とする。 ディスカッションのテーマは最初の数回は教員が提示するが、その後は学生が順にディスカッションリーダーを担当し、テーマを提示、他の学生への質問をする。この活動を通し、参加者全員にとって益となるディスカッションとはどのようなものを学ぶ。 プレゼンテーションは、与えられた課題に沿って一人ずつプレゼンを行い、聴衆を説得するプレゼンの要素について学ぶ。 スピーチ、映画、ドラマなどから 1 セクションを選び、それを真似し、どれだけオリジナルに近いかを競う。この活動を通し、英語の音とイントネーションを身に付ける。 春学期履修した学生は、ディスカッション・プレゼン・アフレコは春学期とは別のテーマにしなくてはならない。		1. Overview, Self-introduction, Discussion 1 2. Discussion 2 3. Discussion 3 4. Discussion 4 5. Discussion 5 6. Presentation 1 7. Discussion 6 8. Discussion 7 9. Discussion 8 10. Discussion 9 11. Discussion 10 12. Presentation 2 13. Choosing a scene from a movie, Practice 14. Practice 15. In-class competition	
到達目標	「英語 I ～IV」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ディスカッション・プレゼンテーション・アフレコの準備。		
テキスト、参考文献	なし。プリントを配布する。		
評価方法	授業への参加度 20%, ディスカッションリーダー 30% プレゼンテーション 30% アフレコ 20%		

13 年度以降	英語演習Ⅱ (Learning about Language) (2013 年度以降入学者用)	担当者	J. ハント
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will offer an introduction to linguistics and the subject of language and language learning. Through reading assignments, podcasts, class lectures and discussions with classmates we will investigate the answers to questions, such as: How many languages are there? What was the first language? What causes foreign accents? The goals of this course are to improve English ability, and to develop an understanding of language and linguistics.		Week 1: Orientation Week 2: What is linguistics? Week 3: Can you use language to solve a crime? Week 4: Is pidgin English just bad English? Week 5: How many languages is it possible for a person to speak? Week 6: What was the first language? Week 7: Is sign language really a language? Week 8: How are the sounds of language made? Week 9: Do all languages have the same grammar? Week 10: Is Japanese worth studying? Week 11: Is Chinese the most difficult language in the world? Week 12: Machine translation Week 13: Presentations Week 14: Presentations Week 15: Feedback The teacher may change the topics	
到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Before-class preparation and after-class review each week.		
テキスト、参考文献	Textbook to be announced. Students will also need access to a computer and printer to download and print out materials for each class from the course website.		
評価方法	Assessment will be based on class participation, several tests and presentations, and writing assignments.		

13 年度以降	英語演習Ⅱ (World Englishes) (2013 年度以降入学者用)	担当者	J. ハント
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will introduce students to the diversity of World Englishes. Listening to lectures, studying language samples, reading, and group discussions will be used to build an understanding of the varieties of English in the world today. Through reading assignments, podcasts, class lectures and discussions we will explore the origins, developmental history, and status of English varieties around the world. The goals of this course are to improve English ability, and to develop an appreciation of the pluralisation of the English language.		Week 1: Orientation & pre-questionnaire Week 2: Introduction to Global English Week 3: History of the English language Week 4: Cultural impact of English Week 5: English in the world today Week 6: British English Week 7: American English Week 8: Asian Englishes Week 9: Asian Englishes Week 10: African Englishes Week 11: African Englishes Week 12: Japanese English? Week 13: Presentations Week 14: Presentations Week 15: Feedback & post-questionnaire The teacher may change the topics	
到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Before-class preparation and after-class review each week.		
テキスト、参考文献	Textbook to be announced. Students will also need access to a computer and printer to download and print out materials for each class from the course website.		
評価方法	Assessment will be based on class participation, several tests and presentations, and writing assignments.		

13 年度以降	英語演習Ⅱ (American Superheroes) (2013 年度以降入学者用)	担当者	S. K. エリス
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course, we will take a look at the cultural history and background of American comic books. In class, students will improve their critical thinking and discussion skills by taking a closer look at American comic book culture, while comparing it with its counterpart in Japan. How are American and Japanese comic books different? What are the cultural and historical influences that have created these differences? Each week, students will learn about a different aspect of U.S. comic books, while discussing and presenting on influences such as immigration, gender, and fan culture. Students are required to keep a reflection journal for class discussion. In-class assignments, and short quizzes will also be given to assess progress and comprehension. The instructor has the right to amend the syllabus .		1. Introduction and course overview/ A Brief History of American Comic Books 2. Japanese Manga vs. American Comic Books 3. Immigrant origins of Superheroes 4. Women in Comics 5. Women in Comics 6. The Ten Cent Plague: Censorship and Comics 7. Censorship in Comics Continued 8. The Marvel Age 9. The Marvel Age 10. Graphic Novels 11. Comic Books in Film 12. Comic Book Fan Culture 13. Comic Book Fan Culture 14. Begin final presentations/ Review 15. Finish final presentations	
到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Outside readings, viewings and writing in reflection journal, pre-and post class is required to prepare for and reflect on content and discussions, lectures, and presentations. These will be turned in and graded by the instructor on a regular basis.		
テキスト、参考文献	Readings & viewing materials will be provided by the instructor.		
評価方法	Participation and Attitude 20% Reflection Journal and Homework 30% Quizzes 20% Presentations 20% Final Reflection Essay 10%		

13 年度以降	英語演習Ⅱ(Looking Forward: Imagining the Future) (2013 年度以降入学者用)	担当者	S. K. エリス
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course, we will look at how current issues are portrayed in the genre of science fiction. Science fiction is not only about robots and spaceships, but is also known for asking important questions about the future and what it means to be human. Through readings, short films, and class discussions, students will take a critical look at the present while learning to organize and discuss their ideas about problems in the world today. Students are required to keep a reflection journal for class discussion. In-class assignments, and short quizzes will also be given to assess progress and comprehension. The instructor has the right to amend the syllabus.		Week 1: Course Introduction and Overview Week 2: The Environment Week 3: The Environment Week 4: Gender Roles and Family Week 5: Gender Roles and Family Week 6: Work and Education Week 7: Work and Education Week 8: Immigration and Globalization Week 9: Immigration and Globalization Week 10: Identity and Virtual Reality Week 11: Identity and Virtual Reality Week 12: Artificial Intelligence Week 13: Artificial Intelligence Week 14: Course Review & Begin Final Presentations Week 15: Finish Final Presentations	
到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英 語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	Outside readings, viewings and writing in reflection journal, pre-and post class, is required to prepare for and reflect on content and discussions, lectures, and presentations. These will be turned in and graded by the instructor on a regular basis.		
テキスト、 参考文献	Readings & viewing materials will be provided by the instructor.		
評価方法	Participation and Attitude 20% Reflection Journal and Homework 30% Quizzes 20% Presentations 20% Final Reflection Essay 10%		

13 年度以降	英語演習Ⅱ（プレゼンテーション演習） （2013 年度以降入学者用）	担当者	渡部 富栄
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：相手を引き付ける、効果的なプレゼンテーションができることを目指します。 講義概要：TED Talksの中から3つのプレゼンテーションを分析します（テーマの魅力、一番の強調点、それを伝えるための論理の構成、使用している単語などの表現、非言語表現（声の出し方、周辺言語、表情、動作など））。並行して、予め各自が決めたテーマに基づき、情報収集を進め、プレゼンテーションの準備を行います。TED Talksで学んだことを参考に、相手を引き付ける、効果的なプレゼンテーションを作成・発表し、全体でディスカッションします。		1. Orientation 2. TED Talks 1 3. Understanding key points and logical structure 4. Analyzing the way of presentation 5. TED Talks 2 6. Understanding key points and logical structure 7. Analyzing the way of presentation 8. TED Talks 3 9. Understanding key points and logical structure 10. Analyzing the way of presentation 11. Drafting Presentation 12. Drafting Power Point Slides 13. Rehearsal 14. Presentation 15. Conclusion	
到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題の TED Talks については予習と復習をしっかりとってください。プレゼンテーションの作成は、各自で計画的に進めること。		
テキスト、参考文献	プリントを配布します。		
評価方法	プレゼンテーションの成果（40%）、スライドの作成（20%）、レポートなどの提出物（30%）、積極的な取り組み（10%）		

13 年度以降	英語演習Ⅱ（翻訳演習） （2013 年度以降入学用）	担当者	渡部 富栄
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：英語と日本語のそれぞれの特徴を理解し、翻訳（英訳・和訳）力を高めることを目指します。 講義概要：ニュースやプレゼンテーションなど短い音声教材に訳を作成し、その訳をボイスオーバーで重ねていきます。また、英文および和文テキストの翻訳を作成します。その上で、英語および日本語の特徴を理解し、英訳および和訳の際の注意点を考察します。これらの演習により、理解力、分析力、翻訳力（高い精度・豊かな表現・適切な量・速度）を高めていきます。		1. オリエンテーション 2. 英日音声教材の翻訳 ① 3. ボイスオーバーで訳を重ねる 4. 日英音声教材の翻訳 ① 5. ボイスオーバーで訳を重ねる 6. 英日テキスト教材の翻訳 7. モデル訳との比較分析 8. 日英テキスト教材の翻訳 9. モデル訳との比較分析 10. 英語の特徴と翻訳時の留意点 11. 日本語の特徴と翻訳時の留意点 12. 英日音声教材の翻訳 ② 13. 日英音声教材の翻訳 ② 14. 英日・日英 テキスト翻訳のテスト 15. まとめ	
到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習と復習をしっかりとってください。		
テキスト、参考文献	プリントを配布する。		
評価方法	翻訳の成果物（40%）、翻訳テスト（30%）、レポートなどの提出物（20%）、積極的な取り組み（10%）		

13 年度以降	英語演習Ⅱ(国際教育) (2013 年度以降入学者用)	担当者	奥平 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
■本講座の主目的は、英語を媒体とし、(1) 国際理解の観点より、教育・人材育成に関わる多様な視点を培う。 (2) 国際社会に必要なスキルの向上、の 2 点である。 ■授業は、教育・人材育成に関わるテーマ毎に、(1) 導入・ウォームアップ (2) インプット (3) アウトプットの 3 段階構成とする。 ■インプットでは、クラス全体で英語の読み物や視覚教材等を幅広い観点から共有するとともに、リスニングやリーディング力の向上を図る。 ■アウトプットでは、「インプット」に自らの考えを加味し、毎時、ワークショップ形式のアクティビティー、ファシリテーション、ディスカッション、ペア/ グループワーク、プレゼンテーション等を実施し、英語による発信力を鍛える。 さらに、幅広い分野への応用可能な問題解決能力、企画・創造力等の資質の向上を目指す。		1. オリエンテーション/ 自己紹介 2. 国際理解・国際教育のフレームワーク 3～12. 国際教育に関わるテーマ学習 / スキル 13～14. グループプロジェクト プレゼンテーション 15. まとめ	
到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎時のトピックについての予習・復習及び自分の意見をまとめる。		
テキスト、参考文献	テキスト：随時プリント・資料を配布 参考文献：随時紹介		
評価方法	授業への参加度・貢献度 20% クラス内外の課題 50% プレゼンテーション 30%		

13 年度以降	英語演習Ⅱ(国際教育) (2013 年度以降入学者用)	担当者	奥平 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
■本講座の主目的は、英語を媒体とし、(1) 国際理解の観点より、教育・人材育成に関わる多様な視点を培う、 (2) 国際社会に必要なスキルの向上、の 2 点である。 ■授業は、教育・人材育成に関わるテーマ毎に、(1) 導入・ウォームアップ (2) インプット (3) アウトプットの 3 段階構成とする。 ■インプットでは、クラス全体で英語の読み物や視覚教材等を幅広い観点から共有するとともに、リスニングやリーディング力の向上を図る。 ■アウトプットでは、「インプット」に自らの考えを加味し、毎時、ワークショップ形式のアクティビティー、ファシリテーション、ディスカッション、ペア/ グループワーク、プレゼンテーション等を実施し、英語による発信力を鍛える。 さらに、幅広い分野への応用可能な問題解決能力、企画・創造力等の資質の向上を目指す。		1. オリエンテーション/ 自己紹介 2. 国際理解・国際教育のフレームワーク 3～12. 国際教育に関わるテーマ学習 / スキル 13～14. グループプロジェクト プレゼンテーション 15. まとめ	
到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する語文文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎時のトピックについての予習・復習及び自らの考えをまとめる。		
テキスト、参考文献	テキスト：随時プリント・資料を配布 参考文献：随時紹介		
評価方法	授業への参加度・貢献度 20% クラス内外の課題 50% プレゼンテーション 30%		

13 年度以降	英語演習Ⅱ (English across Cultures) (2013 年度以降入学者用)	担当者	齋藤 雪絵
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of this course is to develop students' English skills (with particular focus on reading, discussion, and academic presentations) through learning issues related to English as an international language (EIL). Active participation in classes is essential, and therefore, students who are absent more than three times without any particular reasons will not be able to pass this course. In each lesson, students discuss the reading, reflect on their experience of learning English, and write a reaction paper to the discussion. They are also expected to make presentations on the topics covered in the course. Students should have an interest in understanding issues relevant to the status of English as an international language and different varieties of English.		1. Course introduction / What is EIL? 2. Why is English so important? / McDonald's stores in India don't serve beef burgers! 3. World Englishes 4. English in Asia 1 5. English in Asia 2 (Presentation) 6. English as multicultural language 1 7. English as multicultural language 2 8. English for intercultural communication 1 9. Language & metaphor 10. English for intercultural communication 2 11. Communication between non-native speakers 12. Communication & cultural understanding 13. Final presentation preparation 14. Final presentation 1 15. Final presentation 2	
到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students have to do the assigned reading from the textbook prior to the class and write a short response paper to the topics discussed in the class and submit it in the following week.		
テキスト、参考文献	Textbook: Honna, N. et al. (2012). <i>Understanding English across Cultures</i> . Kinseido. Reference: Jenkins, J. (2009). <i>World Englishes</i> (2nd ed.). Routledge.		
評価方法	Homework assignment and in-class performance 70% Final Project 30%		

13 年度以降	英語演習Ⅱ (Understanding Global Issues in English) (2013 年度以降入学用)	担当者	齋藤 雪絵
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of this course is to improve students' various English skills through learning a wide range of global issues. Active participation in classes is essential, and therefore, students who are absent more than three times without any particular reasons will not be able to pass this course. Students are expected to be well-prepared for each class by doing the assigned homework reading from the textbook so that they can deepen the understanding of the topic in pair/group discussions in class. Students should have an interest in understanding various global issues in English. The fundamental policy for this course is the same as the course offered in the spring semester, but the contents are different.		1. Course introduction / Stereotypes & Racism 2. Stereotype & Racism 3. Information & Communication 4. Culture & Fashion 5. Mid-term presentation 6. Health / Food 7. Global Warming / Energy 8. Ecosystems & Humans / Endangered Species 9. International Relations 10. War & Peace 11. Human Rights 12. Global Citizenship 13. Final presentation preparation 14. Final presentation 1 15. Final presentation 2	
到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students have to do the assigned homework reading from the textbook in advance, and do research on the topics covered in the class and share the research results in the following week.		
テキスト、参考文献	Textbook: Kasajima, S. et al. (2013). <i>CLIL Global Issues</i> . Sanshusha.		
評価方法	Homework assignment and in-class performance 70% Final Project 30%		

13 年度以降	英語演習Ⅱ（Creating Tests with Exercises） （2013 年度以降入学者用）	担当者	関戸 冬彦
講義目的、講義概要		授業計画	
この「英語演習」(Creating Tests with Exercises)では英語の「テスト」に着目し、そのテストのねらいや妥当性を検証しつつ、「テスト」を創り上げることで更なる総合的な英語力向上を図ることを狙いとしています。テストを創ることは何がしかのテスト対策講座とは違います。しかし、あるテストをよく知ることによって結果としてそのテストに強くなった、ということはあるでしょう。いずれにせよ、積極的な参加、姿勢、情熱が必要です。予定している内容は Understanding how to create various tests (ex. TOEIC) など。また、授業内では英語での参加・進行を基本とします。 The aim of this course is to improve your English skills through Creating Tests with Exercises. It is necessary for you to attend classes positively, and you cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons. Basically, we will use English in all the classes.		1 Introduction 2 Creating Tests with Exercises 1 3 Creating Tests with Exercises 2 4 Creating Tests with Exercises 3 5 Creating Tests with Exercises 4 6 Creating Tests with Exercises 5 7 Creating Tests with Exercises 6 8 Creating Tests with Exercises 7 9 Creating Tests with Exercises 8 10 Creating Tests with Exercises 9 11 Creating Tests with Exercises 10 12 Creating Tests with Exercises 11 13 Creating Tests with Exercises 12 14 Creating Tests with Exercises 13 15 Final Evaluation	
到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前（課題の提出）、事後（課題のレビュー）		
テキスト、参考文献	To be announced at the first lesson		
評価方法	Class Assignment & In Class Performance 70% Final Test, Paper or Presentation 30%		

13 年度以降	英語演習Ⅱ(Translating Songs & Lyrics with Exercise & Performance) (2013 年度以降入学者用)	担当者	関戸 冬彦
講義目的、講義概要		授業計画	
この「英語演習」(Translating Songs & Lyrics with Exercise & Performance)では英語の歌（音声的、パフォーマンス的側面）とその歌詞（読解&解釈、翻訳論的側面）を多角的に用いながら、更なる総合的な英語力向上を図るのが狙いです。参加するからには積極的な姿勢と情熱が必要です。予定している内容は、Understanding how to translate Songs & Lyrics (with performance)など。また授業内では英語での参加・進行を基本とします。 The aim of this course is to improve your English skills through translating songs & lyrics (with performance). It is necessary for you to attend classes positively, and you cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons. Basically, we will use English in all the classes. (In this term the fundamental policy for the class is the same as Spring semester, but the contents are totally different.)		1 Introduction 2 Translating Songs & Lyrics with Exercises 1 3 Translating Songs & Lyrics with Exercises 2 4 Translating Songs & Lyrics with Exercises 3 5 Translating Songs & Lyrics with Exercises 4 6 Translating Songs & Lyrics with Exercises 5 7 Translating Songs & Lyrics with Exercises 6 8 Translating Songs & Lyrics with Exercises 7 9 Translating Songs & Lyrics with Exercises 8 10 Translating Songs & Lyrics with Exercises 9 11 Translating Songs & Lyrics with Exercises 10 12 Translating Songs & Lyrics with Exercises 11 13 Translating Songs & Lyrics with Exercises 12 14 Translating Songs & Lyrics with Exercises 13 15 Final Evaluation	
到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前（課題の練習）、事後（課題のレビュー）		
テキスト、参考文献	To be announced at the first lesson		
評価方法	Class Assignment & In Class Performance 70% Final Test, Paper or Presentation 30%		

13 年度以降 12 年度以前	翻訳通訳論・英語 多言語間交流特殊研究Ⅰ（翻訳通訳論・英語）	担当者	渡部 富栄
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：ビジネスや政治経済分野の題材を使い、通訳スキルを学び、習熟させること、また、よい通訳に必要な要素を検討して、それを実践することを目指します。 講義概要：通訳とは何かをしっかりと理解した上で、通訳の演習を集中的に行います。サイトトランスレーションを習熟させ、頭からの情報処理がスムーズにできるようにします。システマティックなノートテキングのスキルを身につけ、効率的かつ効果的に話者の論理を反映した逐次通訳ができるようにします。ペアワークによる模擬通訳を通じて、学んだ通訳スキルを実践します。そして、質の高い通訳にするために必要なことを検討していきます。 注意：通訳スキルの演習は段階的に行います。欠席することなく、意欲的に取り組むことを期待しています。		1. オリエンテーション、通訳とは？ 2. リプロダクション、メモリーレッスン 3. 頭からの訳からサイトトランスレーション 4. サイトトランスレーションの続き、原稿付き同時通訳 5. 同時通訳 6. 逐次通訳演習① ノートテキングの理論とスキル 7. 逐次通訳演習② 逐次通訳の習熟 8. 逐次通訳演習③ 9. 逐次通訳演習④ 10. ご挨拶表現 11. 通訳倫理 12. 振り返り：さらにより通訳にするために必要なこと 13. 模擬通訳演習（ペアワーク） 14. コミュニケーションとして成功するための通訳 15. まとめ	
到達目標	英語の翻訳通訳についての基礎理論を習得し、基本的な翻訳通訳ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	予習と復習をしっかりしてください。		
テキスト、 参考文献	特定のテキストは使用しません。授業では資料を配布します。		
評価方法	通訳演習でのパフォーマンス（40%）、授業中に行うテスト（20%）、レポートなどの提出物（20%）、積極的な取り組み（20%）		

13 年度以降 12 年度以前	翻訳通訳実習・英語 多言語間交流特殊研究Ⅳ（翻訳通訳実習・英語）	担当者	渡部 富栄
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：地域社会の中で医療通訳の重要性と課題を理解し、診療場面の逐次通訳ができることを目指します。 講義概要：コミュニティー通訳（コミュニケーション手段がなく不利益を被る地域の外国人への通訳）のなかでも、医療通訳は必要性が極めて高く、正確で信頼でき、高い倫理性をもった質の高い通訳が強く求められます。クラスでは、保健医療の専門用語を学ぶと同時に、基本的な診療場面の逐次通訳を訓練します。並行して、医療通訳の歴史と現状の課題、倫理および行動規範、医療通訳者の役割、医療通訳者に必要な対人コミュニケーションスキルを学びます。保健医療制度の国際比較を通じて、外国人が日本で医療を受ける場合に注意すべきことも考察します。医療用語については段階的に提示しますので、難しく考えなくていいです。興味を持って取り組むことを期待しています。		1. コミュニティー通訳、医療通訳とは 2. 医療通訳の歴史と現状 3. 医療通訳の倫理規定と行動規範 4. 医療通訳一対話と相互作用 5. 医療通訳者の役割 6. 文化の仲介、アドボカシー 7. 診療場面の逐次通訳① ノートテキング 8. 診療場面の逐次通訳② 9. 診療場面の逐次通訳③ 10. 医療通訳の場面のロールプレイ 11. 振り返り 12. 医療通訳者に必要な対人コミュニケーションスキル 13. 日本の保健医療制度 14. 保健医療制度の国際比較 15. まとめ	
到達目標	英語の翻訳通訳についての応用理論を習得し、実務的な翻訳通訳ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	予習と復習をしっかりとってください。		
テキスト、 参考文献	特定のテキストは使用しません。授業では資料を配布します。		
評価方法	通訳演習でのパフォーマンス（40%）、授業中に行うテスト（20%）、レポートなどの提出物（20%）、積極的な取り組み（20%）		

13 年度以降	スペイン語上級	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
非ネイティブ講師の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、講読を中心とした「読み」の訓練をする。専門的な文章の一部や新聞記事等を、文化的背景を理解したうえで講読することができる力を養う。できるだけ多くの種類の文章に触れ、それぞれのジャンルが持つ独自の文体に馴染むことを目標とする。また、多様な教材を使うことで語彙の増強も図る。 ネイティブ講師のクラスでは、「通じる会話」のみに重きをおくのではなく、むしろ、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面で通用しうるスペイン語力の獲得を目標とする。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時に養う。 この授業では特に予習が不可欠である。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
到達目標	スペイン語上級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、専門的な文章、新聞記事、雑誌記事の講読、および会議などパブリックな場での発表、発言ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		
評価方法	授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

13 年度以降	スペイン語上級_再履修	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語上級の内容に従って、非ネイティブ講師の授業では購読を中心とした「読み」の訓練を、ネイティブ講師の授業では実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面で通用しうるスペイン語力の獲得を目指す。 スペイン語上級を参照のこと。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
到達目標	スペイン語上級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、専門的な文章、新聞記事、雑誌記事の講読、および会議などパブリックな場での発表、発言ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。		
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		
評価方法	授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語演習 スペイン語演習 I	担当者	J. マルティネス
講義目的、講義概要		授業計画	
El objetivo de esta asignatura es desarrollar la expresión oral de los estudiantes así como la confianza a la hora de expresarse e interactuar con hablantes nativos en situaciones de la vida diaria. Las clases se llevarán a cabo exclusivamente en español. Es FUNDAMENTAL la PARTICIPACIÓN ACTIVA en clase. Dependiendo del número de estudiantes y su nivel la clase se dividirá en tres partes: 1. Conversación (temas elegidos por los estudiantes). Discusión moderada por un estudiante. 2. Desarrollo de estrategias para la expresión oral, potenciando la fluidez por encima de la exactitud gramatical. Desarrollo de estrategias para realizar presentaciones de temas elegidos por los estudiantes ante una audiencia de habla hispana.		1. Presentación de la asignatura. 2. Expresar opiniones I. 3. Expresar opiniones II. 4. Contar algo, estructurar un relato. 5. Hacer generalizaciones y excepciones I. 6. Hacer generalizaciones y excepciones II. 7. Hacer conjeturas I. 8. Hacer conjeturas II. 9. Relatar experiencias. 10. Cómo hacer presentaciones I. 11. Cambiar de tema I. 12. Cambiar de tema II. 13. Hacer sugerencias. 14. Repaso y presentaciones II. 15. Repasos y presentaciones II. El contenido de la clase se adaptará al nivel de los estudiantes.	
到達目標	「スペイン語 I ～IV」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Antes de la clase: lectura sobre el tema de la clase siguiente. Después de la clase: realizar last areas asignadas.		
テキスト、参考文献	El profesor proporcionará el material necesario		
評価方法	Participación: 40% Tareas: 30% Presentación: 30%		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語演習 スペイン語演習 II	担当者	J. マルティネス
講義目的、講義概要		授業計画	
Continuando con los objetivos del primer semestre, desarrollaremos la capacidad de los estudiantes de expresar de forma independiente sus opiniones, argumentarlas y debatir con el resto de compañeros. Para ello deberán <u>moderar</u> discusiones sobre artículos de periódico de actualidad. Los estudiantes (dependiendo del número) tendrán que <u>realizar presentaciones</u> comparando aspectos económicos, políticos, educativos... entre Japón y un país de habla hispana de su elección. El objetivo es desarrollar la capacidad crítica y de evaluación de los estudiantes así como su capacidad de exponer argumentar y defender sus opiniones sobre un tema concreto.		1. Presentación de la asignatura. 2. Expresiones coloquiales I. 3. El sistema educativo en España I. 4. El sistema educativo en España II. 5. Comparación sist. educ. de Japón y España. 6. Expresiones coloquiales II. 7. El sistema politico y electoral español I. 8. El sestema político y electoral español II. 9. Comparación sist. pol. español y japonés. 10. Expresiones coloquiales III. 11. El turismo en España. 12. Comparación ind. turística en Japón y España. 13. Expresiones coloquiales IV. 14. Repaso y presentaciones. 15. Repaso y presentaciones. Los temas se adaptarán al interés de los estudiantes.	
到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Antes de la clase: lectura sobre el tema de la clase siguiente. Después de la clase: realizar last areas asignadas.		
テキスト、参考文献	El profesor proporcionará el material necesario		
評価方法	Participación: 40% Tareas: 30% Presentación: 30%		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語演習 スペイン語演習 I	担当者	N. ウエチ
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語の総合的応用能力を高めると同時に論理的・客観的な思考のトレーニングにも役立つような素材を取り扱う。ラテンアメリカの社会、文化などの理解を深めることを目指します。様々なテーマの読み物に触れることで、コミュニケーションをする知識を身につけて行きます。辞書をよく活用してスペイン語に親しむこと、情報を入手すること、批判的な意見を大切にします。また、インターネット等を利用したレポート、教材として活用することも考えています。		1. Presentación del curso Argentina: información general 2. Literatura argentina: Parte I 3. Parte II 4. Parte III 5. Música argentina: folklore. Parte I 6. Presentación oral 7. Ecuador: Información general 8. Patrimonio de la Humanidad: Parte I 9. Parte II 10. Parte III 11. Colombia: información general 12. Literatura colombiana: Parte I 13. Parte II 14. Presentación oral 15. Resumen final.	
到達目標	「スペイン語 I ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で出された課題は必ずこなすようにしましょう。		
テキスト、参考文献	教室で配布		
評価方法	授業への参加態度、エッセイの結果という2つの要素から総合的に批判して付けます。50%を授業へ積極的な参加、残りの50%をエッセイと発表によって行う。		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語演習 スペイン語演習 II	担当者	N. ウエチ
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語の総合的応用能力を高めると同時に論理的・客観的な思考のトレーニングにも役立つような素材を取り扱う。ラテンアメリカの社会、文化などの理解を深めることを目指します。様々なテーマの読み物に触れることで、コミュニケーションをする知識を身につけて行きます。辞書をよく活用してスペイン語に親しむこと、情報を入手すること、批判的な意見を大切にします。また、インターネット等を利用したレポート、教材として活用することも考えています。		1. México: información general 2. El Muralismo: grandes protagonistas. Parte I 3. El Muralismo: grandes protagonistas. Parte II 4. Frida Kahlo: obras representativas. Parte I 5. Parte II 6. Patrimonios de la Humanidad. Presentación oral 7. Cuba: información general 8. Cuba: Patrimonios de la Humanidad. Parte I 9. Cuba: Patrimonios de la Humanidad. Parte II 10. Presentación oral sobre música cubana. 11. Cine hispanoamericano: grandes protagonistas. 12. Análisis de una película. Parte I 13. Análisis de una película. Parte II 14. Presentación oral 15. Resumen final.	
到達目標	「スペイン語 I～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で出された課題は必ずこなすようにしましょう。		
テキスト、参考文献	教室で配布		
評価方法	授業への参加態度、エッセイの結果という2つの要素から総合的に批判して付けます。50%を授業へ積極的な参加、残りの50%をエッセイと発表によって行う。		

(春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語演習 スペイン語演習 II	担当者	M. サンチェス
講義目的、講義概要		授業計画	
En esta clase los estudiantes practicarán las cuatro destrezas (hablar, escuchar, leery escribir) correspondientes a un nivel de lengua B1. la clase también estará muy centrada en la comunicación y expresión oral; hacer entrevistas, conversar en pequeños grupos, situaciones comunicativas, contar historias a partir de dibujos.		1. Presentación de la clase e introducción. 2. Expresión oral del tema “El cuerpo y la salud”. 3. Comprensión lectora de “El cuerpo y la salud”. 4. Gramática y vocabulario de “El cuerpo y la salud”. 5. Comprensión auditiva y expresión escrita. 6. Expresión oral del tema “Los viajes”. 7. Comprensión lectora de “Los viajes”. 8. Gramática y vocabulario de “Los viajes”. 9. Comprensión auditiva de “Los viajes”. 10. Comprensión lectora del tema “La ciudad”. 11. Gramática y vocabulario de “La ciudad”. 12. Comprensión lectora del tema “El tiempo libre”. 13. Gramática y vocabulario de “El tiempo libre”. 14. Comprensión auditiva de “El tiempo libre”. 15. Evaluación escrita y oral de los contenidos del curso.	
到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実践的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Repasar el vocabulario y los contenidos. Realizar los deberes.		
テキスト、参考文献	Fotocopias		
評価方法	65% Examen escrito, 10% Examen oral, 25% participación		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語演習 スペイン語演習Ⅱ	担当者	J. I. ドメネク・アロンソ
講義目的、講義概要		授業計画	
基本的にこのクラスはスペイン語会話の上達に重点を置いて進めますが、文法や表現方法で説明が必要な際には日本語での説明を間にはさみます。言語習得のためにはその言語の背後にある文化を理解することは不可欠です。そのためにビデオ教材などを使用し、スペイン文化の一端を理解するためにも多少の時間を割きます。		1. 総復習 2. 過去完了形（規則活用と不規則活用） 3. 会話と記述（現在形を過去形にする） 4. 接続法現在－1（規則活用と不規則活用） 5. 接続法現在－2（実現可能性の少ないこれからのこと） 6. 条件法の説明とその用法 7. 接続法過去形 8. 小テスト 9. 将来の眺望（環境問題、エネルギー問題など） 10. スペインの歴史の概要説明 11. 間接話法－1 現在形 12. 間接話法－2 過去形 13. 各種テーマについての準備学習 14. 総復習 15. まとめ	
到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	毎回宿題を課すので、必ず提出すること。		
テキスト、 参考文献	TeVeo IDBN 978-4-86211-272-9 出版 DTP 出版 著者 ドメネク		
評価方法	宿題、授業内評価 30％ 試験 70％		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語演習 スペイン語演習Ⅱ	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、講読を中心とした「読み」の訓練をする。専門的な文章の一部や新聞記事等を、文化的背景を理解したうえで講読することができる力を養う。できるだけ多くの種類の文章に触れ、それぞれのジャンルが持つ独自の文体に馴染むことを目標とする。また、多様な教材を使うことで語彙の増強も図る。 また、この演習では、DELE を意識した教材を使用し、DELE 取得を目指す学生の参考になるクラス構成をする。		以下のテーマの教材に沿って、講読、解説を行う。授業の様子により、進度やテーマの変更の可能性がある。 1. インTRODakション 2. 文化（言語 1/2） 3. 文化（言語 2/2） 4. 文化（芸能：スペイン） 5. 時事（経済：スペイン） 6. 時事（政治：スペイン） 7. 時事（国際関係：スペイン） 8. 随想（スペインの作家） 9. 随想（ラテンアメリカの作家 1/2） 10. 随想（ラテンアメリカの作家 2/2） 11. 小説・物語（短編 1/4） 12. 小説・物語（短編 2/4） 13. 詩（1/2） 14. 詩（2/2） 15. 全体のまとめ	
到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し、次回の内容をプリントで確認する。		
テキスト、参考文献	適宜プリントを配布。		
評価方法	定期試験によって評価する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語演習 スペイン語演習 II	担当者	P. ラゴ
講義目的、講義概要		授業計画	
El presente curso trata de desarrollar la competencia comunicativa de los alumnos de nivel intermedio para que éstos puedan interaccionar de forma adecuada en diferentes situaciones de comunicación. Asimismo, se pondrá énfasis en la expresión escrita y en la comprensión lectora. Para ello se han elegido una serie de temas cercanos al mundo de los estudiantes con el propósito de aumentar su motivación. Finalmente, se promoverá el acercamiento de los aprendices a la cultura, los comportamientos, valores y las convenciones sociales de la lengua meta.		1, 2, 3. Tema: Las costumbres 3, 4, 5. Tema: El mundo laboral 6, 7, 8. Tema: El amor 9, 10, 11. Tema: EL mundo de la moda 12, 13, 14, 15. Tema: El dinero	
到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	Repasar y preparar la clase		
テキスト、 参考文献	Fotocopias preparadas por la profesora.		
評価方法	La asistencia es el factor más importante (se exige la asistencia al 80% de las clases). El 30% corresponde a las tareas y los trabajos realizados en clase. 80%以上の出席があれば試験を受ける必要はありません。最終評価は出席 60%、授業参加 20%、課題達成度 20%で判断します。		

13 年度以降 12 年度以前	翻訳通訳論・スペイン語 多言語間交流特殊研究Ⅲ（翻訳通訳論・スペイン語）	担当者	柴田 バネッサ
講義目的、講義概要		授業計画	
翻訳・通訳とは何か。実践例や演習を通じて、翻訳・通訳の概要を検討する。 翻訳では、文法の復習を兼ね、接続法と表現に焦点を当てる。 また、スペインとラテンアメリカの歴史に焦点を当てながら翻訳者要請に有意義だとされているメモリーレッスンを試みる。伝達意図を即時につかみ、取りいれ、発表する練習を行う。通訳訓練の内容先取り訓練を兼ね行う。 通訳に関しては、通訳者の役割と訓練法の説明を行い、さらに通訳技術を応用した翻訳技法を用いて課題で演習を行う。日本語訳、スペイン語訳 2 課題を提出する。 語彙のテストを 10 回行う。		1. オリエンテーション、通訳と翻訳の相違 2. メモ取り研究 DELE の文章表現課題 3. 視訳（西-日）、サマリー作成、過去形を使う 4. 視訳（西-日）、サマリー作成、未来形を使う 5. 課題 研究 接続法を使う 6. DELEのTAREAを使用し記憶トレーニング 7. DELEのTAREAを使用し記憶トレーニング 8. DELEのTAREAを使用し視訳（西-日） 9. DELEのTAREAを使用し視訳（西-日） 10. DELEのTAREAを使用し視訳（西-日） 11. 素材音読、課題訳文提出 12. 翻訳課題プレゼン 13. 翻訳課題プレゼン 14. 翻訳課題プレゼン 15. まとめ（変更の可能性あり。）	
到達目標	スペイン語の翻訳通訳について基礎理論を習得し、基本的な翻訳通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布されたプリントの下調べ、語彙リストの暗記が必須です。課題は PC 仕上げでお願いいたします。		
テキスト、参考文献	プリント配布		
評価方法	口頭訳出演習への参加 30% 課題30% 試験20% 実技20%		

13 年度以降 12 年度以前	翻訳通訳実習・スペイン語 多言語間交流特殊研究Ⅵ（翻訳通訳実習・スペイン語）	担当者	柴田 バネッサ
講義目的、講義概要		授業計画	
数字QR 10 万以上の数字を聞いた瞬間にスペイン語で言えるように訓練します。 各自がスペイン・ラテンアメリカの文化を調べて発表。それをもとにスピーチと通訳の演習を行います。 原稿を音読、そして視訳、逐次通訳する。 以下の手順で本番に近い演習を目指す。 1. 音読、視訳 危機管理（パニック回避） 2. 訳文検討、翻訳 同通の場合の削ぎ落しを検討 3. ペアまたはグループによる逐次通訳演習 4. 逐次通訳、ウィスパリング通訳 5. ペア・ワークによる逐次同通デモ		1. オリエンテーション 2. メモリーレッスン マルチタスク 3. メモリーレッスン 4. メモリーレッスン 5. メモリーレッスン 6. 観光通訳 7. 観光通訳 8. 課題スピーチ 検討 9. サイトレッスン（西-日）、サマリー作成、逐次通訳 10. 逐次通訳、ウィスパリング同通 11. 同通実技 12. 同通実技 13. 同通実技 14. 同通実技試験 15. まとめ（変更の可能性あり）	
到達目標	スペイン語の翻訳通訳について応用理論を習得し、実務的な翻訳通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テーマを選び、原稿を書いて、発表の前週に通訳者に語彙軍を渡してください。発表はパワポを使用。		
テキスト、参考文献	プリント配布		
評価方法	口頭訳出演習への参加 30% 課題30% 試験20% 実技20%		

13 年度以降	中国語上級	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
これまでに学んだ中国語の基礎を固め、さらに応用力を伸ばすことを目的とします。 ・読解力の向上を図る。 ・文法力を高める。 ・語彙力を増強する。 ・生の表現にふれ、語用について理解する。 ・中国の社会や文化について理解する。 概要 上記の目的を達成するために各担当教員が適切な教材を使用するので初回のガイダンスには必ず出席して説明を受け、詳しい資料を閲覧したうえで自分の興味とレベルにもっとも適切であると判断する授業を選択すること。		1. ガイダンス、資料配布 2. ～15. 各担当教員の授業計画による。初回に配布する資料で確認すること。 なお予定されている使用教材は下記の通りである。 虞：白帝社『大学生のための現代中国語 12 話・Ⅱ』。 （中級レベル、週 2 コマ） 吉田：『やさしいビジネス中国語』（朝日出版社）他 （基本的なビジネス中国語、週 2 コマ） 武信：プリント配布 （上級レベルの読み物を精読する、週 1 コマ） 永田：『新・ブラッシュアップ中国語』 （2 年生までの内容を総復習する、週 1 コマ）	
到達目標	中国語上級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、多様かつ高度な表現・作文、高度な文章読解、様々な場面を想定した複雑な聞き取り・会話ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	いずれの授業においても事前にテキストを精読し単語を暗記し、事後は音読を中心に復習すること。		
テキスト、参考文献	授業計画を参照すること		
評価方法	中間・期末試験または課題・期末レポート 70%、授業への貢献度 30%で評価する。		

13 年度以降	中国語上級（再履修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
中国語の基礎をすでに学んだ人の中級テキスト、白帝社『大学生のための現代中国語12話・Ⅱ』を用い、総合的語学力の向上とともに、中国の文化や社会についての理解を深めることを目的とします。 課文は会話体、重要表現を示す「要点」は5項目になり、課末に暗誦用の短文を設けています。 「練習」は、多く準備された問題の中から選んで出題できるリスニング、語句の並べ替え作文、初級の復習からなっています。 例文は実際の会話に使えるものを集め、会話の授業にも適しています。 2年生までに学んだ文法事項等の総復習にも最適な内容です。		1. ガイダンス 2. 第一課 他是谁? 3. 第二課 写文章 4. 第三課 帮忙 5. 中間試験 6. 第四課 找対象 7. 第五課 换公司 8. 第六課 出差 9. 第七課 儿子和妈妈 10. 第八課 临别赠言 11. 第九課 吃什么 12. 第十課 买车 13. 第十一課 幸福 14. 第十二課 搬迁 15. 学期後半の復習と総まとめ期末試験	
到達目標	中国語上級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、多様かつ高度な表現・作文、高度な文章読解、様々な場面を想定した複雑な聞き取り・会話ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に本文を精読し、新出単語を暗記すること。事後にテキスト本文を和訳すること。		
テキスト、参考文献	白帝社『大学生のための現代中国語 12 話・Ⅱ』		
評価方法	試験（中間・期末）70%、授業への積極的な参加 30%で評価する。		

13 年度以降 12 年度以前	中国語演習_火 1 中国語演習 I_火 1	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
人気を博した中国語ドラマ「結婚行進曲」を題材にして、生き生きとした現代中国語口語表現を学びます。 授業の前半でドラマを鑑賞し、後半で1シーンを取り上げて和訳・発話練習・アフレコなどの練習も行う予定です。 春学期は結婚を予定しているヤオシャンとスーマンの新居探しから始まり、家庭や社内の人間模様、外資系企業での仕事の状況、昔馴染みの友人との交流、北京と上海の相違などが主なポイントです。		1. ガイダンス 2. スーマンとヤオシャンの家探し 3. 家のリフォーム騒動 4. 翻訳練習とアフレコ 5. スーパー・カップルコンテスト 6. とんだ新入社員 7. 翻訳練習とアフレコ 8. 次々に起こるトラブル 9. 昔の恋人あらかわ 10. 翻訳練習とアフレコ 11. 複雑な人間関係 12. 決勝進出 13. 翻訳練習とアフレコ 14. 学期のまとめと期末試験 15. 総復習と試験の解説	
到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に指示されたドラマを鑑賞してくる。事後に口語表現のノートを作る。		
テキスト、参考文献	ドラマ「結婚行進曲」。URLを指示する。適宜プリントを配布する。		
評価方法	試験 30%、期末レポート 40%、授業への参加度 30%で評価する。		

13 年度以降 12 年度以前	中国語演習_火 1 中国語演習 II_火 1	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
人気を博した中国語ドラマ「結婚行進曲」を題材にして、生き生きとした現代中国語口語表現を学びます。 授業の前半でドラマを鑑賞し、後半で1シーンを取り上げて和訳・発話練習・アフレコなどの練習も行う予定です。 秋学期は主人公ヤオシャンが会社を辞めてしまうところから始まり、最後にはさまざまな危機を乗り越えた二人の幸せな結婚式でハッピーエンドへとつながっていきます。		1. ガイダンス、これまでのあらすじ 2. ヤオシャンの辞職 3. スーマンの両親 4. スーチー、パンダちゃんに会う 5. 翻訳とアフレコ 6. 30 万元紛失！ 7. ガールズトーク 8. 新たなカップル誕生？ 9. 翻訳とアフレコ 10. ヤオシャンの母、北京へ 11. スーマンの母と姑 12. 結婚の危機!? 13. ハッピー♥ウェディング 14. 翻訳とアフレコ 15. 学期のまとめと期末試験	
到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に指示されたドラマを鑑賞してくる。事後に口語表現のノートを作る。		
テキスト、参考文献	ドラマ「結婚行進曲」。URL を指示する。適宜プリントを配布する。		
評価方法	試験 30%、期末レポート 40%、授業への参加度 30%で評価する。		

13 年度以降 12 年度以前	中国語演習 中国語演習 I	担当者	蔡 曉軍
講義目的、講義概要		授業計画	
口語調の文章を読みながら、読解力の基礎を作り、助動詞、副詞、補語などの表現を中心に、文の中の正確な位置を把握する。 また、三十年代の北京の街の風景や方言の言い回しにも触れる。		1. “父からの牋” 2. 新出語彙、文型、訳など 3. “好きな授業” 4. 新出語彙、文型、訳など 5. “友達との遊び” 6. 新出語彙、文型、訳など 7. 中間テスト 8. “空き地での遭遇” 9. 新出語彙、文型、訳など 10. “胡同の風景” 11. 新出語彙、文型、訳など 12. “ボール探し” 13. 新出語彙、文型、訳など 14. 学期のまとめ 15. 総復習と期末試験	
到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内で適宜指示する。		
テキスト、参考文献	[我们看海去] 短編小説 『城南旧事』より抜粋 （プリント配布）		
評価方法	授業への積極的参加 30%，授業へ積極的参加した成果（試験）70%で評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。		

13 年度以降 12 年度以前	中国語演習 中国語演習Ⅱ	担当者	蔡 曉軍
講義目的、講義概要		授業計画	
口語調の文章を読みながら、読解力の基礎を作り、助動詞、副詞、補語などの表現を中心に、文の中の正確な位置を把握する。 また、三十年代の北京の街の風景や方言の言い回しにも触れる。		1. “学校生活” 2. 新出語彙、文型、訳など 3. “事件との関わり” 4. 新出語彙、文型、訳など 5. “見知らぬ人1” 6. 新出語彙、文型、訳など 7. 中間テスト 8. “見知らぬ人2” 9. 新出語彙、文型、訳など 10. “父との議論1” 11. 新出語彙、文型、訳など 12. “父との議論2” 13. 新出語彙、文型、訳など 14. 学期のまとめ 15. 総復習と期末試験	
到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内で適宜指示する。		
テキスト、参考文献	[我们看海去] 短編小説 『城南旧事』より抜粋（プリント配布）		
評価方法	授業への積極的参加 30%，授業へ積極的参加した成果（試験）70%で評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。		

13 年度以降 12 年度以前	中国語演習 中国語演習 I	担当者	劉 岸麗
講義目的、講義概要		授業計画	
1・2年に学んだ基礎中国語の文法、文型を用いて日常会話、リスニングを練習し、より正確な表現力と即戦力を身に着けることを目指す。 会話の部分と読解の部分がそれぞれあるので、その違いも勉強していくうちに、自然に覚えることができる。大量の練習問題もあり、中国語の基礎を確かなものとなるでしょう。同時に、応用力もレベルアップができる。会話、リスニング、問題集の練習は全員一緒に行う場合と担当者を決めて、完成してもらう場合があります。		1. ガイダンス 2. 会話：自我介绍 3. 文章：全家福 4. 会話：五一节 5. 文章：过生日 6. 会話：约会 7. 文章：我的一天 8. 会話：问路 9. 文章：十月北京 10. 会話：体育运动 11. 文章：给姐姐的信 12. 会話：谈爱好 13. 文章：民族音乐家 阿炳 14. 復習 15. 学期のまとめと期末試験	
到達目標	「中国語 I～IV」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	初回のガイダンスで指示します。		
テキスト、参考文献	「新・ブラッシュアップ中国語」（関中研 朝日出版社）		
評価方法	試験 70%、授業への参加度 30%で評価します。		

13 年度以降 12 年度以前	中国語演習 中国語演習Ⅱ	担当者	劉 岸麗
講義目的、講義概要		授業計画	
1・2年に学んだ基礎中国語の文法、文型を用いて日常会話、リスニングを練習し、より正確な表現力と即戦力を身に着けることを目指す。テキストは「新・ブラッシュアップ中国語」（関中研 朝日出版社）を使用する予定。会話の部分と読解の部分がそれぞれあるので、その違いも勉強していくうちに、自然に覚えることができる。大量の練習問題もあり、中国語の基礎を確かなものとなるでしょう。同時に、応用力もレベルアップができる。会話、リスニング、問題集の練習は全員一緒に行う場合と担当者を決めて、完成してもら場合があります。		1. ガイダンス 2. 会話：参观与旅游 3. 文章：自行车日 4. 会話：宾馆服务台 5. 文章：三个和尚没水吃 6. 会話：买东西 7. 文章：笑脸相迎 8. 会話：在医务室 9. 文章：书包太沉重 10. 会話：作客 11. 文章：情人多算帐 12. 会話：谁请客 13. 文章：来盘“微笑” 14. 復習 15. 学期のまとめと期末試験	
到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	初回のガイダンスで指示します。		
テキスト、参考文献	「新・ブラッシュアップ中国語」（関中研 朝日出版社）		
評価方法	試験 70%、授業への参加度 30%で評価します。		

13 年度以降 12 年度以前	中国語演習 中国語演習 I	担当者	武信 彰
講義目的、講義概要		授業計画	
中国の新聞・雑誌やブログから拾ったニュースが日本でも報道されることが多い。 これらから面白いニュースを拾って、そのネタ元となったであろう中国語による記事を読んでいく。 “ナマの” 記事だけに、語彙や文体に特有のものも含まれる一方、内容の面白さもある。楽しんで中国語の文章を読む体験をしてもらう。 <u>もちろん、教科書のようにピンイン付きの分かち書きになどになったテキストではないので、基礎力と相当の努力が必要となる。</u>		1. ツアーではぐれ北京から歩き続けて 5 日後に天津で保護 2. 女子のハーフパンツでの登校を認めて！ 3. 調理師同士のケンカに口を挟んだ客が殴られる 4. 診察台が壊れて乗っていた女性患者が大けが 5. 運賃を支払えばイヌもバスの席に座れるのか？ 6. 信号無視したら「緑色の帽子をかぶって歩行者指導」 7. 高速道路のど真ん中で無謀なヒッチハイク 8. 頭にスイカ、手には酒ビン、地下鉄に「スイカアニキ」現る 9. ブスだから会社休みます」で休暇申請したら・・・ 10. 生きたネズミ 1000 匹が村に放たれパニックに！ 11. 泥酔した中年女性、長江に浮かんで爆睡 10 時間！ 12. 学食の女性職員がつまみ食い？ 13. 席を譲らない若者を老人が袋だたきに 14. バスで臭い食べ物はご法度？ 15. 入水した女性を救出した男性 2 人脱いだ服を盗まれる ※ 上は以前のものです、実際には最新のニュースを取り上げます	
到達目標	「中国語 I ～IV」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	教材の文章を予習し、既習部分の復習をする		
テキスト、 参考文献	プリント配布。		
評価方法	レポート 50%，発表等の授業への参加度 50%		

13 年度以降 12 年度以前	中国語演習(中国語ビジネス文書)_金 3 中国語演習Ⅱ(中国語ビジネス文書)_金 3	担当者	吉田 桂子
講義目的、講義概要		授業計画	
躍進する中国経済を背景に、日中間のビジネス分野では、今、中国語に精通し、日中双方間のコミュニケーションを担える人材が求められています。 本項では、日中間のビジネス業務で使われる「ビジネス文書」を中心に、まず、中国語の書く力を集中的に強化します。合わせて、ビジネス実務の現場にいる講師が実際に使用している実務資料を使い、「ビジネス全般」に関する専門用語や「貿易業務」の基礎知識を学習します。 毎回の授業では、各自が実際に中国語でビジネス文書を作成することにより、文書による中国語の表現能力を養います。 さらに理解を深めるため、秋学期金曜 2 限中国語演習「実習中国語ビジネス会話」の受講をお勧めします。		1. 中国語のビジネス文書の特徴／取引の申し込み 2. 見積書送付依頼 3. 見本送付に対する返事 4. 製品の紹介 5. オファー 6. 契約書送付 7. 契約書 8. L/C 9. 支払条件の変更 10. 信用状開設の督促 11. 信用状の期限延長を要請 12. 保険料の問い合わせ 13. 品質クレームの申し立て 14. クレームへの回答 15. 講義のまとめ	
到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で扱った文書内容に沿ってビジネスレターを作成し、次回の授業で提出する。		
テキスト、参考文献	テキスト：毎回配布するプリント		
評価方法	定期試験 50%、授業への参加度 50%		

13 年度以降 12 年度以前	中国語演習_木 4 中国語演習 I_木 4	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
中国国際放送を利用してニュースで中国語を学びます。 下記のサイトにアクセスして指定されたニュース本文と 音声をダウンロードしてください。 http://japanese.cri.cn/15home/hanyu.htm 予習：進出単語のノート作り、単語の暗記 本文の朗読 授業：単語のクイックレスポンス、リテンション、 シャドーイングなどによる発音練習 文法解説、逐次通訳と同時通訳による和訳練習 日本語→中国語方向への訳出練習 復習：ニュースの暗唱、訳出練習		1. ガイダンス 2. 中国、高速鉄道の路線距離が世界一に 3. アリペイが中国人の消費統計データを公開 4. 世界で約 6 割の人が自動運転車を歓迎 5. 一人っ子政策廃止、今後 5 年で 1700 万人増予測 6. 最近のニュースから 7. 最近のニュースから 8. 中間試験 9. 最近のニュースから 10. 最近のニュースから 11. 最近のニュースから 12. 最近のニュースから 13. 最近のニュースから 14. 学期のまとめ 15. 学期のまとめと期末試験	
到達目標	「中国語 I ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	講義概要を参照すること。		
テキスト、 参考文献	プリント配布		
評価方法	試験（中間・期末）70%、授業への参加度 30%で評価する。		

13 年度以降 12 年度以前	中国語演習(実習中国語ビジネス会話)_金 2 中国語演習Ⅱ(実習中国語ビジネス会話)_金 2	担当者	吉田 桂子
講義目的、講義概要		授業計画	
「世界の中の日本」という観点を持つことはとても大切です。特に隣国である中国とは、政治、経済、文化あらゆる面で密接な関係にあるといえましょう。その中でも、日中間のビジネス関係は、今後、益々重要なものとなります。そこで、ビジネス業務の知識を持って、中国語を自由に操れる人材の育成がこれまでに増して求められています。 本講では、こうした人材育成のファーストステップとして、「貿易業務」の基本を理解しながら、中国語によるビジネス会話を習得していきます。授業では、実際に商社に身を置く講師が、日中間のビジネス現場の現状を紹介しながら、参加者全員に会話の機会を提供し、楽しみながら聞いて話せる「会話能力」を身に付けていきます。 さらに理解を深めるため、秋学期金曜 3 限中国語演習「中国語ビジネス文書」の受講をお勧めします。		1. 商談のアポイントメント取得 2. 引き合い 3. オファー 4. 商品およびメーカーの紹介 5. カウンタービット 6. コミッション 7. 注文 8. 支払条件 9. 信用状 10. 船積期日 11. 包装 12. 保険 13. 契約 14. クレーム 15. 講義のまとめ	
到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で扱った会話内容を各自復習し、次回の授業で生徒同士発表し相互評価する。		
テキスト、参考文献	テキスト：『実習ビジネス中国語 商談編』白水社 参考資料：授業中に配布。		
評価方法	定期試験 50%、授業への参加度 50%		

13 年度以降 12 年度以前	翻訳通訳論・中国語 多言語間交流特殊研究Ⅱ（翻訳通訳論・中国語）	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
テーマ：日本と中国の翻訳の歴史と理論についての理解を深め、さらに実際の翻訳作品を素材として比較や分析を行います。また、学期の最後には種々のテキストを用いて翻訳実習を行います。 中国における翻訳研究の歴史、日中間の翻訳交流の歴史などから翻訳がいかなる役割を果たしたかを探ります。林語堂、魯迅の翻訳論に関しては中国語の原文と参考用に日本語翻訳または参考文献を配布します。 学期の半ばでは、実際の翻訳作品を例にとって、日本語から中国語、および中国語から日本語へ翻訳された場合の言語表現の変化を検討します。 最後に実際に自分で翻訳を行い、翻訳の楽しさや難しさを体験します。		1. ガイダンス 2. 翻訳の理論が扱う問題 3. 中国における翻訳の歴史 4. 中国の翻訳論と日本の翻訳論 5. 近代文学と翻訳 6. 日本における中国文学の翻訳（近代以前） 7. 日本における中国文学の翻訳（近代以降） 8. 日本文学の中国語訳を読む（1） 9. 日本文学の中国語訳を読む（2） 10. 中国文学の日本語訳を読む（1） 11. 中国文学の日本語訳を読む（2） 12. 翻訳実習（1） 13. 翻訳実習（2） 14. 翻訳実習（3） 15. 学期のまとめ、レポート提出	
到達目標	中国語の翻訳通訳について基礎理論を習得し、基本的な翻訳通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキストを精読すること。		
テキスト、参考文献	プリント配布、または URL 指示		
評価方法	レポート 70%、授業への参加度 30%で評価する。		

13 年度以降 12 年度以前	翻訳通訳実習・中国語 多言語間交流特殊研究Ⅴ（翻訳通訳実習・中国語）	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
テーマ：中日・日中翻訳・通訳入門 履修者の中国語運用能力に適した翻訳通訳の練習を行います。 1～5 回：比較的読みやすい雑誌記事などの中→日翻訳 5 回目：中間試験 6～9 回：基本的な文法事項にそって中国語作文練習を行 いながら日本語から中国語への訳出訓練をします。 10～15 回：中日・日中双方向の逐次通訳と同時通訳の練習 を行い、すばやい反応力と応用力を養います。 5・9・14・15 回目の授業で翻訳・通訳についてそれぞれ 実技試験を実施し、平均点で総合点を出します。		1. ガイダンス 中国語読解力の判定 2. 文化コラムの翻訳 3. エッセイの翻訳 4. 社会ニュースの翻訳 5. 翻訳の試験及び中国語リスニング力の判定 6. 中国語への訳出練習（単文） 7. 中国語への訳出練習（単文） 8. 中国語への訳出練習（長文） 9. 中国語作文試験及びスピーキング力の判定 10. 原稿付き逐次通訳 11. 原稿なし逐次通訳 12. 原稿付き同時通訳 13. 原稿なし同時通訳 14. 通訳試験（逐次通訳） 15. 通訳試験（同時通訳）	
到達目標	中国語の翻訳通訳について応用理論を習得し、実務的な翻訳通訳ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前に練習問題に解答してくること。		
テキスト、 参考文献	プリント配布、または URL 指示		
評価方法	試験 70%、授業への参加度 30%で評価する。		

13 年度以降	韓国語上級	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は「韓国語Ⅳ」に引き継ぎ、文法力、読解力、語彙力の発展を目指し、新しい文型を用いた例文作りの練習をすると共に長文を読んでいく。また、会話能力や聞き取り能力の向上を目指し、授業はほとんど韓国語で行う。		1. 大衆文化について 2. 引用形の縮約形 3. 風習や慣習について 4. ジャンル別文章表現法 5. Review 6. 作文の構想・意見交換 7. 仮定法 8. 韓国語学習の経験について 9. 丁寧度による様々な表現 10. Review 11. 効果的な外国語学習方法について 12. 擬声語と擬態語 13. 男女平等について 14. 用言の名詞化 15. Review	
到達目標	韓国語上級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、多様かつ高度な表現・作文、高度な文章読解、様々な場面を想定した複雑な聞き取り・会話ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		
評価方法	中間テスト、期末テスト		

13 年度以降	韓国語上級_再履修	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は「韓国語Ⅳ」に引き継ぎ、文法力、読解力、語彙力の発展を目指し、新しい文型を用いた例文作りの練習を すると共に長文を読んでいく。また、会話能力や聞き取り 能力の向上を目指し、授業はほとんど韓国語で行う。		1. 大衆文化について 2. 引用形の縮約形 3. 風習や慣習について 4. ジャンル別文章表現法 5. Review 6. 作文の構想・意見交換 7. 仮定法 8. 韓国語学習の経験について 9. 丁寧度による様々な表現 10. Review 11. 効果的な外国語学習方法について 12. 擬声語と擬態語 13. 男女平等について 14. 用言の名詞化 15. Review	
到達目標	韓国語上級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、多様かつ高度な表現・作文、高度な文章読解、 様々な場面を想定した複雑な聞き取り・会話ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、 参考文献	『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		
評価方法	中間テスト、期末テスト		

13 年度以降 12 年度以前	韓国語演習 韓国語演習 I	担当者	沈 元燮
講義目的、講義概要		授業計画	
ーレベル・アップ中・上級韓国語（間違いやすい表現100） 日本語と韓国語の類似性に基づいた初・中級の学習が終わると、日本語と異なった構造を持った新しいレベルの韓国語が現れてくる。本講座では、中級知識を確実に整理し、直訳では対応できない中・上級韓国語、検定準2級レベルくらいに挑戦できるより高いレベルの韓国語能力の習得を目指す。 講義は次の形で行う。 1)中級まで学んだ文法知識を再確認する。 2)間違いやすい韓国語を類型別に学習する。 3)学んだ内容を作文に適用してみる。 4)作文内容を教員に提出し、チェックを受ける		1. オリエンテーション、中級の復習 2. 1 課：引用文のまとめ、 高い、開く、閉じる 3. 1 課：間違い表現 1-10 4. 2 課：授受表現—주다 드리다 받다 5. 2 課：間違いやすい表現 11-20 6. 3 課：条件文 7. 3 課：間易いやすい表現 21-30 8. 4 課：「する」と하다、敬語 9. 4 課：間違いやすい表現 31-40 10. 5 課：使役の表現、助詞「の」 11. 5 課：理由の表現、間違いやすい表現 41-50 12. 6 課：否定文、漢字語、間違いやすい表現 51-60 13. 7 課：受身、助詞「で」、間違いやすい表現 61-70 14. 8 課：時を表す表現、間違いやすい表現 71-80 15. まとめ （＊場合によって差し替えの可能性あります）	
到達目標	「韓国語 I ～IV」ならびに「韓国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な韓国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する韓国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	学習速度が速いので、必ず事前予習を終えて授業に臨むこと。 授業中に学んだ「間違いやすい表現」を使って作文をし、その結果を教員にチェックしてもらうこと。		
テキスト、 参考文献	油谷幸利、『韓国語実力養成講座② 間違いやすい韓国語表現 100』白帝社		
評価方法	課題及び予習度：30%、会話テスト 30%、筆記テスト 40%		

13 年度以降 12 年度以前	韓国語演習 韓国語演習Ⅱ	担当者	沈 元燮
講義目的、講義概要		授業計画	
—映画で味わう実践韓国語の世界— 教科書や読解テキストで丁寧に勉強しても、韓国人が日常生活で速い速度でしゃべる生活韓国語は聞き取れない。それが実践会話の世界であって、教科書で取り扱ったことのない文型、辞書に出てこない語彙、聞きなれない方言、縮約語、隠語、卑属語、外来語が飛び散る世界である。本講座では、スタンダードなスタイルの韓国語を始め、多様な状況で使われている韓国語会話の現場を、映画の一場面を通して学習する。 (講義概要) 1)映画を見ながら聞き取り練習を行う 2)新しく出た語彙、文型を学習する 3)組を組んで会話文を作り、会話を交わしてみる 4)作文をし、教員のチェックを受ける		1. オリエンテーション 2. スタンダードスタイル演習 1 3. スタンダードスタイル演習 2 4. スタンダードスタイル演習 3 5. 卑属語スタイル演習 1 6. 卑属語スタイル演習 2 7. 卑属語スタイル演習 3 8. 歴史劇スタイル演習 1 9. 歴史劇スタイル演習 2 10. 中間テスト 11. 方言スタイル演習 1 12. 方言スタイル演習 2 13. リクエスト映画 1 14. リクエスト映画 2 15. まとめ (＊場合によって差し替えの可能性あります)	
到達目標	「韓国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「韓国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な韓国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する韓国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教材の中の台詞の内容を事前に予習してから授業に臨んでください。 学んだ内容を使って会話文を作成し、教員に提出してください。		
テキスト、参考文献	『スクリーン韓国語』冊子。授業中に配布。		
評価方法	予習及び課題 30%、会話テスト 30%、筆記テスト 40%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	韓国語演習 韓国語演習Ⅱ	担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は春学期の韓国語上級で学んだ事項をふまえ、さらに高度な韓国語運用力を習得するためのものである。そのため、授業をすべて韓国語で行い、意思伝達の能力を向上させ、自由な意見交換ができる場とする。		1. 趣味について 2. 趣味について 3. 各国の人気（伝統）スポーツについて 4. 各国の人気（伝統）スポーツについて 5. Review 6. 旅行の計画を立てる 7. 旅行の計画を立てる 8. 好きなインターネットサイトについて 9. 好きなインターネットサイトについて 10. Review 11. 未来の生活の変化を推測する 12. 未来の生活の変化を推測する 13. 絵をつかって物語りをつくる 14. 絵をつかって物語りをつくる 15. Review	
到達目標	「韓国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「韓国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な韓国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する韓国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回だされる課題を解いて次回に発表・提出してください。		
テキスト、 参考文献	『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		
評価方法	期末テスト 50%、課題及び発表 20%、授業参加度 30%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	韓国語演習 韓国語演習Ⅱ	担当者	白 寅英
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は春学期の「韓国語上級」の授業での学習内容を踏まえ、より高度な韓国語を身につけるためのもので、高級文法の学習や多様な文章の読解を通して高級語彙・表現の習得を目指す。 なお、プレゼンテーションの機会を設け、発表文の作成から発表、質疑応答まですべてを韓国語で行い、韓国語の運用能力やコミュニケーション能力の向上を図る。		1. 授業の概説と受講者の要望収集・確認 2. 個人と家庭について 3. 個人と家庭について 4. Review 5. 運動と娯楽について 6. 運動と娯楽について 7. Review 8. presentation 9. 気候と旅行について 10. 気候と旅行について 11. Review 12. 科学と技術について 13. 科学と技術について 14. Review 15. presentation	
到達目標	「韓国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「韓国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な韓国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する韓国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読し、予習すること。 また、出される課題を指定日に提出・発表などができるように用意すること。		
テキスト、参考文献	『韓国語－高級Ⅰ』Kyung Hee University Press		
評価方法	定期試験 40%、プレゼンテーション 30%、課題および授業への参加度 30%		

13 年度以降	翻訳通訳論・韓国語	担当者	柳 蓮淑
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の目的は、韓国語の語彙力の養成と、翻訳・通訳の実践的スキルを身につけることです。さまざまなテーマを巡る実際場面での翻訳・通訳ができるように、高度な語学力の養成とスキルを学習しながら、素早い反応力と適切な表現力を身につけることができます。 授業スケジュールは参加者のニーズを考慮し、多少の変更可能性があります。		1. 講義の概要 2. 社会 1 3. 社会 2 4. 社会 3 5. 社会 4 6. 経済 1 7. 経済 2 8. 経済 3 9. 経済 4 10. 情報・通信 1 11. 情報・通信 2 12. 情報・通信 3 13. 情報・通信 4 14. 予備日、復習 15. 講義のまとめ	
到達目標	韓国語の翻訳通訳について基礎理論を習得し、基本的な翻訳通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストまたは副教材の指定された課題を予習・復習してください。		
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	定期試験または課題の結果（80％）によって評価するが、平常授業における練習の実績（20％）も評価対象とします。		

13 年度以降	翻訳通訳実習・韓国語	担当者	柳 蓮淑
講義目的、講義概要		授業計画	
前期の講義に引き続き、韓国語の語彙力の養成と、翻訳・通訳の実践的スキルを身につけます。さまざまなテーマを巡る実際場面での翻訳・通訳ができるように、高度な語学力の養成とスキルを学習しながら、素早い反応力と適切な表現力を身につけることができます。 授業スケジュールは参加者のニーズを考慮し、多少の変更可能性があります。		1. 講義の概要 2. 文化1 3. 文化2 4. 文化3 5. 文化4 6. 芸術1 7. 芸術2 8. 芸術3 9. 芸術4 10. コミュニケーション1 11. コミュニケーション2 12. コミュニケーション3 13. コミュニケーション4 14. 予備日、復習 15. 講義のまとめ	
到達目標	韓国語の翻訳通訳について応用理論を習得し、実務的な翻訳通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストまたは副教材の指定された課題を予習・復習してください。		
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	定期試験または課題の結果（80％）によって評価するが、平常授業における練習の実績（20％）も評価対象とします。		

12 年度以前	英語演習Ⅰ(映画とレクチャーで学ぶ異文化コミュニケーション) (2012 年度以前入学者用)	担当者	中村 香代子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では異文化コミュニケーションに関する様々なトピックを軸に、総合的な英語力向上を目指します。映画「グラントリノ」を使ってたっぷりリスニング練習をすると共に、映画中の役立つ表現を覚えたり、ロールプレイを通して会話の自然なリズムやスピードを身につけて行きます。 コース後半では講義やリーディングを通してトピックの理解を更に深めます。また映画やリーディングの内容についてディスカッションを重ねることで、スピーキング力も鍛えていきます。 学期末にはクラスで扱ったトピックに関して各自プレゼンテーションをしてもらいます。その準備過程がリーディング・ライティング練習になるのはもちろんですが、効果的な発表の仕方やレジメの書き方も一緒に学びましょう。		1 ガイダンス 2 映画 (リスニング・ディスカッション) 生と死 3 映画 (リスニング・ディスカッション) 戦争の英雄 4 映画 (リスニング・ディスカッション) 新しい文化 5 映画 (リスニング・ディスカッション) 文化的タブー 6 映画 (リスニング・ディスカッション) 人生の道 7 映画 (リスニング・ディスカッション) 誤解 8 映画 (リスニング・ディスカッション) 解決策 9 英語表現クイズとロールプレイテスト 10 異文化コミュニケーション (リーディング) 11 ノンバーバルコミュニケーション (身振り・時間) 12 ノンバーバルコミュニケーション (空間・接触) 13 ノンバーバルコミュニケーション (パラ言語) 14 プレゼンテーション 15 プレゼンテーション	
到達目標			
事前・事後学修の内容	授業で学んだ英語表現の復習や音読の練習をしっかりとっておいて下さい。 また、リーディングや講義プリントは意味を調べて、内容を予習しておきましょう。		
テキスト、参考文献	教材プリントは教員が準備・配布します。		
評価方法	授業参加とディスカッションにおける貢献度(30%)、英語表現クイズとロールプレイ (40%)、プレゼンテーション(30%)で総合的に評価します。		

12 年度以前	英語演習Ⅱ（映画とレクチャーで学ぶ人種問題） （2012 年度以前入学者用）	担当者	中村 香代子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では人種差別問題に関する様々なトピックを軸に、総合的な英語力向上を目指します。映画「クラッシュ」を使ってたっぷりリスニング練習をすると共に、映画中の役立つ表現を覚えたり、ロールプレイを通して会話の自然なリズムやスピードを身につけて行きます。 コース後半では講義やリーディングを通してトピックの理解を更に深めます。また映画やリーディングの内容についてディスカッションを重ねることで、スピーキング力も鍛えていきます。 学期末にはクラスで扱ったトピックに関して各自プレゼンテーションをしてもらいます。その準備過程がリーディング・ライティング練習になるのはもちろんですが、効果的な発表の仕方やレジメの書き方も一緒に学びましょう。		1 ガイダンス 2 映画（リスニング・ディスカッション）銃社会 3 映画（リスニング・ディスカッション）偏見 4 映画（リスニング・ディスカッション）差別 5 映画（リスニング・ディスカッション）AAVE 6 映画（リスニング・ディスカッション）人種政策 7 映画（リスニング・ディスカッション）民族の垣根 8 映画（リスニング・ディスカッション）共生 9 英語表現クイズとロールプレイテスト 10 奴隷たちの手記（リーディング） 11 奴隷制と人種差別 12 公民権運動（1） 13 公民権運動（2） 14 プレゼンテーション 15 プレゼンテーション	
到達目標			
事前・事後学修の内容	授業で学んだ英語表現の復習や音読の練習をしっかりとっておいて下さい。 また、リーディングや講義プリントは意味を調べて、内容を予習しておきましょう。		
テキスト、参考文献	教材プリントは教員が準備・配布します。		
評価方法	授業参加とディスカッションにおける貢献度(30%)、英語表現クイズとロールプレイ（40%）、プレゼンテーション(30%)で総合的に評価します。		

12 年度以前	英語演習 I(映画英語) (2012 年度以前入学者用)	担当者	ロン 美香
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：名門私立学校に赴任してきた型破りな教師と少年達が織りなす人間模様を描いた映画Dead Poets Societyを通して現代アメリカ社会と詩について多角的に学ぶ。 講義内容：各シーンの台詞の内容を理解した後に、音声学理論に基づいた聞き取りの要点を押さえる。また日常生活で話される英語のスピードに慣れ聴解力と発話力の向上を目指す。 キーポイントとなるphraseを自由に使える事ができるように例文を作り練習したり、課題について自分の意見をまとめて発表できる発話力の向上を目指す。 ディスカッションを通して主人公の心の変化、登場人物の発言の意味、性格等について意見の交換を行う。 参加人数やレベルによって上記の内容は変更することがあります。		1. Introduction U1 A New Semester 2. U2 Seize the Day 3. U3 An Invitation to Poetry 4. U4 Free Thinkers 5. U5 Dead Poets Society 6. U6 Your Own Voice 7. U7 Poetry Class 8. U8 Conformity vs. Individuality 9. U9 Time for Action 10. U10 Father and Son 11. U11 A Midsummer Night's Dream 12. U12 The End of the Society 13. U13 Betrayal 14. U14 Oh, Captain! My Captain! 15. Review	
到達目標			
事前・事後学修の内容	毎回課題があるので必ずやってくること。		
テキスト、参考文献	Osako Tanaka et al., Dead Poets Society 鶴見書店		
評価方法	授業への積極的参加(60%)、課題、発表等(40%)を評価対象とする。点数配分の詳細は シラバスにて説明する。		

12 年度以前	英語演習Ⅱ(映画英語) (2012 年度以前入学者用)	担当者	ロン 美香
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：ジャーナリストを目指す 20 代の女性が主人公のファッション業界を背景とした映画 The Devil Wears Prada を教材として、引き続き英語圏の文化を学び、日常生活またビジネスで話される英語のスピードに慣れ聴解力と発話力の向上を目指す。 講義内容：映画を通して語彙力や表現力を伸ばすだけでなく overlapping や shadowing をしながら発音、イントネーション、リエゾン等のプロソディーを身に付けていく。最終的には映画のシーンを英語で作文したりグループでのロールプレイができるよう台詞に慣れていく。また、ディスカッションを通して登場人物の会話の含みを考えていく。 参加人数やレベルによって上記の内容は変更することがあります。		1. Orientation 2. Ch1 Job Interview 3. Ch2 First Day on the Job 4. Ch3 Hurricane on the Weekend 5. Ch4 Andy's Makeover 6. Ch5 Andy Meets Christian 7. Ch6 Miranda's Request 8. Ch7 Nate's Birthday 9. Ch8 Andy's Decision 10. Ch9 Breakup with Nate 11. Ch10 The Dream Job 12. Ch11 Announcement at the Party 13. Ch12 Andy's Final Choice 14. Review 15. Exam	
到達目標			
事前・事後学修の内容	毎回課題が出てくるので、必ず忘れずにやってくること。		
テキスト、参考文献	Aline Brosh McKenna, Communicate in English with The Devil Wears Prada 松柏社		
評価方法	授業への積極的参加、課題など(70%)、試験(30%)を評価対象とする。 点数配分などの詳細についてはシラバスにて説明する。		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン研究概論 スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰ（スペイン）	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン研究概論では、主にスペインの言語・地理・文化・歴史に関する講義を行う。特にスペイン語を学ぶものにとっては最低限知っておかなければならない基礎的知識の獲得を第一の目的とする。 講義は、スペインの歴史、地理、社会、言語事情の基礎を講義する。簡単な課題を与える場合がある。 なお、秋学期に開講される「ラテンアメリカ研究概論」と関連性・連続性が強いので、秋学期には左記授業を選択することが望ましい。		1. 世界のスペイン語 2. イベリア半島の地理・言語状況 3. カタルーニャの言語文化 1 4. カタルーニャの言語文化 2 5. バスク、ガリシアの言語文化 6. アンダルシーアの言語文化 7. イスラム・スペイン 8. 1492 9. フラメンコ・闘牛 10. スペイン黄金世紀 11. 18、19 世紀のスペイン 12. 18、19 世紀のスペイン 13. スペイン内戦とフランコ体制 14. スペインの民主化とヨーロッパ統合 15. 春学期のまとめ	
到達目標	スペインの歴史、文化、社会、政治、経済等に関する事情について基本的な知識を習得し、これに関して分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し、次回の内容をプリントで確認する。		
テキスト、参考文献	適宜プリントを配布。		
評価方法	定期試験によって評価する。		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン語研究 スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅳ（スペイン語学）	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語の文法要素を言語学的に分析することが本講義の目的である。分析の結果も大事な成果のひとつであるが、それ以前に分析の方法、プロセスを見だし、問題設定をする練習の場とも考える。 今年度の主なテーマは「冠詞とそれを取り巻く文の構造」とする。 まず、スペイン語の不定冠詞に関する基本的な知識を獲得・復習するために講義を行う。その際に先行研究を紹介し、それらの分析にはどのような問題点があるのかを洗い出す。 ある程度の予備知識がついたところで、扱ったテーマの中からひとつテーマを選択し、それに関する短いレポートを課題とする。		1. スペイン語の定冠詞について（説明講義）1 2. スペイン語の定冠詞について（説明講義）2 3. スペイン語の定冠詞について（説明講義）3 4. スペイン語の定冠詞について（説明講義）4 5. 問題点 1 6. 課題 1 7. 課題の説明 1 8. スペイン語の不定冠詞と構文について（説明講義）5 9. スペイン語の不定冠詞と構文について（説明講義）6 10. スペイン語の不定冠詞と構文について（説明講義）7 11. スペイン語の不定冠詞と構文について（説明講義）8 12. 問題点 2 13. 課題 2 14. 課題の説明 2 15. 講義のまとめ	
到達目標	スペイン語学、言語学的にスペイン語を観察・分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し、次回の内容をプリントで確認する。		
テキスト、参考文献	適宜プリントを配布。		
評価方法	数回のレポート、プレゼンテーションによって評価する。		

13 年度以降 12 年度以前	ラテンアメリカ研究概論 スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ（ラテンアメリカ）	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、ラテンアメリカを対象とした地域研究入門の授業である。スペイン語履修者が知らなければならないラテンアメリカに関する基礎知識を修得して、ラテンアメリカの特徴や魅力、抱えている課題についての理解を深めることを目的としている。 高校までの地理や世界史などの授業においてラテンアメリカの項目は限定されているが、それでもいくつかの重要項目については教えられている。この授業では、それらの基礎知識を（再）確認するとともに、ラテンアメリカの人々の生活や社会の現状について歴史的背景を含めてより深く知る場としたい。 ラテンアメリカ研究を研究課題としたいと考えている人は必須である。		1. 導入① ラテンアメリカの多様性：ステレオタイプについて 2. 導入② ラテンアメリカの食文化 地理・気候 3. 導入③ メキシコ食文化とグローバル化 4. 人種・民族① 先住民とメスティーソ、ヨーロッパ系 5. 人種・民族② アフリカ系とアジア系 6. 歴史① 先コロンブス期：インカ、アステカ、マヤ 7. 歴史② 植民地期：コロンブスの到達の歴史的意味 8. 文化と社会① 宗教と祭り、家族、女性 9. 文化と社会② 文学と造形芸術 10. 歴史③ ラテンアメリカの独立と 19 世紀 11. 歴史④ 米国と対峙する 20 世紀のラテンアメリカ 12. 経済と社会・政治① 開発主義と独裁から民主化へ 13. 経済と社会・政治② ラテンアメリカの挑戦 14. 米国ラティーノ：新しい民族集団の形成 15. まとめ	
到達目標	ラテンアメリカの歴史、文化、社会、政治、経済等に関する事情について基本的な知識を習得し、これに関して分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で配る資料を事前に読むこと。事後学習については授業中に指示する。		
テキスト、参考文献	授業内で指示する。		
評価方法	数回の小テスト 3 割および期末テスト 7 割		

13 年度以降	スペイン語圏の文学	担当者	中井 博康
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語文学について基本的な知識を身につけるとともに、できるだけ多くの文学テキストを実際に読むことにより、新たな作家や作品と出会う機会にしてほしいと思います。具体的には、授業時間内では 17 世紀までの有名な韻文テキストを精読し、授業時間外の課題として、各自の興味にしたがってブックリストの本を数冊読み、その読書報告をしてもらいます。		1. ガイダンス 2. Jorge Manrique, Juan Ruiz 3. Garcilaso de la Vega, Gutierre de Cetina 4. Fray Luis de León 5. Herrera, Francisco de Figueroa, Francisco de la Torre 6. Santa Teresa de Jesús, San Juan de la Cruz 7. Cervantes 8. B. L. de Argensola, L. L. de Argensola 9. Lope de Vega 10. Luis de Góngora 11. Francisco de Quevedo 12. Calderón de la Barca 13. Sor Juana Inés de la Cruz 14. Francisco de Terrazas, Mateo Rosas de Oquendo 15. 総論	
到達目標	スペイン・ラテンアメリカの芸術文化の特質等を理解したうえで、スペイン語圏の文学作品を分析し、鑑賞・批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課外学習として、ブックリストの本を数冊読み、それぞれレポートを作成してもらいます。		
テキスト、参考文献	特定のテキストは使用しません。レポートのためのブックリストを配布します。		
評価方法	授業時のレスポンスカード（平常点 40%）とレポート（課題点 60%）により、総合的に評価します。		

13 年度以降 12 年度以前	ラテンアメリカの歴史と文化 スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅰ（ラテンアメリカの歴史と社会）	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は、ラテンアメリカの現代を知るために必要な歴史と文化に関する重要事項を、社会運動、人種間関係、絵画、音楽、文字などの具体的事例を取り上げて論じるものである。 現代世界の起点は、大胆に言えば、コロンブスにあると言える。ラテンアメリカを知ることが、現代世界の成り立ちを知ることもである。ウオーラーステインの「近代世界システム」論、アンダーソンの「想像の共同体」論、サイードの「オリエンタリズム」をもとに、ラテンアメリカの歴史と文化に接近したい。		1 メキシコ 1930 年代の観光ポスターから 2 1492 年と現代世界 3 コロンブス以前のアメリカ大陸 マヤ文字読解 アステカの絵文書 4 コロンブスと「近代世界システム」の形成 5 「グアダルupesの聖母」をめぐる論争 6 植民地期における人種民族関係 7 ハイチ独立をめぐる諸問題 8 メキシコ革命とナショナリズム芸術 壁画運動 9 現代メキシコ文化：リラダウンズを題材に 10 グローバル化の中の先住民 11 黒人文化の再発見：アンデスの黒人音楽など 12 カリブ海におけるクレオール主義 13 アジアとラテンアメリカ 中国系排斥の歴史 14 米国ラティーノの文化 15 まとめ	
到達目標	ラテンアメリカの歴史と文化に関して自ら課題を設定し、調査・分析のうえ、自らの見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	授業で配る資料を事前に読むこと。事後学習については授業中に指示する。		
テキスト、 参考文献	随時、授業中に指定する。		
評価方法	授業での発言内容、数回の小レポート 5 割と期末レポート 5 割で評価する。		

13 年度以降 12 年度以前	ラテンアメリカ近現代史 スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅰ（ラテンアメリカ近現代史）	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、主に 19 世紀半ば以降のカリブ海地域・ラテンアメリカを対象にして、米国と向き合わざるを得ないラテンアメリカとその自立の動きをおっていく。 基礎的歴史事項の修得を第一の目標にするが、それとともに、現代ラテンアメリカに関する多面的理解に資するものとして。現代ラテンアメリカの特徴は、①「もうひとつの世界」をもとめるラテンアメリカ、②経済と人の移動を通して一体化する南北「アメリカ」、という一見相反する動きがみられるところにある。ラテンアメリカはこれからどの方向に進んでいくのか考えるための素材を提供していき、履修生が自ら考える場としたい。 なお、授業の最初には、音楽、映画、絵画、文学、大衆芸術など多様なラテンアメリカ文化を本論のテーマと関連付けて紹介し、ラテンアメリカ文化理解への導入とした。		1 はじめに 現代世界の中のラテンアメリカ 「ラテンアメリカ」の誕生中米・カリブ海地域史 2 パナマ鉄道とスイカ事件+ウォーカーのニカラグア侵攻 3 パナマ運河建設とパナマ建国 4 砂糖プランテーションとバナナ共和国 5 米西戦争+キューバ革命と文化 ラテンアメリカの独立と欧米 19 世紀 6 ボリバルの夢とイギリスの非公式帝国 7 メキシコの独立とテキサス併合 8 米メキシコ戦争 9 ディアス期のメキシコ 新しい反システム運動 10 11 メキシコ革命からサパティスタ蜂起へ 12 チリ革命・ニカラグア革命と文化 13 チャベスのボリバル革命+ラテンアメリカ「左傾化」 米国へ浸透するラテンアメリカ 14 「アメリカス」の時代へ 15 まとめ	
到達目標	ラテンアメリカの近現代史に関して自ら課題を設定し、調査・分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	授業で配る資料を事前に読むこと。事後学習については授業中に指示する。		
テキスト、 参考文献	随時、授業中に指定する。		
評価方法	授業での発言内容と数回の小レポート 5 割と期末レポート 5 割で評価する。		

13 年度以降 12 年度以前	ラテンアメリカの政治と社会 スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅱ（ラテンアメリカの政治と社会）	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義ではラテンアメリカという地域の多様性を知り、またこの地域の政治と社会の基本構図を理解することを目標とする。 ラテンアメリカは世界でも稀な、大陸的規模で同質的な文化をもつ地域である。しかし詳しく見ていくと、その同質性を基底としつつも多様性に富んだ地域であることが分かる。また規模は小さいが、カリブ地域にはまったく異質な言語や文化をもつ小国家群も存在する。 本講義では、まずラテンアメリカの政治と社会の基本的な歩みを知り、そのうえでいくつかの代表的な国を具体的に取り上げて地域の多様性について理解を深めていく。そしてこれらを基礎に、現代のラテンアメリカがいかなる政治的・社会的課題を抱えているか、またそれにどう取り組んでいるか(取り組むべきか)を考えていく。		1. 政治史(1)：ラテンアメリカ諸国の独立(19 世紀) 2. (2)：近代化とポピュリズム(20 世紀前半) 3. (3)：開発と軍事政権(1960 年代～) 4. (4)：経済危機と民主化(1980 年代～) 5. (5)：ネオリベラリズムと現代社会 6. 地域的多様性(1)：ラプラタ諸国(アルゼンチンなど) 7. (2)：ブラジル 8. (3)：アンデス諸国(ペルーなど) 9. (4)：メキシコ・中米諸国 10. (5)：カリブ諸国 11. 現代の課題(1)：ネオリベラリズムと貧困・格差 12. (2)：先住民運動と多文化主義 13. (3)：麻薬と組織犯罪・暴力 14. (4)：政治の左傾化と社会運動 15. (5)：これからのラテンアメリカ	
到達目標	ラテンアメリカの政治と社会に関する基本的事項を総合的かつ体系的に理解し、諸問題について分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業効果を高めるための課題(基本事項の事前確認や文献の講読)について毎回指示する。		
テキスト、参考文献	参考文献は授業で随時紹介する。		
評価方法	期末試験で評価(これに授業への参加状況を加味する場合がある)。		

13 年度以降 12 年度以前	ラテンアメリカの国際関係 スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅱ（ラテンアメリカ国際関係論）	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では世界のなかにおけるラテンアメリカの位置づけやその歴史的歩みを学ぶとともに、この地域をとりまく国際関係の諸問題について理解することを目標とする。 ラテンアメリカは発展途上地域であるが、言語的・文化的にはスペインなどのヨーロッパ的特色も有し、また多くの第三世界諸国と異なり、独立国としても 200 年近い歴史のある、世界のなかで固有の性質をもつ地域である。 本講義ではまず、世界のなかのラテンアメリカという視点からこの地域の歴史的歩みを捉える。そのうえで、対米関係やラテンアメリカ諸国間の関係に関する重要論点について学ぶ。そして、今日のグローバル化の影響やラテンアメリカで強まりつつある新しい地域主義の動向を知り、この地域が抱える 21 世紀の課題について考える。なお、日本とラテンアメリカの関係についても取り上げる。		1. 国際関係史(1)：植民地時代のラテンアメリカ 2. (2)：独立期と一次産品輸出経済 3. (3)：米国の覇権主義の拡大(20 世紀前半) 4. (4)：国家発展と経済危機(20 世紀後半) 5. (5)：地域協調の時代(1990 年代以降) 6. 対米関係(1)：キューバと米国の対立 7. (2)：軍事政権と米国の支援 8. (3)：米国の国益とネオリベリズムの浸透 9. (4)：反米左傾化の拡大 10. 域内関係(1)：資源開発と国境紛争 11. (2)：輸入代替工業化期の経済統合 12. (3)：反グローバリズムと社会運動 13. (4)：新しい地域統合(UNASUR、CELAC) 14. 日本とラテンアメリカ(1)：日本人移民と日系社会 15. (2)：日本による開発協力	
到達目標	ラテンアメリカの国際関係に関する基本的事項を総合的かつ体系的に理解し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業効果を高めるための課題(基本事項の事前確認や文献の講読)について毎回指示する。		
テキスト、参考文献	参考文献は授業で随時紹介する。		
評価方法	期末試験で評価(これに授業への参加状況を加味する場合がある)。		

13 年度以降 12 年度以前	ブラジル研究 スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅴ（ブラジル研究）	担当者	E. ウラノ
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目標 講義の目標は、受講生がブラジルについて積極的に考え、授業の内容において独自の視点を身につけることである。そのために、ブラジルに関する基礎知識を勉強していただくとともに、社会科学をベースとした思考能力を高めることを目指す。 講義概要 ブラジルは、2014 年にワールドカップを開催し、2016 年にはオリンピック開催を迎えており、世界で注目されている新興国の一つである。この授業では、「未来の大国」ブラジルがもつ可能性を、社会・経済・政治面から解説する。例えば、最近の経済成長をどのようなファクターが支えているのか。これから持続可能な成長を成し遂げるためには、どのような改革や政策が必要なのか。昨年のワールドカップの開催の際におこったデモンストレーションの背景には、どのような要因があったのか。 近年目立つ出来事として、BRICs や G20 などを通じた多極的外交、経済成長、格差の是正による新中間層の形成、ブラジル企業の多国籍化、油田開発などがあげられる。こうした変貌はどのような基盤により実現されているのだろうか。また、日本とブラジルは、今後、経済・文化・外交面でどのように関係を強化していけるのか。 受講生への要望 講義形式の授業ではあるが、双方向のコミュニケーション、学生のプレゼンテーションなどを通じて積極的な参加が期待される		1. イントロダクション：世界のなかのブラジル 2. 政治経済：「失われた 80 年代」 3. 政治経済：90 年代、インフレーション、経済安定化 4. 政治経済：2000 年代、経済成長への道 5. 格差社会の是正に向けて：Bolsa Família 6. 格差社会の是正に向けて：新中間層 7. 映像から見たブラジル 8. 映像から見たブラジル 9. 持続可能な成長への課題：教育・インフラ整備 10. BRICs、南南関係：多極的外交の展開 11. 学生のプレゼンテーション 12. 学生のプレゼンテーション 13. ワールドカップより教育・医療の充実： 2013－2014 年のデモを考える 14. 新たな経済政治危機：また「鶏の羽ばたき」に終わってしまうのか 15. オリンピックイヤーから見てくるブラジル ※トピックごとに可能な限り映像資料もまじえて授業を進める予定である。	
到達目標	ブラジルの経済・社会などを体系的に理解し、各種の問題について論理的に分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	書籍、新聞、ニュースなどからブラジル関連の情報を自分でピックアップして、内容について考えること		
テキスト、 参考文献	堀坂浩太郎（2012）『ブラジル―跳躍の軌跡』、岩波新書		
評価方法	基本的には学期末の筆記試験による評価を予定しているが、授業内ペーパー、プレゼンテーション等も加味した評価とする。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	ラテンアメリカの経済と社会 スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅲ(ラテンアメリカの経済と社会)	担当者	今井 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
1. ラテンアメリカ経済・社会構造の基本的特質を、アジア、アフリカと比較しながら概観する。 2. ラテンアメリカ地域の歴史をたどり、植民地前の先住民社会、植民地期の政策と社会変容、独立後の国家建設と経済開発、経済・社会構造の変容について理解する。 3. ラテンアメリカ経済の現状を分析し、グローバル化が進む中でラテンアメリカ諸国が直面している主要な経済・社会問題について考察する。さらにこれらの問題に対する各国政府や国際機関の取り組みを紹介する。 4. ラテンアメリカにおける開発の思想、理論、政策について解説し、持続可能な発展、人間の安全保障、男女共同参画社会、開発と人間の幸福をめぐる諸理念について考察する。 5. 日本とラテンアメリカの関係を移民、外交、経済について理解し、今後の課題と目指すべき方向について考える。授業では講義を中心に、受講生の討論も取り入れる。		1. ラテンアメリカ概観－自然、住民、宗教、文化 2. 第1章 経済・社会の歴史の変遷過程－時期区分 3. 第1節 先コロンブス期（－15 世紀末） 4. 第2節 植民地期（－19 世紀初め） 5. 第3節 独立期（－19 世紀半ば） 6. 第4節 第一次産品輸出経済確立期（－1929 年恐慌） 7. 第5節 工業化から地域統合へ（1929 年恐慌－） 8. 第2章 ラテンアメリカ経済・社会の現状と課題 第1節 経済動向と経済政策 9. 第2節 対外経済・経済統合 10. 第3節 所得分配・貧困問題と社会福祉政策 11. 第4節 環境問題と環境政策 12. 第5節 女性の社会参加とジェンダー政策 13. 第3章 ラテンアメリカの開発思想・理論・政策 14. 第4章 日本とラテンアメリカの関係 15. まとめ	
到達目標	ラテンアメリカの経済と社会の特色と歴史の変遷過程、主要な思想、現状と課題、および対応等について分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前に指定された資料、文献を読んでおくこと、授業中に出された課題について配布資料を解説し、分析する。また学期末レポートについて資料を精読して、レポートの作成を進める。		
テキスト、 参考文献	参考文献：国本伊代・中川文雄編『ラテンアメリカ研究への招待』新評論、2005 年、西島章次・小池洋一編『現代ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ、2011 年、国本伊代編『ラテンアメリカ 21 世紀の社会と女性』新評論、2015 年		
評価方法	学期末レポート 60%、小テスト・リアクション・ペーパー 30%、授業への参加度 10%		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（ラテンアメリカ経済発展論） スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅲ（ラテンアメリカ経済発展論）	担当者	今井 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
1. ラテンアメリカ経済を理解するために、まず基礎的な経済理論、経済用語について学ぶ。 2. ラテンアメリカ経済の現状と特質を、その政治・社会的構造を踏まえながら理解する。ラテンアメリカ経済の主要なテーマをとりあげ、その現状と課題、政策について考察する。こうした問題への理解を深めながら、経済のグローバル化がラテンアメリカに及ぼしてきた影響を、WTOとラテンアメリカの経済統合・自由貿易協定、経済の自由化と格差問題、開発と環境、ジェンダー問題などを中心に考察し、持続可能な発展の可能性について考える。 3. 以上を理解したうえで、日本とラテンアメリカの経済関係について、貿易、投資、政府開発援助を中心に考察し、今後の望ましい方向性について考える。 授業は、講義、関連資料の解説、ディスカッションなどの形で進められるので、受講者の積極的参加を歓迎する。		1. 第1章 経済学の基礎 第1節 経済学の考え方 2. 第2節 市場原理—需要・供給と価格 3. 第3節 公共部門、経済政策 4. 第4節 雇用、失業問題、雇用政策 5. 第5節 インフレ・デフレ、財政・金融政策 6. 第6節 貿易、対外投資、国際収支、為替レート 7. 第2章 ラテンアメリカ経済の現状と課題 第1節 国内経済—成長、インフレ、雇用、産業 8. 第2節 対外経済—貿易、投資、為替、国際収支 9. 第3節 所得分配、格差、貧困問題 10. 第4節 開発と環境問題 11. 第5節 開発とジェンダー—男女共同参画社会 12. 第3章 開発の思想と政策 第1節 開発の諸概念 13. 第2節 開発政策の事例—コスタリカ・モデルの検証 14. 日本とラテンアメリカの経済関係 15. まとめ	
到達目標	「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってスペイン・ラテンアメリカを研究し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定された文献、資料を事前に読んでおくこと。授業中に出された課題に回答して次回に提出すること。		
テキスト、参考文献	西島章次・小池洋一編『現代ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ、2011、J.E.スティグリッツ、C.E.ウォルシュ『スティグリッツ 入門経済学』東洋経済、最新版、今井圭子編『ラテンアメリカ 開発の思想』日本経済評論社、2004		
評価方法	学期末提出レポート 60%、小テスト・リアクションペーパー 30%、授業への参加度 10%		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 a） スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 I（スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 a）	担当者	P. ラゴ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objetivo del curso: 1. La enseñanza de la cultura y la civilización españolas desde sus orígenes hasta la actualidad. Se pondrá énfasis en los periodos históricos más importantes, así como en los artistas más destacadas de cada época. 2. Desarrollar: -La comprensión lectora a través de la lectura de textos escritos. -La expresión oral mediante los diálogos que se llevan a cabo durante la clase. -La comprensión oral a través de las explicaciones de la profesora. -Expresión escrita por medio de las tareas que hay que realizar al finalizar cada tema . Destinatarios: alumnos que posean un conocimiento general de la gramática española.		1. Presentación del curso. 2. Introducción.: geografía y relieve I 3. Geografía y relieve II 4. Los albores del arte español: <i>La cueva de Altamira</i> . 5. Los iberos y los celtas. Sus manifestaciones artísticas I. 6. Los iberos y los celtas. Sus manifestaciones artísticas II. 7. La romanización y sus consecuencias I. 8. La romanización y sus consecuencias II 9. Las invasiones germánicas (s. V). La sociedad y el arte visigodo. 10. La invasión musulmana (s. VIII). Sociedad, cultura y arte árabe. 11. la Alhambra de Granada y los jardines del Generalife I. 12. La Alhambra de Granada y los jardines del Generalife II. 13. La Reconquista (ss.XI-XIII). 14. La sociedad medieval. Castillos y ciudades medievales . 15. Película sobre alguno de los temas tratados.	
到達目標	「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってスペイン・ラテンアメリカを研究し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Pepasar y preparara la clase		
テキスト、参考文献	Fotocopias preparadas por la profesora.		
評価方法	La entrega de una tarea por cada tema estudiado. La asistencia a clase es importantísima.		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 (スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 b) スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 II (スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 b)	担当者	P. ラゴ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ver el apartado anterior.		1. El arte durante la Reconquista: el románico. 2. El arte durante la Reconquista: el gótico 3. El Camino de Santiago (Patrimonio de la humanidad). 4. Haciendo el camino. 5. <i>La Celestina</i>: el paso de la Edad Media al Renacimiento I 6. <i>La Celestina</i>: el paso de la Edad Media al Renacimiento II. 7. Los Siglos de Oro: el Renacimiento (XVI). 8. El Greco (1541-1614), un pintor manierista. 9. La arquitectura renacentista: El Monasterio de El Escorial. 10. Los Siglos de Oro: el Barroco (s. XVIII). 11. Diego de Velázquez (1599-1660), un pintor barroco. 12. Otros pintores barrocos: Murillo (1617-1682), Zurbarán (1598-1664) y Ribera (1591-1652). 13. Francisco de Goya (1746-1828), un pintor entre el Romanticismo y la Ilustración I. 14. Francisco de Goya (1746-1828), un pintor entre el Romanticismo y la Ilustración II. 15. Película sobre alguno de los temas tratados.	
到達目標	「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってスペイン・ラテンアメリカを研究し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Pepasar y preparara la clase		
テキスト、参考文献	Fotocopias preparadas por la profesora.		
評価方法	La entrega de una tarea por cada tema estudiado. La asistencia a clase es importantísima.		

13 年度以降 12 年度以前	スペインの言語と歴史・文化 スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅳ（スペイン語圏の言語文化）	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
スペインの文化について歴史を辿りながら総覧する。とくに言語の歴史を中心として、その周辺で動く社会や風習などを概観する。 主な対象は「スペイン」ではあるが、勿論、言語を中心に見ていくため、スペイン以外のスペイン語圏についても可能な限り触れていく。またスペイン語の文献や作品を実際に読む。そのため一定以上のスペイン語力が求められる。 今年度は特に、スペインの各地に伝わる「食」を中心に据えて、スペインの地域性と歴史をもとにスペインの文化について考えて行きたい。		1. オリエンテーション 2. スペインの地域性 3. 地域性・歴史と言語・文化 1 4. 地域性・歴史と言語・文化 2 5. スペインの歴史と食の関係 1 6. スペインの歴史と食の関係 2 7. スペインの地域と食に関するプレゼンテーション 1 8. スペインの地域と食に関するプレゼンテーション 2 9. スペインの地域と食に関するプレゼンテーション 3 10. スペインの地域と食に関するプレゼンテーション 4 11. スペインの地域と食に関するプレゼンテーション 5 12. 歴史と食 1 13. 歴史と食 2 14. 現代と食 15. 総論	
到達目標	スペインの言語の歴史の把握、ならびにスペインの歴史に沿って、主な文学作品・歴史資料を分析し、鑑賞・批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し、次回の内容をプリントで確認する。		
テキスト、参考文献	適宜プリントを配布。		
評価方法	数回のレポート、プレゼンテーションによって評価する。		

13 年度以降	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(専門講読)	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、(1) スペイン語の読解力、語彙力、応用文法力を高めること、および、(2)スペイン語で書かれた文献や記事(とりわけ最新の時事問題を取り扱った記事)を講読することを通じてスペイン・ラテンアメリカ諸国の社会と文化、および同諸国と日本や世界との関係について理解を深めることを目的とする。なお、単に文献を読むだけでなく、応用文法を学習する時間も設け、総合的な言語運用力を向上させることも強く念頭におく。 読解力の向上には、多くの文献を読むことが重要である。第 5 学期(3 年生春学期)までの授業では必ずしもそれに十分な時間を割けていないので、本授業では次の 2 つのタイプのテキストを配布する。1 つは最新のトピックを扱った新聞記事である。もう 1 つは主要な単語の意味があらかじめ記されており、辞書を引く時間を省いてかなり長い文章を読めるよう工夫されたテキストである。		1. 第 1 回の授業から第 15 回の授業まで、左の「講義概要」で説明している 2 つのタイプのテキストを読み進めていく。 2. 3. 4. なお、これに加えて、学術論文、および詩(歌詞)を講読する時間も設ける。 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15.	
到達目標	「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってスペイン・ラテンアメリカを研究し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業前の予習は必須である。授業を通じてスペイン・ラテンアメリカ圏に関する教養を深めるが、語学力向上の観点からは、授業直後に入念な復習を行うことも強く期待する。		
テキスト、参考文献	担当者が用意し、授業で配布する。		
評価方法	定期試験 40%、授業参加 60%(授業参加とは授業出席率ではない。事前の予習、および授業での疑問点の解決こそが読解力の向上に資するので、試験結果以上に授業での真剣度や上達度を評価することになる)。		

13 年度以降 12 年度以前	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化) スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅲ(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	担当者	倉田 量介
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、スペインとその旧植民地ラテンアメリカのパフォーミングアーツ(音楽・ダンス・演劇)および映像ほか視聴覚メディアを扱います。欧米や日本の事情と比較することで、背景となる社会や時代の諸相を考察します。 この地域の音楽はダンスと一対に様式化されてきたことから、まず身体技法について触れます。クレオールを筆頭に文化混雑がキーワードとなるため、まず個別の構成要素を検討します。グローバルなポピュラー音楽市場に影響を与えたキューバの事例中心です。次にジャマイカのレコード産業やサンバ・ボサノヴァで知られるブラジルに目を向け、ドキュメンタリーを観ながら、クラブカルチャーの源流を探ります。終盤では、ローカルな民俗芸能が舞台に乗り、国民文化として戦略的に広報されていく経緯を追います。流行には40年周期説があり、芸術の多くはサブカルチャーから生じます。ルーツとは何か。学術の視点で議論しましょう。		1. VTR を交えたイントロダクション 2. カリブ海地域キューバの音楽やダンスにみる文化混雑 3. スペイン系弦楽器にみる口頭伝承的な弾き語り 4. アフリカ系太鼓にみるポリリズムとコール&レスポンス 5. フォルクローレと民謡・歌劇・風刺劇の相関関係 6. 民俗文化(芸能)をめぐる身体技法とグローカル化 7. メインストリームとオブジェクティフィケーション(対象化) 8. マス対象の文化産業論と移民社会のマーケティング 9. 世界を席卷するポピュラー音楽と世界で渦巻く対抗文化 10. カット&ミックス, ジャマイカのスカ・レゲエ・ダブ... 11. クラブカルチャーのラップから里帰りのレゲトンへ 12. 音楽大国ブラジルにおけるトロピカリヤや農民の祝宴 13. オルタナティブメディア, クールジャパン, 市場細分化 14. 日本の「大衆演劇」, 創られた「ラテン歌謡」やJ ポップ 15. まとめ	
到達目標	「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってスペイン・ラテンアメリカを研究し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義が軸となるため、特に事前学修は必要ないが、関心を抱いたジャンルや実践者については、事後に自分でPV ほかのコンテンツを検索するなどして、最終レポートの下準備につなげること。		
テキスト、参考文献	適宜プリント配布し、参考書を紹介するが、地域文化的な各論に関しては以下をあげる。石橋純編『中南米の音楽』(東京堂出版, 2010, 978-4490206678)		
評価方法	平常授業の感想紙におけるコメント等の実績および聴講姿勢(35%)と期末レポート(65%)		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（カリブ海域研究） 多文化共生特殊研究Ⅲ（カリブ海域社会の民族関係）	担当者	中村 隆之
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、カリブ海域の歴史・文化・社会について一定の知識を得るとともに、受講者のみなさんがこの地域への関心を深めることを目的とします。 カリブ海にはたくさんの島がありますが、とくにフランス領の島々（マルティニック、グアドループ、ハイチ）や、ジャマイカを題材にして、奴隷制、（新）植民地主義、同化、独立などのテーマについて考える予定です。また、ネグリチュードや、クレオールなどのカリブ海の思想にも触れる予定です。 授業は基本的に講義形式ですが、配布資料の読解や、ディスカッションといった作業も時おりおこなう予定です。		1. オリエンテーション カリブ海の基本情報 2. グローバル・ヒストリーとしてのカリブ海史（１） 3. グローバル・ヒストリーとしてのカリブ海史（２） 4. マルティニック島とグアドループ島について 5. 「海外県」という問題 6. エメ・セゼールとネグリチュード（１） 7. エメ・セゼールとネグリチュード（２） 8. フランツ・ファノンとは誰か 9. クレオール化の思想 10. キンケイド『小さな場所』を読む（１） 11. キンケイド『小さな場所』を読む（２） 12. レゲエと抵抗文化 13. ジャマイカ映画の観賞と分析（１） 14. ジャマイカ映画の観賞と分析（２） 15. まとめと小論文	
到達目標	「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってスペイン・ラテンアメリカを研究し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義で取りあげたり、言及する作品をできるだけ手にとるよう心がけてください。		
テキスト、参考文献	テキストは特になし。参考文献については講義中に紹介します。		
評価方法	各回のリアクションペーパー（６０％）、授業最終週の小論文（４０％）		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	中国研究概論 中国研究入門	担当者	松岡 格
講義目的、講義概要		授業計画	
中国研究および中国語圏理解のために役立つ、基礎的な知識を身につけることを目標とする。 中国人の現代生活と深い関わりを持つ、文化・政治・社会・経済などに関わる諸トピックをとりあげ、関連する中国語キーワードとともに、現代中国への理解への手がかりとする。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また、授業中に小課題の提出を課す。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。		1. ガイダンス 2. 前提知識：中国の近代 1 3. 前提知識：中国の近代 2 4. 生活の知恵：伝統的遊び 5. 生活の知恵：歴史ドラマ 1 6. 生活の知恵：歴史ドラマ 2 7. 中国の海外投資 1 8. 中国の海外投資 2 9. 学園生活 1 10. 学園生活 2 11. 中国の建築 1 12. 中国の建築 2 13. 現代中国社会 1 14. 現代中国社会 2 15. まとめ	
到達目標	中国の歴史、文化、社会、政治、経済等に関する事情について基本的な知識を習得し、これに関して分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。		
テキスト、参考文献	テキストはなし。教材は教員の方で用意します。参考文献については授業内で紹介します。		
評価方法	平常点（授業への参加度等） [30%]、小課題 [70%] を評価対象とする。小課題の全提出を成績評価の必須条件とする。また一定回数以上欠席した学生は成績評価の対象としない。		

13 年度以降 12 年度以前	中国社会学 中国研究Ⅰ（中国社会学論）	担当者	松岡 格
講義目的、講義概要		授業計画	
国家の政策と民衆の生活双方に関わる事物をとりあげて解説し、これを通して現在の中国および中国語圏各地域への理解を深めることを目的とする。 具体的なトピックとして挙げるのは祝祭日、国旗、市民権、国籍、姓名、少数民族の権利、文字などである。どれも国家・民族の象徴と関わる事物であるが、同時に国内に住む全ての人の生活と切り離せない関係にある。こうしたものに対する個々人の距離のとり方、アイデンティティの所在なども視野に入れながら、履修生とともに考えたい。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また、授業中に小課題の提出を課す。授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。		1. ガイダンス 2. 祝祭日 1—台湾の場合 3. 祝祭日 2—現代中国の場合 4. 国旗・国歌 5. 国籍・市民権 1—中国 6. 国籍・市民権 2—台湾 7. 国籍・市民権 3—香港 8. 華僑・華人 1 9. 華僑・華人 2 10. 少数民族の権利 11. 地方各レベルの自治権 12. 国境線・領土権 13. 文字とことば 14. 姓名 15. まとめ	
到達目標	中国社会学の特色や問題などに対する理解を深め、これに関して分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。		
テキスト、参考文献	テキストはなし。教材は教員の方で用意します。参考文献については授業内で紹介します。		
評価方法	平常点（授業への参加度等）〔30%〕、小課題〔70%〕を評価対象とする。小課題の全提出を成績評価の必須条件とする。また一定回数以上欠席した学生は成績評価の対象としない。		

13 年度以降 12 年度以前	現代中国論Ⅰ 中国研究各論Ⅰ（現代中国論 a）	担当者	松岡 格
講義目的、講義概要		授業計画	
中国の現状について理解するために、広州・上海・北京などの主要都市および、東北・内陸・国境地帯の各省について、その地域の特徴（主要な住民の構成、主要産業、地域の歴史など）を解説し、履修者には各地の現状・各地方の生活者に対する理解を深めてもらう。 ある意味で、これまで身につけてきた中国に関する知識を別の角度から総括することになるであろう。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また、授業中に小課題の提出を課す。この小課題は全て提出していない学生は、成績評価の対象としない。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。		1. ガイダンス 2. 広州・深圳と対外貿易 3. 上海と工業・金融 4. 重工業と東北三省 5. 山東省とドイツ 6. 出稼ぎ供給地としての華中地域 7. 革命故地 8. 首都、北京 9. 古都、西安・杭州・南京 10. 四川省と観光 11. 雲南と少数民族 12. 内モンゴルと草原・モンゴル族 13. 新疆ウイグル自治区と中央アジア 14. チベット・チベット族と高原地帯 15. まとめ	
到達目標	現代中国を全体的かつ多角的に捉え、各種の課題について分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。		
テキスト、 参考文献	テキストはなし。教材は教員の方で用意します。参考文献については授業内で紹介します。		
評価方法	平常点（授業への参加度等） [30%]、小課題 [70%] を評価対象とする。小課題の全提出を成績評価の必須条件とする。また一定回数以上欠席した学生は成績評価の対象としない。		

13 年度以降 12 年度以前	現代中国論Ⅱ 中国研究各論Ⅱ（現代中国論 b）	担当者	松岡 格
講義目的、講義概要		授業計画	
現代中国語世界の多様性を理解するための一つの方法として、本授業では民族・エスニシティを主なトピックとしてアプローチを試みる。 広大な面積を擁する中国国内には、多くの民族が暮らしている。本授業では、他の国の多文化共存のあり方と比較しつつ、多民族国家・中国の実態について検討する。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また、授業中に小課題の提出を課す。この小課題は全て提出していない学生は、成績評価の対象としない。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。		1. ガイダンス 2. トン族 1 3. トン族 2 4. ミャオ族 5. ジンポー族 6. タイ族 1 7. タイ族 2 8. 中国の宗教と民族 9. 回族 10. 彝族 11. 客家 12. 多文化主義：アメリカ・カナダ 13. 多文化主義の課題 1 14. 多文化主義の課題 2 15. まとめ	
到達目標	現代中国を全体的かつ多角的に捉え、各種の課題について分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。		
テキスト、参考文献	テキストはなし。教材は教員の方で用意します。参考文献については授業内で紹介します。		
評価方法	平常点（授業への参加度等）〔30%〕、小課題〔70%〕を評価対象とする。小課題の全提出を成績評価の必須条件とする。また一定回数以上欠席した学生は成績評価の対象としない。		

13 年度以降 12 年度以前	中国史Ⅰ 中国研究Ⅲ（中国史 a）	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために、その形成の背景となる中国近代史について講義します。 19 世紀前半、中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000 年間、王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。 清朝国家は体制存続のために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して、当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思います。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。		1. 講義の概要 2. 清朝皇帝支配体制 3. 清朝の科挙と社会 4. 清朝体制下の国際関係 5. アヘン戦争 6. 南京条約と東南沿海地域の秩序再編 7. 太平天国の成立 8. 清朝の反撃と太平天国の滅亡 9. 回民の反乱 10. 洋務運動と洋学の受容 11. 開港場の社会と経済 12. 周辺地域の宗主権の創出 13. 台湾事件と台湾出兵 14. 清仏戦争と台湾の近代化 15. 講義のまとめ	
到達目標	中国の歴史を東アジアの国際関係と結びつけながら深く理解し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	教科書の指定された箇所を事前に精読しておいてください。		
テキスト、 参考文献	教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』（中公文庫 S 22－19）中央公論新社，2008 年。参考文献：授業中に紹介。		
評価方法	平常点 10%，授業への参加度 10%，期末試験 80%		

13 年度以降 12 年度以前	中国史Ⅱ 中国研究Ⅳ（中国史 b）	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために、その形成の背景となる中国近代史について講義します。 日清戦争の敗北によって清朝体制の存続は危機的に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々、さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し、また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどります。 また 19 世紀後半になって「纏足」が問題として認識されるようになった過程について検討し、近代中国の女性の社会状況の変化を理解します。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。		1. 講義の概容 2. 朝鮮をめぐる日中関係（1） 3. 朝鮮をめぐる日中関係（2） 4. 日清戦争 5. 台湾の割譲と台湾住民の抵抗 6. 変法改革 7. 戊戌の政変 8. キリスト教布教と仇教運動 9. 義和団の蜂起 10. 義和団戦争 11. 清末の女性の地位と纏足問題 12. 天足運動の展開 13. 革命派の台頭 14. 光緒新政と地方自治の試み 15. 講義のまとめ	
到達目標	中国の歴史を東アジアの国際関係と結びつけながら深く理解し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の指定された箇所を事前に精読しておいてください。		
テキスト、参考文献	教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』（中公文庫 S 22－19）中央公論新社，2008 年。参考文献：授業中に紹介。		
評価方法	平常点 10％，授業への参加度 10％，期末試験 80％		

13 年度以降 12 年度以前	中国特殊研究（日中交流史） 中国研究各論Ⅲ（日中交流史）	担当者	武信 彰
講義目的、講義概要		授業計画	
日中間の文化交流史においては多くの興味深いことがあるが、2つの時期の状況がとりわけ注目を引く。 唐代においては、日本が食欲に中国から学んだ。まず文字に出会いものを書くことを覚えた。後に仮名も生んだ。 そして、近代において今度は中国が必死に日本から学んだ。日本新漢語が東アジアの国々の言語体系に流れ込み、当然のこととして中国人の日常言語を形成する重要な部分ともなったのである。 中国語を学ぶ日本人の観点から、これを論ずる中国人学者の論文を読み、われわれの学ぶ現代中国語という言語を新たな視点で捉える。 〈隔在中西之间的日本 — 现代汉语中的日语“外来语”问题 —〉（王彬彬，《上海文学》1998年）を読みつつ進行する。		1. オリエンテーション 2. 唐代と近代 双方向の交流 3. 現代中国語に深く根付く日本語由来の外来語 4. 日本の翻訳と中国の翻訳 5. 中国語を通して抽象語彙を翻訳した日本語 6. 近代日本人学者の翻訳方法 7. 訳語の競合と定着 8. 梁啓超と日本新漢語流入の契機（1） 9. 梁啓超と日本新漢語流入の契機（2） 10. 嚴復の不満・反論 11. 欧米の概念をいかに翻訳すべきかの議論 12. 嚴復のスタンスと限界 13. 中国語にとって欧米の概念（1） 14. 中国語にとって欧米の概念（2） 15. まとめ	
到達目標	「中国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって中国を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教材の中文の読解を試み、既習の中文を熟読玩味する		
テキスト、参考文献	適宜プリントを配布。参考文献は適宜紹介。		
評価方法	定期試験 70%，授業への参加度 30%		

13 年度以降 12 年度以前	中国言語文化論 中国研究各論Ⅴ（言語文化論）	担当者	武信 彰
講義目的、講義概要		授業計画	
いわゆる漢字文化圏の一員に数えられる日本は、古代より中国文明の波打ち際でその文化を創り醸成してきた。 「一衣帯水」という微妙な距離をおいての受容と長い交流の中で両言語の関係は実に密でかつまた微妙である。日本語母語話者が中国語を学ぶときに陥る誤解や誤用は、背景の文化に対するそれと同様、独特のものがある。 日本語母語話者の中国語学習においては、この誤解や誤用を生む背景に対する深い理解が欠かせない。		1. オリエンテーション 2. 中国語とは？ 普通话、汉语、华语、国语 漢字文化圏 3. 現代中国語の音韻 4. 華人と中国語の比喻 5. 中国人のコミュニケーションの特色 6. 中国人の「色」 7. ことわざ・歇後語 8. “既成の言い回し” 描写表現 9. 東西南北、右左 10. 日本語母語話者ゆえの誤謬 11. 飲食に関する言葉 12. 中国人の名前・命名 13. 自尊心・コネ社会・宗教 14. 「漢文」の時代の中国語と現代中国語 15. まとめ	
到達目標	中国語とその文化を学ぶための視点を養成し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	今回の内容について思いを巡らせ、既習の内容について咀嚼玩味する		
テキスト、 参考文献	適宜プリントを配布。参考文献は適宜紹介。		
評価方法	定期試験 70%，授業への参加度 30%		

13 年度以降	中国特殊研究（専門講読）	担当者	松岡 格
講義目的、講義概要		授業計画	
さまざまな種類の中国語の文章を読み、中国語の多様な文体と触れることで、実践的な読解力を身につけることを目的とする。 課題となる文章は、エッセイなど教科書では読まないような「生」の文章である。現代中国のいろいろな断面を切り取った内容となっており、文章を通して中国の実情を理解してもらう。意味を推測しながら行間を読む訓練にもなる。 履修者は毎回、指示された文章を読んでくる必要がある。その際には辞書を使って単語を調べるなどの事前学習が必要である。授業の場では、履修者全員を順番で当て、該当箇所を訳してもらう。		1. ガイダンス 2. エッセイ：中国のロック歌手 3. エッセイ：連続テレビドラマ 4. エッセイ：クリスマスについて 5. エッセイ：オーディション番組 6. エッセイ：ハリーポッター 7. 文芸的文章：詩文 1 8. 文芸的文章：詩文 2 9. 文芸的文章：絵本 1 10. 文芸的文章：絵本 2 11. 紀行文：チベット旅行 12. 解説文：電子メディア 13. 解説文：バンザイ・サン＝シモン 1 14. 解説文：バンザイ・サン＝シモン 2 15. まとめ	
到達目標	「中国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって中国を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回事前に教材を渡すので、次回学習する箇所の予習をすること。また授業で学習した部分について、繰り返し読んで練習すること。		
テキスト、参考文献	教材は教員が用意する。毎回の授業で辞書を持参する必要がある。それ以外に用いるものは、授業内で指示する。		
評価方法	平常点（授業への参加度、授業内ノルマ） [60%]、練習成果のテスト[40%]。授業に毎回出席することを前提とするので、一定回数以上欠席した学生は成績評価の対象としない。		

13 年度以降	中国地域論	担当者	松岡 格
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、中国語圏各地域の特徴について深く理解するため、台湾に限って、紹介・検討と行う。これにより、現代中国語世界への理解を深めることを目標とする。 まずは台湾社会を構成する主なエスニシティについて紹介し、歴史・言語・地理環境などについて解説を行う。それらを踏まえて台湾内の社会の変化やその意義についても触れる。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また、授業中に小課題の提出を課す。授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。		1. ガイダンス 2. 現代政治と四大族群 3. 台湾のマジョリティー閩南人 4. 政治的対立の起源—二二八事件について 1 5. 二二八事件について 2 6. マイノリティー先住民と客家 7. 日本史・中国史・先住民史—台湾出兵 8. 日本統治時代のエスニシティ状況 9. 日本史と先住民史の交錯、再び—霧社事件 10. エスニシティと社会運動—先住民 11. エスニシティと社会運動—客家 12. 境界線上の民族 1 13. 境界線上の民族 2 14. ことばと名前を通して日中台の関係を考える 15. まとめ	
到達目標	中国各地域の特色や問題に対する理解を深め、これに関して分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次回の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。		
テキスト、参考文献	教材は教員が用意する。テキストは用いない。参考文献については授業内で指示する。		
評価方法	平常点（授業への参加度等）〔30%〕、小課題〔70%〕を評価対象とする。小課題の全提出を成績評価の必須条件とする。また一定回数以上欠席した学生は成績評価の対象としない。		

13 年度以降 12 年度以前	中国特殊研究（日中比較文化研究 a） 中国特殊研究 I（日中比較文化論 a）	担当者	大澤 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
日本人の見た[中国]、中国人の考えた[日本] 経済・政治などが地球上で均一化していく「グローバル（全球）化」の中で、日本と中国の地域的な対立は世界的にも注目を集めている。「政冷経熱」（政治上は対立するが、経済的には交流が深まる）が「政冷経冷」（政治的にも経済的にも対立する）、更には日中間の「文明の衝突」に向かわないためには、日本と中国との間の文化の違いや日本人と中国人の思考の差異を冷静な目で見る必要があるだろう。卑弥呼の時代の日中交流から、現代の中国人観光客の日本観やネット上の発言まで、「日本人が中国をどう捉えたか」「中国人が日本をどう見たか」を題材に、日中両国の文化を世界的な視点で、歴史の流れの中で比較していく。		1. 「支那」と「小日本」——ネット上に溢れる蔑称 2. 徐福伝説と呉太伯（大陸文化の渡来） 3. 聖徳太子と空海（遣唐使が見た中国） 4. 慈覚大師と浜松中納言（大陸文化からの自立） 5. 武家政権と科举政治（中国化を免れた日本） 6. 「日本国王」と室町文化（日本文化の成立） 7. 「南蛮文化」の渡来と日中衝突（日本文化の拡大） 8. 近松門左衛門と荻生徂来（「聖人君子の国」とは？） 9. 黒船来航とアヘン戦争（高杉晋作の上海渡航） 10. 「文明開化」と「中体西用」（福沢諭吉と梁啓超） 11. 「合わせ鏡」としての日中関係（夏目漱石と魯迅） 12. 「同文同種」の分裂と衝突（横光利一と郭沫若） 13. 「激変中国」と「平和日本」（文化大革命と平和憲法） 14. 台湾・香港・シンガポールの華人が見た日本 15. 「日本文化」と「中国文明」	
到達目標	「中国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって中国を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に高校時代の世界史、日本史の教科書や参考書を授業の時系列に従い読み直す。事後、授業中に書いた小レポートの内容を再吟味する。		
テキスト、参考文献	テキスト：大沢昇著『クジラの文化、竜の文明 日中比較文化論』（集広舎、2015 年） 参考文献：授業中に紹介		
評価方法	授業ごとの小レポート 70%、最終授業の課題レポート 30%		

13 年度以降 12 年度以前	中国特殊研究（日中比較文化研究 b） 中国特殊研究Ⅱ（日中比較文化論 b）	担当者	大澤 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
「竜の文明」と「くじらの文化」 日本人と中国人は、一見するとまったく見分けが付かないほど、顔立ちは似ているが暮らしの上では、大きな違いが散見される。日本では「衣食住」が日常の暮らしに欠かせないものとするが、中国では“衣食住行”と言い、交通手段も人間の生活に於いて必要不可欠なものとする。また家族観や価値観、思考様式でも両文化は異なる点が多い。 19 世紀、「西欧の衝撃」を受けて近代化する過程に於いて、日本では「和魂洋才」から「文明開化」に進んでいったが、中国では“中体西用”と言って欧米文明の「先進性」をなかなか認めようとしなかった。こうした日中文化の違いを、具体的に幅広く見ることで、中国文化を客観的に観察し、日中間の「文明の和解」の一助としたい。		1. 「顔」と「文化」——外見はそっくりだが 2. (国の形) 国号・国旗・国歌の考え方が異なる日中 3. (食)「水の料理」と「火の料理」 4. (政治) 姓のない天皇、姓をもつ皇帝 5. (住)「木の家屋」と「土の城壁」 6. (思考方法)「恥の文化」と「誇り（驕）の文明」 7. (衣)「柄の着物（和服）」と「色の衣服」 8. (価値観)「縮み志向」と「巨大願望」 9. (交通)「歩く文化」と「乗る文明」 10. (死生観) 日本の「幽霊」と中国の「妖怪」 11. (言語表現)「以心伝心」と“討価還価” 12. (芸術) 派手な「浮世絵」と地味な「文人画」 13. (家族) 公儀に対する「忠」と父母に尽くす「孝」 14. (社会)「金太郎アメ」世間と「クモの巣」関係 15. 「クジラの文化」と「竜の文明」（これからの日本と中国——「普遍的な地球文明」か「文明の衝突」か？）	
到達目標	「中国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって中国を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に『クジラの文化、竜の文明』をテーマに従い読む。事後、授業中に書いた小レポートの内容を再吟味する。		
テキスト、参考文献	テキスト：大沢昇著『クジラの文化、竜の文明 日中比較文化論』（集広舎、2015 年） 参考文献：授業中に紹介		
評価方法	授業ごとの小レポート 70%、最終授業の課題レポート 30%		

13 年度以降 12 年度以前	中国特殊研究（中国文学研究 a） 中国特殊研究Ⅲ（中国文学研究古典）	担当者	近藤 光雄
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、中国の代表的な古典文学作品を取り上げます。中国の文学作品に直に触れることによって、中国語の読解力を高め、中国文化への理解を深めることを目指します。 配布された原文を予習し、授業のときに履修者一人一人が翻訳をします。また、適宜担当者を決め、プレゼンをしてもらう予定です。 一部の作品は映像化されているので、春学期の後半に鑑賞する予定です。 学生の興味と語学力のレベルによって、作品を変更することがあります。		1. ガイダンス 2. 古詩十九首より 3. 古詩十九首より 4. 唐詩選より 5. 唐詩選より 6. 唐詩選より 7. 唐宋伝奇『枕中記』 8. 唐宋伝奇『枕中記』 9. 唐宋伝奇『李娃伝』 10. 唐宋伝奇『李娃伝』 11. 唐宋伝奇『李娃伝』 12. 『水滸伝』 13. 『水滸伝』 14. 『水滸伝』 15. まとめ	
到達目標	「中国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって中国を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	本文の意味を理解し、音読できるようにすること。		
テキスト、参考文献	授業中に配布。		
評価方法	授業での翻訳の達成度 40%、レポート 60%		

13 年度以降 12 年度以前	中国特殊研究（中国文学研究 b） 中国特殊研究Ⅳ（中国文学研究現代）	担当者	近藤 光雄
講義目的、講義概要		授業計画	
五四新文化運動前後に、「新詩」が数多く創作された。古典的な詩歌に対峙するなかで生まれた文学ジャンルであるだけに、言語、形式、内容などの面において様々な試みが行われた。詩人たちはいったい、新詩というものを通して、文学の近代化をどのように考え、推し進めていったのだろうか。異なる時代の代表的な新詩を取り上げ、作品を鑑賞ながら、考えたい。 授業の進め方は春学期同様。		1. ガイダンス、中国の新詩について 2. 五四新文化運動前後（～二〇年代）の新詩（1） 3. 五四新文化運動前後（～二〇年代）の新詩（2） 4. 五四新文化運動前後（～二〇年代）の新詩（3） 5. 抗日戦争時期（三〇～四〇年代）の新詩（1） 6. 抗日戦争時期（三〇～四〇年代）の新詩（2） 7. 抗日戦争時期（三〇～四〇年代）の新詩（3） 8. まとめ 9. 中国建国後（五〇～六〇年代）の新詩（1） 10. 中国建国後（五〇～六〇年代）の新詩（2） 11. 中国建国後（五〇～六〇年代）の新詩（3） 12. 文化大革命前後（七〇～八〇年代）の新詩（1） 13. 文化大革命前後（七〇～八〇年代）の新詩（2） 14. 文化大革命前後（七〇～八〇年代）の新詩（3） 15. まとめ	
到達目標	「中国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって中国を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	本文の意味を理解し、音読できるようにすること。		
テキスト、参考文献	授業中に配布。		
評価方法	授業での翻訳の達成度 40%、レポート 60%		

13 年度以降 12 年度以前	韓国研究概論 韓国研究入門	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国研究概論は、文字通り韓国研究に関する概論である。ただ、研究とは個別的なものであり、歴史、語学、文化など、個々人の興味関心によって様々なテーマが考えられる。 そこでこの授業では、韓国に関する研究をする上で知っておくべきことが盛り込まれていること、さらにみなさんが親しみやすいテーマが盛り込まれていることを考慮して、片茂永『韓国の社会と文化』をテキストとした。これには14の論文が収録されており、1 回ごと1 章ずつその内容を見ていくことにする。また、この授業は研究概論であるから、内容を理解すると同時に、論文の構成や参考文献、各種データベースなど、みなさんが将来、論文を書く際の参考となるような部分にも着目していく。 授業の形式は、基本的に講義形式を予想しているが、人数によっては発表を課すことも考えている。参加する人は、毎回の授業前までにテキストを読んでおくこと。そして、内容に関して自分なりの関心をもった分野について調査し考察をするレポートを書く準備をしてほしい。		1. ガイダンス 2. 韓国概観 3. 韓国社会の変化 4. 韓国ポップカルチャーI 5. 韓国ポップカルチャーII 6. 韓国の教育事情 7. 韓国語と日本語から見た韓国人と日本人 8. 韓国の人生儀礼 9. 韓国の年中行事 10. 韓国の食文化 11. 韓国世界遺産の観光商品化 12. 韓国の神話・伝説と昔話 13. 韓国の宗教と巫俗 14. 北朝鮮の教育と文芸 15. まとめ	
到達目標	韓国の様々な事情について基本的な知識を習得したうえで分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習は指定された部分の調査（読書、整理）をしてくること。事後学習はプリントの復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	<テキスト>片茂永『韓国の社会と文化』（岩田書院、2010 年） <参考資料等>授業時に指示する。		
評価方法	授業内レポート、課題レポート（50%）、期末試験（50%） ※ただし、期末試験が 50 点未満の場合は単位を与えない。		

13 年度以降 12 年度以前	韓国社会論Ⅰ 韓国研究各論Ⅰ（韓国社会各論 a）	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
日韓関係が抱える大きな問題の一つに「過去の歴史の清算に関する問題」および「歴史認識問題」がある。ここ10年ほど、インターネットなどでは「右寄り」の「嫌韓」が増えていることはみなさんも感じていると思う。こうした状況の中、私たちはこうした問題をどのように考えていけばよいのか。本講義ではやや「左寄り」とされるであろうテキストを用いながら、それぞれの問題のベースと、それをどのように考えていけばよいのかについて一緒に考えていきたい。この講義は韓国社会論であるが、同時に日本社会論、そして私たち個人の考え方の問題でもある。 授業の進め方は、基本は講義形式で行うが、人数によっては発表をしてもらう場合もある。		1. ガイダンス 2. <嫌韓流>現象を読み解く 1 3. <嫌韓流>現象を読み解く 2 4. 韓国併合は朝鮮人が望んだものか 5. 植民地支配は韓国を豊かにしたか 6. 日本人と韓国人は平等だったか 7. 日本人はハングルを広めたか 8. 創氏改名とは何だったか 9. 朝鮮人強制連行はなかったのか 10. 慰安婦問題 11. 戦後の日韓関係をどのように考えるべきか 12. 日韓条約で植民地支配は清算されたか 13. 竹島問題はどうか考えたらよいか 14. 韓国の「過去清算」はどうなっているのか 15. まとめ	
到達目標	朝鮮半島情勢を含めた、韓国社会をとりまく事象について分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習は指定された部分の調査（読書、整理）をしてくること。事後学習はプリントの復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	<テキスト>田中宏、板垣竜太『日韓新たな始まりのための20章』（岩波書店、2007年）、プリント。 <参考資料等>授業時に指示する。		
評価方法	授業内レポート、課題レポート（50%）、期末試験（50%） ※ただし、期末試験が50点未満の場合は単位を与えない。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	韓国社会論Ⅱ 韓国研究Ⅱ（韓国社会論）	担当者	柳 蓮淑
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、変貌する韓国社会をジェンダーの視点から読み解いていきます。現在の韓国社会を知るために、政治・経済、生活文化に対する基本的な知識だけでなく、韓国社会をとりまく国際的情勢を視野に入れつつ、ヒトや文化の国際移動を引き起こす背景や影響についても焦点を当てます。 講義の前半では韓国社会の「家族」をめぐるさまざまな変化に焦点を当てて論じ、後半には、韓国の市民社会形成の基礎を固めた民主化運動、日本と韓国を中心としたヒトや文化の国際移動に焦点を当てていきます。		1 インTRODakション-講義紹介 2 ジェンダーとはなにか 3 韓国社会を見る目：結婚・家族 4 韓国社会を見る目：教育 5 韓国社会を見る目：労働・経済活動 6 変わりゆく「家族」① - 高齢化社会・韓国 7 変わりゆく「家族」② - 少子化社会・韓国 8 変わりゆく「家族」③ - 「多文化家族」の出現 9 民主化運動・市民社会・ジェンダー① 10 民主化運動・市民社会・ジェンダー② 11 文化の移動とジェンダー① 12 文化の移動とジェンダー② 13 韓国女性の移動からジェンダーを問う① 14 韓国女性の移動からジェンダーを問う② 15 まとめ	
到達目標	朝鮮半島情勢を含めた、韓国社会をとりまく事象について分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献の指定された箇所を精読してください。		
テキスト、参考文献	主な参考文献：柳蓮淑『韓国人女性の国際移動とジェンダー』（明石書店、2013 年） 他の参考文献は授業中に適宜紹介します。		
評価方法	レポート（テスト）70%、授業での発言 20%、その他 10%		

13 年度以降 12 年度以前	韓国史 韓国研究Ⅰ（韓国史）	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
昨今の韓流ブームにより、私たちは韓国に関する情報に触れやすくなった。しかし残念なことに、韓国の歴史については知らないことが多いと思われ。韓国の歴史を知ることは、同時に日本の歴史を知ることでもあり、相互理解にとってとても大事なことである。 このことをふまえ、本講義では韓国（朝鮮半島）の通史を講義する。講義の進め方は、プリントを配布し、それに基づいて話をする。 なお知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充てる。これも成績評価の対象とするので、テキストを持参の上、きちんと授業を聴くこと。		1. ガイダンス 2. 古代から統一新羅へ（1） 3. 古代から統一新羅へ（2） 4. 高麗時代（1） 5. 高麗時代（2） 6. 朝鮮時代（1） 7. 朝鮮時代（2） 8. 朝鮮時代（3） 9. 植民地時代（1） 10. 植民地時代（2） 11. 現代（1）1945 年から 1960 年 12. 現代（2）1960 年から 1980 年 13. 現代（3）1980 年から 2000 年 14. 現代（4）2000 年以後 15. まとめ	
到達目標	古代から現代に至る韓国（朝鮮半島）の歴史を理解したうえで、各種の現代的課題について分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習は指定された部分の調査（読書、整理）をしていくこと。事後学習はプリントの復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	＜テキスト＞水野俊平著『韓国の歴史』（河出書房新社、2007 年、1800 円）。 参考文献は授業時に指示する。		
評価方法	授業冒頭に行う小テスト（30%）、小レポート（20%）、期末試験（50%）。 ※ただし、期末試験が 50 点未満の場合は単位を与えません。		

13 年度以降 12 年度以前	日韓比較文化論 韓国特殊研究Ⅰ（日韓比較文化論 a）	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
私達は、異文化を語る際、無意識のうちに、自分の属している社会や文化を念頭において同質性と異質性を語っている。しかしながら、とりわけ韓国の文化を語る際、表面的な同質性にとらわれがちになってしまい、「文化比較」がきちんと行われない場合が多い。本講座ではこのような点をふまえ、日韓の文化比較を行う際の基本的な事項を学んでいく。具体的には、家族、村落、祭儀、信仰、食文化などに関する日韓比較の理解を目標とし、授業の最後に各自で身近なテーマを決めて「日韓文化比較」を行うことを課題とする。積極的に取り組むことを期待したい。 ●参加型授業による人数制限をする。(50 名まで) ◎注意：テーマごとにグループ分けし話し合う場を設け発表する形式を取る。極力 1 回目の授業から出席すること。		1. 日韓比較文化講義の概要 2. 韓日の建国神話 3. 韓日の国土構造 4. 韓日の村落 5. 韓日の産育習俗 6. 韓日の歳時風俗 7. 韓日の祭祀風習 8. 韓日の民俗信仰 9. 韓日の家族 10. 韓日の食文化 11. 韓日の食事の作法 12. 韓日の住生活 13. 韓日の服飾 14. 韓日の伝統遊び 15. まとめ	
到達目標	日韓の文化の相違点を理解し、これについて比較分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回講義についてコメントペーパーを書いてください。講義の資料を精読してください。		
テキスト、参考文献	テキスト：適宣プリントを配布する。 参考文献：授業中に紹介する。		
評価方法	授業への参加度 40%、課題レポート 60%		

13 年度以降 12 年度以前	日韓比較教育論 韓国特殊研究Ⅱ（日韓比較文化論 b）	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、韓国の学校教育に関して基礎的な情報を得、韓国社会を理解する一助とすることを目的とする。またこれを通して日本社会や学校教育を再検討する機会となることもまた、目的のひとつである。 具体的には、歴史、教育熱、改革、多様性と 4 つのトピックをさらに 2 ～ 3 回に分けて講義する。講義形式を中心とするが DVD などの資料を活用したり、授業レポートなどを活用して双方向型の方法も部分的に取り入れる。 内容としては初中等教育（日本での小学校・中学校・高等学校段階）の学校や教育制度を主な対象とする。また韓国の状況や制度を解説するだけでなく、必要に応じて日本の制度も説明し、比較しながら検討していきたいと考えている。		1. ガイダンス 2. 歴史（1）植民地支配期まで 3. 歴史（2）「解放」後から現在まで 4. 歴史（3）現行システムの概要 5. 教育熱（1）メディアから見る教育熱 6. 教育熱（2）受験と早期留学 7. 教育熱（3）要因は何か 8. 改革（1）学校運営委員会 9. 改革（2）教育自治と教育監督選挙 10. 改革（3）改革の効果と意味 11. 多様性（1）メディアから見る代案学校 12. 多様性（2）代案学校 13. 多様性（3）異文化を受け入れる学校教育 14. 多様性（4）少年少女家長と教育福祉 15. まとめ	
到達目標	日韓の教育政策や教育文化の相違点を理解し、これについて比較分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	必要文献を事前に読んでくこと、講義後に授業レポートシステムを利用してまとめをすることなど。		
テキスト、参考文献	各回の講義後に指示する。		
評価方法	発言・質問など授業への積極的な貢献（20％）、授業レポート（30％）、学期末レポート（50％）を評価の対象にする。		

13 年度以降 12 年度以前	日韓交流史 韓国研究各論Ⅲ（日韓交流史）	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
日本と朝鮮半島の間では、古くからさまざまな面での交流が行われてきており、両地域は政治・経済的にばかりでなく、社会・文化的にも密接な関係にあるといえる。本講座では、古代から近現代に至るまでの両地域間における交流の歴史を概観する。その際、抽象的な議論に終始しないよう、具体的な「出来事」を中心に講義を進めていく予定である。また、その過程における双方への「まなざし」（あるいは相互認識）のあり方やその変化についても焦点を当てていく。		1. ガイダンス 2. 韓国の歴史の流れ 3. 王仁博士と漢文 4. 日本の中の百済文化 5. 高麗時代の社会状況 6. 『三国史記』と『三国遺事』 7. 室町時代の朝鮮通信史 8. 江戸時代の朝鮮通信史 9. 豊臣秀吉と李舜臣 10. 申叔舟と雨森芳洲 11. 安重根と伊藤博文 12. 日韓併合の政策 13. 日韓併合(実施) 14. 浅川巧と韓国 15. まとめ	
到達目標	日韓の交流と歴史について相互に認識し、その相違点について分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	毎回講義についてコメントペーパーを書いてください。講義の資料を精読してください。		
テキスト、 参考文献	テキスト：レジュメを配布する。 参考文献： 授業時に紹介する。		
評価方法	授業への参加度 30%、期末レポート 70%		

13 年度以降 12 年度以前	韓国特殊研究（韓国政治論） 韓国研究各論Ⅳ（韓国文化各論 a）	担当者	呉 吉煥（オ・ギルハン）
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、韓国の政治と政治史についての基礎的な知識を習得して、朝鮮半島の政治に対する理解を深めることが目的である。 韓国政治の理解には、朝鮮半島における政治文化の形成・展開を検討することがとりわけ重要である。政治文化とは、政治のあり方を規定するイデオロギー、伝統、観念、信仰、ルールなどの政治過程に関わる一切の文化のことで、朝鮮半島においてはそれが近代以後に大きく変貌したとされる。だがその根幹となるものはすでに前近代に形成されており、政治文化の正確な把握には、前近代朝鮮の政治の展開過程を検討することが重要である。 講義では、朝鮮半島の政治を前近代から時代順に概観しつつ、各時期における政治の様子と政治文化の特徴を明らかにしていく。		1. ガイダンス、韓国政治史の時期区分 2. 高麗の建国と展開 3. 支配体制の変動と高麗の滅亡 4. 朝鮮王朝の成立と両班支配体制の確立 5. 両班支配体制の展開と再編 6. 開国と近代社会の形成 7. 大韓帝国と植民地化 8. 日本の植民地時期 9. 米軍政と「分断体制」の成立（第1共和国） 10. 「4.19 学生革命」と第2共和国 11. 「5.16 軍事クーデタ」と軍事政権（第3共和国） 12. 「維新憲法」と軍事政権の独裁化（第4共和国） 13. 「新軍部」の登場と「光州民主化運動」（第5共和国） 14. 民主化と第6共和国の成立 15. まとめ	
到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習として、朝鮮半島の歴史や政治に関する概説書を読んで置くことが望ましい。		
テキスト、参考文献	テキストは特に指定しない。毎回プリントを配布して授業を進める。参考文献については、初回の授業時に紹介する。		
評価方法	授業への参加度（授業態度、コメントペーパーの内容など）：50％、期末試験：50％		

13 年度以降 12 年度以前	韓国研究情報収集法 韓国研究情報収集法	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座は、実際にどのように韓国研究を行っていくのか、その方法論を理解することを目的とした、演習形式の講義である。韓国研究を行う際の研究課題設定の方法から、資料収集法、現地調査の方法、研究成果のまとめ方、そして研究成果の発表までを、総合的に学んでいく。3－4名のグループをつくり、グループ毎に研究テーマを決めて研究を行い、最終的には研究成果を発表してもらう。履修者にはグループ研究への積極的な取組と発表においても質疑応答の積極的な参加を期待したい。 ＊韓国語を理解する者に限る。 注意：はじめの授業で演習のグループ分け、発表担当者と担当日を決めるので必ず出席すること。欠席は遠慮し極力1回目の授業から出席すること。		1. ガイダンス 2. 各自発表する方法を選び、発表日程決定 3. ハングルのタイピング練習① 4. ハングルのタイピング練習② 5. ハングルのタイピング練習③ 6. ハングルのタイピング練習④ 7. インターネット検索 8. インターネット検索 9. 調査発表① 10. 調査発表② 11. 調査発表③ 12. 調査発表④ 13. 現地調査発表① 14. 現地調査発表② 15. まとめ 注意：「現地調査」は、授業時間以外にフィールドワークを必須とする。	
到達目標	韓国研究に必要な情報を実際に収集・整理して、発表できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ハングルのタイピングしたものを毎回提出してください。グループ分けし発表日程が決まったら、研究テーマ、資料収集方法、調査方法等について毎回相談してください。		
テキスト、参考文献	テキスト：適宣プリントを配布する。 参考文献：授業中に紹介する。		
評価方法	授業への参加度 40%、課題レポート 60%		

13 年度以降	韓国特殊研究（韓国小説の世界）	担当者	沈 元燮
講義目的、講義概要		授業計画	
—小説で分かる韓国人と韓国社会（講義目標） 小説は一国の文化を、最も洗練で正確な言語で描き出す言語芸術である。本講座は、映画版韓国小説の学習を通して、韓国現代史や文化、韓国人のコミュニケーション・スタイルに対する理解を深めることを目標としている。 （講義概要） 1）映画版の韓国小説を通して、激動の韓国現代史の流れや韓国文化、韓国人の心理、コミュニケーション・スタイルを経験する。 2）各作品に関する感想を交換し、討論する過程を通して、韓国史や文化に関する議論の経験を蓄積する。 3）青春期の男女の愛情心理を描いた作品「若いケヤキ」の講読に挑み、韓国現代小説の文体を味わう。		1. 2000 年代の青少年文化―「狼の誘惑」 1 鑑賞 2. 「狼の誘惑」鑑賞 2―意見交換 3. 映像でみる韓国現代史名場面 4. 激動期の韓国家族史「国際市場」 1 5. 「国際市場」 2、意見交換 6. 貧困層と外国人労働者―「ウアンドギ」 1 7. 「ウアンドギ」鑑賞 2、意見交換 8. 中間まとめ 9. 韓国人の死生観とコミュニケーション―「祝祭」 1 10. 「祝祭」 2、意見交換 11. 生き方の問題「風の丘を越えて」 1 12. 「風の丘を越えて」 2、意見交換 13. 小説「若いケヤキ」講読 1 14. 小説「若いケヤキ」講読 2 15. まとめ	
到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各作品のテーマや社会的背景に関する事前調査をしてから鑑賞に臨んでください。 A4、1 枚の中に自分の意見を効果的に記述できる方法を研究してください。		
テキスト、参考文献	プリント配布		
評価方法	感想文（A4 1 枚） 4 回 4 0 %、授業での発言 1 0 %、期末テスト 5 0 %、		

13 年度以降	韓国特殊研究（韓国詩の世界）	担当者	沈 元燮
講義目的、講義概要		授業計画	
（講義目標） —「詩や K・POP で覚える韓国語中級の世界」— 韓国は、詩集が大量に出版され、読まれている国である。歌を楽しむ文化も同じである。韓国の「詩と歌」を勉強することは、韓国人の精神世界や生き方を理解するに必要な近道の一つである。本講座では長い間韓国人に親しまれてきた近・現代詩（K・POP を含め）の鑑賞・講読を通じて、韓国理解を深める一方、中級韓国語の実践例を経験することを目的とする。 （講義概要） 韓国人に広く愛されている近・現代詩（歌謡、K・POP の歌詞を含む）の中から、比較的に理解しやすいテキストを選び、テーマごとに講読を行う。重要な文型、語尾などは集中的に応用練習を行う。フオークソング、K・POP などに作曲されている作品は動画鑑賞を並行する。		1. 「アリラン」でみる韓国人、「母さんよ・姉さんよ」 2. 恨：金素月「つつじの花」 3. 知恵：韓竜雲「服従」、徐廷柱「菊の花の傍で」 4. 自分：尹東柱「序詩」・「星を数える夜」 5. 人間：金春洙「花」 6. 生命：無名の少女「一日は白い白紙」 7. 知恵 2：羅泰柱「草花」・「草花 3」・「幸福 2」 8. 中間テスト 9. 金世花「涙で書いた手紙」・「私の歌に翼があるなら」 10. 尹鐘信「蘇り」、張ナラ「祈り」 11. 李文世「光化門恋歌」、キュヒョン「光化門で」 12. リクエスト K・POP 歌詞 1 13. リクエスト K・POP 歌詞 2 14. リクエスト K・POP 歌詞 3 15. まとめ	
到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各作品の語彙・文型などを事前に予習し、疑問点を自らチェックしてから授業に臨んでください。 学習した文型を応用し、自分の日常生活を反映した例文を作ってください。		
テキスト、参考文献	『詩や歌で覚える実践韓国語中級』冊子。（授業中に配布）		
評価方法	作品の暗記（５篇）３０％、筆記テスト 60％、授業参加度 1０％		

13 年度以降	韓国特殊研究（韓国文学史）	担当者	沈 元燮
講義目的、講義概要		授業計画	
（講義目的） 文学とは、その国の文化の核心を集約した言語芸術である。本講座は、韓国文学史を代表する作品を、各時代の思想や世界観を中心に考察することを通して、韓国の原風景を巨視的に把握しようとする韓国研究企画の一つである。 （講義概要） 1) 前近代：古代から三国時代、高麗、朝鮮時代に至る文学の流れを世界観を中心に考察する。庶民芸術で、韓国人の愛情心理の原型をなしている「春香伝」は映画で鑑賞する。 2) 近現代：近代国民国家作りが殖民地化とともに進行されざるをえなかった近代文学の特殊性を把握した上で、植民地時代、経済発展期、新自由主義時代を生き抜く韓国文学の流れを代表作を通じて考察する。		1. 文学とは何か、世界文学の流れ 2. 建国神話、古歌謡 3. 新羅の歌と仏教説話 4. 高麗の流行歌 5. 朝鮮時代の詩と歌 6. 朝鮮時代の小説：映画「春香伝」鑑賞 1 7. 映画「春香伝」鑑賞 2 8. 中間テスト 9. 韓国近代史：最初の近代小説「無情」 10. 植民地体験とは：「万歳前」「蕎麦の花咲くころ」など 11. 韓国の近代詩「つつじの花」「服従」 12. 青年尹東柱の生涯と詩：「序詩」 13. 産業化の影：映画「三浦へ通ずる道」 14. ネット文学：映画「オオカミの誘惑」「猟奇的な彼女」 15. まとめ （＊場合によって差し替えの可能性あります）	
到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ネット検索などを通して、各テキストに関する事前調査を行ってください。 授業後にポイントとなるところを文章として整理し、記述式の問題の出題に備えてください。		
テキスト、参考文献	沈元燮編、『1 冊で読む韓国文学テキスト』（冊子）配布		
評価方法	中間・期末テスト：70%、課題 15%、授業への参加度：15%		

13 年度以降 12 年度以前	韓国特殊研究（専門講読） 韓国特殊研究Ⅲ（文献読解）	担当者	沈 元燮
講義目的、講義概要		授業計画	
（講義目的） 卒業論文の作成や就業のための自己紹介文の作成など、より専門的で実用的な目的遂行のための上級読解能力の培養を目標にする。 （講義概要） 1）韓国の大手企業への就業に成功した志願者の自己紹介文を講読し、各々紹介文を作成してみる。 2）卒業論文の作成の際、参考文献として読むことになる韓国の専門書籍や論文を講読する。		1. オリエンテーション、就業者の自己紹介文 1 2. 就業者の自己紹介文 2 3. 日・韓比較言語学関連論文の講読 1 4. 日・韓比較言語学関連論文の講読 2 5. 日・韓比較言語学関連論文の講読 3 6. 韓国映画関連論文の講読 1 7. 韓国映画関連論文の講読 2 8. 韓国映画関連論文の講読 3 9. <中間テスト> 10. 韓国大衆文化関連論文の講読 1 11. 韓国大衆文化関連論文の講読 2 12. 韓国大衆文化関連論文の講読 3 13. 韓国短編小説の講読 1 14. 韓国短編小説の講読 2 15. <まとめ> （*場合によって差し替えの可能性あります）	
到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	速い速度で講読を行います。必ず事前予習をし、疑問点をチェックしてから授業に臨んでください。 新たにでた語彙、文型などを生かし、自主的に作文練習を行ってください。		
テキスト、参考文献	『韓国語専門講読テキスト』（冊子）授業中に配布予定		
評価方法	朗読 20%、筆記テスト 70%、授業への参加度 10%		

13 年度以降 12 年度以前	韓国特殊研究（韓国前近代史） 韓国研究各論Ⅵ（韓国文化各論 c）	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国を理解するためには、その歴史を知る必要がある。とくに朝鮮時代は、現在の韓国文化の基盤となっていると同時に、韓国人の習慣や考え方の基礎となっている。本講義では韓国の前近代史、とくに朝鮮時代を講義することにより、その知識を得、韓国の歴史、文化に対する理解を深めることを目標とする。 講義ではガイダンスのあと、歴史と地理を概観した後に、国王と王妃、王朝の組織などを解説し、食事、服飾、建築などを各論に入る。テキストとプリントに基づいて講義をする。講義に関連した映像教材もたくさん紹介する予定である。 なお知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充て、さらに翌週の冒頭には小テストを行う。 なお人数によっては課題レポートの作成と発表を行うこともある。		1. ガイダンス 2. 歴史と地理（1） 3. 歴史と地理（2） 4. 歴史と地理（3） 5. 国王と王妃 6. 朝鮮王朝の組織 7. 服飾 8. 食事 9. 建築 10. 芸能・音楽（1） 11. 芸能・音楽（2） 12. 美術（1） 13. 美術（2） 14. 世界遺産 15. まとめ	
到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習は指定された部分の調査（読書、整理）をしてくること。事後学習はプリントの復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	<テキスト>橋洗次、姜基洪『朝鮮王朝 500 年の秘密』（二見書房） <参考資料等>授業時に指示する。		
評価方法	授業内レポート、課題レポート（50%）、期末試験（50%） ※ただし、期末試験が 50 点未満の場合は単位を与えない。		

13 年度以降 12 年度以前	韓国特殊研究（韓国の宗教） 韓国研究各論Ⅴ（韓国文化各論 b）	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国と日本は隣国で似ている点も多いが異なる点も多くあります。宗教もその一つで、宗教分布や宗教と人々との関係など、日本と大きく異なっています。本講義では、こうした韓国の宗教状況とそれに関する問題点を理解することにより、韓国社会に対する理解を深めることを目標とします。 本講義では、最初に総論として韓国宗教の構造を提示した後、各論として民間信仰、仏教、儒教、キリスト教に分けて講義を行う。講義の方法はプリントを配布し、それに基づいて話をする。また講義に関連した映像教材もたくさん紹介する予定である。なお知識を定着させるため、授業の最後の 15 分を小レポート作成に充て、さらに翌週の冒頭には小テストを行う。		1. ガイダンス 2. 韓国宗教の構造 3. 民間信仰 4. 仏教（1）仏教略史 5. 仏教（2）仏教概要 6. 仏教（3）韓国史の中での仏教 7. 仏教（4）現代韓国の中の仏教 8. 儒教（1）儒教略史 9. 儒教（2）韓国史の中の儒教 10. 儒教（3）現代韓国の中の儒教 11. キリスト教（1）キリスト教略史 12. キリスト教（2）韓国史の中でのキリスト教 13. キリスト教（3）現代韓国のキリスト教 14. 現代韓国と宗教 15. まとめ	
到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習は指定された部分の調査（読書、整理）をしてくる。事後学習はプリントの復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	＜テキスト＞プリントを使用。参考文献は授業中に指示。 参考文献は授業中に紹介する。		
評価方法	授業冒頭に行う小テスト（30%）、小レポート（20%）、期末試験（50%）。 ※ただし、期末試験が 50 点未満の場合は単位を与えません。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	韓国特殊研究（韓国の言語文化） 韓国研究Ⅲ（韓国の言語文化）	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、韓国語の文法体系をより深く勉強していく受講生は、テキストの内容を理解し、韓国語についてテーマを決め、グループでプレゼンテーションを行う。 毎回精読の上、サマリーを必ずやってくること。		1. 全体ガイダンス、テキストの紹介 2. 第 1 章 総論 3. 第 2 章 文字 4. 第 3 章 音韻 5. 第 4 章① 単語と品詞 6. 第 4 章② 造語と借用語 7. 第 5 章① 文構造① 8. 第 5 章② 文構造② 9. 第 5 章③ 文構造③ 10. 第 6 章 敬語法 11. 中間テスト 12. プレゼンテーション発表 13. プレゼンテーション発表 14. プレゼンテーション発表 15. プレゼンテーション発表	
到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、 参考文献	李翊燮他『韓国語概説』大修館書店 油谷幸利『日韓対照言語学入門』		
評価方法	中間テスト、プレゼンテーション発表、サマリー提出		

13 年度以降 12 年度以前	日本研究概論 I 日本研究Ⅶ（日本文化論）	担当者	宇津木 言行
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では日本研究の入門を目的とし、日本文化の各分野からトピックとなるような研究業績・課題を紹介します。 具体的には、歴史・民俗・宗教・美術・芸能・映画・マンガについて取り上げ、日本文化に関心を持つ学生が備えておきたい知識・教養を幅広くかつ興味深く概観します。 授業を通して、日本文化の豊かさを様々な切り口から窺い知ることになります。		1. 講義の概要 2. 網野善彦の歴史学 1 3. 網野善彦の歴史学 2 4. 柳田国男の民俗学 1 5. 柳田国男の民俗学 2 6. 折口信夫の民俗学 7. 仏教—法華経 8. 仏教と文学—宮澤賢治 9. 絵巻物の時空 10. 能 11. 黒澤明の映画 12. 民俗芸能 13. マンガの引用学 14. 戦後少女マンガ史 15. 講義のまとめ	
到達目標	日本研究の各分野における基本的な研究業績・課題を理解のうえ、これについて分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	題材についての予備知識の仕入れと、授業で紹介する参考文献の読書を勧める。		
テキスト、参考文献	テキストは用いず、毎回プリントを配布。参考文献は授業中に紹介。		
評価方法	定期試験 80%、授業への参加度 20%。		

13 年度以降	日本研究概論Ⅱ	担当者	生田 守
講義目的、講義概要		授業計画	
日本語・日本人・日本文化について、トピックごとに研究や課題を紹介し、日本研究の視点を涵養する。 日本語は世界言語の中で、どんな位置を占め、どんな特徴を持っているかを、従来言われてきたことと照らし合わせて検討する。 日本人・文化論については、代表的な論を紹介しながら、トピックごと授業を進める。 ※右授業計画詳細については、変更の可能性もある。 講義のはじめに詳細を紹介する予定である。		1. 講義概要 2. 日本語とはどんな言語か 3. 日本語の特徴 (1) 4. 日本語の特徴 (2) 5. 文法的特質(1)統語論 6. 文法的特質(2)時間 7. 文法的特質(3)待遇表現 8. 日本人・文化論(1)日本人の異文化観 9. 日本人・文化論(2)コミュニケーションスタイル 10. 日本人・文化論(3)社会と文化 11. 日本人・文化論(4)美意識 12. 日本人・文化論(5)伝統芸能 13. 日本人・文化論(6)空間論 14. 日本人・文化論(7)共文化 15. 総括	
到達目標	日本研究の各分野における基本的な研究業績・課題を理解のうえ、これについて分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	出された課題は翌週提出のこと。		
テキスト、参考文献	特定のテキストは使用しない。参考文献については授業中に触れる。		
評価方法	レポート 50% (3 回程度)、試験 50%		

13 年度以降 12 年度以前	日本文学論・古代Ⅰ 日本研究Ⅰ（日本文学古典）	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
奈良時代の文学・及び宮崎駿監督「もののけ姫」を取り扱いながら、以下の能力の習得を目指す。 ①神話とは何かを説明できる。 ②世界各地に類似する神話が分布する理由が説明できる。 ③ヤマタノオロチ退治神話について、神話的な意味を説明できる。 ④近代と前近代の「神殺し」の違いについて説明できる。 ⑤近代と前近代の労働観の違いについて説明することができる。 ⑥「もののけ姫」と環境思想との関わりについて説明することができる。		1. 神話とは何か 2. ペルセウス・アンドロメダ型神話について 3. 日本人遙かな旅 4. 同時発生説・伝播説 5. エリアーデの神話論 6. バルトの神話作用 7. ヤマタノオロチ退治神話の意味 8. 日本神話ともののけ姫 9. アシタカの神殺し 10. エボシのタタラ場の近代性 11. 前近代と近代の労働観 12. エボシの神殺しと近代合理主義 13. ギルガメシュ叙事詩ともののけ姫 14. もののけ姫と環境思想 15. まとめ	
到達目標	古代日本文学の研究作法を習得し、背景を捉えながら作者・作品を分析・鑑賞、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修 指定された予習課題を提出する。 事後学修 指定された様式に基づいて授業の内容を振り返る。		
テキスト、参考文献	プリントを配布		
評価方法	試験（持ち込み不可）。最終授業時に実施。 試験：70% 授業への積極的参加：30%		

13 年度以降	日本文学論・古代Ⅱ	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
奈良・平安時代の文学及び宮崎駿監督「千と千尋の神隠し」を取り扱いながら、以下の能力の習得を目指す。 ①原質神話の基本的な構成を説明することができる。 ②主人公の特徴として、「越境性」「非対称性」の概念を説明することができる。 ③根の国訪問神話の構成・登場人物の役割について、原質神話のフレームによって説明することができる。 ④伊勢物語の主人公「昔男」の二つの罪を、非対称性の観点から説明することができる。 ⑤源氏物語第一部の構成・登場人物の役割について、原質神話のフレームによって説明することができる。 ⑥「千と千尋の神隠し」のカオナシの役割について、移行対象の観点から説明することができる。		1. 原質神話とは何か 2. 根の国訪問神話 3. 主人公の特徴 4. 魔女の宅急便と原質神話 5. 在原業平の犯した二つの罪 6. 業平像の変容 7. 源氏物語第一部のあらすじ 8. 須磨・明石の巻と原質神話 9. 桐壺帝と父親との対決 10. 千尋の越境生・非対称性 11. 援助者としてのハク・カオナシ 12. カオナシと貨幣 13. カオナシと移行対象 14. ヒーローとヒロインの飛翔 15. まとめ	
到達目標	古代日本文学の研究作法を習得し、背景を捉えながら作者・作品を分析・鑑賞、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修 指定された予習課題を提出する。 事後学修 指定された様式に基づいて授業の内容を振り返る。		
テキスト、参考文献	プリントを配布		
評価方法	試験（持ち込み不可）。最終授業時に実施。 試験：70% 授業への積極的参加：30%		

13 年度以降	日本文学論・中世 I	担当者	城崎 陽子
講義目的、講義概要		授業計画	
古今集の世界—中世和歌文学史と古今伝授— わが国の勅撰集の第一にあげられる『古今和歌集』は、後代にわたって「注釈」されつつ、さらには「本説」と呼ばれる歌に関するエピソードなどを伴って享受されています。 本講義では、『古今和歌集』に関する様々な「注釈」や「古今伝授」と呼ばれる学習パターンが盛んとなる中世期から近世期にかけての和歌文学史の様態をいくつかの文献を読み解き、中世から近世にかけての和歌文学史の流れを理解することを講義の目的とします。		1. ガイダンス—勅撰集とは・八代集の成立— 2. 古今集仮名序の世界—『古今和歌集』仮名序を読む— 3. 『古今和歌集』の注釈—その 1・『俊頼髓脳』— 4. 『古今和歌集』の注釈—その 2・『奥義抄』— 5. 『古今和歌集』の注釈—その 3・『古今集注』— 6. 六条藤家の登場—柿本人麿影供— 7. 御子左家の登場—藤原俊成『古来風体抄』— 8. 藤原定家—『顕注密勘』— 9. 御子左家の分裂—二条家・『六卷抄』— 10. 二条家の流れを汲む—頓阿・『頓阿序注』 11. 反御子左家の誕生—為顕流・『古今和歌集聞書三流抄』 12. 為顕流からの展開—謡曲への影響— 13. 古今伝授の世界—その 1・御所伝授の成立— 14. 古今伝授の世界—その 2・地下伝授への展開— 15. まとめ	
到達目標	中世日本文学の研究作法を習得し、背景を捉えながら作者・作品を分析・鑑賞し、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習として、提示される課題に取り組んでください。		
テキスト、参考文献	テキスト：特に定めず、適宜プリントを配布します。 参考文献：授業中に紹介します。		
評価方法	授業時試験 70%、課題を含めた授業への参加度 30%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降	日本文学論・中世Ⅱ	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：お伽草子に見る中世日本人の想像力を考えることで現代日本文化の淵源を探る。 講義概要：鎌倉時代以降、日本人の庶民の想像力が解放されて爆発的に様々な「お話」が記録されるようになった。それらを総称して「お伽草子」と呼ぶ。 現在「昔話」として語られる「お話」のほとんどは、「お伽草子」に淵源していると言っても過言ではない。つまりそれは、現代日本人の発想の根源の大きな一つが「お伽草子」にあるということである。 今期はいかにも中世らしい雰囲気を感じず『諏訪明神縁起』（甲賀三郎の物語）を読み解いていくことでそれらを確認する。		1. オリエンテーション・導入 2. 概説①（日本の「お話」の歴史） 3. 概説②（「お伽草子」とは何か？） 4. 概説③（説話と「お伽草子」） 5. 講読①『諏訪明神縁起』 6. 講読②『諏訪明神縁起』 7. 講読③『諏訪明神縁起』 8. 講読④『諏訪明神縁起』 9. 講読⑤『諏訪明神縁起』 10. 講読⑥『諏訪明神縁起』 11. 講読⑦『諏訪明神縁起』 12. 講読⑧『諏訪明神縁起』 13. 講読⑨『諏訪明神縁起』 14. 講読⑩『諏訪明神縁起』 15. まとめ	
到達目標	中世日本文学の研究作法を習得し、背景を捉えながら作者・作品を分析・鑑賞、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：テキストを読んでくること。 事後学修：講義の重点を確認しておくこと。		
テキスト、参考文献	テキスト：授業時にプリントを配布する。 参考文献：授業中に一覧をプリントして配布する。		
評価方法	学期末に、記述式（短答記述・論述を含む）の試験を実施する。その成績による。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降	日本文学論・近現代Ⅰ	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。テーマに応じて日本の古典文学や文学思潮まで幅広く言及し、日本文学の奥深さと楽しさを味わい、恐怖の構造の理解まで到達させる。		1. 恐怖の現代文学のアウトライ 2. ①伝統的手法による恐怖の造形 荒俣宏「帝都物語」 3. ② 同上 京極夏彦「魍魎の匣」 4. ③ 同上 坂東眞砂子「死国」 5. ①超自然的現象からの造形 「二重螺旋の悪魔」 6. ② 同上 鈴木光司「リング」 7. ③ 同上 瀬名秀明「パラサイトイヴ」 8. ①心理学的な題材からの造形 9. ② 同上 貴志祐介「黒い家」 10. ③ 同上 桐野夏生「OUT」 11. ①社会派ミステリーの造形 宮部みゆき「模倣犯」 12. ② 同上 東野圭吾「容疑者Xの献身」 13. ①原作を映像で見る 14. ② 同上 15. まとめ（総集編）	
到達目標	近現代日本文学の研究作法を習得し、背景を捉えながら作者・作品を分析・鑑賞、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	シラバス及び前授業で予告した作品を読み、授業に備え、事後は、恐怖も構造を整理して、まとめておく。		
テキスト、参考文献	その都度紹介する。		
評価方法	授業時レポート 20%。定期試験レポート 80%。		

13 年度以降 12 年度以前	日本文学論・近現代Ⅱ 日本研究Ⅱ（日本文学現代）	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察し、現代文学思潮論まで理解させる。 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。「癒しの現代文学」と題して、癒しややさしさを扱った作品をブックレビューし、その本質に迫り、癒しの構造を分析する。		1. ガイダンス 2. ①人間関係からの癒し 重松清「ビタミンF」 3. ② 同上 恩田陸「夜のピクニック」 4. ③ 同上 佐藤多佳子「一瞬の風になれ」 5. ①時間からの救い 浅田次郎「地下鉄に乗って」 6. ② 同上 北村薫「スキップ」 7. ③ 同上 佐藤正午「Y」 8. ①笑いの持つ救い 奥田英朗「インザプール」 9. ② 同上 佐藤多佳子「しゃべれどもしゃべれども」 10. ①美しい生き方 藤沢周平、司馬遼太郎、池波正太郎 11. ② 同上 有川浩「阪急電車」 12. ③ 同上 天童荒太「悼む人」 13. ①原作を映像で見る 14. ② 同上 15. まとめ（総集編）	
到達目標	近現代日本文学の研究作法を習得し、背景を捉えながら作者・作品を分析・鑑賞、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	シラバス及び前授業で予告した作品を読み、授業に備え、事後は、恐怖も構造を整理して、まとめておく。		
テキスト、参考文献	その都度紹介する。		
評価方法	授業時レポート 20%。定期試験レポート 80%。		

13 年度以降 12 年度以前	民俗学 日本特殊研究Ⅰ（民俗学）	担当者	林 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちの生活は、先祖から受け継がれることで成り立っている。その受け継がれてきた心意や価値観を解明するのが民俗学である。そのため民俗学は過去の問題を研究するものではなく、継承されてきたものが、現在にどのようにつながり、現在の我々の生活の意味を探ることを目的とする。この研究は我々の現在の「存在」の在り方を探求する上でとても大事なことである。特にグローバル化された世界の中で、自分は何者であるのかを知ることが、相手を知ることにつながるためである。 本講義では民俗学が研究対象とするものの概説、学問の誕生のいきさつから始め、具体的にいくつかの問題を取り出して、これまでの研究成果を学ぶ。本講義により自分たちの現在の生活世界の土台がどのようなものであり、それが現在にどのように受け継がれてきているのかということを理解してもらいたいと思っている。		1. ガイダンス 2. 民俗学の研究対象 3. 民俗学の成立 4. 日本の祭り 5. 日本の祭りの意味 6. 異界の問題 1（妖怪・幽霊とは何か） 7. 異界の問題 2（『東海道四谷怪談』） 8. 異界の問題 3（妖怪と神との関係） 9. 昔話にみる「日本」 10. 災害伝承 11. 年中行事 1（年中行事とは。正月行事） 12. 年中行事 2（盆を中心に） 13. 人の一生 14. 日本人の死生観（西洋との比較） 15. 講義のまとめ	
到達目標	今日に至るまで民間伝承されてきた文化の発展模様について分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	授業中に指示した文献・プリントを精読し、授業後には授業で出された課題をまとめておくこと。これらの課題をこなすことが定期試験につながります。		
テキスト、 参考文献	プリントを配布、参考文献は最初の授業で一覧を配布。		
評価方法	定期試験 100%ですが、授業への参加度を加味する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	日本特殊研究（日本文学作品研究 a） 日本研究各論Ⅳ（古典芸能）	担当者	宇津木 言行
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、日本の古典芸能の中でも世界的に関心を持たれている謡曲（能）をテーマとします。 とくに西行が登場する謡曲を数篇取り上げて検討し、題材と作劇の方法を探ってゆきます。そこから謡曲という古典芸能の性質を解明し、その日本文化の中に占める位置を理解するところにつなげてゆきたいと考えます。 神霊が主役を演じる、世界的にみて特異な演劇である能は、後世の演劇だけでなく、文学や映画などに大きな影響を与えていますが、授業を通してその本質に触れてもらいたいと思います。		1. 授業の概要 2. 西行桜 1 3. 西行桜 2 4. 実方 5. 西行塚 6. 遊行柳 1 7. 遊行柳 2 8. 江口 1 9. 江口 2 10. 雨月 11. 松山天狗 12. 人丸西行 13. 初瀬西行 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に配布するプリントの精読と、授業で紹介する参考文献の読書を勧める。		
テキスト、参考文献	テキストは用いず、毎回プリントを配布。参考文献は授業中に紹介。		
評価方法	レポート 80%、授業への参加度 20%。		

13 年度以降 12 年度以前	日本特殊研究（日本文学作品研究 b） 日本特殊研究Ⅳ（碑文を読む）	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：路傍に見過ごされる石碑を読む。 現代の日常生活の周辺にも気づかぬまま存在している石碑類（道標・墓誌・歌碑・句碑・記念碑・供養碑等）を読み解くために解釈と理解の道筋を示して、身近に存在する文化的歴史的遺産に対する意識を高めるのが目的の、実践的な授業である。 今年度は草加周辺の旧日光街道に焦点を当てて、フィールドワークを増やし、読解の基本の指導と作業を行って基礎力を養った後に、学生各自が碑文の採集と解釈を行い、教室で報告することを課する。 変体仮名や異体字、漢文・梵字などを読まなくてはならないので、勉強しなくてはならないことは山ほどある。 全体としては足を動かし、手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。課題が多いので心して参加せられたい。		1. オリエンテーション・導入 2. 概説（石碑の種類・刻まれた文字達） 3. フィールドワーク、草加宿 4. フィールドワーク、草加市民俗資料館 5. フィールドワーク、大学周辺 6. フィールドワーク、草加茶屋町周辺 7. フィールドワーク、蒲生茶屋町周辺 8. 道標・講中碑を読む 9. 日本漢文体の読解、梵字の読解 10. 墓碑銘・供養碑を読む 11. 学生諸君の報告と検討① 12. 学生諸君の報告と検討② 13. 学生諸君の報告と検討③ 14. 学生諸君の報告と検討④ 15. まとめ	
到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：自宅周辺の石碑に注意を払っておくこと。事後：調査報告書の内容の充実に努めること。		
テキスト、参考文献	授業中に示す。		
評価方法	フィールドワーク参加 20%。各自が調査した碑文の採集・調査報告書を発表、およびその内容 40%。授業中に検討した上で手直しの後、調査報告書 2 点の提出、その内容 40%。		

13 年度以降 12 年度以前	日本特殊研究（日本文学作品研究 d） 日本特殊研究Ⅲ（写本を読む）	担当者	城崎 陽子
講義目的、講義概要		授業計画	
版本で読む『小倉百人一首』 『小倉百人一首』は、もともと平安時代の歌人を中心に、奈良時代から鎌倉時代初期に至る歌人の秀歌を集めたもので、藤原定家の撰とされています。当初は二条家の和歌の秘伝として伝授され、『応永抄』『宗祇抄』など数多くの注釈書が著され、近世期に入っても、北村季吟の『百人一首拾穂抄』、契沖の『百人一首改観抄』、賀茂真淵の『宇比麻奈備』、香川景樹の『百首異見』など本格的な注釈書が数多く記されました。 江戸時代中期ころから、特に女子の古典入門書として普及し古典教材のほかに、家庭遊戯の「かるた」として普及しました。本講座では、架蔵の『百人一首一夕話』をもとに、日本文化の一端としての百人一首を歌にまつわるエピソードとともにくずし字の習得も含めて学ことを目的とします。		1. ガイダンスー『百人一首』の成立ー 2. 天智天皇ー私の袖は露に濡れたよー 3. 持統天皇ー香具山に夏が来たー 4. 柿本人麿ー長き夜を独りで寝るのかー 5. 山部赤人ー富士の高嶺に雪が降っているー 6. 猿丸太夫ー鳴く鹿の声を聞くとー 7. 中納言家持ーカササギの橋に霜が置くよー 8. 安倍仲麿ー三笠の山に月がー 9. 喜撰法師ー宇治山の庵に住むー 10. 小野小町ー花の色は移ろうものー 11. 蝉丸ー行く人も帰る人も逢坂の関ー 12. 僧正遍昭ー乙女の姿をとどめておくれー 13. 陽成院ー恋は積もって淵となるよー 14. 光孝天皇ー君がために若菜摘むー 15. まとめ	
到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストとして配布されるプリントのくずし字部分を事前に学習することを課題とします。		
テキスト、参考文献	テキスト：版本を用いた、プリントを配布します。 参考文献：児玉幸多編『くずし字解説辞典』東京堂出版		
評価方法	授業時試験 70％、課題も含めた授業への参加度 30％		

13 年度以降 12 年度以前	日本特殊研究（日本文学作品研究 c） 日本特殊研究Ⅱ（文献読解）	担当者	城崎 陽子
講義目的、講義概要		授業計画	
富士山の伝承と文学 『万葉集』に「奇しくもいます神」と詠まれ、古来から霊山として讃えられてきた富士山は、一方で山容の美しさ、雄大さが様々な文学作品に表現された山でもあります。 本講義では、「伝承」と「文学」の二つの視点から世界文化遺産にも登録された「富士山」を解き明かすことを目的とします。「富士山」をキーワードに、通史としての日本文学史を学び、日本人の志向を文学作品から読み解くことをします。		1. ガイダンスーパワースポット「富士山」ー 2. 富士に抱く思いー『万葉集』『古今和歌集』ー 3. 富士山の伝説ーその 1・『富士山記』ー 4. 富士山の伝説ーその 2・『更級日記』ー 5. 富士山の伝説ーその 3・『竹取物語』ー 6. 伝説のクライマーーその 1・『日本霊異記』ー 7. 伝説のクライマーーその 2・『聖徳太子伝暦』ー 8. 富士山の神ーその 1・『人穴草子』ー 9. 富士山の神ーその 2・『富士山縁起』ー 10. もう一つのかぐや姫伝説ー『皇国地誌』ー 11. 室町将軍富士を見るー『覧富士記』ー 12. 富士信仰の歴史と伝承ーその 1・古代から中世ー 13. 富士信仰の歴史と伝承ーその 2・中世から近世ー 14. 富士信仰の歴史と伝承ーその 3・近世ー 15. まとめ	
到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習として、提示される課題に取り組んでください。 事後学習としては、時間内に提出するリアクションペーパーによって、自身の補習点を認識してください。		
テキスト、参考文献	テキスト：特に定めず、適宜プリントを配布します。 参考文献：授業時間内に紹介します。		
評価方法	授業時試験 70％、課題も含めた授業への取り組み 30％		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降	日本特殊研究（日本文学作品研究 e）	担当者	宇津木 言行
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、昔話・伝説を素材とする宮澤賢治の童話を講読します。 昔話・伝説の宝庫といわれる東北・岩手県花巻に生まれ育った賢治の童話にはそれらを素材として取りこんだ作品が多いが、中でも彼の代表作のひとつ『風の又三郎』はその集大成と目されます。『風の又三郎』生成に至る童話数篇を取り上げて講読しますが、ひとつの方法として異人論を用いた作品分析を行います。 口承された前近代の昔話・伝説が、いかに近代の記載文学を豊かにしてきたかということを理解してもらいたいと考えます。		1. 授業の概要 2. ざしき童子のはなし 1 3. ざしき童子のはなし 2 4. とっこべとらこ 5. 雪渡り 1 6. 雪渡り 2 7. 祭の晩 8. 山男の四月 1 9. 山男の四月 2 10. 種山ヶ原 1 11. 種山ヶ原 2 12. 風の又三郎 1 13. 風の又三郎 2 14. 風の又三郎 3 15. 講義のまとめ	
到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に配布するプリントの精読と、授業で紹介する参考文献の読書を勧める。		
テキスト、参考文献	テキストは用いず、毎回プリントを配布。参考文献は授業中に紹介。		
評価方法	レポート 80%、授業への参加度 20%。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	日本特殊研究（日本文化研究 a） 日本研究各論 I（民俗芸能）	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：民俗芸能を通して、日本の民衆生活の基盤に潜む概念や価値観・世界観を認識し、理解する。 講義概要：日本の民俗芸能は世界にもまれに見る多様さと濃厚さで民衆生活と結びつき、いまだに多数残存している。いわゆる先進国としては唯一と言って良い。そこにはっきりと呈示されている、日本の文化の基盤を形成する「見えないもの」との対峙の仕方を、年中行事・信仰・地域社会・儀礼等との関わり方から分析し、講義する。具体的には「神の来訪」「異人の出現」「稲作の習俗と芸能」「年齢階梯」という観点を「境界領域の存在」という地平から照射し、東西日本の様々な民俗芸能・行事を取り上げ、フィールドワークにもとづく映像資料も用いて、概念や価値観・世界観の実際がどう機能しているかに留意する。		1. オリエンテーション・導入 2. 日本文化と「見えないもの」、境界領域の存在 3. 神の来訪と芸能①…春日若宮の「おん祭」 4. 神の来訪と芸能②…八重山の祭と芸能 5. 異人の出現と芸能①…「異人」と日本全国の祭・芸能 6. 異人の出現と芸能②…岩手県の鹿踊・剣舞 7. 稲作の習俗と芸能①…中国地方の花田植 8. 稲作の習俗と芸能②…東北の田植踊り 9. 稲作の習俗と芸能③…能登の「アエノコト」 10. 年齢階梯と芸能①…年齢階梯制とは何か？ 11. 年齢階梯と芸能②…福島県の成人儀礼「幡祭」 12. 年齢階梯と芸能③…兵庫県の宮座 13. 境界領域の時空①…異人の出現する領域と年齢階梯 14. 境界領域の時空②…日常とは別の時間・空間・社会 15. まとめ	
到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：特に必要はない。授業の内容（特に映像）に集中すること。 事後学修：授業の内容に沿った課題の提出を求める。		
テキスト、参考文献	テキスト：特に使わない。 参考文献：授業中にプリントで配布して示す。		
評価方法	学期末に、記述式（短答記述・論述を含む）の試験を実施する。その成績 50%。課題の提出 50%。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降	日本特殊研究（日本文化研究 b）	担当者	宇津木 言行
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、日本文化史の中で鬼の源流を探り、基層文化と外来文化とから成る日本文化の重層性の一例を説明することを目的とします。 鬼ごっこや節分の豆まきで子供の頃から誰しも馴染みしんだ鬼にも歴史的変遷があり、その原像は現在の私たちが抱いている通念とは異なるものであったのではないかと考えられます。追う・追われる存在とは異なる、我々を祝福しに来訪する鬼を民俗伝承の中に探ってみる必要があります。 日本の歴史と文化の固有の性格に興味ある学生の関心に応じる授業になりますが、広くアジアの霊的世界への見渡しも視野に入れてゆきたいと考えます。		1. 授業の概要 2. 鬼の基礎知識 1 3. 鬼の基礎知識 2 4. 追儼の鬼 1 5. 追儼の鬼 2 6. 鬼の杖と宝物 1 7. 鬼の杖と宝物 2 8. 鬼の杖と宝物 3 9. 中世の神と鬼 1 10. 中世の神と鬼 2 11. 中世の神と鬼 3 12. タマの去来と季節風 1 13. タマの去来と季節風 2 14. タマの去来と季節風 3 15. 講義のまとめ	
到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に精読し、授業で紹介する参考文献の読書を勧める。		
テキスト、参考文献	テキストは萩原秀三郎『鬼の復権』（吉川弘文館）。参考文献は授業中に紹介。		
評価方法	レポート 80％、授業への参加度 20％。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	日本特殊研究（日本文化研究 c） 日本研究各論Ⅲ（地域文化）	担当者	林 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座では、「地域文化」の在り方と現在の実態を中心に話しを進める。「地域」とはどのようなものであり、そこにどのような「文化」を捉えることができるのであろうか。また「文化」とはどのようなものであるのか。 これらを理解した上で都市化と過疎化、そして高齢化や I T の発達がどのように我々の地域文化に影響を及ぼしているか、伝統的社会での「地域文化」の在り方から、現代の「地域文化」の様相を考えて行きたい。 「地域文化」は、生活そのものであるが、「伝統」という価値を付加することで、自己アイデンティティの形成のために用いられることもあり、また他者に対してアピールすることで、町おこしにも利用される。「地域文化」は単なる現象ではなく、我々が価値づけすることによって、成り立つ側面もある。「価値づけ」の意味についても本講座では問うてみたい。		1. ガイダンス 2. 地名の成立ちと「地域」 3. 地域と生活構造 1（周囲論の問題） 4. 地域と生活構造 2（結など互助組織の問題） 5. 白川郷の「結」 6. 地域認識の問題（地名と地域の関係） 7. 地域文化としての祭り 1（地域と祭りの関わり） 8. 地域文化としての祭り 2（文化伝播の問題） 9. 地域の重層的構成 10. 伝統的祭りの方向性 1（過疎地域を事例にして） 11. 伝統的祭りの方向性 2（都市部を事例にして） 12. フォークロリズムの問題 13. 新興の祭りと地域 14. ボーダレス社会と地域文化 15. 講義のまとめ	
到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に指示した文献・プリントを精読し、授業後には授業で出された課題をまとめておくこと。これらの課題をこなすことが定期試験につながります。		
テキスト、参考文献	プリントを配布、参考文献は最初の授業で一覧を配布。		
評価方法	定期試験 100%ですが、授業への参加度を加味する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降	日本特殊研究（日本文化研究 d）	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：「歩く」ことに表現される文化的価値観を理解する。 講義概要：<u>「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を「文化」と言う。</u>決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。無意識の行動である日常の振る舞いや、暗黙の了解の裡に存在する価値観もすべて「文化」である。 人々は普段何気なく歩いているが、実は「歩き方」には、その人が属する集団の文化的価値観が表現されている。つまり、日本人と中国人、あるいは男性と女性というような対比をすることで「歩き方」の違いが浮き彫りになり、それぞれの文化の持つ独自性が見えてくる。		1. オリエンテーション・導入 2. 概説①（「文化」とは何か？） 3. 概説②（「身体」と「文化」） 4. 「歩く」とは何か？①（四足歩行から二足歩行へ） 5. 「歩く」とは何か？②（「歩く」と「立つ」） 6. 「歩く」とは何か？③（様々な「歩く」場面） 7. 「歩く」とは何か？④（軍隊の行進と「歩く」） 8. 「歩き方」の比較文化①（日本の諸相①） 9. 「歩き方」の比較文化②（日本の諸相②） 10. 「歩き方」の比較文化③（ノルウェーの儀仗兵） 11. 「歩き方」の比較文化④（北朝鮮・韓国・中国） 12. 「歩き方」の比較文化⑤（アメリカ・イギリス） 13. 「歩き方」の比較文化⑥（自衛隊と旧日本軍） 14. 「歩き方」の比較文化⑦（ヒンディーとグルカ） 15. まとめ	
到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：毎時間に示す課題に取り組むこと。 事後学修：講義の重点を確認しておくこと。		
テキスト、参考文献	特になし。		
評価方法	学期末に、記述式（短答記述・論述を含む）の試験を実施する。その成績による。		

13 年度以降 12 年度以前	日本特殊研究（日本史研究 a） 日本研究Ⅲ（日本史 a）	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
1945年に敗戦を迎えた戦争は、アメリカとの戦争だったと思われがちだが、これを見直す必要がある。アメリカやイギリスとの開戦の前に、泥沼化した日中戦争が続いており、さかのぼれば1931年の満州事変にいきつく。足かけ15年の戦争で、日本が一番長く戦った相手は中国である。中高でのこの戦争の学習では、原爆や空襲などが印象に残ることが多いようだが、日本は被害を受けただけではない。戦争全体の中での加害面にもしっかり目を向けたい。見るのがつらいところもあるかもしれないが、映像資料をかなり使う。そして、当時の教育や社会の状況、経済との関わりなども含めて、戦争の全体像を考えたい。 日本にとって、中国や韓国をはじめアジア諸国との関わりがますます重要になる中で、この戦争はどういうものだったかの事実はしっかり知っておきたい。日本国憲法が生まれる背景を探ることにもなる。 なお、なるべく秋学期もあわせて受講して欲しい。		1. 1945 年に終わった戦争の相手・呼称をめぐって 2. 1941 年 12 月 8 日—真珠湾からコタバルからか 3. 被害の問題①—空襲は何を示すか 4. 被害の問題②—原爆投下をどうとらえるか 5. 日中戦争をとらえる①—満州事変から日中戦争へ 6. 日中戦争をとらえる②—対米英戦争とのかわり 7. 加害の問題①—731 部隊とは何か 8. 加害の問題②—南京事件をどうとらえるか 9. 治安戦としての日中戦争—「尽滅掃討」作戦 10. 日本の戦争と植民地朝鮮 11. 日本軍隊の特徴をみる 12. 戦時下の社会—戦争への動員・女性と戦争他 13. 敗戦をめぐって①—本土決戦体制の構築と沖縄 14. 敗戦をめぐって②—ポツダム宣言とその受諾 15. 「15 年戦争」を振り返る	
到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	示されている次のテーマがどのような事実に関わるものか、各自で調べてみてください。 レジュメ・資料また各自で調べたことをもとに、今時テーマが持つ意味を考察してください。		
テキスト、 参考文献	講義の中で紹介する		
評価方法	事前出題による論述形式で定期試験を実施 90% 平常時の意見・感想など 10%		

13 年度以降 12 年度以前	日本特殊研究（日本史研究 b） 日本研究Ⅳ（日本史 b）	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
沖縄の問題をはじめ、中国や韓国・朝鮮との関係、日本人の戦争認識など、1945 年 8 月に敗戦を迎えた戦争（アジア太平洋戦争・15 年戦争）の残した課題が、70 年を超えた今日の日本に残る。そして、その全てに、占領・講和などを通しての戦後のアメリカと日本の関わり方が絡んでくる。現代の課題を考えるために、こうした戦後史の事実にも目を向けていきたい。 中国や韓国をはじめとするアジアの国々は、この 2、30 年間で大きく変わってきた。民衆の声がそれぞれの国を動かすようになり、かつては不可能だった民衆同士の交流が大きく進み、やっとそういう論議ができるようになった。そうしたことをきちんと論議ができる知識をもつ若者でいて欲しい。 また、2011 年 3 月 11 日を経て、あらためて「核」「原発」の問題に目をむけることも不可欠になった。 なお、なるべく春学期もあわせて受講して欲しい。		1. 「15 年戦争」の終わり方をふりかえる。 2. 「民主化」と日本国憲法 3. 東京裁判と日本の戦争責任をめぐって 4. 朝鮮戦争とサンフランシスコ講和のもった問題 5. 日本の国内での補償をめぐって 6. 日本のアジアへの補償をめぐって 7. 日韓条約はなぜ 1965 年に結ばれたか 8. 日中国交回復を考える 9. 原発をめぐって①—「ビキニ被曝」と原子力平和利用 10. 原発をめぐって②—3.11 から何を学ぶか 11. 「戦後」の沖縄の歩み 12. ベトナム戦争と沖縄の日本復帰 13. 米軍基地問題と日本の安全保障を考える 14. 戦後 50 年の国会決議をめぐって—政治家の戦争認識 15. 「戦後 70 年」を超えて	
到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	示されている次のテーマがどのような事実に関わるものか、各自で調べておいてください。 レジュメ・資料また各自で調べたことをもとに、今時テーマが持つ意味を考察してください。		
テキスト、参考文献	講義の中で紹介する		
評価方法	事前出題による論述形式で定期試験を実施 90% 平常時の意見・感想など 10%		

13 年度以降 12 年度以前	言語学概論 多言語間交流研究 I（言語学 a）	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
言葉の仕組みと役割を客観的に記述する学問である言語学とはどのような分野なのかを概観する。ここでは言語学の基礎的および応用的領域を取り上げ、社会における言語の機能を理解すると共に、その背景にある基本的な考え方を学ぶ。主として英語を対象言語とするが、言語資料分析については他の言語も扱う。また、言語学の周辺領域における言語研究にも言及する。		1. 話し言葉と書き言葉 ～言葉は約束事：言語学の研究対象、記号論、ローマ字表記 2. 動物の言語と人間の言語 ～チンパンジーも言葉が話せる？：動物のコミュニケーション 3. 言語と脳 ～失われた言葉を取り戻す：心理言語学と大脳生理学 4. 子供の言葉の発達 ～どのようにして言語を習得するか？：第 1 言語の発達過程 5. 外国語の上達 ～どのようにしたらうまく話せるようになるか？：第 2 言語の習得理論 6. 音と音声(1) ～カテゴリーができるまで：調音音声学と音韻論 7. 音と音声(2) ～音声はどのように聞こえるか？：音響音声学と聴覚音声学 8. 統語論 ～「正しい」言葉の記述 vs 言葉の「正しい」記述：構造主義文法、生成文法、その他の文法 9. 形と意味 ～発話に意味を込める：形態論、意味論、語用論 10. 会話の原則 ～言葉の適切な使い方：談話分析 11. 言語と社会 ～言葉の多様性と普遍性：社会言語学 12. 世界の言語とその系統 ～言語の系統と分類：歴史言語学 13. 言語の進化 ～言語と人類の発達：言語考古学 14. コンピューターと言語 ～近未来の言語研究：人工知能、機械翻訳、コーパス言語学 15. まとめ	
参考文献 David Crystal, The Cambridge Encyclopedia of Language (Cambridge University Press, 1987; ISBN: 0-521-42443-7) D. クリスタル／風間・長谷川訳『言語学百科事典』(大修館, 1992; ISBN: 4-469-01202-2) 町田健 『言語学が好きな本』（研究社出版, 1999; ISBN:4-327-37674-4)			
到達目標	音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・談話分析・心理言語学・社会言語学・動物の言語使用・数理言語学・応用言語学といった言語学の各領域において基本的な知識を習得し、分析・論証ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。		
テキスト、参考文献	教科書 G. ユール／今井・中島訳 『現代言語学 20 章』（大修館, 1987; ISBN: 4-469-21145-1）		
評価方法	定期試験。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

12 年度以前	多言語間交流研究Ⅱ（言語学 b）	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
人間の言語は動物のそれと異りアナログ的要素と共にデジタル的要素がある。メッセージを単位記号（デジタル信号）に置き換えることでコミュニケーションの媒体となり、文学ばかりでなく政治や科学などの社会を構成する要素が確立したのである。この授業では言語の基本的な構造を取り上げ、理論的枠組みを理解すると共に、ハンズオンの学習を通して言語資料の分析練習を行う。対象言語は英語を初め各国語にわたる。教材の事前予習を前提とする。		1. 形態論（1）形態素の同定（ハンガリー語、スペイン語） 2. 形態論（2）形態素の同定（現代ヘブライ語、マレー・インドネシア語、ペルシア語） 3. 形態論（3）形態素の同定（ラテン語、ラコタ語） 4. 音声学・音韻論（1）発音記号、音素・異音（英語） 5. 音声学・音韻論（2）音韻の同定（ウィチタ語、古典ヘブライ語、ラコタ語） 6. 音声学・音韻論（3）音素の同定（スペイン語、ヒンディー語、日本語） 7. 音声学・音韻論（4）超分節音素の同定（中国語、アイスランド語・スワヒリ語・アラビア語・英語） 8. 音声学・音韻論（5）音韻現象、生成音韻論（トルコ語、英語） 9. 統語論（1）直接構成素分析、句構造規則（英語） 10. 統語論（2）句構造規則（英語、イタリア語・ギリシア語） 11. 統語論（3）構造形成、語順、格（英語、中国語、ドイツ語、クリンゴン語） 12. 意味論 上位概念・下位概念、同意語・反意語（英語、日本語、ペルシア語） 13. 語用論 新旧情報、言語行為、話題化（英語、中国語） 14. 書記法（英語、イタリア語、ギリシア語、ヘブライ語） 15. まとめ	
到達目標			
事前・事後学修の内容	各授業とも十分な予習と復習を必要とする。特に事前に各分析課題に取り組むことが必須である。		
テキスト、参考文献	Paul R. Frommer & Edward Finegan, <i>Looking at Languages: a Workbook in Elementary Linguistics</i> , 5th ed. (Heinle, 2011; ISBN: 978-0495912316)		
評価方法	定期試験 + 平常授業における課題		

13 年度以降 12 年度以前	英語学概論 多言語間交流研究Ⅲ（英語学 a）	担当者	未定
講義目的、講義概要		授業計画	
英語学の基礎的諸領域の広範な理解を目標とする。扱う領域としては発音・音声学・形態論・統語論・意味論・語用論・談話論・英語史などがある。それぞれのテーマについて基本的概念を解説し、実際の英語理解の支援を行う。分野によっては視聴覚資料を補助的に用いる。 参考文献 朝尾幸次郎、『英語の演習 第3巻：語彙・表現』（大修館書店） 高橋作太郎、『英語の演習 第2巻：文法』（大修館書店） 竹林滋・桜井雅人、『英語の演習 第1巻：音韻・形態』（大修館書店） David Crystal, The Cambridge Encyclopedia of the English Language, 2nd ed. (Cambridge University Press, 2003; ISBN: 0 521 82348 X / 0 521 53033 4)		- 英語の文法理論（6 章） - 音声学（7 章） - 音韻論（1）：分節音韻論（8 章） - 音韻論（2）：強勢・イントネーション（8 章） - 形態論・語形成（9 章） - 統語論（1）：構造主義の統語分析（10 章） - 統語論（2）：生成文法の統語分析（10 章） - 意味論・語用論（11 章） - 談話分析 - 英語史（1）：古英語（4 章） - 英語史（2）：中英語（4 章） - 英語史（3）：近代英語（5 章） - 英語史（4）：現代英語（5 章） - 英語史（5）：英語の多様性（12 章） - 英語の対象言語学的研究（15 章）	
到達目標	音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・談話分析・英語史・英語の社会的変異・英語の権力構造といった英語学の各領域において基本的な知識を習得し、分析・論証ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。		
テキスト、参考文献	使用教科書 龍城正明編、『英語学パースペクティブ』（南雲堂, 2015; ISBN: 978-4-523-30075-5)		
評価方法	定期試験 x 参加度 + 平常授業における課題		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

12 年度以前	多言語間交流研究Ⅳ（英語学 b）	担当者	未定
講義目的、講義概要		授業計画	
前半は英語の歴史の概観を通して、英語世界がいかに成立し、どのような言語・文化を発達させてきたかを学ぶ。視聴覚資料を補助的に用い、学習を支援する。また、英語史に関連する観光スポットを随時紹介する。 後半は英語を特徴づけ、他の言語と区別するいくつかの側面を取り上げ、現代社会における英語の位置づけを学ぶ。参考資料の事前読了および講義支援システムの参照が求められる。		1. 英語の概要：ヨーロッパと世界の言語分布 2. 英語以前（1）：印欧語族の成立 3. 英語以前（2）：ゲルマン語族の成立 4. 英語の夜明け：古英語とその社会 5. 英語の変動期：ヴァイキングおよび政治的変動 6. 英語の夜明け：中世とは？そしてその英語 7. 英語の充実：初期近代英語とイギリス社会の発展 8. 英語の黄金期：近代英語とヴィクトリア朝文化 9. 英語の多様性：イギリスの英語から世界の英語へ（地理的変異） 10. 英語の現状：アメリカ英語・第3世界の英語・コックニー 11. 英語使用の現状（1）：公用語・第2言語・英語学習・辞書 12. 英語使用の現状（2）：社会・文化と英語使用 13. 英語の特徴（語彙・語源）：本来語・借入語・外来語・固有名詞・スラング、（発音と綴り）：大母音推移・発音・文字・正書法 14. 英語の特徴（文法）：語順・修飾・統御、（談話構造）：パラグラフ構造・新旧情報・含意・スキーマとスクリプト 15. 英語の特徴（社会的変異）：社会階層・レジスター・ジャンル	
到達目標			
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。		
テキスト、参考文献	随時プリントを配布する。		
評価方法	定期試験 x 参加度 + 平常授業における課題		

13 年度以降 12 年度以前	日本語教育概論 日本語教育研究Ⅰ（日本語教育概説）	担当者	石塚 京子
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義概要> 「日本語教育」とは何か、「日本語教師」の仕事とはどのようなものか、といったことを概説します。 この講義は、将来、日本語教師を目指す学生に限定するものではありません。外国語としての日本語、日本語教育の歴史と現状、外国語教授法など、言語や教育に広く興味を持っている学生を対象とした講義内容となります。 なお、日本語教師養成課程を履修する学生にとっては、日本語教授法 1 の内容と多少の重なりがありますが、実践的な指導法を学ぶための前段階と位置づけて授業に臨んでください。 <講義の目的> 1.日本語教育と国語教育の違いを知る 2.日本語教育の歴史と現状を知る 3.さまざまな外国語教授法を概観する 4.日本語を外国語として客観的に捉える 5.外国語としての日本語の指導法を考える 6.教師の役割を考える		1. 講義の概要説明、日本語教育の一例を紹介 2. 日本語教育とは何か(1) 日本語教育と国語教育の違い 3. 日本語教育とは何か(2) 日本語教育の歴史 4. 日本語教育とは何か(3) 日本語教育の現状 5. 外国語教授法の歴史 6. 外国語教授法の紹介(1) 7. 外国語教授法の紹介(2) 8. 異文化接触と日本語教育 9. 言語教育と学習観 10. コースデザインとシラバス 11. 日本語のしくみと指導のポイント(1) 12. 日本語のしくみと指導のポイント(2) 13. 教室活動の活動例 14. 教師の役割と評価 15. 講義のまとめ ＊進捗状況によって内容が変更になる場合もあります。	
到達目標	日本語を学習対象言語として捉えたうえで、日本語教育の基本的な内容、および日本語教育の歴史と現状について分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	授業で出される課題について事前に調べておいてください。 配布したプリント類を授業後にまとめ、次回までにきちんと内容を整理しておいてください。		
テキスト、 参考文献	参考文献：佐々木泰子著『ベーシック日本語教育』（ひつじ書房、2007） ＊その他は授業中に適宜紹介		
評価方法	定期試験（70%）、平常点や課題などの提出状況（30%）を総合的に評価		

13 年度以降 12 年度以前	日本語コミュニケーション論 日本語教育研究Ⅱ（日本事情とコミュニケーション教育）	担当者	城崎 陽子
講義目的、講義概要		授業計画	
日本の年中行事 日本の文化の基点ともいえるべき「年中行事」を中心に文学作品にうかがえる様々な行事を通史的に追いつつ、日本文化について学び、各国の文化との比較を通じてそれぞれの文化への理解を深めることを本講義の目的とします。 特に、「五節供」とその周縁の行事を概説し、それらの行事に関する現代の様態をレポートしたり、各国の行事を紹介したりする時間をとり、ディスカッションする場面を設けます。		1. ガイダンスー一年中行事とはー 2. 日本文化の基点ー暦の概念ー 3. 日本文化の基点ー儀式書の概説ー 4. 年中行事ー正月行事・その1ー 5. 年中行事ー正月行事・その2ー 6. 年中行事ー正月行事・その3ー 7. 年中行事ー上巳の儀礼・その1ー 8. 年中行事ー上巳の儀礼・その2ー 9. 年中行事ー端午の儀礼・その1ー 10. 年中行事ー端午の儀礼・その2ー 11. 年中行事ー七夕の儀礼・その1ー 12. 年中行事ー七夕の儀礼・その2ー 13. 年中行事ー重陽の儀礼ー 14. 年中行事ー新嘗祭・大嘗祭ー 15. まとめ	
到達目標	外国人の日本語学習者に日本語を教えるうえで必要な知識とコミュニケーション力を養成し、異文化の日本語教育現場においてこれを活用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習として、授業中に提示された課題に取り組んでください。		
テキスト、参考文献	テキスト：特に定めず、適宜プリントを配布します。 参考文献：授業時間内に紹介します。		
評価方法	テーマに沿った課題レポート60％、リアクションペーパー等を含めた授業への参加度40％		

13 年度以降 12 年度以前	応用言語学Ⅰ 多言語間交流研究各論Ⅰ（応用言語学）	担当者	白井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
応用言語学は言語、言語習得そして言語運用に関する理論を応用し、言語に関わるあらゆる問題の解決策を模索する学問である（言語学の基礎・応用の応用ではなく、応用言語学という分野である）。本講義では、応用言語学にはどのような領域があるか、そしてそれぞれの領域が外国語教育に何を示唆するかを学ぶ。 言語習得、外国語教育、言語と社会、言語研究の4領域を中心に進めていく。各領域においてどのような研究がなされ、外国語教育に何を示唆しているかを中心にみていく。 出席を前提とする。 また、課題をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。		1. 概要：応用言語学とは 2. 習得のメカニズム：インプット・アウトプット仮説 3. 言語習得と脳 1 4. 言語習得と脳 2 5. 4技能の習得：リーディング 6. 4技能の習得：リスニング 7. リーディング・リスニングまとめ 8. 4技能の習得：スピーキング・ライティング 9. 口頭発表 1 10. 言語喪失（社会） 11. 言語喪失（個人） 12. バイリンガリズム（個人） 13. バイリンガル教育 14. 口頭発表 2 15. まとめ	
到達目標	言語の獲得・習得、言語教育といった言語学の応用理論について分析し、論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テーマごとに配布される論文を読むこと。また、レポート課題および口頭発表の準備をすること。		
テキスト、参考文献	配布資料・論文等有り。		
評価方法	期末レポート&課題（60%）、期末テスト（40%）		

13 年度以降 12 年度以前	応用言語学Ⅱ 多言語間交流研究各論Ⅱ（第二言語習得）	担当者	白井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、第二言語習得がいかにダイナミックなものであるかということを様々な理論をもとに考える。また、この分野における専門用語を日英の両言語で認識し、これらの理論をどのように言語教育に応用していくかを考える。 出席を前提とする。 また、課題（論文講読など）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。		1. 概要：環境要因・個人要因 2. 環境要因、社会的動機づけ理論 3. 適性、MI 4. 不安 5. 動機づけ 1 6. 動機づけ 2 7. 学習ストラテジー、学習ビリーフ、好意度 8. 意欲、WTC 9. グループワーク：言語習得過程モデル 10. 口頭発表 11. 年齢：臨界期仮説、早期英語教育 12. スピーチ学習モデル、音声認識、早期英語教育 13. グループワーク：初中等教育における英語教育 14. 口頭発表 15. まとめ	
到達目標	言語の獲得・習得、言語教育といった言語学の応用理論について分析し、論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テーマごとに配布される論文を読むこと。また、レポート課題および口頭発表の準備をすること。		
テキスト、参考文献	配布資料・論文等有り。		
評価方法	期末レポート&課題（60%）、期末テスト（40%）		

13 年度以降 12 年度以前	英語圏の文学Ⅰ 多言語間交流研究Ⅴ（英語圏の文学）	担当者	大熊 昭信
講義目的、講義概要		授業計画	
授業目的 今日グローバル社会と言われ、英語が世界語となっている 事態から予想されるように英語を母語とする地域以外で も英語で作品を発表する作家が増えている。それはもはや イギリス文学、アメリカ文学といった範疇を超えている。 そうした英米人ならぬ作家たちの作品を含めて英語圏の 文学というのである。この授業ではそうした作家たちの多 彩な創作活動を網羅的に紹介する。 講義概要 英米の旧植民地の作家や英米の作家の植民地に取材した 作品を紹介する。授業はあらかじめ配信してある授業概要 をもとに講義する。		1. 授業概要 2. カナダ 3. オーストラリア、ニュージーランド 4. サモア 5. 日系アメリカ人 6. 中国系、朝鮮系アメリカ人 7. ユダヤ系アメリカ人 8. インディアン系アメリカ人 9. カリブ諸島 10. インド、パキスタン 11. アフリカの英語作家 12. イギリス人作家の植民地体験 13. アメリカ人作家の植民地体験 14. イギリス、アメリカの黒人文学 15. まとめ	
到達目標	文化・社会・政治的知識と関連づけながら、英語圏の文学・文化を鑑賞・分析し、批評できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前にポータルに配信された授業概要をプリントアウトし目を通しておき、授業中はそれにメモを加え、 事後にプリントを精読する。		
テキスト、 参考文献	特にないが、参考文献一覧を配信する。		
評価方法	定期試験 5 0 %、レポート 3 0 %、小テスト 1 0 %、授業での発言 1 0 %		

13 年度以降 12 年度以前	英語圏の文学Ⅱ 多言語間交流研究Ⅴ（英語圏の文学）	担当者	大熊 昭信
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 現代は異文化が混在する多文化社会と言われている。だが、多文化社会とはどのような社会なのか。どのように形成されたのか。そのなかで文化はどのように形成されるのか。また異文化間の交流にはどのような形態があるのか。そうした疑問に答えつつ、そこにみられるさまざまな文化交流や変容の在り方を、文化受容、異種混合といったタームを導入しながら英語圏の文学を具体例にして検討する。 講義概要 多文化社会から誕生し、現在生産されている英語圏の文学の作家や作品をとりあげて、それらの移動に焦点を当てて批評的に検討する。		1. 講義概要 2. 多文化社会の形成 3. 多文化社会の在り方（１）通文化主義など 4. 多文化社会の在り方（２）異種混合など 5. アイデンティティの問題 6. 作家の移動 7. 作品の移動 8. 手法の移動 9. 偽史 10. 翻訳 11. クレオール 12. エクソフォニー 13. 在日、日系移民 14. 世界文学 15. まとめ	
到達目標	文化・社会・政治的知識と関連づけながら、英語圏の文学・文化を鑑賞・分析し、批評できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前にポータルに配信された授業概要をプリントアウトし目を通しておき、授業中はそれにメモを加え、事後にプリントを精読する。		
テキスト、 参考文献	特にないが、参考文献一覧を配信する。		
評価方法	定期試験５０％、レポート３０％、小テスト１０％、授業での発言１０％		

13 年度以降 12 年度以前	英語圏の文学・文化・批評 I 多言語間交流研究各論Ⅲ（英語圏の小説 a）	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、文学作品、とくに小説の読み方を、小説『フランケンシュタイン』を例にして勉強します。 参考文献として挙げた本では、『フランケンシュタイン』を例に取り上げながら、「小説技法」と「批評理論」を解説しています。講義ではこの本をベースに、担当者がさらに解説を付け加えながら進めます。 『フランケンシュタイン』は名前ばかり有名ですが、原作は奥の深い、面白い小説です。女性を書いたというところも興味深いところです。受講者には翻訳でひととおり読んでもらいますが、重要なパッセージは原文の英語で読みます。 「技法」や「理論」というと小難しそうに聞こえるかもしれませんが、文学研究の基本でもあり、映画、表象、文化研究全般に応用できるテクニックでもあります。いっしょに勉強してみましょう。		1. 『フランケンシュタイン』とは？ 2. 小説技法(1) 3. 小説技法(2) 4. 小説技法(3) 5. 批評理論(1): 伝統的批評 6. 批評理論(2): ジャンル批評 7. 批評理論(3): 読者反応批評 8. 批評理論(4): 脱構築批評 9. 批評理論(5): 精神分析批評 10. 批評理論(6): フェミニズム批評 11. 批評理論(7): ジェンダー批評（クィア批評） 12. 批評理論(8): マルクス主義批評 13. 批評理論(9): 文化批評 14. 批評理論(10): ポストコロニアル批評 15. 批評理論(11): その他の批評	
到達目標	文学研究のアプローチを使って、英語圏の文学・文化を鑑賞・分析し、批評できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	指定された箇所を読んでおくこと		
テキスト、 参考文献	テキスト：メアリ・シェリー『フランケンシュタイン』小林章夫訳（光文社文庫） 参考文献：廣野由美子『批評理論入門：「フランケンシュタイン」解剖講義』（中公新書）		
評価方法	授業内レポート 30%、中間レポート 30%、定期試験 40% (ただし 5 回を越えて欠席した場合は評価対象としない)		

13 年度以降 12 年度以前	英語圏の文学・文化・批評Ⅱ 多言語間交流研究各論Ⅷ（英語圏の演劇 b）	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
《シェイクスピアとイギリス俳優たち》 20 世紀以降のイギリスにおけるシェイクスピア上演を、何人かの俳優と演出家に焦点を当てながら考察する。本講義の目的は二つ。ひとつはシェイクスピアの戯曲の複雑で豊穡な言葉が、俳優の肉体を通してどのように表現され、それがどのような意味と面白さを持つのかを理解することである。名優とされるイギリス俳優たちの音声や映像に触れながら、シェイクスピアと英語の持つ表現力への理解を深めることを目指す。演劇を「自然を映す鏡」とシェイクスピアは呼んだが、シェイクスピア劇の上演はそれぞれの時代の相を映し出す。この 100 年ほどの間にシェイクスピア上演はダイナミックに姿を変えてきた。20 世紀以降のイギリスあるいは世界の変化が、シェイクスピア劇の上演にどのように反映してきたかを理解することがもうひとつの目的である。		1. Introduction 2. Olivier and Gielgud (1) 3. Olivier and Gielgud (2) 4. Olivier and Gielgud (3) 5. The Director's Shakespeare (1) 6. The Director's Shakespeare (2) 7. The Director's Shakespeare (3) 8. Shakespearean Actresses (1) 9. Shakespearean Actresses (2) 10. Shakespearean Actresses (3) 11. After Branagh (1) 12. After Branagh (2) 13. After Branagh (3) 14. Course summary 15. Wrap-up	
到達目標	文学研究のアプローチを使って、英語圏の文学・文化を鑑賞・分析し、批評できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	授業で取り上げるシェイクスピアの戯曲の引用箇所を精読しておくこと。		
テキスト、 参考文献	教材はプリントを配布する。参考文献は Wells, Stanley. (2015). <i>Great Shakespeare Actors</i> . Oxford University Press. ISBN: 978-0198703297		
評価方法	学期末試験 70%、授業への参加度（リアクション・ペーパー） 30%		

13 年度以降 12 年度以前	国際語としての英語 多言語間交流研究各論Ⅸ（国際語としての英語）	担当者	白井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
約 3 億人といわれる英語母語話者に、公用語として英語を使用する人々及び外国語または「国際語」として英語を使用する人々を加えると 20 億人あまり英語話者がいるという。20 億人全員が同じ英語を話しているのだろうか。日本人にとって英語とは何なのであろうか。 本講義では、「世界英語(World Englishes)」そのものの理解を高めることを目的とする。また、非英語母語話者としてどのような英語を学習し、指導していけばいいかを模索する。 出席を前提とする。 また、課題（リーディングやフィールドワーク）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。		1. 概要 2. ディアスポラと 3 つの同心円（Kachru） 3. 「内部圏」の英語 4. ピジンとクレオール 5. HCE 6. AAVE 7. 日本の中の外来語 8. インドの英語 9. シンガポールの英語 10. フィリピンの英語 11. ディスカッション（課題 2） 12. 口頭発表（課題 1） 13. ELF の特徴 1 14. ELF の特徴 2 15. まとめ	
到達目標	英語の多様性や英語帝国主義概念などを理解したうえで、日本がどのような英語を教授し、使用していけばいいのかなどといった問題を客観的かつ理論的に分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テーマごとに配布される論文を読むこと。また、レポート課題および口頭発表の準備をすること。		
テキスト、 参考文献	配布資料・論文等有り。		
評価方法	フィールドワーク、期末レポートおよび他課題（50%）、期末テスト（50%）		

13 年度以降 12 年度以前	英語圏の文学・文化・批評Ⅱ 多言語間交流研究各論Ⅷ（英語圏の演劇 b）	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考察する。 英米や時代にかかわらず、さまざまな作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげて、社会と文化の洞察をはかる。 実際に劇場に観に行つて、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知り、演劇文化への理解を深める。 講義概要 なるべく実際の上演を観られる戯曲をとりあげ、台本抜粋を精読する。映像化された作品がある場合は、冒頭部分を上映する。 日本語に翻訳した台本を本読みするパフォーマンスを、順番に実施する。		1. 導入 2. 戯曲作品 1 3. 戯曲作品 2 4. 戯曲作品 3 5. 戯曲作品 4 6. 戯曲作品 5 7. 戯曲作品 6 8. 戯曲作品 7 9. 戯曲作品 8 10. 戯曲作品 9 11. 戯曲作品 10 12. 戯曲作品 11 13. 戯曲作品 12 14. 戯曲作品 13 15. まとめ	
到達目標	文学研究のアプローチを使って、英語圏の文学・文化を鑑賞・分析し、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、劇作品の台本抜粋の英文を日本語訳し、それをノートに用意して出席してください。		
テキスト、参考文献	英米の劇作品の台本抜粋（B5 で 4 ページ程度）を毎回配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。		
評価方法	毎回の授業開始時の vocabulary テストで 50%、観劇レポート（500～600 字）2 編で 50%。レポートは 2 編必修。2 編提出しない場合、授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。学期末に定期試験はしません。		

13 年度以降 12 年度以前	日本語音声学 日本語教育研究各論Ⅲ（日本語音声学）	担当者	磯村 一弘
講義目的、講義概要		授業計画	
日本語の音声について、基本的な知識を学ぶ。普段、意識しないで話している日本語の音声を、客観的に捉えられるようになることを目標とする。 そのうえで、外国人学習者が日本語の音声を学ぶ際の問題点や、これを教えるための具体的な方法について考える。		1. (4/13) 言語音を作るしくみ 2. (4/20) 母音 (1) 3. (4/27) 母音 (2) 子音 (1) 4. (5/11) 子音 (2) 5. (5/18) 子音 (3) 6. (5/25) 音素と異音、母音の無声化 7. (6/1) 特殊音素 (1) 8. (6/8) 特殊音素 (2)、拍とリズム 9. (6/15) アクセント (1) 10. (6/22) アクセント (2) 11. (6/29) イントネーション (1) 12. (7/6) 質疑応答 13. (7/13) イントネーション (2) 14. (7/20) 最終試験 15. まとめ	
到達目標	日本語について、音声学の基本的事項を理解し、音声の問題として言語現象と言語教育を把握することができるようになる。		
事前・事後 学修の内容	教科書に目を通しておくこと。		
テキスト、 参考文献	国際交流基金（2009）『国際交流基金日本語教授法シリーズ2 音声を教える』ひつじ書房		
評価方法	「最終試験」の成績による。単位が必要な者は、7/20 の試験を必ず受験すること。出席は取らない。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	日本語教授法 I a 日本語教育研究各論 I（日本語教授法 1 a）	担当者	野原 ゆかり
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 この授業では、外国語として日本語を教えるために必要な基礎的な知識と能力を身につけます。自分自身の日本語運用や外国語学習の経験を振り返りながら、何をどう教えるかについて、様々な角度から考えます。 【講義概要】 日本語教育能力検定試験の出題範囲を概観し、これまでに学んだ各論の知識を整理します。また、コミュニケーション能力を伸ばす言語教育とはどのようなものかを考え、実践のための基礎力を養います。授業は、講義とディスカッション、発表の形態で進めます。 【注意事項】 授業で指示された課題は必ず取り組んで来ること。		1. オリエンテーション 2. 言語使用と社会 3. 言語習得 4. 異文化理解と心理 5. 外国語教授法 6. 音声学・音韻論、学習者の発音 1 7. 音声学・音韻論、学習者の発音 2 8. 発音の指導 9. 日本語の文字・表記 10. 日本語の語彙、語彙形成、意味 11. 文字・語彙の指導 12. 文法・文型 1 13. 文法・文型 2 14. 文法・文型の指導 15. コースデザイン ー調査・分析ー	
到達目標	日本語教授法の基礎理論を理解し、発話場面や文脈にあった日本語運用能力を育成するために必要とされる教材開発、および学生のニーズに合わせた指導、教案作成ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回テーマに関する事前課題がある。事後としては毎回振り返りシートを提出。		
テキスト、参考文献	テキスト：佐々木泰子編『ベーシック日本語教育』ひつじ書房 参考文献：授業で随時紹介		
評価方法	①課題の取り組み 30％ ②期末試験 50％ ③参加態度・貢献度 20％		

13 年度以降 12 年度以前	日本語教授法 I b 日本語教育研究各論 II（日本語教授法 1 b）	担当者	野原 ゆかり
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 この授業では、外国語として日本語を教えるために必要な基礎的な知識と能力を身につけます。自分自身の日本語運用や外国語学習の経験を振り返りながら、何をどう教えるかについて、様々な角度から考えます。 【講義概要】 秋学期は、コースデザインの基礎を学びます。また、「話す」「書く」「聞く」「読む」の技能別の指導と教室活動について理解を深め、実際の授業の流れを考えます。前学期に引き続き、コミュニケーション能力を伸ばす言語教育とはどのようなものかを考え、実践のための基礎力を養います。 【注意事項】 ・授業で指示された課題は必ず取り組んで来ること。 ・ペアワーク、グループワークなど協働で取り組む時間が多くなります。積極的な参加態度を期待しています。		1. コースデザイン ー計画の段階ー 2. 教材・教具の選択 3. 様々なシラバス 4. 初級教科書のシラバス分析 5. 授業の計画と実施 6. 中上級教科書のシラバス分析 7. 授業の計画と実施評価とテストの作成 8. 話すための指導と教室活動 1 9. 話すための指導と教室活動 2 10. 書くための指導と教室活動 11. 聞くための指導と教室活動 12. 読むための指導と教室活動 1 13. 読むための指導と教室活動 2 14. 総合的な教室活動 1 15. 総合的な教室活動 2	
到達目標	日本語教授法の基礎理論を理解し、発話場面や文脈にあった日本語運用能力を育成するために必要とされる教材開発、および学生のニーズに合わせた指導、教案作成ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回テーマに関する事前課題がある。事後としては毎回振り返りシートを提出。		
テキスト、参考文献	テキスト：佐々木泰子編『ベーシック日本語教育』ひつじ書房 参考文献：授業で随時紹介		
評価方法	①課題の取り組み 30% ②期末レポート 40% ③参加態度・貢献度 30%		

13 年度以降 12 年度以前	日本語教授法Ⅱ 日本語教育特殊研究Ⅴ（日本語教授法 2）	担当者	野原 ゆかり
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 外国語として日本語を教える具体的な方法を学びます。 この授業は、日本語教育機関で実習を行うための準備教育で、演習中心で進めます。 【講義概要】 毎回、学生による模擬授業を行います。模擬授業担当者は期日までに教案を提出し、当日は自分の授業の様子をビデオに録画し、授業後半の振り返りに使用します。一方、教師役以外は全員学習者役となり、学習者の立場から、また、授業を俯瞰的、客観的にみる観察者として授業観察記録をつけます。 履修者の人数により、1回の模擬授業の人数を決定しますが、少なくとも一人2回は授業（教師役）を担当します。 学期末には、観察記録（他者からの評価）と振り返り（自己評価）をまとめ、自己分析レポートとして提出します。		1. オリエンテーション、初級で教える項目の確認 2. 初級の授業の流れと教案の作成 3. 模擬授業① 4. 模擬授業② 5. 模擬授業③ 6. 模擬授業④ 7. 模擬授業⑤ 8. 模擬授業⑥ 9. 模擬授業⑦ 10. 模擬授業⑧ 11. 中級以上の指導内容と授業の流れ 12. 模擬授業⑨ 13. 模擬授業⑩ 14. 模擬授業⑪ 15. 模擬授業⑫、まとめ	
到達目標	「日本語教授法Ⅰ」の学習成果のうえに、実際に作成した教案に基づき模擬授業を行い、また、他者の模擬授業を客観的に評価し、建設的な意見を述べるができるようにする。		
事前・事後学修の内容	教案作成等の事前課題がある。事後としては模擬授業についての内省レポートを提出。		
テキスト、参考文献	模擬授業に使用するテキスト： 『みんなの日本語初級Ⅰ,Ⅱ』、『げんきⅠ,Ⅱ』等の一般的な初級の教科書		
評価方法	①授業の準備 20％ ②模擬授業 30％ ③期末レポート（自己分析レポート）30％ ④参加態度・貢献度 20％		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	日本語文法論 I 日本語教育研究各論Ⅳ（日本語文法形態論）	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
[講義目的] 日本語の文法のうち形態論を取りあげる。形態論とは語の内部構造を決定する過程である。日本語は活用などの融合的な膠着タイプである。よって講義では、日本語における形態素の認定にはじまり、融合的な過程である活用と接辞による派生とをあつかい、さらに自律的な形態素同士の結合である複合と、特殊な問題である漢語の構造をあつかう。 [講義概要] 履修者は毎回の該当箇所を予習し、わからない点を明確にしてから出席することが要求される。また、PORTAのコメント機能を利用した質問の提示も要求される。授業は、テキストを読了していることを前提としたうえで、質問への回答とテキスト内の個人ワーク用の課題の解答を確認したのち、毎回、テキスト内のグループワーク用の課題について、授業内グループでの議論をし、その報告を提出する、という構成がとられる。		1. 形態素の認定 2. 語の認定 3. 融合的な形態過程(1)～活用の概念 4. 融合的な形態過程(2)～動詞の 1 次的な活用 5. 融合的な形態過程(3)～動詞の 2 次的な活用 6. 融合的な形態過程(4)～その他の活用 7. 膠着的な形態過程(1)～接辞の概念 8. 膠着的な形態過程(2)～接頭 9. 膠着的な形態過程(3)～接尾 10. 複合の形態過程(1)～名詞と名詞 11. 複合の形態過程(2)～名詞と動詞 12. 複合の形態過程(3)～動詞と動詞 13. 複合の形態過程(4)～その他の複合 14. 複合の形態過程(5)～漢語複合 15. まとめ	
到達目標	日本語文法を体系的に理解し、文法的知識の言語教育への応用を把握するとともに、文法的に言語を分析することができるようになる。		
事前・事後学修の内容	PORTA 配布テキストを読了し、質問を準備するとともに、テキスト内の問題に解答しておくこと。		
テキスト、参考文献	担当者(浅山)によるテキストを PORTA を通じて配布する。		
評価方法	期末試験(100%)		

13 年度以降 12 年度以前	日本語文法論Ⅱ 日本語教育研究各論Ⅴ（日本語文法統語論）	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
[講義目的] 日本語の文法のうち統語論を取りあげる。統語論とは語から文をくみだてるときの、語順に関する構造を決定する過程のことである。この授業では、基本的には生成文法の枠組みから日本語を分析し、その構造的な普遍性を把握することを目的とする。よってまず統語論の基礎的概念をあつかい、種々の構文を各論として概観する。 [講義概要] 履修者は毎回の該当箇所を予習し、わからない点を明確にしてから出席することが要求される。また、PORTAのコメント機能を利用した質問の提示も要求される。授業は、テキストを読了していることを前提としたうえで、質問への回答とテキスト内の個人ワーク用の課題の解答を確認したのち、毎回、テキスト内のグループワーク用の課題について、授業内グループでの議論をし、その報告を提出する、という構成がとられる。		1. 統語論の基礎(1)～GB 2. 統語論の基礎(2)～MP 3. 句構造 4. 格 5. 束縛 6. かき混ぜ 7. 主題 8. 使役 9. 受動 10. 関係節 11. WH 句 12. 主語と目的語 13. カートグラフィーの概念 14. 複文 15. 談話的要素	
到達目標	日本語文法を体系的に理解し、文法的知識の言語教育への応用を把握するとともに、文法的に言語を分析することができるようになる。		
事前・事後学修の内容	PORTA 配布テキストを読了し、質問を準備するとともに、テキスト内の問題に解答しておくこと。		
テキスト、参考文献	担当者(浅山)によるテキストを PORTA を通じて配布する。		
評価方法	期末試験(100%)		

13 年度以降	英語教育特殊研究（専門講読 a）	担当者	関戸 冬彦
講義目的、講義概要		授業計画	
この「英語教育特殊研究（専門講読 a）」では英語教育に関する専門書（洋書）、特に skill-based に関するもの、を読み、専門分野のことを英語で読み取れる読解力を養成すると同時に、それらの内容についての議論、発表をしながら、理解をより深めていくことをねらいとし、かつ総合的な英語力の向上を目指します。内容に関しては教職的な授業実践も含みますが、英語の「教え方」を学ぶことは「学び方」の参考にもなるはずで、またその逆もありえます。英語を「教える」「学ぶ」に関心があれば教職履修の有無は問いません。必要なものは英語教育への興味、関心と積極的な参加姿勢です。 The aim of this course is to improve your English ability through reading texts related to English education, especially skill-based approaches. It is necessary for you to attend classes positively, and you cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons.		1 Introduction 2 Reading the text with exercises 1 3 Reading the text with exercises 2 4 Reading the text with exercises 3 5 Reading the text with exercises 4 6 Reading the text with exercises 5 7 Reading the text with exercises 6 8 Reading the text with exercises 7 9 Reading the text with exercises 8 10 Reading the text with exercises 9 11 Reading the text with exercises 10 12 Reading the text with exercises 11 13 Reading the text with exercises 12 14 Reading the text with exercises 13 15 Final Evaluation	
到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって英語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前（文献の講読）、事後（文献に基づいた実践）		
テキスト、参考文献	To be announced at the first lesson		
評価方法	Class Assignment & In Class Performance 70% Final Test, Paper or Presentation 30%		

13 年度以降	英語教育特殊研究（専門講読 b）	担当者	関戸 冬彦
講義目的、講義概要		授業計画	
この「英語教育特殊研究（専門講読 b）」では英語教育に関する専門書（洋書）、特に contents-based に関するもの、を読み、専門分野のことを英語で読み取れる読解力を養成すると同時に、それらの内容について議論、発表をしながら、理解を深めていくことをねらいとし、かつ総合的な英語力の向上を目指します。内容に関しては教職的な授業実践も含みますが、英語の「教え方」を学ぶことは「学び方」の参考にもなるはずで、またその逆もありえます。英語を「教える」「学ぶ」に関心があれば教職履修の有無は問いません。必要なものは英語教育への興味、関心と積極的な参加姿勢です。 The aim of this course is to improve your English ability through reading texts related to English education, especially contents-based approaches. It is necessary for you to attend classes positively, and you cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons.		1 Introduction 2 Reading the text with exercises 1 3 Reading the text with exercises 2 4 Reading the text with exercises 3 5 Reading the text with exercises 4 6 Reading the text with exercises 5 7 Reading the text with exercises 6 8 Reading the text with exercises 7 9 Reading the text with exercises 8 10 Reading the text with exercises 9 11 Reading the text with exercises 10 12 Reading the text with exercises 11 13 Reading the text with exercises 12 14 Reading the text with exercises 13 15 Final Evaluation	
到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって英語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前（文献の講読）、事後（文献に基づいた実践）		
テキスト、参考文献	To be announced at the first lesson		
評価方法	Class Assignment & In Class Performance 70% Final Test, Paper or Presentation 30%		

13 年度以降	英語教育特殊研究（早期外国語教育）	担当者	居村 啓子
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では早期外国語教育の理論と指導法を扱います。始めに、子どもの学習者と大人の学習者の違いを、認知発達、母語獲得、年齢的要因の観点からから検証し、早期で始める意義について考察します。次に、子どもの第二言語習得理論に沿ったアプローチについて解説し、具体的な指導法を 4 つのスキルごとに学びます。後半は教材分析を行い、シラバスについて解説します。言語政策は、世界と日本の事情から考察します。講義と英語のテキスト輪読を中心に進めますが、ディスカッションや発表も多く取り入れますので、授業への積極的な参加を望みます。		1．早期英語教育とは 2．子供の認知発達 1 3．子供の認知発達 2 4．母語の獲得 5．年齢的要因 6．リスニングの指導 7．スピーキングの指導 8．リーディングの指導 9．ライティングの指導 10．語彙の指導 11．教材分析 12．言語政策 13．日本の早期外国語教育の課題 14．発表 15．講義のまとめ	
到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって英語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習として毎回テキストの範囲を読み、クイズに備えます。		
テキスト、参考文献	Annamaria Pinter (2006) <i>Teaching Young Language Learners</i> . Oxford University Press		
評価方法	小テスト(20%)、授業での発言(20%)、発表(30%)、リアクションペーパー(30%)		

13 年度以降	英語教育特殊研究（授業分析と実践 a）	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
自他の授業を分析し、省察できるようになることを主なる目的とする。また、長期的に英語を媒体言語として英語や社会の授業を展開できるようになることを目的とする。 講義内では、英語の授業を英語で教えることの功罪について考え、その長所を活かす授業展開に必要な教室談話を検討し、実践し、省察する。 出席を前提とする。 また、課題（リーディングや分析課題）をしてきたことを前提とした講義である。		第1回： 概論 第2回： 教室談話と学習 第3回： 発問とインタラクション 第4回： 発問と認知 第5回： 足場かけ（scaffolding） 第6回： 協働学習 第7回： 中学校英語の授業談話分析（日本語） 第8回： 中学校英語の授業談話分析（英語） 第9回： 中学校社会（日本）の授業談話分析 第10回： 中学校社会（欧米）の授業談話分析 第11回： 模擬授業および授業分析 1 第12回： 模擬授業および授業分析 2 第13回： 模擬授業および授業分析 3 第14回： 模擬授業および授業分析 4 第15回： 省察および総括	
到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって英語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テーマごとに指定された文献を読むこと。		
テキスト、参考文献	Walsh, Steve. (2011). <i>Exploring Classroom Discourse: Language in Action</i> . London and New York: Routledge. ISBN: 978-0-415-57067-1		
評価方法	授業分析課題（30%）、模擬授業および授業分析レポート（40%）、その他課題（30%）		

13 年度以降 12 年度以前	日本語教育特殊研究（専門講読） 日本語教育特殊研究Ⅲ（文献読解 a）	担当者	田川 麻央
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義概要】 第二言語習得研究とは、母語を獲得した後、母語以外の言語を学ぶ過程で、どのような問題が起こり、それはなぜ起こるのかということ明らかにしようとする学問です。第二言語習得研究がこれまでどのように行われ、日本語教育にどう貢献してきたのか基礎を学びます。 【講義目的】 第二言語習得研究の知見を自らの外国語学習の経験に照らし合わせながら、効果的な日本語学習について考察することを目的とします。 【注意事項】 各回の授業では、ディスカッションがあります。授業で指示された課題は必ず取り組んで積極的に参加してください。		1. 第二言語学習とは・ガイダンス 2. 学習者の誤りとはどのようなものか 3. 学習者が独自に作るルールとはどのようなものか 4. 学習者の母語は第二言語習得に影響するか 5. 重要なのはインプットかアウトプットか 6. 教室で学習すべきか 7. 「読む」とき何を考えているか 8. 母語と外国語では「読む」ことに違いがあるか 9. 「読む」ことが上手になるにはどうすべきか 10. 「書く」とき何を考えているか 11. 「書く」ことを指導するとはどのようなものか 12. 学習者が「書いたもの」をどう評価するか 13. 年齢は第二言語の学習に影響するか 14. まとめ① 15. まとめ②	
到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：自らの外国語学習の経験を振り返る。事後学修：授業内容を整理する。		
テキスト、参考文献	テキスト：担当者が用意する資料を使用。参考文献：授業で随時紹介。		
評価方法	テスト 50%，課題の取り組み 30%，授業参加度 20%		

13 年度以降	日本語教育特殊研究（年少者日本語教育）	担当者	宇津木 奈美子
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、日本語を母語としない子どもを対象とした日本語教育に焦点あて、子どもの現状とそこから浮かびあがる問題を考察していきます。 まず、子どもの言語能力を第 1 言語と第 2 言語の関係性から捉えていきます。その上で、学校現場や地域・家庭における日本語教育の取り組みや事例を検討し、そこから見えてくる課題を明らかにしていきます。 子どもが母国で培ってきた母語や母文化などの資源を生かしつつ、子どもの継続的な認知発達を支える学習支援のあり方について検討していきます。 授業は、基本的に講義形式ですが、内容によっては、グループディスカッションを行っていきます。		1. 講義の概要 2. 日本語を母語としない子どもの現状と問題点① 3. 日本語を母語としない子どもの現状と問題点② 4. 日本語を母語としない子どもの現状と問題点③ 5. 日本語を母語としない子どもの言語能力の捉え方① 6. 日本語を母語としない子どもの言語能力の捉え方② 7. 第 1 言語と第 2 言語の関係 8. 母語保障の必要性① 9. 母語保障の必要性② 10. 学校現場や地域の取り組みと課題① 11. 学校現場や地域の取り組みと課題② 12. 日本語と母語と教科の関係性① 13. 日本語と母語と教科の関係性② 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	テキスト：適宜プリント配布 参考文献：授業中に紹介		
評価方法	① 期末レポート 70%、②授業への参加度 30%		

13 年度以降 12 年度以前	日本語教育特殊研究（教育実習） 日本語教育特殊研究Ⅶ（教育実習）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 本学における日本語教員養成課程は、4年次における教育実習を必須としている。実習の目的は、日本語教育の諸問題を理解するとともに、学内で学んできたことを実際の教育現場において実践し、指導方法及び日本語教育への理解を深めることである。 【講義概要】 この授業は、大学での事前と事後の指導、および学外の日本語教育機関（日本語学校）における、少なくとも2週間（48時間相当）にわたる実習（実際の授業を担当する教壇実習を含む）によって構成される。 【注意事項】 この授業を履修するためには、教授法Ⅱを修了していることが条件となる。		各教育機関による。	
到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各教育機関によって指示される。		
テキスト、参考文献	各教育機関によって指定される。		
評価方法	基本的には実習校からの評価に基づく。よって、欠勤、遅刻、不真面目な勤務態度は厳しい評価となる。		

13 年度以降 12 年度以前	日本語教育特殊研究（教育実習） 日本語教育特殊研究Ⅶ（教育実習）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 本学における日本語教員養成課程は、4 年次における教育実習を必須としている。実習の目的は、日本語教育の諸問題を理解するとともに、学内で学んできたことを実際の教育現場において実践し、指導方法及び日本語教育への理解を深めることである。 【講義概要】 この授業は、大学での事前と事後の指導、および学外の日本語教育機関（日本語学校）における、少なくとも 2 週間（48 時間相当）にわたる実習（実際の授業を担当する教壇実習を含む）によって構成される。 【注意事項】 この授業を履修するためには、教授法Ⅱを修了していることが条件となる。		各教育機関による。	
到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各教育機関によって指示される。		
テキスト、参考文献	各教育機関によって指定される。		
評価方法	基本的には実習校からの評価に基づく。よって、欠勤、遅刻、不真面目な勤務態度は厳しい評価となる。		

13 年度以降 12 年度以前	日本語教育特殊研究（教育教材論） 日本語教育特殊研究Ⅵ（日本語教育教材論）	担当者	小山 慎治
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、日本語教育の教材作成の実践を通じて、言語コミュニケーションの能力の習得について考えることである。 授業では、日本語の授業における副教材の作成について学ぶ。この課題のために、教科書の分析、教材作成に関わる文献の講読を行う。そのうえで受講生には初級レベルの会話教材、読解教材、漢字教材の作成、それらを用いた授業案の作成を課す。また、中級、上級レベルの授業を視野に入れ、ビデオ、新聞記事、小説などを教材として使用する方法について検討してもらう。 このように、受講生による文献発表、教材の作成、作成過程および授業案の発表を軸に授業を進めることになるので、積極的に活動に参加し、クラスを活性化してくれる学生を特に歓迎する。		1. オリエンテーションと教材・教具の概観 2. 言語コミュニケーションと日本語教育 3. 初級教材の作成：教科書の分析 4. 初級教材の作成：会話教材作成 5. 初級教材の作成：漢字教材作成 6. 初級教材の作成：日本事情教材の作成 7. 初級教材作成過程と授業案の発表 8. 初級授業における教材の可能性 9. 中上級教材の作成：教科書の分析 10. 中上級教材の作成：会話教材の作成 11. 中上級教材の作成：生の素材を用いた読解教材作成 12. 中上級教材の作成：ビデオを用いた教材作成 13. 中上級教材の作成：日本事情教材の作成 14. 中上級教材作成過程と授業案の発表 15. まとめ	
到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教材作成の課題に取り組む際には、日本語教育で使用される教材や教具や、教材に内で扱われる文法項目などの基本的な知識について、事前によく調べた上でクラスに参加すること。		
テキスト、参考文献	テキスト：特に指定しない 参考文献：関正昭ほか（編）『会話教材を作る』スリーエーネットワーク 関正昭ほか（編）『漢字教材を作る』スリーエーネットワーク、関正昭（編）『読解教材を作る』スリーエーネットワーク		
評価方法	クラスでの課題（30％）、クラスへの参加度（30％）、最終課題（40％）の割合で評価する。		

13 年度以降	日本語教育特殊研究（日本語教育のための社会言語学）	担当者	野原 ゆかり
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 以下の3点を通して、日本語教師に必要な社会言語学の素養を身につけることを目的とします。 1. 自身の言語運用を社会との関わりから振り返る。 2. 多文化社会のなかでの日本語とその運用を知る。 3. 多言語・多文化社会で求められる日本語・日本語教育を考える。 【講義概要】 この授業では、多言語・多文化社会との関係から「日本語」を再考します。多様な背景を持つ学生がともに考え、自らの、そしてお互いの言語運用について理解を深めることで、相互理解のための日本語・日本語教育とはどのようなものかを考えていきます。		1. オリエンテーション 2. 言語のバリエーション 3. 言語運用のルール① 4. 言語運用のルール② 5. 言語・非言語行動 6. 言語運用に対する評価 7. 社会言語能力 8. 接触場面の日本語① 9. 接触場面の日本語② 10. 正しい日本語とは 11. 不快な日本語① 12. 不快な日本語② 13. やさしい日本語、わかりやすい日本語① 14. やさしい日本語、わかりやすい日本語② 15. コミュニケーション能力、まとめ	
到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回テーマに関する事前課題がある。事後としては毎回振り返りシートを提出。		
テキスト、参考文献	教科書の指定は特になし。毎回プリントを配布。参考文献は授業の中で適宜指示する。		
評価方法	① 課題の取り組み 30% ②参加態度・貢献度 30% ③期末レポート 40%		

13 年度以降 12 年度以前	日本語教育特殊研究（意味論） 日本語教育研究各論Ⅶ（日本語意味論・語用論）	担当者	武田 明子
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>講義目的</u> コミュニケーションには意味の理解が欠かせない。「意味の理解」には意味論と語用論がある。前者では個々の語（句）や文などが表す意味内容を分析し、後者ではコンテキストによって変わってくる意味内容を分析する。 日本語を分析材料として使用し、それがどのように意味を伝達するのかを理解し、日本語教育への応用も考えることを目的とする。		1. 日本語の特徴 2. 形態・意味・語用 3. 語の役割 4. 語の類別 5. 語の構成 6. 構成語の意味役割 7. 意味の場 8. 連語 9. 意味の意味 10. 文の意味 11. モダリティ 12. メタファー 13. 名詞句 14. 有標と無標 15. 意味論・語用論の実践的活用	
<u>講義概要</u> 授業は講義形式で行い、初回日に渡す詳細な授業進行表に従って行う。毎回自作のプリントを配布し、特に用意するテキストは指定しない。毎回理解度を確認する小テストを実施する。また、受講者の独創性を発揮してもらうため、必要に応じて課題を与え、小レポート形式での提出を求める。			
到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	プリントを参照しながらの毎回の小テストで時間内理解を深め、次回提出の課題では自分なりの考えを深めるよう、「熟考」してもらう。		
テキスト、参考文献	授業は毎回配布する自作のプリントで行い、必要に応じて授業内で参考文献を紹介する。		
評価方法	定期試験 50％、レポート 20％、小テスト 10％、授業参加 20％		

13 年度以降 12 年度以前	日本語教育特殊研究（談話論） 日本語教育研究各論Ⅵ（日本語談話論）	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 談話についての基本的な知識と方法の習得を目的とする。談話分析は、前世紀の後半以降、文学、文化人類学、社会学、心理学などの分野とも関連して発展してきた言語の学である。本講義では、日本語教育の中上級の学習項目を談話論にもとめるという目標のもとで、談話とはなにか、どのような理論があり、どのような具体的分析が可能なのかを学習していく。 〔講義概要〕 履修者は毎回の該当箇所を予習し、わからない点を明確にしてから出席することが要求される。また、PORTAのコメント機能を利用した質問の提示も要求される。授業は、テキストを読了していることを前提としたうえで、質問への回答とテキスト内の個人ワーク用の課題の解答を確認したのち、毎回、テキスト内のグループワーク用の課題について、授業内グループでの議論をし、その報告を提出する、という構成がとられる。		1. 談話論概説 2. 談話の構成要素 3. 指示 4. 省略 5. 主題 6. 接続 7. 結束性分析 8. 語順 9. 動詞の文法範疇の談話分析 10. 文の種類 11. 各種の文の機能 12. 文章の談話構造 13. 会話談話構造 14. 応答と問投 15. 談話論と言語教育	
到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	PORTA 配布テキストを読了し、質問を準備するとともに、テキスト内の問題に解答しておくこと。		
テキスト、参考文献	担当者(浅山)によるテキストを PORTA を通じて配布する。		
評価方法	期末試験(100%)		

13 年度以降 12 年度以前	異文化間コミュニケーションⅠ 多文化共生研究Ⅴ（異文化間コミュニケーション a）	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
あなたにとってなにが異文化／自文化か？と問われたらどう答えるだろうか。異文化は「遠い国」「違うコトバ」だけではない。もちろんそれらが異文化として私たちの目に映ることはあるが、もっと身近なところにも異文化は見つけられる。場合によっては、遠い異文化より身近な異文化のほうに受け入れ難い何かを感じることもある。 本講義では、異文化間コミュニケーションの基礎的研究とその歴史的背景をふまえたうえで、現代社会の異文化関係について様々な角度から学ぶことがねらいである。とくに、異なる文化の人々が共に社会を築きあげる際に起こりうる問題にはどういったことがあるか、またそれはどういった経緯で起こるのかについて深く考えてもらいたい。授業でとりあげる資料や事例は、慎重に扱わねばならない難しいものもあるが、本講義をとおして、自分なりに異文化共生や異文化理解の糸口を探してほしい。		1. オリエンテーション 2. 異文化と自文化を意識する 3. 異文化間コミュニケーション研究の歴史 4. コミュニケーションの構造 5. 異文化へのまなざし（1） 6. 異文化へのまなざし（2） 7. 異文化へのまなざし（3） 8. 異文化からのまなざし（1） 9. 異文化からのまなざし（2） 10. 異文化からのまなざし（3） 11. 内なる異文化（1） 12. 内なる異文化（2） 13. マルチカルチュラリズムについて（1） 14. マルチカルチュラリズムについて（2） 15. まとめ	
到達目標	自文化と異文化の境界線、異文化間コミュニケーションのメカニズムとそこに付随する各種の問題点について分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	あなたにとっての「異文化」とはなにか、考えておく。		
テキスト、参考文献	岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社		
評価方法	授業への積極性（50%）、期末試験（50%）		

13 年度以降 12 年度以前	異文化間コミュニケーションⅡ 多文化共生研究Ⅵ（異文化間コミュニケーション b）	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
異文化間のコミュニケーションとは「他者理解」の作法と言い換えることができる。グローバル時代では不可欠なことだ。しかし、それは「言うは易く行は難し」のフレーズ通りなのである。 本講義では、その事例としてアメリカの黒人問題を取り上げる。 価値観や行動様式、そして外見のちがう「他者」との出会いでは、相手を理解する努力と寛容さが必要だ。ただ、アメリカは黒人種との出会いにおいて大きな過ちを犯した。それは彼らを奴隷として処遇したことである。この大罪に、アメリカはいまだ苦しんでいる。黒人と白人との修復されない不仲は犯罪や貧困の温床となっている。 苦悩するアメリカの現状を紹介し、歴史をさかのぼって奴隷から「解放」、そして真の「解放」への闘争を紹介する。		1. ガイダンス 2. モザイク国家アメリカ 3. 最近の黒人暴動にみる共生の現実 4. 奴隷制とは 5. 奴隷解放？現実とは？ 6. 自由と平等への戦いのはじまり 7. バスボイコット事件 8. 公民権運動の共生理念 9. 非暴力不服従 ガンジーとキング 10. 迷える北部の黒人たち 11. 急進派ブラック・パワーとは 12. ベトナム反戦と黒人運動 13. モハメッド・アリ 14. 最近の人種関係 15. まとめ	
到達目標	自文化と異文化の境界線、異文化間コミュニケーションのメカニズムとそこに付随する各種の問題点について分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	指定された参考文献などを読み、講義理解の補助とする		
テキスト、 参考文献	参考文献:『アメリカ黒人の歴史』本田創造 岩波新書 『キング牧師とマルコム X』上坂昇 講談社現代新書		
評価方法	学期末試験レポート 受講希望者は初回のガイダンスに必ず出席してください		

13 年度以降 12 年度以前	多文化共生研究Ⅰ 多文化共生研究各論Ⅰ（アメリカの多文化共生 a）	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期前半には近現代の日本に対して、資本導入、技術移転、学術指導、法制定等を通して多大な恩恵を及ぼした米・英を中心とするユダヤ系の働きかけについて学ぶ。ユダヤ人と日本人の著名人が力を合わせて偉業を成し遂げる心温まるgood storyを中心に授業は進められる。ユダヤ人史と日本史、異質な情報が交錯するスリリングなおもしろさに満ちていることを約束しよう。 後半ではユダヤ系が超大国アメリカの地で、パワー・エリートに成りあがる以前、中世から現代の英国で負け犬として「下積み」をすごした自体を概観する。		1. 日露戦争の資金調達に協力した米英系ユダヤ人。 2. 日本人ビジネスマン、ユダヤ商人と出会う。 3. 「日系ユダヤ人」、ソニーの盛田昭夫 4. 明治憲法の助言者、モッセ 5. 亡命ユダヤ系音楽家の楽園、日本 6. 服部良一を育てたユダヤの恩師 7. P. エールリッヒと秦佐八郎の師弟コンビ 8. ノーベル化学賞受賞日本人とユダヤの恩師 9. 中世英国のユダヤ人金融 10. 中世英国からユダヤ人追放 11. 隠れユダヤ教徒の足跡 1290~1656 12. 千年王国とユダヤ人再入国 13. 17~18 世紀英国の外国貿易とユダヤ人 14. 英国人地主貴族社会への同化現象 15. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生のメカニズム	
到達目標	国籍や民族の異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係でそれぞれの能力を発揮しながら共に生きていくという、多文化共生にむけた課題や問題点について分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。		
テキスト、参考文献	佐藤唯行『日本の恩人、ユダヤ人』日新報道 15 年刊行、1500 円 佐藤唯行著『英国ユダヤ人』（1995 年講談社選書）1600 円		
評価方法	20 問 12 択の Quiz 形式の試験、教科書持ち込み可 出席はとらない。評価は定期試験のみによって決定。		

13 年度以降 12 年度以前	多文化共生研究Ⅱ 多文化共生研究各論Ⅱ（アメリカの多文化共生 b）	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
混迷を深め、出口の見えないパレスチナ・イスラエルの紛争。 公平な仲介者を演じられぬアメリカの国内事情を分析し、パレスチナ・イスラエル側の問題点も明らかにしてゆく。 後半は、在米ユダヤ系の「下積み時代」における苦難の足跡を歴史的に学ぶ。		1. アメリカ政治とユダヤ人 2. 移民・マイノリティの政党、民主党との同盟成立 3. 在米イスラム教徒の政治力 4. 共和党支持の中核、キリスト教福音派 5. ヒスパニック社会に対する福音派の宣教活動 6. キリスト教シオニストの圧力団体 7. 新パレスチナに傾く主流派教会 8. 2016 年大統領選とエスニック・マイノリティ 9. 欧州極右とユダヤ・ロビーの急接近 10. 大都市移民ゲッターのエスニック・コンフリクト 11. 自動車王ヘンリー・フォードの反ユダヤ・キャンペーン 12. 蘇る儀式殺人告発、20 世紀アメリカで復活 13. ヨーロッパ起源の反ユダヤ主義 14. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 15. アメリカ南部における反ユダヤ主義、レオ・フランク事件	
到達目標	国籍や民族の異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係でそれぞれの能力を発揮しながら共に生きていくという、多文化共生にむけた課題や問題点について分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。		
テキスト、参考文献	佐藤唯行『アメリカはなぜイスラエルを偏愛するのか』（電子書籍版：ダイヤモンド社）、1280 円 佐藤唯行著『アメリカのユダヤ人迫害史』（2000 年 集英社新書）740 円		
評価方法	評価はクイズ形式による筆記試験（12 択 20 問）によってのみ決定する。試験はテキストの持ち込み可。出席はとらない。		

13 年度以降 12 年度以前	大衆文化論 多文化共生研究各論Ⅶ（大衆文化論）	担当者	木本 玲一
講義目的、講義概要		授業計画	
音楽、ゲーム、マンガ等のコンテンツや、それらの背景にあるサブカルチャー（音楽文化、オタク文化など）、さらにはそれらを売買する市場について、具体的な事例をもとに講義を進めていく。コンテンツを介したグローバル化についても、重点的に講義する。各産業の成り立ち、市場の形成、関連する技術の変容、制度の確立、文化の動態などについて考えながら、私たちが日常的に接している文化を多角的に見る視点を養う。		1. イントロダクション 2. 20 世紀のサブカルチャー1：ロックと対抗文化 3. 20 世紀のサブカルチャー2：ロックの成熟化 4. 20 世紀のサブカルチャー3：ヒップホップの時代 5. サブカルチャーとグローバル化 1：日本のロック 1 6. サブカルチャーとグローバル化 2：日本のロック 2 7. サブカルチャーとグローバル化 3：日本のヒップホップ流入期 8. サブカルチャーとグローバル化 4：その後 9. 産業と文化 1：文化産業論 10. 産業と文化 2：市場の動態 11. ヤンキー文化 12. オタク文化 13. 複合メディア社会とサブカルチャー 14. 予備 15. まとめ	
到達目標	大衆文化のグローバル化／ローカル化、大衆文化と産業の関係性といった、大衆文化にまつわる各種の事象について分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内で指示する課題に取り組むこと		
テキスト、参考文献	随時指示する		
評価方法	試験で評価する		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	ローカル・メディア論 多文化共生研究各論Ⅷ（地域メディア論）	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
Think Globally, Act locally というフレーズを一度は耳にしたことがあるだろう。それに示されているように、多文化共生やグローバル化、さらには現代の環境問題や社会福祉のあり方を考えるうえで、「地域」もしくは「ローカル」は重要なキーワードのひとつである。それを頭に置いたうえで、本講義を受講してほしい。 本講義で扱う地域メディアは、ある特定のエリアにおける情報を伝える地域情報誌や、各地域・地方で発行されているミニコミ誌やフリーペーパー、コミュニティ FM などである。それらが、多文化が共生する社会においてどのような役割を果たしてきた／いる／いくのか、また将来的に、どういった機能がそのメディアに要求されているのかについて、受講者とともに考えてゆきたい。学期のさいごには、受講者自身が制作したローカル・メディアを提出・発表してもらおう。		1. イントロダクション 2. グローバル化とローカル・コミュニティ 3. 地域・地方文化の復権とメディア 4. 各地の地域メディア（1） 5. 各地の地域メディア（2） 6. 各地の地域メディア（3） 7. メディアによる地域文化の創造（1） 8. メディアによる地域文化の創造（2） 9. 多文化共生と地域メディア（1） 10. 多文化共生と地域メディア（2） 11. 多文化共生と地域メディア（3） 12. 受講者による発表（1） 13. 受講者による発表（2） 14. 受講者による発表（3） 15. まとめ	
到達目標	各種・各地域のローカル・メディアが多文化共生社会において果たす役割等について分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	自分がよく読んだり視聴したりするローカル・メディアについて調べておく。		
テキスト、参考文献	岡村圭子『ローカル・メディアと都市文化』ミネルヴァ書房		
評価方法	授業時間内での発表・質問など（50%）、期末試験（50%）		

13 年度以降 12 年度以前	比較文化論 多文化共生研究各論Ⅵ（比較文化論）	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義ではグローバリゼーションとローカリゼーションという現象に注目しながら、異文化を「比較する」ということはどういうことなのかについて考えを深め、グローバリゼーションがもたらした「文化の融合」あるいは「文化変容」をめぐる諸問題について考える。受講者は本講義をとおして、文化を比較するときの視点がどこに置かれるか、また異文化比較によって生じる問題点や困難な点、比較によって明らかにされる自文化の姿など、あらためて意識してもらいたい。 講義の前半では、それぞれ異なった文化を比較することによって、なにが見えてくるのか、そして異なった文化を比較するとき、それが「誰の視点から」行なわれているのかをテーマに講義をする。後半は翻訳（不）可能性をテーマに、具体的な事例について資料映像・記事などを用いてディスカッションする。		1. オリエンテーション 2. グローバル化するローカル文化（1） 3. グローバル化するローカル文化（2） 4. 異文化を比較する（1）時間、空間 5. 異文化を比較する（2）Japanimation と Disney 6. 異文化を比較する（3）未定 7. 異文化を比較する（4）未定 8. 文化帝国主義と「英語」使用 9. オリエンタリズムをめぐって 10. 異文化の翻訳「不」可能性について（1） 11. 異文化の翻訳「不」可能性について（2） 12. 文化変容と異文化の融合（1） 13. 文化変容と異文化の融合（2） 14. 文化変容と異文化の融合（3） 15. まとめ	
到達目標	グローバル社会のなかのローカル文化が置かれた状況を理解しながら、異文化比較の方法や視点を養い、そこに存在する問題点について分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	情報化社会と文化産業、文化のオリジナリティについて資料を収集しておく。		
テキスト、参考文献	岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社		
評価方法	授業への積極性（50%）、期末試験（50%）		

13 年度以降 12 年度以前	英語圏の文化 多言語間交流研究各論 X I（英語圏の文化）	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
年間、60 数万人もの移民を受け入れているアメリカ。白人々口の割合は減る一方で、今世紀の半ばには 5 割を切るという。 国家の黎明期、アメリカはイギリス文化を模したワスプ（WASP<White Anglo-Saxon Protestant>）社会を創造した。19 世紀末、工業化に伴い膨大な数の移民を受け入れたアメリカは多民族国家へと急速に変化していったが、ワスプ文化は依然として社会の根幹をなしていた。 冷戦下のベトナム戦争は既存の文化に対抗するカウンターカルチャーを生み、それまでのアメリカ的価値観に大きな揺らぎをもたらした。 近年、よく聞かれる多文化主義にいたるアメリカ文化の変遷を、社会の変化を捉えながらたどり、この国の文化の特徴を明らかにする。		1. ガイダンス 2. ワスプ主義とは 3. 新しい白人移民の流入 4. 多民族社会の問題 5. 異文化と差別 6. メルティングポット論 7. ビートニックス 8. 冷戦とベトナム戦争 9. カウンターカルチャー I 10. カウンターカルチャー II 11. ロックミュージックの誕生 12. 文化多元論 13. アフターマティヴアクション 14. 多文化主義 15. まとめ	
到達目標	英語圏の各種文化が形成されるに至った過程や要因、およびその特徴等について分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献を読み、講義理解の補助とする		
テキスト、参考文献	授業時で紹介する		
評価方法	学期末試験 レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください		

13 年度以降 12 年度以前	英語圏事情 多言語間交流研究各論ⅩⅡ（英語圏事情）	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
グローバル化の理想は、世界の共生のはずである。しかし、テロの脅威が世界を不安に陥れている。力を武器に富の眠る第三世界を思うままに支配してきた欧米への反撃が収まらない。 授業では経済と軍事の頂点に君臨してきたアメリカをとり上げて、その価値観と行動様式を見ていき、平和に資する多国間の共生のあり方を探っていこう。キーワードは「力の支配」である。 ① 銃社会アメリカで起こる惨劇はたびたび報道される。銃を所持しようとするアメリカ人の価値観とはいったいなんなのか、検証する。 ② アメリカと日本は第二次大戦以降、緊密な関係を築いてきたのだが、問題はないのか？日米は互いに敬い、果たして平等なのだろうか ③ テロの横行のはじまりは 2001 年の 911 である。人々を震撼させたあの事件がいったい何によってひきおこされたのだろうか イスラム世界に対する軍事力の行使は、「力」を信望するアメリカの姿をわたしたちに再認識させた。アメリカはその歴史において自国の要求を受け入れない国に対し、ときに容赦なく武力を用いてきたのである。 反面、大衆文化という柔らかなイメージで世界に向け「アメリカ的なもの」を発信しつつ、それは「文化帝国主義」との非難を誘起するほどに、人びとの生活様式を単一化させている。 アメリカのハードとソフトの両面パワーを明らかにし、グローバル化がすすむ世界に与える影響を考える。		1. ガイダンス 2. 銃社会アメリカ 3. なぜ、銃が必要か 4. 日本の中のアメリカ、米軍を考える 5. アメリカの占領 6. 日米による安全保障とは 7. 米兵事件の実相 8. 湾岸戦争 9. 911 10. アフガン/イラク戦争 11. もう一つの 911 12. 映像 13. ソフト・パワー 14. アメリカンポップカルチャーの力 15. まとめ	
到達目標	英語圏における実際問題を政治、経済、文化、社会といった様々な視点から捉えて分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定された参考文献などを熟読し、授業理解の補助とする		
テキスト、参考文献	『米兵犯罪と日米密約』明石書店		
評価方法	学期末試験 レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください		

13 年度以降 12 年度以前	国際関係論 国際交流研究Ⅰ（国際関係論）	担当者	佐藤 俊輔
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、現代の多面的な国際関係を把握するための基礎的な知識と視角を身に付けるために、特に国際政治・経済を中心とした国際関係の歴史と主要な理論を習得することを目的とします。 上記の目的に照らし、講義では①前半でヨーロッパを中心とする国際関係の歴史を学び、現代の国際関係の特質について考察します。その後、②後半では国際関係学の主要な理論について紹介し、③最後に国際政治と国際経済との相互作用、連動について掘り下げた考察を行います。		1. イントロダクション：講義の目的と全体像 2. 主権国家体制の成立 3. 帝国主義とナショナリズムの時代 4. 第1次世界大戦の起源とその影響 5. 第2次世界大戦と新国際秩序 6. 冷戦期の国際関係 7. 冷戦からポスト冷戦期へ 8. ポスト冷戦期の国際秩序 9. 国際関係学の理論（1）ーリアリズム 10. 国際関係学の理論（2）ーリベラリズム 11. 国際関係学の理論（3）ー従属論、世界システム論 12. 国際関係学の理論（4）ーコンストラクティビズム他 13. 国際政治と国際経済の連動（1） 14. 国際政治と国際経済の連動（2） 15. 講義のまとめ	
到達目標	国際関係に関する基本的知識のうえに、国際社会の成り立ち、国際関係の歴史的展開、国際関係における政治と経済の関わりを正確に分析し、個別の事象について見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各講義の終了後に自分なりのまとめを行い、理解の足りない箇所については参考図書などを用いて補うこと。そのうえで関心があれば、ぜひ講義中に紹介する参考文献へあたり、理解と思考を深めてほしい。		
テキスト、参考文献	テキストとして村田晃嗣他著『国際政治学をつかむ（新版）』有斐閣、2015 年を用い、参考文献は講義の中で適宜紹介します。		
評価方法	定期試験（80％）と不定期のコメントカードなど平常点（20％）により評価します。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	国際政治論 I 国際交流研究各論 I (国際政治論 a)	担当者	岡垣 知子
講義目的、講義概要		授業計画	
国際政治学は、他の社会科学および自然科学の知見を取り入れながら、戦争の原因および平和の条件をその中心的課題として、発展してきた学問である。この講義は、複雑化する今日の国際政治事象を体系的に考え、一見アト・ランダムな寄せ集めに見える国際的事件の中に一定のパターンを見出し、分析する力を養うことを目的として、国際政治学の基礎概念や代表的理論を紹介する。		1. 国際政治学とは何か 2. 国際政治の先駆思想 3. 国際政治の歴史 4. 国際政治学の基礎概念(1) 集合行為の論理 5. 国際政治学の基礎概念(2) 分析のレベル 6. 国際政治学の基礎概念(3) 国家とは 7. 国際政治学の基礎概念(4) 国際政治の構造と安定性 8. リアリズムの世界(1) 古典的リアリズム 9. リアリズムの世界(2) 構造主義とネオリアリズム 10. リベラリズムの世界(1) 相互依存論 11. リベラリズムの世界(2) 民主的平和論 12. リベラリズムの世界(3) 国際制度論 13. コンストラクティヴィズム、その他の理論 14. 理論と政策 15. まとめ	
到達目標	国際政治学の基礎的理論、ウェストファリア以降現代に至るまでの国際社会の変遷や歴史的流れ、現代国際社会の課題と日本のかかわり方を体系的かつ正確に解釈し、個別の事象について見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テーマに沿って予習しておく。 授業で扱った内容についてのレポート提出が求められることがある。		
テキスト、 参考文献	なし		
評価方法	小テスト:10%;宿題:10%;レポート:30%;期末テスト:50%		

13 年度以降 12 年度以前	国際政治論Ⅱ 国際交流研究各論Ⅱ (国際政治論 b)	担当者	岡垣 知子
講義目的、講義概要		授業計画	
国際政治についての体系的なものの見方や主要概念を踏まえたうえで、この講義では、国際政治学と外交史、国際法、経済学、比較政治学、社会学等との学際的接点に注目しながら、今日のさまざまな国際政治事象を詳しく分析する。		1. 国際政治経済学の基礎 2. 国際政治経済学(1): グローバリゼーションの諸相 3. 国際政治経済学(2): 開発経済学の視点 4. 国際政治経済学(3) 地域統合のダイナミクス 5. 国際安全保障論の基礎 6. 国際安全保障論(1): 安全保障概念の変遷 7. 国際安全保障論(2): 安全保障レジーム 8. 国際安全保障論(3): 新しい安全保障問題 9. 今日の課題(1): 環境問題 10. 今日の課題(2): 人権問題 11. 今日の課題(3): 核拡散の問題 12. 今日の課題(4): 中国の台頭 13. 今日の課題(5): アメリカと国際社会 14. 国連 15. 世界の中の日本	
到達目標	国際政治学の基礎的理論、ウェストファリア以降現代に至るまでの国際社会の変遷や歴史的流れ、現代国際社会の課題と日本のかかわり方を体系的かつ正確に解釈し、個別の事象について見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テーマに沿って予習しておく。 授業で扱った内容についてのレポート提出が求められることがある。		
テキスト、 参考文献	なし		
評価方法	小テスト:10%;宿題:10%;レポート:30%;期末テスト:50%		

13 年度以降 12 年度以前	国際経済論 I 国際交流研究各論Ⅲ（国際経済論 a）	担当者	益山 光央
講義目的、講義概要		授業計画	
国際経済を理解するのに最低限必要と思われる基本的な考えを講義します。その中心は貿易理論、国際貿易の一般均衡、貿易政策となります。講義で扱う内容は、よりすすんだ諸理論を学ぶのに必須の基礎的事項なので厳密な展開を心がけたいと思います。受講生には予習と復習を求めます。私語厳禁。		1. 国際貿易概観 2. リカード的比較優位説 3. リカード的比較優位説 4. ヘクシャー・オリー定理 5. ヘクシャー・オリー定理 6. 国際貿易の一般均衡 7. 国際貿易の一般均衡 8. 経済成長と貿易 9. 国際資本移動と移民 10. 国際資本移動と移民 11. 関税・輸入数量制限 12. 関税・輸入数量制限 13. 輸入補助金と輸出自主規制 14. 輸入補助金と輸出自主規制 15. 質問とまとめ	
到達目標	国際経済に関する専門知識を習得し、貿易理論・政策、国際収支調整といった国家間の経済活動全般について分析のうえ、解説できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前・事後の学修に関しては、授業時に指示する。		
テキスト、参考文献	大山道広・伊藤元重『国際貿易』 岩波書店		
評価方法	試験のみで評価		

13 年度以降 12 年度以前	国際経済論Ⅱ 国際交流研究各論Ⅳ（国際経済論 b）	担当者	益山 光央
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に扱った貿易理論とともに国際経済学の大きな柱である国際収支調整メカニズムに関連する事柄を学びます。国際収支の赤字、黒字からはじまり、だんだんと高度な内容へと移行します。すべて基本的な内容なので、きちんと理解する必要があります。 春学期の国際経済論 a を履修しているほうがより理解が深まります。私語厳禁。		1. 国際収支と国民所得勘定 2. 国際収支と国民所得勘定 3. 外国為替市場 4. 外国為替市場 5. 外国為替市場 6. 固定相場制下の所得決定 7. 固定相場制下の所得決定 8. 変動相場制下の所得決定 9. 変動相場制下の所得決定 10. 国際収支と財政・金融政策 11. 国際収支と財政・金融政策 12. 国際資本移動と財政・金融政策 13. 国際資本移動と財政・金融政策 14. 質問とまとめ 15. 質問とまとめ	
到達目標	国際経済に関する専門知識を習得し、貿易理論・政策、国際収支調整といった国家間の経済活動全般について分析のうえ、解説できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前・事後の学修に関しては、授業時に指示する。		
テキスト、参考文献	未定		
評価方法	試験のみで評価		

13 年度以降 12 年度以前	国際協力論 国際交流研究Ⅱ（国際協力論）	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
世界の各地では地域紛争が絶えない。また貧富の格差も一向になくならない。こうした諸問題を前に、我々はPKO(平和維持活動)やODA(政府開発援助)を軸に平和構築や経済開発・貧困緩和に取り組んできた。この2つを有機的に結びつけること、すなわち紛争中やその前後の危険な状況下で効果的な開発援助を進めていくことも今日の重要課題のひとつである。 本講義ではこれらの国際協力の基本的枠組みや具体的事例、成果や限界について学び、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。		1. 平和協力(1)：国連と平和維持活動(PKO) 2. (2)：国連 PKO の原則と歴史的変遷 3. (3)：日本の PKO 協力と論点 4. (4)：事例研究：アフリカ・モザンビーク 5. 開発協力(1)：政府開発援助(ODA)の理念と枠組み 6. (2)：開発援助の歴史的変遷 7. (3)：貧困と「人間の安全保障」 8. (4)：事例研究：中米・エルサルバドル 9. 選挙支援(1)：民主主義支援と選挙監視活動 10. (2)：選挙監視活動の原則と歴史的変遷 11. (3)：事例研究：欧州・ウクライナ 12. 新しい課題(1)：平和協力と開発協力の融合 13. (2)：武装解除と平和構築 14. (3)：国際協力の意義・問題点・課題 15. 授業のまとめ	
到達目標	国際協力に関する基本的知識のうえに、国際協力に関連した事例、および国際協力の実態や新たな展開などについて分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業効果を高めるための課題(基本事項の事前確認や文献の講読)について毎回指示する。		
テキスト、参考文献	参考文献は授業で随時紹介する。		
評価方法	期末試験で評価(これに授業への参加状況を加味する場合がある)。		

13 年度以降 12 年度以前	南北問題 国際交流研究Ⅴ（南北問題）	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
地球上にいる人間の約 8 割は発展途上国に暮らしている。そして世界人口の約 5 分の 1(約 12 億人)は 1 日 1 ドル以下の生活を強いられている。我々は今この問題に正面から向き合わなければならない。たとえば、経済開発は重要だがそれを環境に負荷を与えずに行えるのか。市場経済と自由競争の社会で脆弱な貧困層にいかなる社会政策(教育・保健・福祉)を進めていけばよいのか。先進国による開発援助はいかにあるべきか。今日の新興国の成長は、国際関係構図をいかに変えつつあるのか。 本講義ではこうした現代世界における政治的・地理的課題について考え、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。		1. 地球環境(1)：地球環境問題と南北対立 2. (2)：貧困と環境破壊 3. (3)：持続可能な開発の模索 4. (4)：地球温暖化問題と南北関係 5. 南の開発(1)：第三世界の独立と開発援助戦略 6. (2)：ナショナリズムと格差の拡大 7. (3)：貧困と「人間開発」 8. (4)：国連の新しい開発戦略 9. 資源問題(1)：世界の食糧問題 10. (2)：水問題と砂漠化問題 11. (3)：人口増加とエネルギー問題 12. 新しい争点(1)：自然災害と防災 13. (2)：核拡散と原子力利用 14. (3)：グローバル化と金融問題 15. 授業のまとめ	
到達目標	南北関係に関する基本的、体系的知識のうえに、南北問題、および途上国の抱える諸問題やその解決策について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業効果を高めるための課題(基本事項の事前確認や文献の講読)について毎回指示する。		
テキスト、参考文献	参考文献は授業で随時紹介する。		
評価方法	期末試験で評価(これに授業への参加状況を加味する場合がある)。		

13 年度以降 12 年度以前	日本政治外交史 I 国際交流特殊研究 I（日本政治外交史 a）	担当者	福永 文夫
講義目的、講義概要		授業計画	
21 世紀に入っても日本は混迷の淵にあり、出口を求めてさまよっている。それは他方で、戦後日本のあり方を改めて問うている。本講義では、第 2 次世界大戦後の日本の政治と外交を論ずることで、この国の来し方を考える。 春学期は敗戦を経て、どのようにして戦後日本がつくられたかを、アメリカの日本占領政策をたどり、それに日本の諸政治勢力＝政府・諸政党などがどう対応していったかを考えてみたい。その際、日本国憲法を頂点とする占領期に行われた改革が戦後日本にどのような影響を与えたかを見てみる。 その際、国際社会のなかで日本はどうあるべきかを念頭に、受講者には歴史を学ぶだけでなく、歴史を考えてもらいたい。		1. はじめに－国際社会のなかの日本－ 2. 日米戦争と戦後日本（1） 3. 日米戦争と戦後日本（2） 4. 敗戦と占領（1） 5. 敗戦と占領（2） 6. 日本国憲法の誕生（1） 7. 日本国憲法の誕生（2） 8. 政党政治の再出発 9. 政党政治の展開 10. 中道政権の軌跡（1） 11. 中道政権の軌跡（2） 12. 占領政策の転換（1） 13. 占領政策の転換（2）－吉田茂の再登場 14. 占領政策の転換（3）－ドッジ・ライン 15. おわりに	
到達目標	歴史を「考える」意識をもって、歴史的事実とその因果関係を正確に解釈し、個別の事象について見解を示すことができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておくこと。その上で講義ノートと照らし合わせて要点をまとめること。		
テキスト、参考文献	福永文夫『日本占領史 1945～1952』中公新書		
評価方法	講義中に行う平常試験（50 点）と年度末の定期試験（50 点）によって判定する。詳細は講義中に指示する。		

13 年度以降 12 年度以前	日本政治外交史Ⅱ 国際交流特殊研究Ⅱ（日本政治外交史 b）	担当者	福永 文夫
講義目的、講義概要		授業計画	
21 世紀に入っても日本は混迷の淵にあり、出口を求めてさまよっている。それは他方で、戦後日本のあり方を改めて問うている。本講義では、第 2 次世界大戦後の日本の政治と外交を論ずることで、この国の来し方を考える。 秋学期は、どのようにして戦後日本がつけられたかを、サンフランシスコにおける講和・独立から「55 年体制」を経て、1970 年代に至る日本の政治外交のあり方をたどり、それに日本の諸政治勢力とくに諸政党がどう対応していったかを考えてみたい。 その際、国際社会のなかで日本はどうあるべきかを念頭に、受講者には歴史を学ぶだけでなく、歴史を考えてもらいたい。いずれにせよ、未来図は、過去の経験と現在の選択においてしか描かれることはない。		1. はじめに－国際社会のなかの日本－ 2. 講和への胎動（1） 3. 講和への胎動（2） 4. 講和をめぐる国内政治－全面講和と多数講和 5. 講和をめぐる国際関係－サンフランシスコ講和 6. 「55 年体制」の形成－保守勢力の混迷 7. 「55 年体制」の成立－保守合同と社会党の統一 8. 「55 年体制」展開－鳩山・岸内閣 9. 60 年安保騒動と政党政治 10. 高度成長期の政治と外交－池田政権 11. 高度成長期の政治と外交－佐藤政権 12. 混迷の 70 年代（1） 13. 混迷の 70 年代（2） 14. 混迷の 70 年代（3） 15. おわりに	
到達目標	歴史を「考える」意識をもって、歴史的事実とその因果関係を正確に解釈し、個別の事象について見解を示すことができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておくこと。その上で講義ノートと照らし合わせて要点をまとめること。		
テキスト、参考文献	福永文夫『日本占領史 1945～1952』中公新書		
評価方法	講義中に行う平常試験（50 点）と年度末の定期試験（50 点）によって判定する。詳細は講義中に指示する。		

13 年度以降 12 年度以前	国際機構と法Ⅰ 国際交流研究Ⅲ(国際機構論)	担当者	鈴木 淳一
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 本講義の目的は、国際社会が抱える地球規模の問題(たとえば、安全保障、テロ、世界規模の感染症等)とそれへの国際社会(特に国際組織)の取り組みについて理解することです。 〔講義概要〕 国際社会には世界政府は存在しません。しかし、多様な国際組織が、国家とともに、国際社会の共通利益の実現のために重要な役割を担っています。本講義では、これら国際組織の様々な活動分野をとりあげて、国際組織が各分野で果たしている機能を具体的に説明します。 本講義の履修にあたっては、国際法の知識は必ずしも必要ではありませんが、講義の中では主に国際法の視点から分析を行うため、一連の講義に先立ち、国際社会と国際法についての簡単なレクチャーを行います(なお国際教養学部や経済学部の学生が履修する場合は2年生以上で受講することをお勧めします)。 この講義では、教室で行う通常の授業を補うため、授業レポート・システム等を活用して、教員とのコミュニケーションを図ります。		- はじめに - 国際組織と国際法 - 紛争の平和的解決に関わる国際組織(1) - 紛争の平和的解決に関わる国際組織(2) - 安全保障に関わる国際組織(1) - 安全保障に関わる国際組織(2) - 軍備管理・軍縮・不拡散に関わる国際組織 - 人権問題にかかわる国際組織 - 人道・難民問題に関わる国際組織 - 国際貿易・国際金融に関わる国際組織 - 開発援助と南北問題に関わる国際組織 - 教育・文化に関わる国際組織 - 国際保健に関わる国際組織 - 海洋に関わる国際組織 - まとめ	
到達目標	国際機構、および国際組織法の基本的な考え方、および、国際組織法に関する重要な判例、学説を正確に理解し、個別の事象について見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	①事前学習:あらかじめ指定されたテキストの箇所を熟読。②講義中:教員から提示される今日のポイントを授業レポートとして提出。③事後学習:教員の添削・コメントを読んで復習。		
テキスト、参考文献	テキスト:大森正仁編著『よくわかる国際法(第2版)』(ミネルヴァ書房)		
評価方法	学期末に実施する試験により評価し(100%)、平常点を加点材料とします(ただし上限 10%)。		

13 年度以降	国際機構と法Ⅱ	担当者	鈴木 淳一
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 本講義は、国際連合を中心とする国際組織を規律している法に関する講義を提供することを目的とします。 〔講義概要〕 今日、国際連合をはじめとした多くの国際組織が活動し、多くの人々がいわゆる「国際公務員」として活躍しています。しかし、これらの活動は、国際組織の設立条約や地位協定、職員規則などのルールに従っています。本講義は、国際組織や国際公務員の活動を規律しているルールについて、主に国際連合を例として分析を行います。 本講義は、国際法や国際組織法1を履修していなくても履修できます(主に国際法の視点から国際組織の分析を行うため、全学共通授業科目の国際法や法学部の国際法も同時に受講することを奨励します)。また、この講義では、教室で行う通常の授業を補うため、授業レポート・システム等を活用して、教員とのコミュニケーションを図ります。		- はじめに - 国際組織の概念と歴史 - 国際法の基礎知識 - 国際組織の設立と解散 - 国際組織の国際法上の地位 - 国際組織の国内法上の地位 - 国際組織と加盟国 - 国際組織間の連携・協力 - 国際組織と NGO (民間団体) - 国際公務員 - 国際組織の意思決定 - 国際組織と財政・分担金・運営上の諸問題 - 国際組織に関する事例研究(1) - 国際組織に関する事例研究(2) - まとめ	
到達目標	国際機構、および国際組織法の基本的な考え方、および、国際組織法に関する重要な判例、学説を正確に理解し、個別の事象について見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	①事前学習:あらかじめ指定されたテキストの箇所を熟読。②講義中:教員から提示される今日のポイントを授業レポートとして提出。③事後学習:教員の添削・コメントを読んで復習。		
テキスト、参考文献	浦部・望月編『国際機構論[総合編]』(国際書院、2015 年)		
評価方法	学期末に実施する試験により評価し(100%)、平常点を加点材料とします(ただし上限 10%)。		

13 年度以降	地域研究論	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
学問の世界には、特定の事象を分析するうえで有用な、地理学、歴史学、政治学、経済学、文化人類学といった個別のディシプリン(専門分野と方法論)がある。 しかし、ある特定の地域の本質を理解しようとする場合、これらの個別的な研究手法に依拠するだけでは必ずしも十分でない。自然環境、歴史、宗教、思想、政治、経済、言語、芸術、文化など、広範な学問領域を横断して、総合的に対象に迫ることがきわめて重要になってくる。 本講義では、事例としてはラテンアメリカを取り上げ、地域を総合的に理解することの意味を考えたい。「地域研究」であるから、この地域への理解を深めることは本講義の目的の一つである。ただ、それを超えて狙いとしているのは、受講生の履修言語や関心地域に関わらず、「地域」への総合的なアプローチを体感し、地域理解のために必要な基本的な視座と応用力を身につけてもらうことである。		1. 地域研究とは何か(個別の学問と学際研究) 2. (地域研究の誕生) 3. 自然環境と生活(アマゾン地域の自然・生業・食) 4. (アンデス地域の自然・生業・食) 5. 歴史と社会(植民地社会の形成) 6. (ラテンアメリカ諸国の独立と近代化) 7. 人と文化(ラテンアメリカの人種と民族) 8. (ラテンアメリカの宗教・家族・価値規範) 9. 近代化と政治(ナショナリズムとポピュリズム政権) 10. (軍事政権と国家発展の追求) 11. 現代社会の形成(民主化運動と人権) 12. (市場経済化と地域統合) 13. 現代社会の諸問題(貧困・格差と教育問題) 14. (組織犯罪と麻薬問題) 15. 地域を総合的に捉えることの意義を考える	
到達目標	各地域独自の社会文化が成立した過程や要因、および各地域の特徴等について分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業効果を高めるための課題(基本事項の事前確認や文献の講読)について毎回指示する。		
テキスト、参考文献	参考文献は授業で随時紹介する。		
評価方法	期末試験で評価(これに授業への参加状況を加味する場合がある)。		

13 年度以降 12 年度以前	NGO 論 国際交流研究Ⅳ（NGO 論）	担当者	清水 俊弘
講義目的、講義概要		授業計画	
紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発（貧困）問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。 この講座では非政府組織、NGOの活動に着目し、具体例を元に、問題の捉え方、関わり方に関する多様な視点を養うことを目標とする。 この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタン、パレスチナなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な人権侵害、自然破壊などについて考える。また、復興、開発期における政府開発援助（ODA）の諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。 また、こうした紛争地等で活動するNGOが、力を合わせることで、世界を動かす力を発揮する事例として、対人地雷全面禁止条約の成立過程（オタワプロセス）やクラスター爆弾禁止条約の成立過程における市民社会の役割についても詳しく説明する。		1.NGO 論オリエンテーション 2.～3.「対テロ戦争」と市民社会Ⅰ／アフガニスタンの現状と NGO の活動 4.～5.「対テロ戦争」と市民社会Ⅱ／イラクの現状と NGO の活動 6.パレスチナ問題とNGOの取り組み 7.NGO の安全対策（講義と演習） 8.東アジアの平和と市民交流 9.ミレニアム開発目標（MDGs）と持続的開発目標（SDGs）。ラオスにおける森林保全から考える。 10.アフリカにおける HIV/AIDS の原状と NGO の取り組み 11.NGO の組織運営と人材、資金について 12.～13.非人道兵器の禁止と市民社会Ⅰ 対人地雷の廃絶キャンペーンに学ぶNGOのネットワーク 14.非人道兵器の禁止と市民社会Ⅱ クラスター爆弾禁止条約の成立過程に学ぶ市民社会の役割 15.理解度の確認	
到達目標	非政府組織（NGO）に関する基本的、体系的知識のうえに、国際社会における NGO の役割や意義、課題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に政府開発援助（ODA）や国連などの国際機関の概要について予習をしておくこと、そして事後には様々な NGO が主催するセミナーに参加したり、インターンとして関わることを薦める。		
テキスト、参考文献	参考文献：日本国際ボランティアセンター著『NGO の選択』めこん 2005 年 参考文献：清水俊弘著 『クラスター爆弾なんてもういらない』合同出版 2008 年		
評価方法	平常点、授業への参加度、課題提出などの実績（30％）及び期末考査（小論文またはレポート）の結果（70％）を評価対象とする。		

13 年度以降	グローバル社会特殊研究（在外日本人研究）	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
異郷で生きた日本人の足跡をたどり、「日本人ってなんなのか」を考えてみたい。 明治のころ、一攫千金を夢みて太平洋を越えた日本人たちはハワイへ、アメリカ本土へ、あるいは南米へと渡っていった。そうした人びとの子孫はいまや270 万人にのぼる。 授業では、①一時滞在のつもりで日本を離れた彼らが帰国せず、②そのうち家族をもち異国で骨を埋める覚悟をもつようになる。しかし、③白人からの激しい差別を受け、日本人たちは、④それに忍従で対応して、⑤今日の確固とした地位を確立する、過程をみていく。 ただ、このようにダイジェストすると美点だけが強調されるが、授業では日本人の狡猾で日和見的な姿もとり上げる。 この授業はグローバルの「特殊研究」といって、講義の一部は参考文献を用いて講義の理解を深めることとする。		1. ガイダンス 2. 夢のハワイへ 3. ポリネシアハワイの生活 4. アメリカ西海岸への移動 5. 敵意のはじまり 6. 差別のメカニズム 7. 日本人の完全排除 8. 日米戦争と強制収容 9. 収容キャンプの生活 10. アメリカへの忠誠と従軍 11. 二世部隊 12. 帰米二世 13. 中南米へ渡った日本人 14. 戦後の人権獲得と汚名返上 15. まとめ	
到達目標	「グローバル社会研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってグローバル社会を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定された参考文献などを読み、講義理解の補助とする		
テキスト、参考文献	参考文献:『ハワイの日本人移民』山本英政 明石書店		
評価方法	学期末試験 レポート 受講希望者は初回のガイダンスに必ず出席してください		

13 年度以降 12 年度以前	グローバル社会特殊研究（滞日外国人研究） 多文化共生特殊研究Ⅰ（滞日外国人研究）	担当者	田房 由起子
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、日本社会における外国人の状況を知ることにより、国際移動によって「異文化」の中で生活する人々の抱える問題について理解を深めることを目的とする。 まず、人の国際移動や、人種、エスニシティに関する理論について紹介する。次に、いくつかのエスニック集団を取り上げ、個々の集団に特徴的な状況について知識を得てもらう。また、教育や労働などのテーマからかれらの抱える問題を取り上げてみたい。さらに、受け入れ社会側の人々にとって「異文化」を持つ人々を受け入れるとはどのようなことかを考え、そこから「多文化共生」の可能性を模索したい。		1. ガイダンス・日本における外国人の概況（1） 2. 日本における外国人の概況（2） 3. なぜ人は移動するのか 4. 人種とエスニシティ 5. オールドカマー 6. ニューカマー（1） 7. ニューカマー（2） 8. ニューカマー（3） 9. 労働問題（1） 10. 労働問題（2） 11. 子どもたちと教育（1） 12. 子どもたちと教育（2）・アイデンティティ 13. 人種／エスニシティと差別 14. 「多文化共生」の可能性 15. 総括	
到達目標	「グローバル社会研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってグローバル社会を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の講義テーマに関連する新聞記事やニュース、授業時に紹介する文献に目を通すこと。		
テキスト、参考文献	テキストはなし。必要に応じてプリントを配布する。 参考文献は授業時に紹介する。		
評価方法	平常授業における課題レポート（40％）、期末試験（60％）により評価。		

13 年度以降	グローバル社会特殊研究（東南アジアの開発と社会）	担当者	江藤 双恵
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 さまざまな発展状況にある地域の特徴を理解し、自らの生活との関連づけて考察する。東南アジアの開発／発展と社会の変化について、また文化的な影響について、グローバルな視点とローカルな視点の両面から批判的に検討する。 講義概要 東南アジア社会が直面する課題について、さまざまな視角から紹介し、望ましい発展とは何かを考える。また、主としてタイを事例に、1、開発／発展に関わる政府の政策、NGOsなどによるオルタナティブなアプローチについて紹介し、2、開発／発展によって生じた問題を解決するためのさまざまな福祉的アプローチについて検討する。		第1回： 地域研究的な思考方法について 第2回： 東南アジアの地域的特徴 第3回： 東南アジア地域研究の課題 第4回： 東南アジア社会の多様性 第5回： 東南アジアの地誌と地域研究的課題 第6回： 東南アジアにおける都市と農村 第7回： 東南アジアにおける開発政策 第8回： オルタナティブな開発／発展観／思想 第9回： 東南アジアにおける開発／発展と宗教 第10回： 東南アジアにおける開発／発展と環境 第11回： 東南アジアにおける開発／発展と労働力 第12回： 東南アジアにおける開発／発展と家族・子ども 第13回： 東南アジアにおける開発／発展と女性 第14回： 東南アジアにおける社会保障／福祉 第15回： 試験	
到達目標	「グローバル社会研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってグローバル社会を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献を読んでおく。講義中に示された資料をヒントに、さらに関連事項を調べる。		
テキスト、参考文献	『地域研究』（JCAS Review）Vol.7 No.1 （2005 年 6 月発行） 北川隆吉監修『地域研究の課題と方法 アジアアフリカ社会研究入門』 文化書房博文社 （2006 年） 大泉啓一郎著 『老いてゆくアジア』中公新書 （2007 年）		
評価方法	試験が 60 パーセント、授業中に提出された課題を 40 パーセントとして総合的に判断する。		

13 年度以降 12 年度以前	グローバル社会特殊研究（アメリカ合衆国のラティーノ社会） 多文化共生特殊研究Ⅱ（アメリカ合衆国のラティーノ社会）	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、米国におけるラティーノ概念誕生の経緯を歴史的に追い、さらにラティーノ社会の現状と問題点を、米国内の人種間関係だけでなく隣接地域間の人的交流・相互関係という新しい視点を組み込んで論じたいと思う。 一般に米国における人種およびエスニック集団とラテンアメリカの人種をめぐる認識はまったく違うものと考えられてきた。しかし、近年の米国におけるラテンアメリカ系住民の急激な増加は、こうした人種認識の差異に変化をもたらしているように思われる。典型的にはラティーノの「人種」化である。 また、ラティーノが米国を変えるかもしれないという議論の是非を、広い歴史的スパンのなかで履修者とともに考えていこうと思う。		1 はじめに： ラティーノとはだれか 2 ラティーノの概要：出身地域と分布 3 人種化する「ラティーノ」 4 米ネイティビズムの動向 5 「非合法移民」問題 をめぐって 6 麻薬戦争 エルパソとフアレス市 7 国境ツインシティ：ティファナとサンディエゴ 8 なぜひととは国境を越えて移動するのだろうか。 9 移動の歴史① プエルトリコ系とキューバ系 10 移動の歴史② メキシコ系 11 アストラン伝説とチカノ運動 12 トランスナショナル・シティズンの誕生 13 映像資料 14 ラティーノは米国を変えるのか 15 まとめ	
到達目標	「グローバル社会研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってグローバル社会を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で配る資料を事前に読むこと。事後学習については授業中に指示する。		
テキスト、参考文献	参考文献：中條献『歴史の中の人種』北樹出版 2004 サミュエル・ハンチントン『分断されるアメリカ』集英社 2004 など 授業中に文献リストを配る		
評価方法	2, 3 回の講義につき 1 回の小テストあるいは討論をおこない、その結果と授業内での発言を総合して判断する。		

13 年度以降 12 年度以前	グローバル社会特殊研究（東南アジアの経済と地域統合 a) 国際交流特殊研究Ⅲ（アジア太平洋地域交流 a)	担当者	高安 健一
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、東南アジアで事業を展開している日本企業の視点に立って、各国の経済発展の軌跡および経済の特徴について学習します。 講義には二つの軸があります。一つは、東南アジア諸国の多様性に焦点をあてることです。東南アジアという地域概念が定着してから半世紀も経っていません。 もう一つは、共通の分析項目を設定することにより、各国経済を横並びで捉えることです。経済発展の初期条件、経済発展戦略、マクロ経済動向、産業構造の特徴、外国直接投資、日本との経済関係などについて解説します。 第13回の授業で全員参加型のディスカッションを実施します。ペーパー（800字程度）の提出と発言が求められます。 受講生が講義内容を、大学での研究や就職活動のみならず、卒業後も活用することを期待します。東南アジア経済論bも履修してください。第1回の講義に必ず出席すること（出席カード配布予定）。		1. 講義の目的、成績評価 2. 東南アジア経済の概要 3. タイ(1)：経済発展の軌跡と特徴 4. タイ(2)：産業集積と輸出主導型経済 5. シンガポール(1)：経済発展の軌跡と人材戦略 6. シンガポール(2)：産業高度化戦略 7. シンガポール(3)：多国籍企業のグローバル拠点 8. マレーシア：脱工業化の模索 9. インドネシア：世界最大のイスラム国家の挑戦 10. ベトナム：ドイモイ（刷新）政策の意義と限界 11. カンボジア：経済復興から経済成長への道筋 12. ミャンマー：経済再建の胎動 13. 全員ディスカッション 14. 講義のまとめ 15. 成績評価と期末試験	
到達目標	「グローバル社会研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってグローバル社会を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に授業に関連する文献や統計類に目を通す。授業後に論点整理メモの提出を求めることがある。		
テキスト、参考文献	教員が作成した資料を配布する。参考文献：石川幸一他編著（2015）『「現代 ASEAN 経済論」 文真堂		
評価方法	学期末試験（100%）。ペーパー提出とスピーチによる加点あり。出席が一定回数を下回ると自動的に不可評価になるので注意のこと（詳細は第 1 回の講義で説明）。		

13 年度以降 12 年度以前	グローバル社会特殊研究（東南アジアの経済と地域統合 b） 国際交流特殊研究Ⅳ（アジア太平洋地域交流 b）	担当者	高安 健一
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、東南アジアで事業を展開している日本企業の視点に立って、地域経済共同体としての東南アジア諸国連合（ASEAN）について学習します。 講義の柱は 3 つあります。第 1 は、1967 年に発足した ASEAN がいかなる経緯で地域経済共同体として発展し、多国籍企業をひきつけてきたかを理解することです。第 2 は、ASEAN における経済発展の担い手である華僑・華人資本、日本の自動車メーカー、邦銀の活動について学ぶことです。第 3 は、わが国が ASEAN のさらなる経済発展のために担うべき役割を考えることです。 第 14 回の授業で学生に東南アジアに関するスピーチを披露してもらいます。ペーパー（800 字程度）の提出。 受講生が講義内容を、大学での研究や就職活動のみならず、卒業後も活用することを期待します。東南アジア経済論 a も履修してください。第 1 回の講義に必ず出席すること（出席カード配布予定）。		1. 講義の目的、成績評価等 2. 第 2 次世界大戦後の経済発展の軌跡 3. ASEAN 市場に挑む日本企業（NHK スペシャル） 4. 地域経済共同体としての ASEAN(1)：形成過程 5. 地域経済共同体としての ASEAN(2)：共同体の実現 6. 地域経済共同体としての ASEAN(3)：将来構想 7. 大メコン圏開発とインフラ整備 8. ASEAN の対域外自由貿易協定（FTA）戦略 9. わが国自動車メーカーの東南アジアでの事業展開 10. 邦銀の東南アジアでの事業展開 11. 経済発展の担い手としての華僑・華人資本 12. わが国と東南アジアの経済関係(1)：ASEAN の視点 13. わが国と東南アジアの経済関係(2)：日本の視点 14. 東南アジアに関する学生スピーチ 15. 講義のまとめ	
到達目標	「グローバル社会研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってグローバル社会を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に授業に関連する文献や統計類に目を通す。授業後に論点整理メモの提出を求めることがある。		
テキスト、参考文献	教員が作成した資料を配布する。参考文献：石川幸一他編著（2015）『「現代 ASEAN 経済論」文真堂		
評価方法	学期末試験（100%）。ペーパー提出とスピーチによる加点あり。出席が一定回数を下回ると自動的に不可評価になるので注意のこと（詳細は第 1 回の講義で説明）。		

13 年度以降 12 年度以前	グローバル社会特殊研究（地球環境と法 a） 国際交流特殊研究Ⅴ（グローバル・ガバナンス a）	担当者	一之瀬 高博
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。 〔講義概要〕 主に総論にあたる部分として、国際環境問題の性質・歴史、紛争の類型、国家や個人等の紛争当事者の地位、問題解決の基本的手法、国際環境法における諸原則や国際環境保全規範の構造などを検討する。 【注意事項】 この講義は、法学部専門科目「国際環境法a」としては3年生以上に、国際教養学部必須教養科目「グローバル・ガバナンスa」としては2年生以上に開講される。国際教養学部の2年生が受講する場合は、履修が容易ではないので、「国際交流研究Ⅲ（国際機構論）」、全カリ「国際法1」、「国際法2」のいずれかを受講して、基本的知識を身につけていることが望ましい（並行しての受講でもよい）。		1 講義の概要 2 環境問題と国際社会 3 国際環境問題の法的紛争類型 4 越境汚染と領域使用の管理責任 5 無過失責任条約 6 国際公域の環境保全と責任 7 国際環境法の生成と諸原則① 8 国際環境法の生成と諸原則② 9 環境責任論の進展 10 国際環境保全規範と事前防止 11 事前防止の手続的規則① 12 事前防止の手続的規則② 13 国際環境保全とソフト・ロー 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ	
到達目標	「グローバル社会研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってグローバル社会を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストや参考文献等の指定された箇所を事前に精読しておくこと。 講義中の指示に従い、復習や課題作業を行うこと。		
テキスト、参考文献	テキストは開講時に指示する。参考文献として、松井芳郎『国際環境法の基本原則』東信堂 2010 年、 『国際条約集』有斐閣 2016 年。		
評価方法	期末試験の成績（70%）により評価し、平常授業での課題レポート・小テストなどの成果（30%）も評価対象にする。		

13 年度以降 12 年度以前	グローバル社会特殊研究（地球環境と法 b） 国際交流特殊研究Ⅵ（グローバル・ガバナンス b）	担当者	一之瀬 高博
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。 〔講義概要〕 環境条約の内容、国家実行、国際会議や国際機関の対応、具体的紛争等を素材に、個々の環境問題の類型ごとに国際環境法の構造を分析する。 【注意事項】 この講義は、法学部専門科目「国際環境法 a」としては3年生以上に、国際教養学部必須教養科目「グローバル・ガバナンス a」としては2年生以上に開講される。国際教養学部の2年生が受講する場合は、履修が容易ではないので、「国際交流研究Ⅲ（国際機構論）」、全カリ「国際法 1」、「国際法 2」のいずれかを受講して、基本的知識を身につけていることが望ましい（並行しての受講でもよい）。		1 講義の概要 2 長距離越境大気汚染、酸性雨 3 地球大気圏・気候変動問題①オゾン層 4 地球大気圏・気候変動問題②気候変動枠組条約 5 地球大気圏・気候変動問題③京都議定書 6 海洋環境の保全①総論 7 海洋環境の保全②船舶起因 8 海洋環境の保全③海洋投棄 9 南極の環境保護 10 廃棄物の越境移動 11 有害物質、放射能と環境 12 自然環境の保全 13 生物多様性の保全 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ	
到達目標	「グローバル社会研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってグローバル社会を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストや参考文献等の指定された箇所を事前に精読しておくこと。 講義中の指示に従い、復習や課題作業を行うこと。		
テキスト、参考文献	テキストは開講時に指示する。参考文献として、西井・白杵編『国際環境法』有信堂 2011 年、 『国際条約集』有斐閣 2016 年。		
評価方法	期末試験の成績（70%）により評価し、平常授業での課題レポート・小テストなどの成果（30%）も評価対象にする。		

13 年度以降 12 年度以前	教育学概論 I (教職論) 教育科学研究Ⅳ (教職論)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 本講義は、教育職員免許法に規定された教職の意義等に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、教職の概要を理解するとともに、教職に必要な不可欠な基礎的・基本的な知識や技能を習得することを目的とする。 【授業の概要】 本講義では、グループ討議や研究協議などを通して教職の意義、教員の身分や服務、職務の内容や必要とされる資質などについての主体的な理解を深めていく。教員が直面している諸課題についても取り上げ、教育に対する質の高い関心と教職に対する情熱や使命感の醸成を図っていく。		第1回： オリエンテーション 第2回： 期待される教師像と目指す教師像 第3回： 児童・生徒の成長と教員の役割 第4回： 教員の資質と能力 第5回： 教員養成と教員免許 第6回： 教員の任用と教育委員会 第7回： 教員の身分と服務 第8回： 教員の職務(1) 学校と教員の一年 第9回： 教員の職務(2) 学校運営と校務分掌 第10回： 教員の職務(3) 学習指導と生徒指導 第11回： 教員の研修(1) 年次研修と教員のキャリア 第12回： 教員の研修(2) 自主的研修(教育センター等における研修機会)の活用 第13回： 様々な進路選択の問題を考える(1) 他の仕事と比較した教職の特質 第14回： 様々な進路選択の問題を考える(2) 学校教育の体験—学校支援員等について— 第15回： まとめ 教職を目指す君たちが今なすべきこと	
到達目標	教育学の研究対象である、教育の本質・目的・方法および制度・行政・歴史・現代的課題などについて基本的知識を習得し、これについて分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	(事前学修) は提示された資料、テキストを読む (事後学修) は授業レポートなど		
テキスト、参考文献	(テキスト) 講義毎に配布する資料 (参考文献) 講義内容に応じて適宜紹介		
評価方法	課題レポート、定期試験等により総合的に評価する。		

13 年度以降 12 年度以前	教育学概論Ⅰ(教職論) 教育科学研究Ⅳ(教職論)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	教育学概論Ⅱ(教育の原理) 教育科学研究Ⅰ (教育の原理)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 教育の本質を理解するために、自らの教育観を相対化しつつ、さまざまな基本的概念を学び、教育に対する考え方の基礎を養う。 【授業の概要】 1. 教育の思想と歴史の概略を基礎として、子どもの権利条約や教育基本法等を素材にし、人権と子どもの権利、能力の問題、義務教育等の、教育において基本的な概念や考え方を学ぶ。 2. 教育と学習との関係を、ビデオ、教育の時事問題や教育実践などを教材として、様々な角度から考えていく。		第1回：講義の進め方の説明 第2回：教育の意義 第3回：人間形成と学習 第4回：教育の思想と歴史（その1）近代教育思想のめばえ 第5回：教育の思想と歴史（その2） 紳士の教育から人間の教育へ 第6回：教育の思想と歴史（その3）近代市民教育と国民教育 第7回：教育の思想と歴史（その4）日本の教育思想の歴史 第8回：教育の思想と歴史（その5）戦後の教育思想と教育問題 第9回：教育の思想と歴史（その6） 21世紀の教育思想と教育課題 第10回：学力問題と国際比較 第11回：能力と指導を考えるー 習熟度別指導と発達の最近接領域説ー 第12回：教育における競争と自由の問題を考える 第13回：子どもの権利条約の精神 第14回：子どもに固有の権利と人権との関係 第15回：子どもとはどういう存在か (系統発達と子どもの発見)	
到達目標	教育学の研究対象である、教育の本質・目的・方法および制度・行政・歴史・現代的課題などについて基本的知識を習得し、これについて分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	(事前学修) 提示された資料を事前に読んでくること (事後学修) 講義を振り返り授業レポートを作成すること		
テキスト、 参考文献	【テキスト】『ポケット版 子どもの権利ノート』(300 円) 【参考文献】適宜紹介する。		
評価方法	期末試験に授業レポート等を加味して評価する。		

13 年度以降 12 年度以前	教育学概論Ⅱ(教育の原理) 教育科学研究Ⅰ (教育の原理)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
 <			

13 年度以降 12 年度以前	心理学概論Ⅰ（こころの世界） 教育科学研究Ⅵ（こころの世界）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、まず、現代心理学の成立過程を概観する。その後、性格の形成、ストレス、心の健康とカウンセリングなどのテーマについて、心理学的研究に基づく調査や実験のデータを示しながら説明していく。 本講義を通して、心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また、心理学の基本的知識を習得し、同時に、社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。		1. はじめに：科学としての心理学 2. 心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生 3. 心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学 4. 心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 5. 心理学のあゆみ④：精神分析理論 6. 性格とは？：自己の性格理解 7. 性格をとらえる枠組み：性格理論 8. 性格の形成：遺伝的要因と双生児研究 9. 性格の形成：環境的要因 10. ストレス①：ストレスと性格 11. ストレス②：ストレス・コーピング 12. ストレス③：ストレスの生理心理学 13. 現代社会とストレス 14. 現代社会とこころの病 15. カウンセリングとこころの健康	
到達目標	心理学に関する概論的知識のうえに、社会の諸問題や人間の行動を「人の心」という観点から科学的に検証し、あるいはその検証成果を様々な場面において応用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習では授業計画に示した各回のテーマについて参考文献をもとに予習する。事後学習では講義内容について文献をもとにまとめ直す。事前・事後学習について授業内レポートにより適宜確認をおこなう。		
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。事前事後学習用の参考文献については授業にて適宜提示する。		
評価方法	授業における小レポート（20％）と試験（80％）により総合的に評価する。		

13 年度以降 12 年度以前	心理学概論Ⅱ(心理検査法と自己理解) 教育科学特殊研究Ⅲ（心理検査法と自己理解）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらう。これらの学習を通して、心理学の基本的知見を習得してほしい。また、心理検査の結果を分析して自己理解を深めてもらうことも本講義の目的である。心理検査やグループワークを実践した後は、結果をレポートにまとめてもらう。関連するビデオを視聴し、レポートを書いてもらうこともありうる。 ※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費（2000円）を負担してもらう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用紙を配布する。初回の授業にて履修制限や検査用紙代納入方法について説明するので欠席しないこと。		1. 心理検査とは？ 2. 心理検査の種類と理論 3. 質問紙による性格検査①（Y－G） 4. 質問紙による性格検査②（Y－G） 5. ストレス・コーピング 6. 絵からみる家族像 7. 知能検査 8. EQS 9. 職業興味 10. 性格 5 因子 11. TEG 12. グループ・ワークによる自己理解① 13. グループ・ワークによる自己理解② 14. テスト・バッテリーに基づく自己理解 15. まとめ	
到達目標	心理学に関する概論的知識のうえに、社会の諸問題や人間の行動を「人の心」という観点から科学的に検証し、あるいはその検証成果を様々な場面において応用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で扱う心理検査について、その背景理論などを事前に学習する。事後にあつては、心理検査の結果を踏まえて授業で指示した課題をおこないレポートにより提出する。		
テキスト、参考文献	各種の心理検査用紙は一括で購入する。検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらう		
評価方法	実施した心理検査の結果をレポートにまとめて提出してもらう(50%)。また、最終レポートを課す(50%)。これらのレポート内容を総合し、最終の評価を決定する。		

13 年度以降	スポーツ・レクリエーション概論	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
平和で、豊かな生活が可能な日本では、生涯生活時間の 2 割から 3 割の自由時間を享受することができます。労働時間は、1 割です。あなたは 1 割の時間の価値観にとらわれすぎていませんか。自由時間を「レジャー」（生きがい）とするために、自由時間についてもっとよく考えて見ましょう。そうすれば、あなたは一人十色の魅力的な個性豊かな生き方に気づくはずですよ。あなたが、遊びの範疇でおこなってきたことが、大きな価値を持ち始めるでしょう。何も持っていない人は、この授業をきっかけに始められるでしょう。この授業では、あなたの自由時間を学問的に意義付けし、その価値に目覚めていただくことを目標にします。また、旅行業など余暇関連産業の仕事をめざす学生には必須の知識となるでしょう。 秋学期には、実践編として全学総合講座で「自由時間の達人」たちにその方々の実践、考え方をお話していただきますので、ぜひこの授業と「自由時間の達人」を継続して履修してほしいと思います。		1 オリエンテーション 2 自由時間とは 3 生活時間の構成 4 自由時間の推移と現状 5 自由時間「三つの意味」その 1 6 自由時間「三つの意味」その 2 7 少子化とライフスタイル 8 古典的解釈から知るレジャー 9 「スコレー」とは 10 余暇享受能力を開発していますか 11 ビデオ「森と老人」に見る余暇享受能力 12 クオリティオブライフ 13 環境と健康 14 ライブアンケートから知る獨協生の価値観とライフスタイル 15 まとめ 授業で通信端末を大教室における双方向授業としてライブアンケート等に必要なに応じて利用しますので、大講義室での授業をより活性化するために必要ですので、ぜひご協力をお願いします。	
到達目標	スポーツ・レクリエーションに関する概論的知識のうえに、余暇を有効に活用し、健康・体力の保持・増進、他者との交流を図ることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習として、身近な社会人の労働と余暇について時間配分、余暇享受能力という観点で観察しておくこと。学習後は授業内で考えたことを実践するための自らの自由時間設計を行う。		
テキスト、参考文献	講義支援システムまたは Porta に授業資料をアップロードしますので、授業前に印刷してお持ちください。		
評価方法	授業への取り組み姿勢・授業内レポート（50%）、学期末試験（50%）により評価します。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降	スポーツ科学概論	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 スポーツ科学分野は近年目覚ましい発展を遂げている。「スポーツ」を「科学」することによってトップアスリートの身体機能やパフォーマンスの秘密が明らかになり、効率的なトレーニング方法が開発されている。また健康の維持増進にも寄与する実験科学的データや、社会科学的分野でも日々新たな知見が得られており、私たちの生活にもスポーツ科学は貢献している。スポーツを科学することによって個々の受講生がスポーツに対する理解を深めることを目標とする。 〔講義概要〕 この講義ではスポーツ科学が扱う様々な領域を概説し、スポーツの魅力と可能性について紹介する。またビデオ映像を適宜視聴する。		1. ガイダンス 2. スポーツ科学とは 3. スポーツの起源と歴史 4. 世界のスポーツ 5. 筋の科学① 6. 筋の科学② 7. 持久力の科学① 8. 持久力の科学② 9. スポーツテクノロジー 10. 競技スポーツの科学（陸上） 11. 競技スポーツの科学（サッカー） 12. 競技スポーツの科学（野球） 13. メンタルトレーニング 14. 障害者のスポーツ 15. 運動のススメ	
到達目標	身体機能の発達や運動パフォーマンスの向上といったスポーツ科学について基本的な知識を習得し、これについて分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞やメディアなどで取り上げられるスポーツ科学の情報を収集し、講義で得た知識をもとに分析すること		
テキスト、参考文献	特に指定しない		
評価方法	授業内小テスト（40％）と定期試験（60％）により評価する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	教育の歴史Ⅰ 教育科学研究Ⅱ（教育の歴史 1）	担当者	長谷部 圭彦
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の目的は、「教育の世界史」を構築し、それを、教育に関する様々な問題を世界史的な観点から考察する際に、「参照体系」として活用できるようになることである。 春学期開講の「教育の歴史Ⅰ」では、いわゆる欧米を対象とする。具体的には、12世紀から20世紀までの同地域の教育を概観し、義務教育や大学といった、我々がその存在を自明視している制度や組織の歴史的経緯を検討する。 他方、バランスのとれた世界史を構築するためには、いわゆるアジアについても十分に検討する必要がある。絶対的な義務ではないが、秋学期開講の「教育の歴史Ⅱ」もあわせて受講することが望ましい。 なお、講義は講義形式で行う。毎回レジュメを配布する。		1. 講義の概要－文字・宗教・教育 2. 修道院と大学 3. 人文主義と宗教改革 4. 新思想の登場 5. 義務教育の法制化 6. 大革命とナポレオン 7. 教育思想の展開 8. プロイセンの台頭とベルリン大学 9. パブリック・スクールとオックス・ブリッジ 10. 新大陸のエリート教育 11. ラテン・アメリカの独立と大学 12. 身分制のなかの学校 13. 社会主義と教育 14. 新教育運動の展開 15. 講義の総括	
到達目標	日本における教育の歴史概略を理解したうえで、教育史の事象を探究する手段と方法を獲得し、分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前：高等学校の世界史教科書の関連箇所を適宜読むこと。 事後：レジュメに記載されている参考文献を適宜読むこと。		
テキスト、 参考文献	テキスト：使用しない 参考文献：長尾十三二『西洋教育史』第二版（東京大学出版会、1991 年）など		
評価方法	定期試験 70%、講義への参加度 30%		

13 年度以降 12 年度以前	教育の歴史Ⅱ 教育科学研究Ⅲ（教育の歴史 2）	担当者	長谷部 圭彦
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の目的は、「教育の世界史」を構築し、それを、教育に関する様々な問題を世界史的な観点から考察する際に、「参照体系」として活用できるようになることである。 秋学期開講の「教育の歴史Ⅱ」では、いわゆるアジアを対象とする。具体的には、12世紀から20世紀までの、中東、南アジア、東南アジア、日本を含む東アジアにおける教育を概観し、各地域の伝統的な教育システムと、西洋型教育の受容について検討する。 他方、バランスのとれた世界史を構築するためには、いわゆる欧米についても十分に検討する必要がある。絶対的な義務ではないが、春学期開講の「教育の歴史Ⅰ」もあわせて受講することが望ましい。 なお、講義は講義形式で行う。毎回レジュメを配布する。		1. 講義の概要－文字・宗教・教育 2. イスラームの信仰と教育 3. オスマン帝国の改革と教育 4. 植民地と教育 1－インドネシア 5. ヒンドゥー教の信仰と教育 6. 植民地と教育 2－インド 7. 仏教の信仰と教育 8. タイの改革と教育 9. 社会システムとしての科挙 10. 朝鮮とベトナムへの科挙の伝播 11. 日本における朱子学の受容 12. 明治政府の教育政策 13. 日本における新教育運動 14. 獨逸学の隆盛と獨協学園 15. 講義の総括	
到達目標	日本における教育の歴史概略を理解したうえで、教育史の事象を探究する手段と方法を獲得し、分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前：高等学校の世界史教科書の関連箇所を適宜読むこと。 事後：レジュメに記載されている参考文献を適宜読むこと。		
テキスト、 参考文献	テキスト：使用しない 参考文献：毎回のレジュメに記す		
評価方法	定期試験 70%、講義への参加度 30%		

13 年度以降 12 年度以前	比較教育制度論 教育科学研究各論Ⅰ（比較教育制度論）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 本講義は、教育職員免許法に規定された教育の基礎理論に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、日本の教育制度の意義や構造の概要を理解するとともに、生涯学習社会における学校教育、家庭教育、社会教育の関係性にも触れながら教育制度全般に対する基礎的・基本的な識見をはぐくむことを目的とする。 【授業の概要】 本講義では、グループ討議や全体討議などを通して、日本の教育制度の意義や構造、教育改革の現状と課題などについて主体的な理解を深めていく。教育行政、学校・家庭・社会教育との関連や諸外国の教育制度にも触れながら教育に対する関心・情熱や使命感の醸成を図っていく。		第1回：オリエンテーション 第2回：教育の制度化 第3回：学校教育制度の概要 第4回：学校教育制度の変遷 第5回：公教育と私教育 第6回：教育行財政 第7回：教育委員会制度 第8回：教育課程と学習指導要領 第9回：諸外国の教育制度 第10回：家庭教育の現状と課題 第11回：社会教育の現状と課題 第12回：教育改革の現状と課題(1)学校評価・人事評価 第13回：教育改革の現状と課題(2)学校選択制・小中高一貫教育 第14回：教育改革の現状と課題(3)学校評議員・学校運営協議会 第15回：教育改革の現状と課題(4)初任者研修・教員免許更新制度	
到達目標	日本と他国の教育制度を比較し、それぞれの特徴、および制度上の問題点などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	(事前学修) 提示された資料を事前に読んでくること (事後学修) 講義を振り返り授業レポートを作成すること		
テキスト、参考文献	(テキスト) 講義内で指示する (参考文献) 教育小六法、他は講義内で指示する。		
評価方法	期末試験に授業レポート等を加味して評価する。		

13 年度以降 12 年度以前	比較教育制度論 教育科学研究各論Ⅰ（比較教育制度論）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）			
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	教育課程論 教育科学研究各論Ⅱ（教育課程論）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 教育課程の編成と評価 本講は、学力、評価、総合的学習など、今日の学校教育の内容をめぐる問題状況をふまえながら、教育課程の研究、実践に関する今日の課題について考察することを目的とする。 【授業の概要】 学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教育における中核としての役割を果たしている。本講では、以上のような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わが国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今日の学力問題等の問題を取り上げ、各種資料、VTR教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深めていく。		第1回：教育課程と学力問題 第2回：教育課程とは何か 第3回：日本の教育課程(1)教育課程編成のプロセス 第4回：日本の教育課程(2)学習指導要領と教育課程 第5回：教育課程編成の理論と方法(1)経験カリキュラム 第6回：教育課程編成の理論と方法(2)教科カリキュラム 第7回：教育課程編成の理論と方法(3)教育課程構成法 第8回：学習指導要領と教育課程(1)昭和 20 年代 第9回：学習指導要領と教育課程(2)昭和 30-40 年代 第10回：学習指導要領と教育課程(3)昭和 50-60 年代 第11回：学習指導要領と教育課程(4)平成 1-10 年代 第12回：現行学習指導要領の検討 (1)改訂の経緯と概要 第13回：現行学習指導要領の検討 (2)実践課題 第14回：教育課程と評価 第15回：次期学習指導要領改訂の課題	
到達目標	教育課程と学習指導要領の歴史的変遷を踏まえ、教育課程の全体構造や具体的編成に関する基礎的理論を用いて、よりよい教育課程の在り方を分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	前時の授業内容を確認した上で、指定されたテキスト・参考書がある場合には関連箇所を読み、課題意識を持って、本時の授業に臨むこと。授業時に提示された課題を遂行し、それを次回の授業で提出すること。		
テキスト、 参考文献	【テキスト】担当教員の指示に従うこと 【参考文献】文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『同解説 総則編』。 その他は、講義の中で紹介する。		
評価方法	平常点（50%、授業内課題を含む）、試験またはレポート（50%）、総合点 60 点以上合格。		

13 年度以降 12 年度以前	教育課程論 教育科学研究各論Ⅱ（教育課程論）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
 <			

13 年度以降 12 年度以前	教育心理学 教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 教育心理学においてこれまで得られてきた知見が、今日の学校臨床における生徒理解あるいは生徒指導にいかにか生かすことができるかを受講者とともに検討する。受講生には、こうした講義を通して教育現場にたつ人間に必要とされる心理学の基礎的知識について理解を深めてほしい。 【授業の概要】 教育心理学には大きく（１）測定・評価、（２）人格・適応、（３）発達、（４）学習という４つの領域がある。本授業では、これら４領域の内容を解説する。すなわち、１．教育評価と学力問題、２．学習の過程と学習への動機付け、３．発達および発達障害について講義していく予定である。		第１回：教育心理学の領域とその歴史 第２回：教育測定と教育評価 第３回：教育評価の方法 第４回：教育評価と学力問題 第５回：学習の原理 第６回：学習における動機付け 第７回：学習意欲と原因帰属 第８回：学習意欲と目標理論 第９回：学習意欲と教師の役割 第１０回：発達期と発達課題 第１１回：心理アセスメントと発達障害 第１２回：学習障害の理解 第１３回：ADHD の理解 第１４回：自閉性障害の理解 第１５回：発達障害への心理支援	
到達目標	教育の過程で生じる子供の精神発達、人格形成などに関する知見を、実際の教育活動に応用できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	授業計画に示された各課の内容を参考文献をもとに事前に学習する。事後にあつては授業内容を参考文献をもとにまとめておく。また、各教員が授業で事前・事後学習として個別に指示した課題も含まれる。		
テキスト、 参考文献	【テキスト】必要な資料を配付する。 【参考文献】授業にて適宜紹介する。		
評価方法	学期末の試験などにより、総合的に評価をおこなう		

13 年度以降 12 年度以前	教育心理学 教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）			
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	学校カウンセリング 教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 本講義では、カウンセリングの基本的な理論や技法に加え、学校現場で生じる問題の解決のために実際にカウンセリングがどのように用いられているのかについて扱う。学校カウンセリングに関する「知識」を習得することにとどまらず、学校現場で起こりうる様々な問題への対処について、自分自身で「考える力」を身につけることをこの講義の目標とする。 【授業の概要】 本講義では、教員が学校で生徒と接する際に必要とされるカウンセリングの基本的な理論や技法について講義する。さらに、実習やグループワークなどを通じ、いじめ、不登校など学校現場で実際に起こっている問題について、どのように対応すべきか、実際に受講生が考える機会を設ける。		第1回：学校カウンセリングとは何か 第2回：教師が行う学校カウンセリングの特徴 第3回：学校カウンセリングの理論① ー来談者中心療法とカウンセリングマインド 第4回：学校カウンセリングの理論②ーその他の理論 第5回：学校カウンセリングの理論③ーカウンセリングの体験 第6回：予防的カウンセリング① ー構成的グループエンカウンター 第7回：予防的カウンセリング② ーソーシャルスキルトレーニング 第8回：思春期の心の発達と危機 第9回：学校カウンセリングの実際①：いじめ 第10回：学校カウンセリングの実際②：不登校・ひきこもり 第11回：学校カウンセリングの実際③：非行 第12回：学校カウンセリングの実際④： 発達障害の理解と支援 第13回：学校カウンセリングの実際⑤： 精神障害の理解と支援 第14回：学校カウンセリングの実際⑥：保護者との協調 第15回：まとめ：学級運営に活かすカウンセリング	
到達目標	学校カウンセリングの基礎的知識と技法を習得し、教育現場において適切な指導や支援ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	授業計画に示された各課の内容を参考文献をもとに事前に学習する。事後にあつては授業内容を参考文献を踏まえて再度まとめる。また、各教員が授業にて事前・事後学習として個別に指示した課題も含まれる。		
テキスト、 参考文献	【テキスト】特になし。 【参考文献】特になし。講義内で適宜、紹介する。		
評価方法	定期試験の結果によって評価するが、平常授業における課題レポートなどの提出物等も評価対象とする。		

13 年度以降 12 年度以前	学校カウンセリング 教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）			
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	人間発達科学特殊研究（認知科学） 教育科学研究各論Ⅶ（認知科学）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
認知科学は、人間の「知」のしくみやはたらきを明らかにしようとする学際的な学問であり、その研究領域は広範囲におよぶ。ここでは、とくに認知心理学で得られた研究成果を中心にみていくことにする。また、授業では受講者自身に実験や調査（文献調査も含む）を実施してもらい、その結果をまとめて、授業にてレポート発表してもらう予定である。 授業内容は、まず、人間の「知」のしくみの基盤をなす「知覚」についてあつかう。つぎに、動物にとって重要な認知機能である「記憶」についてみていく。さらに、近年飛躍的に解明が進んでいる「脳の機能」についてビデオ教材なども使用してみていくことにする。初回授業にて授業の進め方をより詳しく説明するので履修予定者には必ず出席することを求める。		1. 認知科学とは（授業概要） 2. 認知科学の歴史 3. 視知覚の特性①（概説） 4. 視知覚の特性②（実験・調査） 5. 視知覚の特性③（レポート発表） 6. 音の知覚 7. 言語と脳（脳の機能局在） 8. 言語と脳（言語野） 9. 認知工学と脳 10. 記憶のしくみ①（記憶の過程） 11. 記憶のしくみ②（実験と調査） 12. 記憶のしくみ③（レポート発表） 13. 記憶のしくみ④（実験と調査） 14. 記憶のしくみ⑤（レポート発表） 15. まとめ	
到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業計画に示した各テーマについて事前に学習するとともに、各テーマについてデータ収集等の課題をおこなってもらう。事後には講義内容を踏まえて調査レポートなどを作成してもらう。		
テキスト、参考文献	授業にて必要な資料は配付する。テキストは使用しない。		
評価方法	授業での発表内容や授業内レポートを 50%、課題報告と調査レポートを 50%として総合評価する。		

13 年度以降 12 年度以前	人間発達科学特殊研究（認知科学） 教育科学研究各論Ⅶ（認知科学）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
半期完結授業のため春学期と同一である。			
到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	春学期と同一		
テキスト、 参考文献	春学期と同一		
評価方法	春学期と同一		

13 年度以降	人間発達科学特殊研究（社会心理学 a）	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a, b では、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学 a では、個人の心の働きに主に焦点を当てる。		1. イントロダクション・「社会心理学」講義の前に 2. 社会心理学の概要 3. 社会的認知(1)：人の印象はどう決まるか 4. 社会的認知(2)：ステレオタイプと差別 5. 社会的アイデンティティ理論(1)：個人の中の集団 6. 社会的アイデンティティ理論(2)：差別は集団からうまれる 7. 自己(1)：自分はどんな人間か 8. 自己(2)：自分のことを相手にどう伝えるか 9. 態度と態度変容：好きになるのはどうしてか 10. 社会的影響(1)：集団での意思決定における個人の役割 11. 社会的影響(2)：規範的影響と情勢的影響 12. 社会的影響(3)：「助けて!」と聞こえてきたらどうするか 13. 社会的影響(4)：そして集団全体が動き出す 14. 期末試験と振り返り 15. 社会的影響(5)：人間の力	
到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、事前に配布する資料に目を通して頂くこと。またリアクションペーパーにコメントした内容について、授業後に自らの答えを出して頂くこと。		
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。参考書として以下 2 冊を勧める。亀田達也・村田光二（2000）．『複雑さに挑む社会心理学－適応エージェントとしての人間』 有斐閣；池田謙一 他（2010）．『社会心理学』 有斐閣		
評価方法	中間レポート 30%，期末試験 70%で評価する。なお、第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。		

13 年度以降	人間発達科学特殊研究（社会心理学 b）	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a, b では、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理 b では、主に個人と社会との間の相互作用や、社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。		1. イントロダクション：「社会心理学」講義の前に 2. コミュニケーション(1)：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 3. コミュニケーション(2)：コミュニケーションと対人行動 4. コミュニケーション(3)：コミュニケーションのズレ 5. ソーシャルネットワーク(1)：ネットワークの諸相 6. ソーシャルネットワーク(2)：つながりを生み出すもの 7. ソーシャルネットワーク(3)：つながりが生み出すもの 8. 信頼社会と安心社会 9. 社会的感情(1)：互惠性を生み出す感情～感謝 10. 社会的感情(2)：表情と感情 11. 社会的感情(3)：生死を分ける感情 12. 健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論 13. 健康行動と社会心理学(2)：感染予防ための挑戦 14. 期末試験と振り返り 15. 社会心理学の未来	
到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、事前に配布する資料に目を通して頂くこと。またリアクションペーパーにコメントした内容について、授業後に自らの答えを出して頂くこと。		
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。参考書として以下 2 冊を勧める。亀田達也・村田光二（2000）．『複雑さに挑む社会心理学－適応エージェントとしての人間』 有斐閣；池田謙一 他（2010）．『社会心理学』 有斐閣		
評価方法	中間レポート 30%，期末試験 70%で評価する。なお、第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。		

13 年度以降 12 年度以前	人間発達科学特殊研究（リーダーシップ論） 教育科学特殊研究Ⅵ（リーダーシップ論）	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
問題解決活動を実践し、その中から集団と個の関わりを考えてもらいます。問題解決活動は学生が互いに指導役割を交代しながら行うことで、指導経験の機会を得ることも目的としています。 グループ単位で企画作成と発表を行う過程でリーダーシップ理論を参考にしながら自己と他者の特性と役割を理解していくことを目標とします。 授業の最初には集団の形成に必要ないくつかの方法を実践します。次の段階ではリーダーシップ発現の機会としてのイニシアティブゲームを実施し、リーダーシップを取る人の特性について考えます。その人の性格と経験等の特性をサンプルとして扱いいくつかのリーダーシップ理論と対照します。次の段階では、イベント企画を題材として企画と実践に向けた取り組みの中で個々の学生が自分の役割を果たすトレーニングを実施します。 いくつかのグループによって提案された企画は投票によって 1 位を決定し、1 位を取ったグループによってそのイベントが実施され、評価を含めたまとめを行います。 グループでの話し合いと実践を中心にしたアクティブラーニングを行います。		1. オリエンテーション 2. 集団形成：アイスブレイキング 3. グループワークによる問題解決活動と発表 4. イニシアティブゲームによる問題解決活動 1 5. イニシアティブゲームによる問題解決活動 2 6. グループ内での課題についての討論と発表 7. リーダーシップ理論 8. イベント企画作成の手順 9. イベント企画コンテストに向けてのグループ討論 10. イベント企画案の作成 11. イベント企画プレゼンテーション第 1 回 12. イベント企画プレゼンテーション第 2 回 13. イベントの実施 14. イベントの評価とまとめ 15. 授業のまとめ	
到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にリーダーシップ理論について学習し、授業で実践した方法を所属する集団で実施すること。		
テキスト、参考文献	必要に応じて印刷物を配布します。		
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（80%）、小レポート・期末レポート（20%）、企画コンテストを評価します。		

13 年度以降 12 年度以前	人間発達科学特殊研究（教師と語る） 教育科学特殊研究Ⅱ（教師と語る）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
1. 目的：教育の実際の姿を、実践記録を読みあい、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかみます。そのなかで、特に生活指導についての理解を深めます。 2. 概要：教室での講義・討論と、埼玉県 of 教師の研究会合宿（懇親会を含む）への参加とで構成します。そのため、研究会合宿に必ず参加して下さい（参加費は9000円程度）。研究会合宿に参加できない場合には、この授業を受講しても、単位を認定することはできません。 3. 研究会合宿で 7 コマ相当の実践的学修をするため、教室での講義は 8 回程度とします。2 回目以降の日程は相談の上、決定するため、初回の授業には必ず参加して下さい。参加できなかった場合には、メールで問い合わせるか、研究室（720）を訪れてください。メールアドレスは、hkawamura@dokkyo.ac.jp です。 4. 教職課程に登録している必要はありません。 5. 履修登録の上限を 30 名とします。		1. 講義の進め方等の説明／参加者自己紹介 2. 生活指導とは何か（1） 3. 生活指導とは何か（2） 4. 実践記録を読む（1） 5. 実践記録を読む（2） 6. 実践記録を読む（3） 7. （合宿参加） 8. （合宿参加） 9. （合宿参加） 10. （合宿参加） 11. （合宿参加） 12. （合宿参加） 13. （合宿参加） 14. （合宿参加） 15. 授業のまとめ	
到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト及び実践記録を読んで、疑問点や意見をまとめる。合宿で学んだことをまとめる。		
テキスト、参考文献	高橋陽一編『新しい生活指導論と進路指導』（武蔵野美術大学出版局）		
評価方法	研究会と講義への参加度と最終レポートによります。研究会に終日参加しない場合には、不可とします。		

13 年度以降 12 年度以前	人間発達科学特殊研究（スポーツ科学実習） 教育科学特殊研究Ⅳ（スポーツコーチ学 a）	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 スポーツ選手の競技力向上には身体機構、運動中の身体各部の機能や適応について理解し、各種トレーニングの計画・実践、また動作解析やゲーム分析などのパフォーマンスチェックが欠かせない。そこで本講義ではスポーツに関わる身体の基本的な機能と測定・分析方法を学び、実際にスポーツパフォーマンスに関係する様々な測定を経験し、各自のスポーツへの関わり方がその新たな知識を生かして工夫されることを目指す。 〔講義概要〕 実際にスポーツ中のパフォーマンスに関連するデータを測定し、試合や演技の映像を持ち寄って分析を行う。成果を学期末に発表する。 ☆教室以外に、35周年記念館アリーナ、グラウンドを使用するので、室内および屋外スポーツ用シューズと運動にふさわしい服装を用意すること。		1. ガイダンス・自己紹介 2. 運動強度測定（屋内スポーツ） 3. 運動強度測定（屋外スポーツ） 4. フィジカルテストの基礎 5. フィジカルテストの実践（グループワーク） 6. フィジカルテストの分析（グループワーク） 7. 動作分析の基礎 8. 動作分析の実践（グループワーク） 9. 動作分析の解析（グループワーク） 10. ゲーム分析の基礎 11. ゲーム分析の実践（グループワーク） 12. 成果発表① 13. 成果発表② 14. 成果発表③ 15. 春学期のまとめ	
到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各種スポーツに必要な身体能力、技術について調べ、講義内で得られたデータをもとに分析すること		
テキスト、参考文献	特に指定しない（必要に応じてプリント等を配布する）		
評価方法	授業への参加態度・貢献度（50%）、レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）で総合的に評価する		

13 年度以降 12 年度以前	人間発達科学特殊研究（スポーツ指導実習） 教育科学特殊研究Ⅴ（スポーツコーチ学 b）	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
[目的] スポーツコーチ学のなかで特にコーチング方法について、実践・実習をすることを目的とする。 [概要] アリーナで種目により担当者と受講者に分かれて、コーチングの実践・実習を行う。		1. ガイダンス 2. スポーツコーチ学の概念と写真付受講票作成 3. バスケットボール① 4. バスケットボール② 5. バレーボール① 6. バレーボール② 7. バドミントン① 8. バドミントン② 9. 卓球① 10. 卓球② 11. フットサル① 12. フットサル② 13. リクエストスポーツ① 14. リクエストスポーツ② 15. テスト	
到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。		
テキスト、参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度、参加後の変化を担当者の観察により総合的に評価する。		

13 年度以降 12 年度以前	人間発達科学特殊研究（スポーツマネジメント） 教育科学特殊研究Ⅶ（体育経営スポーツマネジメント）	担当者	川北 準人
講義目的、講義概要		授業計画	
マネジメントは成果によって定義されるといわれている。スポーツ・マネジメントを定義するためには、「成果を得るためには何が必要か」を追求しなければならない。諸外国からの輸入文化として広がったスポーツの発展・普及における過程を理解し、現代社会におけるスポーツの可能性を模索する。そして“今何が求められているか”を問う。身近なスポーツ活動からトップ・プロの動向など幅広く題材として扱い、スポーツの普及とは如何にあるべきかを考える。 1980年から1990年は、メディアの発達、各種企業のグローバル化によってスポーツ・マーケティングの時代といわれている。このようにスポーツは、社会情勢の影響を受けながら人々の期待に答えてきた。そこで、我が国における体育とスポーツの関わりを歴史的背景から理解し、その発展過程から現代社会における体育・スポーツの問題を考えていく。特に組織論観点からマネジメントを捉え、我が国における現状のみならず、諸外国の事例なども扱ってスポーツ・マネジメントの理解を深めていく。		1. オリエンテーション 2. スポーツ・マネジメントの概要 3. 我が国におけるスポーツ・体育の歴史的背景 4. 体育とスポーツ教育学 5. 我が国における健康教育のマネジメント 6. 北米における学生スポーツの発展 7. プロスポーツとアマチュアスポーツ 8. 我が国における学生スポーツのマネジメント 9. ディスカッション 10. プロスポーツのマネジメント 11. メンタル・マネジメント 12. 高度競技スポーツにおけるマネジメント 13. スポーツ・マーケティング 14. これからのスポーツ・マネジメント 15. 総括	
到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	初回に配布する資料を参考に、毎回重要となる用語を事前に調べておくこと。また、関連するトピックスを調べ、授業内で発言できる準備をすること。		
テキスト、参考文献	授業内で適宜配布する。		
評価方法	授業への参加度・貢献度 50% レポート 30% 小テスト 10% 授業での発言 10%		

13 年度以降 12 年度以前	人間発達科学特殊研究（ボランティア論） 教育科学特殊研究Ⅷ（ボランティア論）	担当者	山口 友佑
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、現在多くの場所で、様々の状況中で実施されているボランティアの活動について、理解を深めることを目的とします。そこで、ボランティアの歴史、活動の意義、ボランティアの事例を参照し、ボランティア活動とは何であるのかについて、学びを進めていきます。 講義では、ボランティアの実例の紹介やVTRなど理解を促進する教材や、グループワーク演習を入れ、具体的な理解を深め、今後のボランティア活動について考えます。		1. オリエンテーション 2. ボランティアの歴史と意義 3. 災害におけるボランティア活動 4. グループワーク① 5. 高齢者分野におけるボランティア 6. 障害者分野におけるボランティア 7. 児童分野におけるボランティア 8. グループワーク② 9. 社会企業とボランティア活動 10. 青年期におけるボランティア活動について 11. シニア世代のボランティア活動について 12. グループワーク③ 13. ボランティアとNPO 14. ボランティア活動における留意点 15. まとめ	
到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	各講義で話した内容について、次回の講義までに各自で復習をしてください。 また講義内で提示した課題については、次回講義にて発表していただきます。		
テキスト、 参考文献	テキストは特に指定しません。講義中に適宜、コピーの配布・文献の紹介を行います。		
評価方法	平常点50％（従業への参加度、授業中に課す小レポートの提出などを含む） 期末試験（またはレポート）50％		

13 年度以降 12 年度以前	社会学Ⅰ 多文化共生研究Ⅲ（社会学 a）	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も、家族や親しい友人も「他者」である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、そういった他者たちと社会的関係を築かなくては私たちは生活できない。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では「他者 other(s)」が重要なキー概念となっている。さらに、他者について考えることは、「自己（わたし）」について考えることでもある。本講義では、社会学の基礎知識をふまえつつ、先行研究を現代的な文脈で捉え、社会学が生まれた経緯と社会的視点、さらにアイデンティティ形成のメカニズムについて学ぶ。それをとおして社会のなかに生きる「他者と自己」の関係を考えてみよう。		1. イントロダクション 2. 社会学的視座とは 3. 社会学の歴史（1）——A.コント、H.スペンサー 4. 社会学の歴史（2）——E.デュルケム 5. 社会学の歴史（3）——M.ウェーバー 6. 社会の類型（1）——コミュニティとアソシエーション 7. 社会の類型（2）——ゲマインシャフトとゼゼルシャフト 8. 社会の類型（3）——第一次集団 9. Identity形成と社会（1）——鏡に映った自己 10. Identity形成と社会（2）——重要な他者 11. Identity形成と社会（3）——マージナル・マン 12. Identity形成と社会（4）——未定 13. 補完的アイデンティティについて 14. 他者と自己の社会学 15. まとめ	
到達目標	「社会学」という学問が成立した経緯をふまえて、社会学的な分析の仕方、社会集団の類型やアイデンティティ形成のメカニズム等を理解し、多文化社会における自己と他者について分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	身分証明書以外に、私たちはどのようにして自分が自分であることを証明するか考えておく。		
テキスト、参考文献	G.ジンメル『社会学の根本問題（個人と社会）』世界思想社、E.デュルケム『自殺論』中央公論社 M.ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、G.H.ミード『社会的自我』恒星社厚生閣		
評価方法	授業への積極性(小レポートや提出物) 50%、期末試験 50%		

13 年度以降 12 年度以前	社会学Ⅱ 多文化共生研究Ⅳ（社会学 b）	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
わたしたちが日常的に何気なく行っていることや「あたりまえ」だと思っていること、あるいは「社会問題」と呼ばれる事象について、社会的な見地から分析してみるとどうだろうか。それまで見えていなかったことが見えてくるかもしれない。それまで気づいてさえいなかったことが、突然気になりだすかもしれない。 本講義では、近代の都市社会やグローバル化が抱える問題についての研究業績を知り、それを手がかりにしながら、わたしたちにとって身近な出来事を社会的に考えてみたい。とくに「都市」「移民」「地域」「大量消費」「社会的逸脱」といったキー概念を中心に扱う。		1. イントロダクション 2. 社会的性格と「自由からの逃走」——E.フロム 3. 同調様式の 3 類型——D.リースマン 4. 都市化と移民——W.I.トマスとF.W.ズナニエツキ 5. 同心円地帯説——E.バージェス 6. シカゴ学派と都市問題——R.パーク 7. 予言の自己成就——R.K.マートン 8. 誇示的消費——T.ヴェブレン 9. 認知的不協和の理論——L.フェスティンガー 10. 文化的再生産——P.ブルデュー 11. コンフルエント・ラブ——A.ギデンズ 12. 現代社会と社会学（1）情報技術とメディア 13. 現代社会と社会学（2）グローバル化 14. 現代社会と社会学（3）ローカル化 15. まとめ	
到達目標	社会学の学説をふまえて、近代社会が抱える問題や、多文化の共生を視野に入れながら、現代の日本社会が直面する課題について分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	グローバル化がもたらす光と影について考えておく。		
テキスト、参考文献	E.フロム『自由からの逃走』東京創元社、D.リースマン『孤独な群衆』みすず書房 A.ギデンズ『親密性の変容』而立書房 ほか		
評価方法	授業への積極性（小レポートや提出物）50%、 期末試験 50%		

13 年度以降 12 年度以前	文化人類学Ⅰ 多文化共生研究Ⅰ（文化人類学 a）	担当者	松岡 格
講義目的、講義概要		授業計画	
学問としての成り立ちや、主要な関心に触れながら、文化人類学の基本概念を理解することを目的とする。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また、授業中に小課題の提出を課す。小課題は原則小レポートであるが、一部調査課題を課す。この小課題は全て提出していない学生は、成績評価の対象としない。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。		1. ガイダンス 2. 未開とは何か 3. 文化と文明 4. 言語と文字 5. 日常と非日常 6. 通過儀礼 7. 年齢と分類 8. タブー 9. 宗教と人類学 10. ジェンダーと人類学 11. 家族・親族 12. 贈与と交換 13. 伝統の創造 14. 文化の書き方 15. まとめ	
到達目標	文化人類学の誕生の歴史を理解し、「文化」の概念を「自然」の概念から明確に切り離して分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題等に反映させること。		
テキスト、参考文献	テキストは山下晋司等著『文化人類学キーワード 改訂版』（有斐閣）とする。その他のものは授業内で指示する。		
評価方法	平常点（授業への参加度等）〔30%〕、小課題・調査課題〔70%〕を評価対象とする。小課題・調査課題の全提出を成績評価の必須条件とする。また一定回数以上欠席した学生は成績評価の対象としない。		

13 年度以降 12 年度以前	文化人類学Ⅱ 多文化共生研究Ⅱ（文化人類学 b）	担当者	松岡 格
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に学習した文化人類学の基本概念をふまえて、応用的で現代的なトピックを扱うとともに調査を実践することで、人類学の方法論と考え方を実践的に学ぶことを目的とする。 本授業は講義形式を中心に行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。具体的には教員の解説する概念や視点について理解を深めるために簡単な調査を行ってもらおう。特に秋学期は主体的に課題をこなすことが重要となる。また、授業中に小課題の提出を課す。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。		1. ガイダンス 2. 文化とは何か 3. 食と政治 4. 自然とは何か 5. 可視化・単純化 6. 調査実習 1 7. 可視化：再説 8. 調査実習 2 9. 可視化と地域知 10. 調査実習 3 11. 地域知と実践知 12. 調査実習 4 13. 地域の中の多様なアクター 14. 政策への多様な評価 15. まとめ	
到達目標	文化人類学の「実地調査」について理解し、さまざまな社会の慣習について、どの点が「文化」であるかを指摘したうえで分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。		
テキスト、参考文献	教材は教員が用意するが、調査用に二種類のノートを用意してもらう必要がある（詳しくは授業内で指示する）。春学期にテキストとして使用した『文化人類学キーワード』は参考文献とする。		
評価方法	平常点（授業への参加度等）〔30%〕、調査課題と小課題〔70%〕を評価対象とする。調査課題・小課題の全提出を成績評価の必須条件とする。また一定回数以上欠席した学生は成績評価の対象としない。		

13 年度以降 12 年度以前	倫理学Ⅰ 宗教・文化・歴史研究Ⅵ（倫理学 a）	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
西洋倫理学を中心として、東洋倫理学にも触れながら、倫理学の全体像を概説する、 教職科目でもあるため、倫理学全般に関する知識の取得も目指す。それ故に、西洋及び東洋の主要な倫理学史に触れることにする。同時に、現代社会や人生上における諸問題に触れて、それを論議し検討する。機会に応じて、グループ・ディスカッションを行い、各グループの結果を全体会で発表、再議論するだろう。このことを通じて、実践的経験および知識を得ることができるようになる。同時に他者に自分の考えを伝えることがディスカッションでは必要であり、これを通して倫理の基本を高校生などにも理解可能な仕方と言語表現が出来るようになる基礎を得る。 この授業の到達目標は、倫理学史の全般的知識を得ること、その知識を実践的に現代の倫理的諸問題に応用できること、卒業後に将来的生き方を把握できる基礎を得ることである。		1. 概要説明 2. 西洋古代の倫理 1 3. 西洋古代の倫理 2 4. 徳を原理とする倫理と現代問題 1 (discussion) 5. 徳を原理とする倫理と現代問題 2 (discussion) 6. 東洋古代の倫理 1 7. 東洋古代の倫理 2 8. 儒教的性善説と現代問題 1 (discussion) 9. 儒教的性善説と現代問題 2 (discussion) 10. 西洋近代の倫理 11. 西洋・東洋近代の倫理 12. 東洋近代の倫理 13. 功利主義的倫理と現代問題 1 (discussion) 14. 功利主義的倫理と現代問題 2 (discussion) 15. 春学期のまとめ	
到達目標	近世倫理思想を理解し、これを用いて現代の倫理的諸問題を検証、分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	前以て手渡されたハンドアウトを事前に精読して下さい。 授業中に紹介された参考文献を事前に精読しておいて下さい。		
テキスト、 参考文献	授業中に適宜指示する。		
評価方法	レポート 60%、授業中の発表・ディスカッションへの参加度 30%、授業への参加度 10%		

13 年度以降 12 年度以前	倫理学Ⅱ 宗教・文化・歴史研究Ⅶ（倫理学 b）	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
西洋倫理学を中心として、東洋倫理学にも触れながら、倫理学の全体像を概説する、 教職科目でもあるため、倫理学全般に関する知識の取得も目指す。それ故に、西洋及び東洋の主要な倫理学史に触れることにする。同時に、現代社会や人生上における諸問題に触れて、それを論議し検討する。機会に応じて、グループ・ディスカッションを行い、各グループの結果を全体会で発表、再議論するだろう。このことを通じて、実践的経験および知識を得ることができるようになる。同時に他者に自分の考えを伝えることがディスカッションでは必要であり、これを通して倫理の基本を高校生などにも理解可能な仕方と言語表現が出来るようになる基礎を得る。 この授業の到達目標は、倫理学史の全般的知識を得ること、その知識を実践的に現代の倫理的諸問題に応用できること、卒業後に将来的生き方を把握できる基礎を得ることである。		1. 概要 2. カント・ヘーゲルの倫理 1 3. カント・ヘーゲルの倫理 2 4. Kant, Hegel 的道德原理と現代問題 1 (discussion) 5. Kant, Hegel 的道德原理と現代問題 2 (discussion) 6. 和辻哲郎の倫理 7. 東洋近現代の倫理 8. 東洋近現代倫理と現代問題 1 (discussion) 9. 東洋近現代倫理と現代問題 2 (discussion) 10. 生命倫理 11. 医療倫理 12. 技術倫理 13. 現代の倫理的諸問題 1 (discussion) 14. 現代の倫理的諸問題 2 (discussion) 15. 秋学期のまとめ	
到達目標	近世倫理思想を理解し、これを用いて現代における犯罪あるいは生命倫理的問題を検証、分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	前以て手渡されたハンドアウトを事前に精読して下さい。 授業中に紹介された参考文献を事前に精読しておいて下さい。		
テキスト、 参考文献	授業中に適宜指示する。		
評価方法	レポート 60%、授業中の発表・ディスカッションへの参加度 30%、授業への参加度 10%		

13 年度以降 12 年度以前	文化史入門 宗教・文化・歴史研究Ⅰ（文化史入門）	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的>グローバル化した現代社会にあって、私たちは自分の帰属意識や自己認識に揺らぎを感じ、改めて自分のアイデンティティーの確立の必要性を意識します。その時、自分が育ち、身に付けた文化が大きな役割を果たします。文化は、狭義にはさまざまな文化遺産や文化事象そのものを意味しますが、広義にはそれら文化遺産や文化事象を包括しつつ、歴史的に形成されてきた生活や思考の様式を意味し、そこに体现された社会や集団の個性や特質をも表わす概念です。本講義では、どちらも歴史的総体として考えねばならないとの問題関心から、個別文化事象も生活・思考様式もいかなる具体的な歴史社会と密接に結びついているか古代ギリシア・ローマ世界を例にとりあげ、自己の帰属意識や自己認識にとっていかに文化理解が不可欠であるかを明らかにすることを目的としています。<講義概要>授業は講義形式で行いますが、討議形式になるテーマもありますのでその際には積極的に参加しましょう		1. はじめに（講義の目的、概要、その他） 2. 技術文化（1）動力とエネルギー源（奴隷労働の意義） 3. 技術文化（2）水の供給と農・牧業（ローマ水道橋） 4. 運送手段（1）船と海上輸送（三段櫓船と商船） 5. 運送手段（2）陸上輸送（一般道と高速道） 6. 造形芸術：建築と彫刻（アルカイックスマイルの謎） 7. 文学の世界：叙事詩と演劇（ギリシア悲劇の普遍性） 8. 宗教と祭祀（神々と人間）：ギリシア神話とは何か？ 9. 性愛の諸相（1）男と女：同性愛 10. 性愛の諸相（2）男と女：結婚と異性愛 11. 競技的（アゴン）人間類型：理想的人間とは？ 12. クリエンテラ・パトロネージ関係 13. 民主政の中の人間関係（1） 14. 民主政の中の人間関係（2） 15. まとめ（総括と展望）	
到達目標	広義の文化史と狭義の文化史について理解し、個々の文化事象とそれらを生み出した社会との関係を関連付けて分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	配布されたプリントの指定された箇所を事前に精読して、必要に応じて参考文献を読んでおいて下さい。 また、毎回出される課題に答えて授業後あるいは次回に提出して下さい。		
テキスト、 参考文献	テキストは使用せず、プリントを配布します。また、初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。 それ以外に各授業の際、追加の参考文献を紹介することがあります。		
評価方法	定期のレポート 70％、毎回の課題 20％、授業への参加度 10％		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	東洋思想史 I 宗教・文化・歴史研究 II（東洋思想史 a）	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、日々の行動を決定している。だが、それぞれの文化圏に特有の、慣習的な考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を反省するきっかけにする。 古代と中世の主にインド・中国における諸思想を扱うことになる。 本講義の到達目標は、古代・中世の東洋思想の全般的な基礎知識の獲得、知識獲得のための調査研究の方法の自覚および実践、東洋の古代中世の思想的文化的遺産の活用とその吟味にある。		1.（インド）アーリア人とヴェーダの宗教 2.（インド）ウパニシャッド哲学の思想 3.（インド）ウパニシャッド哲学と原始仏教の思想 4.（インド）ウパニシャッド哲学のまとめ 5.（インド）原始仏教 6.（インド）原始仏教 7.（インド）原始仏教とヒンドゥー教の思想 8.（中国）孔子と論語 I 9.（中国）孔子と論語 II 10.（中国）その他の古代中国思想 I 11.（中国）その他の古代中国思想 II 12.（中国）その他の古代中国思想 III 13.（中国）老荘思想 14. 古代・中世の東洋思想のまとめ 15. 古代・中世の東洋思想のまとめと質問	
到達目標	インド古代思想および中国古代思想の代表例を理解し、古代東洋思想が現代の日常生活にどのような影響を及ぼしているかを分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	前以て手渡されたハンドアウトを事前に精読して下さい。 授業中に紹介された参考文献を事前に精読しておいて下さい。		
テキスト、参考文献	授業中に参考文献を、その都度、テーマに即したものを紹介する。		
評価方法	レポート 70%、授業への積極的貢献（発言と質問） 10%、授業への参加度 20%		

13 年度以降 12 年度以前	東洋思想史Ⅱ 宗教・文化・歴史研究Ⅲ（東洋思想史 b）	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、日々の行動を決定している。だが、それぞれの文化圏に特有の、慣習的な考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を反省するきっかけにする。 近世と近代のインド・中国・日本における諸思想を扱うことになる。 本講義の到達目標は、近世・近代の東洋思想の全般的な基礎知識の獲得、知識獲得のための調査研究の方法の自覚および実践、東洋の古代中世の思想的文化的遺産の活用とその吟味にある。		1.（インド）仏教哲学（説一切有部）Ⅰ 2.（インド）仏教哲学（説一切有部）Ⅱ 3.（インド）仏教哲学（説一切有部と経量部） 4.（インド）仏教哲学（中観派） 5.（インド）仏教哲学（唯識派） 6.（インド）仏教哲学のまとめ 7.（中国）宋学Ⅰ（周濂溪） 8.（中国）宋学Ⅱ（程明道） 9.（中国）宋学Ⅲ（程伊川） 10.（中国）宋学Ⅳ（張横渠） 11.（中国）宋学Ⅴ（朱子学） 12.（中国）宋学のまとめ 13.（中国）現代と中国思想の関係 14.（日本）本居宣長の思想 15. 東洋思想史の現代的意義	
到達目標	中世・近世中国思想、近世現代日本思想の代表例を理解し、中世・近世・現代の東洋思想が現代の日常生活にどのような影響を及ぼしているかを分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	前以て手渡されたハンドアウトを事前に精読して下さい。 授業中に紹介された参考文献を事前に精読しておいて下さい。		
テキスト、参考文献	授業中に参考文献を、その都度、テーマに即したものを紹介する。		
評価方法	レポート 70%、授業への積極的貢献（発言と質問） 10%、授業への参加度 20%		

13 年度以降 12 年度以前	文明史研究Ⅰ 宗教・文化・歴史研究Ⅳ（文明史研究 a）	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 文明は世界中に残されていますが、私たちが知ることのできる文明はほんの一部でしかありません。多くは滅んでしまったり、遺跡も失われたため存在の証を知る手がかりすら無いものもあるからです。ですから、現在残されている文明を大切に維持し、次世代に正確に伝えていかなければならないのです。 本講義ではヨーロッパ文明の源流となったギリシア、ローマ文明に焦点を当て、政治的対立を超えた文明の交流について考察を深めることを目的とします。 <講義概要> 文明とは何かという本質的な問題からはじめます。文明が栄えていく時期にはその文明を担う英雄も現れ、また滅んでいく過程では自然災害や気候変動といった要素はもちろん、病気や人類が引き起こした戦争、紛争などの対立がありました。 本講義では文明に対する理解を深めるため、画像資料やビデオ、DVDといった映像を使用することにより、文明の多くの課題を皆さんと一緒に考える時間にしたいと思います。		1、はじめに（講義の目的、概要、その他） 2、クレタ文明 3、ミケーネ文明 4、トロイア戦争 5、ギリシア文明（アテナイ） 6、ギリシア文明（スパルタ） 7、ペルシア文明 8、ペルシア戦争 9、ペロポネソス戦争 10、マケドニアとアレクサンドロス 11、ヘレニズム文明 12、ローマの対内外戦争 13、ローマ文明（共和政まで） 14、ローマ文明（帝政以後） 15、講義のまとめ	
到達目標	文明の概念と文明単位での歴史を体系的に理解し、具体的な文明単位としての「ギリシア・ローマ文明」を文明成立発展の歴史として捉えて分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	先週の講義プリントを見直しておくこと		
テキスト、参考文献	テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します		
評価方法	平常点は出席を前提としたうえで授業への参加度、小テスト、期末レポートを加え評価します		

13 年度以降 12 年度以前	文明史研究Ⅱ 宗教・文化・歴史研究Ⅴ（文明史研究 b）	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> ヨーロッパは第一次世界大戦、第二次世界大戦を経てEUの統合がなされました。まさにグローバル化によって、ヨーロッパの国々では国境の壁は低くなっています。 本講義ではシュペングラーやトインビーらの文明論を概観し、文明の世代交代としての範型として、ヨーロッパ文明を取りあげます。ギリシア・ローマ文明はその後どのように伝播がなされていったのかについて考察したいと思います。 <講義概要> ヨーロッパの語源となったエウロペ神話からはじめ、ヨーロッパとは何かを論じます。ヨーロッパ文明がどのようにして全世界に伝播され、受容されていったかを検証したいと思います。ヨーロッパの視点からだけではなく、アジアやアフリカ、新大陸といわれたアメリカなどの視点では、どのようにヨーロッパは映るのかといった双方向の視点から検討します。春学期と同様に図像資料や映像も使用し、理解を深めたいと思います。 難民等の問題が生じている現代社会についての現状も考えなければなりません。		1、はじめに（講義の目的、概要、その他） 2、ヨーロッパとは何か 3、ヨーロッパ文明の源、ギリシア文明 4、アレクサンドロス大王とヘレニズム文明 5、ローマ帝国の意味 6、中世フランク王国 7、イタリア・ルネサンス 8、大航海時代 9、植民地を求めて 10、植民地の争奪 11、第一次世界大戦 12、大戦後のヨーロッパ 13、ヨーロッパ統合の思想 14、ヨーロッパの現状と課題 15、講義のまとめ	
到達目標	文明の概念と文明単位での歴史を体系的に理解し、具体的な文明単位としての「ヨーロッパ文明」を文明成立発展の歴史として捉えて分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	先週の講義プリントを見直しておくこと		
テキスト、参考文献	テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します		
評価方法	平常点は出席を前提としたうえで授業への参加度、小テスト、期末レポートを加え評価します		

13 年度以降 12 年度以前	比較宗教史 宗教・文化・歴史研究各論Ⅲ（比較宗教史）	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
現代に生きるものにとっては、多文化社会に生きることが否応なく求められる。その際に、必要なのは、相手の文化の根底をなしている宗教を理解することである。相互の宗教理解無ければ、多文化共生の基盤は崩壊する。従って、世界の大宗教および自国日本の宗教を理解して、比較研究することは現代人にとって必須である。 講義担当者から事前に配られる諸宗教表をもとに、聴講者各自がいずれかの宗教を選択し、グループを作る。そのグループ作業の中で、各自が担当することになる宗教を多方面から研究し、理解し、それを発表する。この発表の積み重ねができた状態となったとき、授業担当者は、発表された各宗教の類似点と相違点を抜き出し、比較思想の手法で、宗教の新たな役割、人生上の意味と功罪を比較検討していく。そこから各宗教を基にした死生観の多様性を浮かび上がらせることにする。この講義の到達目標は、宗教の全般的知識獲得、知識の論理的表現能力の涵養にある。		1. オリエンテーション 2. 各グループの形成と調査研究の方法論 3. 各グループ毎の実践的調査研究Ⅰ 4. 各グループ毎の実践的調査研究Ⅱ 5. キリスト教についての調査研究の発表 6. イスラムについての調査研究の発表 7. ユダヤ教についての調査研究の発表 8. キリスト教、イスラム、ユダヤ教の一神教の比較検討 9. ゾロアスター教についての調査研究の発表 10. 二神教と一神教の比較検討 11. ヒンドゥー教についての調査研究の発表 12. 神道についての調査研究の発表 13. 多神教の比較検討 14. 仏教についての調査研究の発表 15. 無神論についての比較検討	
到達目標	古今の宗教の形態と教義を理解し、宗教が現代生活に及ぼしている影響について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	前以て手渡されたハンドアウトを事前に精読して下さい。 授業中に紹介された参考文献を事前に精読しておいて下さい。		
テキスト、 参考文献	授業中に参考文献を、その都度、テーマに即したものを紹介する。		
評価方法	レポート 60%、授業中の発表・ディスカッションへの参加度 30%、授業への参加度 10%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	科学史 I 自然・環境研究 I（科学史 a）	担当者	野澤 聡
講義目的、講義概要		授業計画	
科学が歴史の中で姿を変えていく様子を大まかに辿り、人間が科学とどのように関わってきたのかを知ることによって、科学が人間によって作られてきたものであることを理解し、われわれが科学とどのように関わってゆけば良いのかを考えることを目的とする。 春学期は、古代から 17 世紀の科学革命を経て、「科学者 (scientist)」という言葉が登場した 19 世紀初めまでに、科学的なものの見方や考え方がどのように移り変わってきたのかについて、代表的な人物や事例に焦点を当てて概観する。		1. ガイダンス、科学とはなにか？ 2. 科学的な考え方の始まり（古代） 3. タームペーパーの書き方について 4. 古代世界の宇宙観 5. 地中海世界からアラビア世界へ 6. アラビア世界からヨーロッパ世界へ 7. 宇宙観の転換—天動説から地動説へ 8. 魔術と科学 9. 機械論的自然観の登場 10. ニュートンと科学革命 11. 科学アカデミーの誕生と展開 12. 科学史における女性 13. 産業革命と科学 14. フランス革命と科学 15. 「科学者 (Scientist)」の誕生	
到達目標	「科学とは何か」という問題に対して正しい理解を得て、人類が得てきた科学的知見を歴史的視点から分析し、科学を学ぶことの意義や楽しさを表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ニュース・書籍・インターネットなどのメディアを通じて科学技術に関心をもつ		
テキスト、参考文献	教科書は使用せず、参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する		
評価方法	タームペーパー（レポート）（70％）と、獨協大学レポート用紙の記述（30％）により評価する		

13 年度以降 12 年度以前	科学史Ⅱ 自然・環境研究Ⅱ（科学史 b）	担当者	野澤 聡
講義目的、講義概要		授業計画	
科学が歴史の中で姿を変えていく様子を大まかに辿り、人間が科学とどのように関わってきたのかを知ることによって、科学が人間によって作られてきたものであることを理解し、われわれが科学とどのように関わってゆけば良いのかを考えることを目的とする。 秋学期は、「科学者（scientist）」という言葉が登場した 19 世紀の初めから現代までを扱い、科学が社会の中で大きな力を獲得していく過程について、具体的な事例に焦点を当てて概観する。		1. ガイダンス、「科学者（Scientist）」とはだれか 2. 蒸気機関と熱力学の誕生 3. タームペーパーの書き方について 4. 科学の制度化と専門職業化 5. 科学の産業化 6. 公害の発生と科学 7. 進化論と社会 8. 帝国主義と科学 9. 研究所の誕生 10. 科学と国家 11. 現代科学の登場と自然観の転換 12. 科学と戦争 13. ビッグサイエンスの誕生 14. 環境科学の誕生と展開 15. 科学の過去・現在・未来	
到達目標	「科学とは何か」という問題に対して正しい理解を得て、人類が得てきた科学的知見を歴史的視点から分析し、科学を学ぶことの意義や楽しさを表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ニュース・書籍・インターネットなどのメディアを通じて科学技術に関心をもつ		
テキスト、参考文献	教科書は使用せず、参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する		
評価方法	タームペーパー（レポート）（70％）と、獨協大学レポート用紙の記述（30％）により評価する		

13 年度以降	科学技術基礎論 I	担当者	野澤 聡
講義目的、講義概要		授業計画	
現在の科学技術は、高度化・専門化が極度に進行したため、科学技術の専門家ですえ自分の専門分野以外のことは分からないことが増えている。その一方で、現在に生きるわれわれは、知らないうちに科学技術の成果を利用したり、科学技術的なものの見方や考え方の影響を受けたりしている。また、われわれが直面する問題を解決するためには、文系・理系という枠を超えて、様々な分野の人々と協働することがますます必要になっている。 この講義では、われわれにとって身近な事例から出発して、その背後にある科学技術の考え方や、価値観、法律や経済など、他分野との関わりを分析することによって、科学技術への関心を高めるとともに、異分野の人々との協働の意義を理解することを目的とする。 春学期は主として生命に関する事例を取り上げて考察する。		1. ガイダンス、生命とは何か 2. いつから生命か 3. タームペーパーの書き方について 4. いつまで生命か 5. 遺伝とはなにか 6. 品種改良と遺伝子 7. 進化・遺伝・優生学 8. 病気とは何かー正常と異常を考える 9. 感染と免疫 10. 生命と食品 11. 食のリスクと安全 12. 生命から見た環境 13. 環境問題とは何かーオゾンホール問題を例に 14. 環境の持続可能性と不確実性 15. 先端の科学技術と生命	
到達目標	各種の科学技術を一般的に理解し、そうした技術の応用が人間の生活、文化、社会がどのような影響、変化を及ぼすかについて分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ニュース・書籍・インターネットなどのメディアを通じて生命に関する科学技術に関心をもつ		
テキスト、参考文献	教科書は使用せず、参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する		
評価方法	タームペーパー（レポート）（70％）と、獨協大学レポート用紙の記述（30％）により評価する		

13 年度以降	科学技術基礎論 II	担当者	野澤 聡
講義目的、講義概要		授業計画	
現在の科学技術は、高度化・専門化が極度に進行したため、科学技術の専門家ですえ自分の専門分野以外のことは分からないことが増えている。その一方で、現在に生きるわれわれは、知らないうちに科学技術の成果を利用したり、科学技術的なものの見方や考え方の影響を受けたりしている。また、われわれが直面する問題を解決するためには、文系・理系という枠を超えて、様々な分野の人々と協働することがますます必要になっている。 この講義では、われわれにとって身近な事例から出発して、その背後にある科学技術の考え方や、価値観、法律や経済など、他分野との関わりを分析することによって、科学技術への関心を高めるとともに、異分野の人々との協働の意義を理解することを目的とする。 秋学期は主として物質や情報に関する事例を取り上げて考察する。		1. ガイダンス、科学と不確実性 2. 科学的予測の原理と実態 3. タームペーパーの書き方について 4. 事故と科学技術 5. 「情報」とは何か 6. プライバシーと科学技術 7. デジタルディバイドと科学技術 8. 科学技術における安全 9. 科学技術とリスク 10. 科学技術と確率 11. 科学技術と統計 12. 物質とは何か 13. 物質が存在するとはどういうことか 14. 物質とエネルギー 15. 物質から見た環境	
到達目標	各種の科学技術を一般的に理解し、そうした技術の応用が人間の生活、文化、社会がどのような影響、変化を及ぼすかについて分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ニュース・書籍・インターネットなどのメディアを通じて物質や情報に関する科学技術に関心をもつ		
テキスト、参考文献	教科書は使用せず、参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する		
評価方法	タームペーパー（レポート）（70％）と、獨協大学レポート用紙の記述（30％）により評価する		

13 年度以降 12 年度以前	数学Ⅰ 自然・環境研究Ⅲ（数学 a）	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
数学を学ぶということは、数量や空間を扱う考え方を身につけるだけでなく、論理的に考え、正確に判断し、的確に類推する能力を養うことにもつながります。 本講義では、数学を支えてきた論理である「数理論理」について学びます。論理において重要なものは文と文の接続関係ですが、「数理論理」では、文を「命題」として扱い、接続関係を「論理演算子」で表します。授業では、まず、文の真偽に対応する「命題」の「真理値」と、「論理演算子」により合成された「合成命題」の「真理値」の関係を調べ、「同値」な「命題」について考察します。つづいて、論証を構成する接続関係である「条件文」を導入し、「条件文」と「同値」な「命題」についても考察します。さらに、論証の中でも最も厳格に前提から結論を演繹的に導く「推論」を取り上げ、「推論」の妥当性について検討します。また、論理と代数、論理と集合との関係についても学びます。		1. はじめに 2. 命題と論理式 3. 真理表と命題の同値 4. 条件文 1 5. 条件文 2 6. 推論と証明 7. 論理式と代数 1 8. 論理式と代数 2 9. 論理と集合 1 10. 論理と集合 2 11. 推論の応用 1 12. 推論の応用 2 13. 推論の応用 3 14. 問題演習 15. まとめ	
到達目標	数学理論の習得を通じて、数量や空間を扱う考え方を身につけるだけでなく、物事を数理的に考え、正確に判断し、的確に類推できるようにする。		
事前・事後学修の内容	プリントを事前に配布します。当日の部分を予習してください。 毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認、復習しておいてください。		
テキスト、参考文献	テキスト：授業最初にプリント配布 参考文献：小島寛之『文系のための数学教室』（講談社現代新書 2004 年）		
評価方法	授業中の問題解答 10%、授業最後の課題 10%、学期最後の問題演習 80%により評価		

13 年度以降 12 年度以前	数学Ⅱ 自然・環境研究Ⅳ（数学 b）	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
数学を学ぶということは、数量や空間を扱う考え方を身につけるだけでなく、論理的に考え、正確に判断し、的確に類推する能力を養うことにもつながります。 本講義では、自然や社会において偶然に支配されているとみなされる現象を解析する数学の一分野である「確率論」について学びます。「確率」については、高等学校数学で扱われていますが、ここでは、その内容を復習しつつ、実際に様々な分野で応用されている、「確率」を基にした「統計」の基本的な考え方につなげることを目標に授業を進めていきます。内容は、まず、「確率」の学習に必要な「集合」と「順列」「組合せ」、そして「確率」と「条件付確率」の考え方を学習します。つぎに、「確率変数」を導入し、「確率分布」とその「平均」や「分散」を学びます。さらに、「確率分布」の実例として「二項分布」や「正規分布」を取り上げます。これらの内容は、「推定」や「検定」といった「推測統計」の理解や利用につながります。		1. はじめに 2. 場合の数と集合 3. 順列・組合せ 4. 標本空間と事象 5. 確率 1 6. 確率 2 7. 条件付確率と事象の独立 8. 確率変数と確率分布 1 9. 確率変数と確率分布 2 10. 確率分布の平均 11. 確率分布の分散 12. 二項分布 13. 正規分布 14. 問題演習 15. まとめ	
到達目標	数学理論の習得を通じて、数量や空間を扱う考え方を身につけるだけでなく、物事を数理的に考え、正確に判断し、的確に類推できるようにする。		
事前・事後学修の内容	プリントを事前に配布します。当日の部分を予習してください。 毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認、復習しておいてください。		
テキスト、参考文献	テキスト：授業最初にプリント配布 参考文献：石村園子『すぐわかる確率・統計』（東京図書 2001 年）		
評価方法	授業中の問題解答 10%、授業最後の課題 10%、学期最後の問題演習 80%により評価		

13 年度以降	物理学 I	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、それらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つげられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。 本講義では、物理学の中でも 20 世紀までに確立され、すでに様々な場面で応用されている分野を扱います。これらは、高等学校までの理科や物理で学んでいる内容ですが、もう一度、私たちの身の回りの生活との関係という視点で見直すことを目標として、学習を進めていきます。		1. はじめに 2. 力と運動 1－物体の運動 3. 力と運動 2－物体に働く力 4. 力と運動 3－運動の法則 5. 力と運動 4－万有引力 6. 熱 1－温度と熱 7. 熱 2－熱と分子運動 8. 波動 1－媒質の振動と波 9. 波動 2－音波と光波 10. 電磁気 1－電気と磁気 11. 電磁気 2－電流と磁場 12. 電磁気 3－電磁誘導 13. 電磁気 4－電磁波 14. 問題演習 15. まとめ	
到達目標	普遍的、基本的な物理法則について理解を深め、その応用として、私たちの生活に身近なものを物理学的に捉えることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。 毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。		
テキスト、参考文献	テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介		
評価方法	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する。		

13 年度以降	物理学Ⅱ	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、これらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つげられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。 本講義では、20 世紀以降物理学の分野で得られた新しい知見について紹介します。一つは「時間と空間」に関するもの、もう一つは「物質の究極像」に関するものです。これら人類の得た新しい知見を題材にして、自然に対する認識を深めることを目標に授業を進めていきます。 なお、春学期開講「物理学Ⅰ」の授業で学習した知識があることを前提とします。		1. はじめに 2. 時間と空間 1－電磁気学と相対性原理 3. 時間と空間 2－ローレンツ変換 4. 時間と空間 3－4 次元不変量 5. 時間と空間 4－等価原理 6. 時間と空間 5－時空の歪み 7. 時間と空間 6－ブラックホール 8. 物質の究極像 1－元素と原子 9. 物質の究極像 2－原子の構造 10. 物質の究極像 3－前期量子論 11. 物質の究極像 4－量子力学 12. 物質の究極像 5－素粒子論 13. 物質の究極像 6－統一理論 14. 問題演習 15. まとめ	
到達目標	普遍的、基本的な物理法則について理解を深め、その応用として、私たちの生活に身近なものを物理学的に捉えることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。 毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。		
テキスト、参考文献	テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介		
評価方法	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する。		

13 年度以降 12 年度以前	天文学 I 自然・環境研究Ⅶ（天文学 a）	担当者	内田 俊郎
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、肉眼で見える身近な天文現象から話を始め、広大な宇宙の中でも我々に身近な太陽系とはどのような天体なのかを理解することを目標とする。 太陽や惑星のみかけの運動の説明から始め、次いで、惑星の運動を表すケプラーの法則を説明する。 太陽系に属する様々な天体を紹介し、惑星の形成過程などを学ぶ。		1. 講義内容の紹介 2. 天球の考え方 3. 太陽の年周運動 4. 惑星の見かけの運動 5. ケプラーの法則 1 第一法則 6. ケプラーの法則 2 第二法則 7. ケプラーの法則 3 第三法則 8. ニュートンの万有引力の法則 9. 太陽系の広がり 10. 太陽系の姿 惑星と小惑星 11. 太陽系の姿 彗星や太陽系外縁天体 12. 太陽系の形成 1 原始惑星系円盤と微惑星 13. 太陽系の形成 2 木星型惑星、地球型惑星の形成 14. 系外惑星 15. まとめ	
到達目標	天文学について理解を深め、太陽系惑星や地球における各種の天体事象を詳しく解説できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	予習：資料を読んでくる。復習：資料の練習問題を解く。		
テキスト、 参考文献	テキストは使用しない。資料を PDF ファイルで配布する。 参考書：大金要次郎著 新版地学教育講座 11『星の位置と運動』（東海大出版会）、 小森長生著 新版地学教育講座 12『太陽系と惑星』（東海大出版会）		
評価方法	試験 100%		

13 年度以降 12 年度以前	天文学Ⅱ 自然・環境研究Ⅷ（天文学 b）	担当者	内田 俊郎
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は、恒星とはどのようなもので、どのように誕生し、どのような終末を迎えるのか大要を理解することを目標とする。 天文学が他の自然科学の分野と大きく異なる点の 1 つは、対象を直接調べることができないことである。この講義では恒星の表面から来る光という間接的な情報からどのように恒星の物理量が推定され、そこからどのように恒星の内部や進化が理解できるかを説明していく。		1. 講義内容の紹介 2. 星の見かけの明るさ 3. 星までの距離 4. 星の光度と絶対等級 5. 星のスペクトルと表面温度 6. HR 図 7. 星の半径と質量 8. 星のエネルギー源 9. 星の進化 1 星の誕生から主系列星へ 10. 星の進化 2 主系列以後の星の進化 11. 高密度星 白色矮星と中性子星 12. ブラックホール 13. 超新星 14. 元素の起源 15. まとめ	
到達目標	天文学について理解を深め、太陽系惑星や地球における各種の天体事象を詳しく解説できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	予習：資料を読んでくる。復習：資料の練習問題を解く。		
テキスト、 参考文献	テキストは使用しない。資料を PDF ファイルで配布する。参考書：米山忠興著『教養のための天文学講義』（丸善）、 中嶋浩一著『天文学入門 星とは何か』（丸善）		
評価方法	試験 100%		

13 年度以降	生物学 I	担当者	飯泉 恭一
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義の目的】生命科学の著しい進歩は我々の生活に様々な恩恵を与えてきました。しかしその反面、これまで考える必要のなかった新たな課題を生じさせています。クローン人間は許されるのか？ 遺伝子操作は許されるのか？ 近い将来、我々は様々な判断を迫られるでしょう。これらを的確に判断するためには幅広い教養と生物学の知識が不可欠です。新聞やニュースで報道される生命科学の問題に関し、自分自身の頭で判断するための基礎知識を身につけます。 【講義の概要】本講義では細胞レベルの生物学を概説します。講義形式の授業ですが、授業の途中に実験なども組み込みたいと考えています。		1. はじめに ー履修の注意・キャンパス内の生物の観察ー 2. 生命の誕生 ー生命誕生の謎ー 3. 細胞の特徴 ー細胞膜の性質ー 4. 細胞の特徴 ー細胞小器官とはー 5. 細胞の観察 ー顕微鏡による細胞の観察ー 6. 細胞を構成する物質 ー細胞の生存に必要な物質ー 7. 細胞の分裂 ー細胞が増えるしくみー 8. 染色体 ー顕微鏡による染色体の観察ー 9. 遺伝と遺伝子 ー子はなぜ親に似る？ ー 10. 核酸 ーDNA と RNAー 11. DNA を見る ーレバーから DNA を抽出ー 12. タンパク質と酵素 ーホタルの発光と酵素の関係ー 13. プレゼンテーション（1） 14. プレゼンテーション（2） 15. まとめ	
到達目標	生物学の基礎、生物の生態環境とその変化および生物の適応について理解し、様々な地域に生息する生物について詳しく解説できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：授業の最後に次回の概要を伝えますので、図書館等で関連文献を熟読してください。 事後学修：レポートを作成し提出してください（2 回）。		
テキスト、参考文献	資料を配付します。		
評価方法	期末試験（70%）、レポート（20%）、およびプレゼンテーション（10%）で評価します。		

13 年度以降	生物学Ⅱ	担当者	飯泉 恭一
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義の目的】「生物学Ⅰ」と同様に、最新の生命科学を理解するために必要な生物学の基礎知識を身につけます。そして、友人たちとの議論（プレゼンテーションと質疑応答）を通して、さらに深い理解を目指します。 【講義の概要】「生物学Ⅰ」の知識を基礎に、組織や器官レベルの生物学を学習します。講義形式の授業ですが、様々な実験なども組み込みたいと考えています。1 回目の授業で履修の注意点を話しますので、履修希望者は必ず出席してください。また、本講義は「生物学Ⅰ」の知識を持っていることを前提に実施します。「生物学Ⅰ」を履修していない方は注意して下さい。		1. はじめに ー履修の注意ー 2. 身近な生物 ーキャンパス内の生物を観察ー 3. 光る生物 ーウミホタルの観察ー 4. 刺激の受容 ー眼の構造と働きー 5. 刺激の受容 ー耳、舌、皮膚の構造と働きー 6. 神経細胞 ー体の中の情報伝達ー 7. 筋収縮 ー体を動かすしくみー 8. 病原体から体を守るしくみ （１）ー体液性免疫ー 9. 病原体から体を守るしくみ （２）ー細胞性免疫ー 10. 寄生生物 ー寄生性の多細胞生物ー 11. 寄生生物 ー寄生性の単細胞生物ー 12. ウイルス ーインフルエンザー 13. プレゼンテーション（１） 14. プレゼンテーション（２） 15. まとめ	
到達目標	生物学の基礎、生物の生態環境とその変化および生物の適応について理解し、様々な地域に生息する生物について詳しく解説できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：授業の最後に次回の概要を伝えますので、図書館等で関連文献を熟読してください。 事後学修：レポートを作成し提出してください（４回）。		
テキスト、参考文献	資料を配付します。		
評価方法	期末試験（70%）、レポート（20%）、およびプレゼンテーション（10%）で評価します。		

13 年度以降	生理学 I	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 生理学はその名の意味するように「生きる」ことの「理（ことわり）」を考える学問である。我々のからだは60兆個の様々な細胞がそれぞれに役割を担い、協調しながら生命活動を行っている。この講義では生命現象や生体機能の仕組みを学び、ヒトの身体の機能系統の器官と働きを理解することを目指す。 〔講義概要〕 講義内容は身体の仕組みや機能について概説する。ここでは呼吸、循環、消化・吸収、排泄、代謝といった生命現象、血液・体液、神経、内分泌、筋・骨といった機能系統について、できるだけ身近な題材と組み合わせでわかりやすく講義する。 また、各自が興味を持った「からだ」に関する情報を受講生同士（グループに分かれて）で発表・討論することで共有する形式も取り入れる。		1. ガイダンス・自己紹介 2. 生理学の基礎－ホメオスタシスって？－ 3. 血液・体液－からだの中に海？－ 4. 呼吸・循環－息して生きてる・高血圧低血圧－ 5. 消化・吸収－食べ物の行方－ 6. 代謝・体温－からだを温めると健康によい？－ 7. 内分泌－ホルモン、男らしさ女らしさ 8. 神経－「運動神経」がないひとはいない！－ 9. 感覚－第6感？－ 10. 筋・骨－からだの屋台骨－ 11. 「からだ」の情報交換会①（グループ発表） 12. 「からだ」の情報交換会②（グループ発表） 13. 「からだ」の情報交換会③（グループ発表） 14. 「からだ」の情報交換会④（グループ発表） 15. 春学期のまとめ	
到達目標	生命現象や生体機能の仕組み、ヒトの身体の機能系統の器官と働きを理解し、各種の生理現象を解説できるようにする。		
事前・事後学修の内容	日常生活上の生理機能について意識し、講義によって得た知識と照らし合わせ理解を深めること		
テキスト、参考文献	特に指定しない（必要に応じてプリント等を配布する）		
評価方法	授業への参加態度・貢献度（30%）、授業内小テスト（20%）、レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）により総合的に評価する		

13 年度以降	生理学Ⅱ	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 「脳」は身体の機能の司令塔であり、また心の源でもある。そしてまだまだ未知な領域として多くの研究者がその機能の解明に取り組んでいる。この講義ではヒトの身体制御機構である脳機能について学習し、様々な生理機能との関連を理解することを目指す。 〔講義概要〕 春学期の生理学Ⅰで学んだ身体の仕組みや機能の基礎を基に、秋学期の生理学Ⅱでは私たちのからだの中核である脳機能に焦点を当てて講義する。また、睡眠、情動、言語、学習と記憶など、脳機能と関連する事象についても扱う予定である。できるだけ身近な題材と組み合わせでわかりやすく講義する。 また、各自が興味を持った「脳機能」に関する情報を受講生同士（グループに分かれて）で発表・討論することで共有する形式も取り入れる。		1. ガイダンス・自己紹介 2. 神経科学の基礎 3. ニューロン・シナプス・神経伝達物質 4. 中枢神経系（大脳・小脳・脳幹・脊髄）と末梢神経系 5. 味覚・視覚・聴覚・平衡感覚・体性感覚① 6. 味覚・視覚・聴覚・平衡感覚・体性感覚② 7. 摂食調節－なぜ食べる？－ 8. 脳・脊髄による運動制御 9. 脳と睡眠－なぜ眠る？－ 10. 学習と記憶 11. 「脳機能」の情報交換会① 12. 「脳機能」の情報交換会② 13. 「脳機能」の情報交換会③ 14. 「脳機能」の情報交換会④ 15. 秋学期のまとめ	
到達目標	生命現象や生体機能の仕組、ヒトの身体の機能系統の器官と働きを理解し、各種の生理現象を解説できるようにする。		
事前・事後学修の内容	日常生活上の生理機能について意識し、講義によって得た知識と照らし合わせ理解を深めること		
テキスト、参考文献	特に指定しない（必要に応じてプリント等を配布する）		
評価方法	授業への参加態度・貢献度（30%）、授業内小テスト（20%）、レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）により総合的に評価する		

13 年度以降 12 年度以前	地球環境論 I 自然・環境研究各論 I（地球環境論 a）	担当者	北崎 幸之助
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、世界あるいは日本を「地理学」の視点からとらえていく。各地域の自然環境や文化といった諸分野について、知識・理解を深めることを目的とする。まず、世界の諸地域を概観し、地理的な見方・考え方を身につけるとともに、人口問題、資源と貿易、そして都市と農村のつながりなどの各分野について考察していく。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある意欲的な学生を希望する。		1. オリエンテーションー地理学とは 2. 世界の読み方（1）地域と空間を見る眼 3. 世界の読み方（2）世界地図の錯覚 4. 世界の読み方（3）人と環境から見た世界 5. 世界の読み方（4）世界の経済と貿易 6. 世界の読み方（5）都市と農村の地理 7. 世界の読み方（6）日本の地図を読む 8. 日本の大都市圏（1）東京と首都圏 9. 日本の大都市圏（2）複核構造の近畿圏 10. 日本の大都市圏（3）多核的産業都市・中京 11. 日本の大都市圏（4）大都市圏の回廊地域 12. 地球環境問題に対する視点（1） 13. 地球環境問題に対する視点（2） 14. まとめ（1） 15. まとめ（2）	
到達目標	地理学における研究アプローチを総合的に理解し、地理学的や見方・考え方を養成しながら地球環境問題に関する諸事象を分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。講義後は配布されたプリントの内容について、理解を深めてください。		
テキスト、参考文献	青木英一・北村嘉行『世界を読む 改訂版』（原書房、2005 年）		
評価方法	定期試験 75%、レポートの内容・授業での発言等 25%		

13 年度以降 12 年度以前	地球環境論Ⅱ 自然・環境研究各論Ⅱ（地球環境論 b）	担当者	北崎 幸之助
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、世界あるいは日本を「地理学」の視点からとらえていく。各地域の自然環境や文化といった諸分野について、知識・理解を深めることを目的とする。まず、日本の諸地域、そして世界の諸地域について、それぞれの地域的特色を考察する。そして、近年重要性が増す地球環境問題について詳しくみていく。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある意欲的な学生を希望する。		1. オリエンテーションー地理学とは 2. 日本の地方圏（1）日本海岸の経済的風土 3. 日本の地方圏（2）東北・北海道地方 4. 日本の地方圏（3）瀬戸内海・四国・九州地方 5. 世界の諸地域（1）中国とアジア諸国 6. 世界の諸地域（2）オセアニア 7. 世界の諸地域（3）アメリカ合衆国 8. 世界の諸地域（4）アフリカ・西アジア 9. 世界の諸地域（5）ヨーロッパ・ロシア 10. 地球環境問題（1）生態系と人間活動 11. 地球環境問題（2）自然環境の破壊 12. 地球環境問題（3）環境問題解決にむけた取り組み 13. 地球環境問題（4）今後の方向性 14. まとめ（1） 15. まとめ（2）	
到達目標	地理学における研究アプローチを総合的に理解し、地理学的な見方・考え方を養成しながら地球環境問題に関する諸事象を分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。講義後は配布されたプリントの内容について、理解を深めてください。		
テキスト、参考文献	青木英一・北村嘉行『世界を読む 改訂版』（原書房、2005 年）		
評価方法	定期試験 75%、レポートの内容・授業での発言等 25%		

13 年度以降 12 年度以前	コンピュータと言語 多言語情報処理研究 I（コンピュータと言語）	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。		1. 講義の概要と目標、情報科学とは 2. データ表現、基数変換、論理演算 3. コンピュータの構成要素 4. ソフトウェアの役割、体系と種類 5. オペレーティングシステム（OS） 6. プログラム言語 7. データ構造—リスト、スタック、キュー、2 分木 8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9. コンピュータによる言語情報処理技術（１） 10. コンピュータによる言語情報処理技術（２） 11. 総合演習 12. 情報検索と質問応答システム 13. インターネット上の多言語処理技術 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
到達目標	人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアの関係、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みなどを理解し、コンピュータ言語を処理できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出してください。		
テキスト、 参考文献	授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。		
評価方法	定期試験 60%、小テスト 10%、課題 20%、授業への参加度 10%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	情報科学各論 I 多言語情報処理研究各論 I（表計算とプレゼンテーション）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、クラスによって多少進度が異なることがある。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

13 年度以降 12 年度以前	情報科学各論 I 多言語情報処理研究各論 I（表計算とプレゼンテーション）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、クラスによって多少進度が異なることがある。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

13 年度以降 12 年度以前	情報科学各論Ⅱ 多言語情報処理研究各論Ⅲ（ホームページ設計）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、クラスによって多少進度が異なることがある。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

13 年度以降 12 年度以前	情報科学各論Ⅱ 多言語情報処理研究各論Ⅲ（ホームページ設計）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、クラスによって多少進度が異なることがある。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

13 年度以降	データ構造とアルゴリズム論	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】データ構造とアルゴリズムは難しそうなイメージであるが、実は日常の生活と仕事の中でよく利用する身近なものである。情報爆発といわれる現代社会において、いかにデータを構造化し、必要なアルゴリズムで素早く処理する能力は不可欠である。本講義は実習を通してデータ構造とアルゴリズムに対する理解を深めることを目的とする。 【概要】データ構造とアルゴリズムに関する基本的な理論と方法について、講義形式とパソコンを使った実習形式で体験する。講義内容は、文系の学生でも理解できるように、ゲームを取り入れ、体験しながら学ぶ。 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため、休まず出席すること。		1. 講義の概要、基礎知識、目標 2. リスト 3. スタックとキュー 4. 再帰 5. 計算量解析 6. 解析木 7. 二分探索木 8. ソート 1 9. ソート 2 10. 二分探索 11. 平衡木 12. ハッシュ 13. グラフ 14. 動的計画法 15. 授業のまとめ	
到達目標	データ構造とアルゴリズムについて理解し、アルゴリズムを駆使したプログラミングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で指示した予習内容を事前に精読しておいてください。 また、出される課題やレポートなどを解いて提出してください。		
テキスト、参考文献	授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。 参考サイト： http://www.ieice-hbkb.org/portal/doc_579.html		
評価方法	授業の参加態度（20%）、レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する。		

13 年度以降 12 年度以前	データベース論 多言語情報処理研究各論Ⅳ（データベース）	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】本講義は Microsoft Office Access を利用して、データベースの概念、設計方法、構築手法について学習する。 【概要】データベースの歴史から始め、データベースの概念や、設計方法や、構築手法などを解説しながら、Microsoft Office Access というソフトウェアを利用して、実際の操作を行う。さらに、実習問題を通して、データベースの概念及び設計に対する理解を深める。 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため、休まず出席すること。		1. 授業ガイダンス 2. データベース概論（1）：概念と歴史と種類 3. データベース概論（2）：設計方法と構築手法 4. Microsoft Office Access 入門 5. Microsoft Office Access 基本操作（1） 6. Microsoft Office Access 基本操作（2） 7. Microsoft Office Access 基本操作（3） 8. テーブルの構築と操作（1） 9. テーブルの構築と操作（2） 10. クエリ（1） 11. クエリ（2） 12. リレーションシップの構築 13. レポートの印刷 14. 総合演習 15. 授業のまとめ	
到達目標	データベースの概念と設計方法について理解し、アプリケーションソフトを用いて、実際にデータベースの操作と構築ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	授業で指示した予習内容を事前に精読しておいてください。 また、出される課題やレポートなどを解いて提出してください。		
テキスト、 参考文献	初めの授業で指定する。		
評価方法	授業の参加態度（20%）、レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する。		

13 年度以降	社会調査法	担当者	田端 章明
講義目的、講義概要		授業計画	
「社会調査法」とは、社会学における調査手法の総称です。この講義では社会調査の代表的な手法をいくつか紹介し、実習をまじえながら理解を深めていきます。 この講義の目的は2つあります。1つは、現代社会に氾濫するデータについて、どのような接し方をすればよいのかを理解し、データに振り回されないようになることです。そしてもう1つは、レポートや卒論を書く際に、間違っただデータを引用したり、いいかげんな調査をしたりしないようになることです。 なお、社会調査法を学ぶには、単に方法を覚えるだけではなく、「なぜこういうやり方をするのか」と考えることが必要です。だからこの講義では、受け身の姿勢ではなく積極的に疑問に取り組み続けられる人を歓迎します。 ※履修者数などの条件に応じて、授業計画を変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください		1. 講義の概要、さしあたり「社会調査」とは 2. 調査計画 (1) 調査に値する「問い」とは 3. 調査計画 (2) 「問い」から仮説へ 4. 調査計画 (3) 調査対象の決め方 5. データの収集 (1) 質問づくりのポイント 6. データの収集 (2) 予備調査としてのインタビュー 7. データの収集 (3) 選択肢づくりのポイント 8. データの収集 (4) プレテスト 9. データの収集 (5) 実査の開始 10. データの分析 (1) データ入力とクリーニング 11. データの分析 (2) 自由回答のコーディング 12. データの分析 (3) 単純集計とクロス集計 13. データの分析 (4) 調査報告書のスタイル 14. データの分析 (5) 調査の成果は何か 15. 講義のまとめ、あらためて「社会調査」とは	
到達目標	統計的、あるいは記述的な調査手法について理解し、実際に社会調査ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業時間外に文献調査、データの収集・入力・分析などの作業をしてもらいます		
テキスト、参考文献	テキストは使用しません。参考文献は授業中に紹介します。		
評価方法	調査報告書 40%、その他の提出物 40%、授業への参加度 20%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	統計と調査法 多言語情報処理研究各論Ⅴ（統計と調査法）	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の目的 基礎的な統計手法の学習とその背景にあるデータの性質の理解を通して科学的なものの考え方を身につける。 授業概要 ・1世帯当たりの平均年間所得は約600万円→実感と違うのはなぜ？ ・この店の料理とあの店の料理はどっちがおいしい？→違いがあるとは？ ・「どっきょ」まで入力したら次に最も来やすい文字は何？→確率が高いとは？ 私達は常にこのようなデータに囲まれており、それを巧みに利用しながら生活している。「大まかな感覚」は大切な知恵ではあるが、より客観的で厳密な判断ができればさらに賢い生活を行うことができる。この授業では日常的なデータを素材として、その性質を記述し、現象の本質を推測できるように、科学的な分析方法を使うことを学ぶ。基礎的な統計手法を学ぶことで身の回りの世界を客観的に理解することを目標とする。授業期間の後半は、自分たちで収集したクイズ問題の解答をさまざまな角度から分析し、前半で学んだ理論の応用を試みる。		1. 統計量の種類（量的変量・質的変量）：比例変量，間隔変量，順位変量，名義変量 2. アンケートの取りかた，クイズ問題作成説明 3. 度数分布，相対度数，度数分布表 4. 量的変数のグラフ表現，質的変数のグラフ表現 5. 代表値（平均値，中央値，最頻値），値の広がり，能力テストと到達度テスト 6. 正規分布，散布度（標準偏差），歪度，尖度，標準得点，偏差値 7. クイズ問題解答集計 8. 信頼性係数，項目分析，ロジスティック回帰分析 9. 記述統計と推測統計，仮説（帰無仮説，対立仮説） 10. 相関散布図，相関係数，回帰直線，欠損値の推定，相関検定 11. 対応がない場合の t 検定，分散分析 12. 対応がある場合の t 検定，プリテスト・ポストテスト，時系列分析 13. クロス集計，カイ二乗検定 14. 多変量解析(1) 主成分分析・因子分析・クラスター分析 15. 多変量解析(2) 要因計画法・重回帰分析・対応分析	
到達目標	統計学の基礎的概念を理解し、的確な手法を選択して、実際に統計調査ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。		
テキスト、参考文献	参考文献 内田治『数量化理論とテキストマイニング』（日科技連, 2010）ISBN 978-4-8171-9292-9		
評価方法	定期試験（授業への積極的参加度により評価を加減する）。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（世界の宗教と文化――一神教と多神教） 宗教・文化・歴史特殊研究Ⅰ（世界の宗教と文化――一神教と多神教）	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的>本講義は、世界史的にこれまで大きな役割を果たしてきた地中海世界の「宗教と文化」に焦点を絞り、キリスト教という一神教が成立する過程を歴史的に考察することにより、宗教と文化を含む歴史がいかに密接に関連し、しかも人々の考え方、生き方（心性）の変化と連動しているかを探ることで、現代の私たちの自己認識や帰属意識がどこに由来するかを考えることを目的にしています。 <講義概要>講義は概説的に進めていきますが、関連するテーマのビデオや映画、DVDなどの映像資料もできるだけ使って理解を深めるのに役立てたいと考えています。授業では、細かな年代や事項を知識として知ってもらおうというよりは、それぞれのテーマごとに問題を提起し、それについて考えてもらうことを主眼にしているので、積極的かつ活発な質問や意見が出るのが期待されています。その意味でも自由な発言ができるようなアット・ホームな雰囲気です。		1. はじめに（講義の目的、概要、その他） 2. メソポタミアの宗教と文化：死すべき人間と不死の神 3. エジプトの宗教と文化（1）来世信仰とピラミッド 4. 同（2）一神教革命とツタンカーメンの死 5. パレスティナ地域の宗教と文化（1）カナンの宗教 6. 同（2）イスラエルの民とユダヤ教 7. ギリシアの宗教と文化（1）オリンポスの神々と合理主義 8. 同（2）密儀宗教（エレウシス秘儀、オルペウス信仰） 9. ヘレニズムの宗教と文化（1）コスモポリタニズム 10. 同（2）諸神の習合（シンクレティズム） 11. ローマ帝国の宗教と文化（1）キリスト教の成立意義 12. 同（2）グノーシス主義 13. 同（3）キリスト教会の確立 14. 多神教から一神教への道筋 15. まとめ（総括と展望）	
到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布されたプリントの指定された箇所を事前に精読して、必要に応じて参考文献を読んでおいて下さい。また、毎回出される課題に答えて授業後あるいは次回に提出して下さい。		
テキスト、参考文献	テキストは使用せず、プリントを配布します。また、初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。それ以外に各授業の際、追加の参考文献を紹介することがあります。		
評価方法	定期のレポート 70%、毎回の課題 20%、授業への参加度 10%		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（思想と文化） 宗教・文化・歴史特殊研究Ⅱ（思想と文化）	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
物事を考えることが人間の存在にとってどのような意味を持つのか。そのように考えている自己とは如何なる存在であるのか。この自己の探究を通して、人間の存在の意味は何かを探る。 だが、この授業は単に聞くだけのものではない。教師が考えていることを聴講者に投げかけるので、聴講者はそれに対してどのように考えたらよいのかの応答を求められる。これらの題に関する学生と教師の問答によって探求を進めることが基本となる。 外国人（特に英語を母国語ないしは理解可能言語とする留学生など）の聴講参加がある場合には、英語によって講義およびディスカッションがなされる場合も一部分ある。 本講義の到達目標は、自己の有り方に関する問題を自ら見いだす能力の開発、その問題を自ら解決する手段的思考を見いだす能力の涵養、その手段を論理的に運用する能力、解決を吟味反省する能力を養うことにある。		1. 概要説明と導入 2. ディスカッションのためのグループ分け 3. 「人間の存在」と「自己」との連関 4. 「自己」とは何かのグループ・ディスカッション 5. 「私」と「汝」に関する探求 6. 「私」と「汝」に関する探求Ⅱ 7. 「私」と「汝」に関する探求Ⅲ 8. 「人間とは何か」と「自己」の関係についての考察Ⅰ 9. 「人間とは何か」と「自己」の関係についての考察Ⅱ 10. 「自己」を現代の研究成果から考える 11. 「自己」を現象学的に探求Ⅰ 12. 「自己」を現象学的に探求Ⅱ 13. 「自己」を心理学的に探求Ⅰ 14. 「自己」を心理学的に探求Ⅱ 15. 授業の総まとめ	
到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	前以て手渡されたハンドアウトを事前に精読して下さい。 授業中に紹介された参考文献を事前に精読しておいて下さい。		
テキスト、 参考文献	授業中に参考文献を、その都度、テーマに即したものを紹介する。		
評価方法	レポート 60%、授業中の発表・ディスカッションへの参加度 30%、授業への参加度 10%		

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（地中海世界の宗教と文化 a） 宗教・文化・歴史研究各論 I（地中海世界の宗教と文化 a）	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 古代国家では法律も無い時代があり、あっても現代のようには有効性が乏しい時代がありました。当時古代ギリシア人に信じられていた神託や呪いの重要性について触れます。 家族や地域共同体を守る身近な習慣や祭りを通して見えてくる社会は、一体どのようなものなのか。またそうした社会を維持するべく創出されたアイデンティティーはどのようなものだったのかを考えていきます。本講義では古代ギリシアとりわけアテナイを具体例にして、そこに暮らす市民やその家族たちの実体に迫ります。 <講義概要> 古代ギリシア人の女たちは市民権もなく、表面的にはその存在すら良くわからない場合も多かったのです。しかし、ポリス存続のため子どもを産むことによって、彼女らの役割が明確になり、結婚によって家とのつながりができてポリスが安泰となるわけです。現在も行われているオリンピックの元のオリンピア競技会や悲劇上演は、神にささげるために行われ、古代ギリシア市民やその家族のアイデンティティーを育むために大いに役立ったことを明らかにします。		1、 はじめに（講義の目的、概要、その他 ） 2、 古代ギリシア人の信仰 3、 デルフオイの神託 4、 穢れと浄め、呪い 5、 エレウシスの秘儀と死生観 6、 葬儀、埋葬、墓碑 7、 女性と祭儀 8、 アスクレピオス神 9、 シュンポシオン 10、 ディオニュッシア祭 11、 ギリシア悲劇 12、 ギリシア悲劇鑑賞 13、 ギリシア喜劇 14、 オリュンピア競技会 15、 まとめ	
到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	先週の講義プリントを見直しておくこと		
テキスト、参考文献	テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します		
評価方法	平常点は出席を前提としたうえで授業への参加度、小テスト、期末レポートを加え評価します		

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（地中海世界の宗教と文化 b） 宗教・文化・歴史研究各論Ⅱ（地中海世界の宗教と文化 b）	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 地中海世界には数多くの遺跡や建造物が残されていますが、それらは当時の社会や集団の特性を表現しています。 古代ギリシア、ローマ世界に見られる遺跡や建造物を辿ることによって、当時の人々の世界観や人生観、そして文化理解について考えてみたいと思います。遺跡が何を語っているかを考え、正に受け止める必要があるのではないのでしょうか。 <講義概要> 本講義では、地中海世界で見られる神殿をはじめ、道路、浴場、劇場などを生み出した文化的背景について説明します。 また、ローマ帝国帝政期ごろから、人々が信仰したキリスト教が、多くの人々に受け入れていく過程とあわせてキリスト教徒が迫害された実態も検証します。ローマ帝国の技術を使用して作られた道路や浴場、劇場などはキリスト教の布教に大いに役立ったのです。キリスト教はローマ帝国崩壊後もゲルマン諸国家に受け継がれて広がっていきます。その後ヨーロッパ諸国でも信仰されたのはなぜかについても考察を深めていきます。		1、 はじめに（講義の目的、概要、その他） 2、 パルテノン神殿 3、 エピダウロスの遺跡 4、 シチリアの遺跡 5、 ペルガモンの遺跡 6、 オリュンポスの神々の変容 7、 ローマ建国神話 8、 ローマの道路と橋 9、 ポンペイ遺跡 10、 ディオニュッソス神への信仰 11、 ローマ市民と奴隷 12、 キリスト教徒への迫害 13、 キリスト教の広がり 14、 ゲルマン民族とキリスト教 15、 まとめ	
到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	先週の講義プリントを見直しておくこと		
テキスト、参考文献	テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します		
評価方法	平常点は出席を前提としたうえで授業への参加度、小テスト、期末レポートを加え評価します		

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（アラブ文化・芸術 a） 宗教・文化・歴史研究各論Ⅵ（アラブ文化・芸術 a）	担当者	師岡 カリーマ エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
アラブと聞いて、多くの人はまず何を思い浮かべるでしょうか？テレビのニュースで見る戦場やテロの報道、戒律が厳しいと言われるイスラーム教や女性の抑圧、混乱を招いた「アラブの春」、そしてトンネルの先が見えないパレスチナ問題など、「怖い」「暗い」「分かりにくい」といったネガティブなイメージが強いのではないのでしょうか。 しかし、テレビで報道されるアラブ像は、アラブ世界のほんの小さな一面でしかなく、しかも中には歪曲されたイメージも少なからず紛れ込んでいます。そういったイメージの蓄積によって作り上げられるステレオタイプを打破しようというのがこの講座の目的です。 アラブの芸術、芸能、文学、そして生活文化を通してアラブ人の心と表現世界に親しみ、皆さん独自のアラブ像を形成してもらいたいと思います。		1. イントロダクション：アラブ人とは？ 2. 「イスラム」と「イスラーム」 3. ムスリムにとって「クルアーン」とは 4. アラブ人の生活文化 1) 食生活と祭 5. アラブ人の生活文化 2) 家族・女性 6. アラブ音楽入門Ⅰ 7. アラブ音楽入門Ⅱ 8. パレスチナ問題と芸術 1) ドキュメント 「五つのカメラが壊された」鑑賞・ディスカッション 9. パレスチナ問題と芸術 2) 演劇 「アライブ・フロム・パレスチナ」鑑賞 10. 演劇鑑賞レポート提出・ディスカッション 11. パレスチナ問題と芸術 3) 記録映画 12. パレスチナ問題と芸術 4) 小説 作家ガッサーン・カナファアーニの世界 中編「太陽の男たち」「ハイファに帰って」 読後レポート提出・ディスカッション 13. パレスチナ問題と芸術 5) 詩人 「パレスチナの声」マハムード・ダルウィーシュ 14. パレスチナ問題と芸術 6) 映画 15. イスラーム報道・アラブ報道を考える	
到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	ガッサーン・カナファアーニの上記課題図書をできるだけ早く図書館で入手して読み始めてください。		
テキスト、 参考文献	スライドを使用するか、プリントを配布します。 参考文献：『変わるエジプト、変わらないエジプト』『恋するアラブ人』『イスラームから考える』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）		
評価方法	レポート、平常点（ディスカッション参加や発言の頻度）		

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（アラブ文化・芸術 b） 宗教・文化・歴史研究各論Ⅶ（アラブ文化・芸術 b）	担当者	師岡 カリーマ エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
アラブの芸術といえば、世界一有名なファンタジー、そして SF の原点とも言われる「千夜一夜物語」がまず浮びますが、同時にアラブの文化は詩人の文化であり、また非常に洗練された音楽芸術を育んできました。近年ではノーベル文学賞に輝いたナギーブ・マハフーズやカンヌ映画祭で表彰された映画監督ヨーセフ・シャヒーンなど、国際的な評価を得ている芸術家も少なくありません。この講座ではまず誤解の多いイスラームの解説から始まり、宗教が今も深く根付いている生活文化を知ると同時に、音楽、映画、演劇、文学作品を味わいながら、楽しく真剣にアラブ人の社会やメンタリティーを探っていきます。		1. 後期イントロダクションーアラブの日常 2. アラビアンナイトは逆輸入？「千夜一夜物語」 3. アラブの芸能界と歌謡曲 4. レバノン映画「キャラメル」とアラブ女性 5. 映画鑑賞レポート提出・ディスカッション 6. ハリウッド映画になったアラブ旅行文学 7. マルコ・ポーロよりすごいアラブの旅行家 8. イスラームというファクターを正しく理解する 9. 「アラブ革命の春」を考える 10. アラブ文化は詩の文化（１）：概観 11. 詩の文化（２）：中世ヒップホップ 12. ノーベル賞作家ナギーブ・マフフーズの世界とエジプト近代史 13. 小説「バイナルカスライン」（新訳タイトル：「張り出し窓の街」）読後レポート提出 14. 続き（ディスカッション） 15. まとめ	
ディスカッションには積極的に参加し、反対意見を恐れずにどんどん自己主張してください。			
到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ナギーブ・マフフーズの上記課題図書をできるだけ早く図書館で入手して読み始めてください。		
テキスト、参考文献	スライドを使用するか、プリントを配布します。 参考文献：『変わるエジプト、変わらないエジプト』『恋するアラブ人』『イスラームから考える』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）		
評価方法	レポート、平常点（ディスカッション参加や発言の頻度）		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降	総合科学特殊研究（科学技術と社会 b）	担当者	野澤 聡
講義目的、講義概要		授業計画	
我々は科学技術に囲まれて生きている。科学技術は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、新しい治療薬や画期的な通信手段を作り出したりして、我々の人生や生活を豊かにする。他方、インターネットを利用したサイバーテロや、受精卵に対する遺伝子診断のように、我々の安全を脅かしたり、生命観を揺るがしたりする問題も発生している。東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故は、我々が科学技術と社会との関係を真剣に考えなければならないことを示している。 この講義では、科学技術と社会との関わりを示す代表的な事例とその意義を理解し、科学技術と社会との関わりを学ぶことによって、社会の中で科学技術を生かにはどうしたらよいのか考えることを目的とする。		1. ガイダンス、科学・技術・社会とは 2. 科学技術とイノベーション 3. タームペーパーの書き方について 4. 科学技術の発達は人々の仕事を奪うか 5. 公害と科学技術 6. 気候変動問題と科学技術 7. 気候変動問題の解決に向けて 8. 知的財産と科学技術 9. 製造物責任と科学技術 10. 研究不正を考える 11. 科学者の社会的責任 12. 巨大科学技術と社会 13. なぜ理系に進む女性は少ないのか 14. 専門家と市民との関係 15. 科学技術政策	
到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ニュース・書籍・インターネットなどのメディアを通じて科学技術と社会との関わりに関心をもつ		
テキスト、参考文献	教科書は使用せず、参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する		
評価方法	タームペーパー（レポート）（70％）と、獨協大学レポート用紙の記述（30％）により評価する		

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（宇宙論 a） 自然・環境研究 V（宇宙論 a）	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学の一分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超えており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地があります。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。 「宇宙論 a」では、まず、近代科学以前の宇宙論を概観し、次に、近代的宇宙観の成立と現代的宇宙観の成立を見ていきます。そして、現代宇宙論で確立されたビッグバン宇宙について解説します。		1. はじめに 2. 近代科学以前の宇宙論 3. 天体の運行法則の発見と新たな宇宙像の誕生 4. ガリレイによる動力学の発見と相対性原理 5. ニュートン力学とニュートンの宇宙観 6. ニュートンの宇宙観の発展と電磁気学の成立 7. ニュートンの宇宙観への批判と特殊相対性理論の成立 8. 同時概念・時間概念の相対性 9. 空間概念の相対性と新しい時間空間概念の成立 10. 等価原理と一般相対性理論の成立 11. アインシュタイン方程式と時空の歪み 12. 宇宙の時間的・空間的広がりや宇宙の一様性・等方性 13. 膨張宇宙論 14. ビッグバン宇宙論 15. まとめ	
到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。 毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。		
テキスト、参考文献	テキスト：なし 参考文献：佐藤勝彦『宇宙論入門』（岩波新書 2008 年）		
評価方法	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する。		

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（宇宙論 b） 自然・環境研究VI（宇宙論 b）	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学の一分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超えており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地があります。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。 「宇宙論 b」では、現代宇宙論において近年得られた知見について解説します。 なお、春学期開講「宇宙論 a」の内容についての知識があることを前提に講義を進めます。		1. はじめに 2. 宇宙論が対象とする宇宙 3. 宇宙の階層構造 4. 物質の階層構造 1 5. 物質の階層構造 2 6. 膨張宇宙の観測 7. 膨張宇宙の理論 8. ビッグバン理論 9. 宇宙の構造形成 10. 宇宙の進化 11. ビッグバン理論の問題点 12. インフレーション宇宙 13. 宇宙の特異点と量子宇宙論 14. 超ひも理論と膜宇宙 15. まとめ	
到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。 毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。		
テキスト、参考文献	テキスト：なし 参考文献：佐藤勝彦『宇宙論入門』（岩波新書 2008 年）		
評価方法	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する。		

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（自然観察 a） 自然・環境特殊研究 I（自然観察 a）	担当者	飯泉 恭一
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 科学の基本は実験と観察です。本講座では様々な実験と観察を通して科学的な物の見方を学びます。プレゼンテーションでは、文献調査や実験によって明らかにした内容を各自が発表します。友人たちとの質疑応答を通して知識を共有します。 【概要】 身近な生物と材料を用いて実験を行います。初回到注意事項を説明しますので、受講する意思のある学生は必ず出席して下さい。実験では衣服が汚れることがあります。汚れてもよい服を着用してください。 【注意】天候により生物の採集（または購入）が困難な場合、実験の順番や内容を変えることがあります。 ※本講座を受講する学生は<u>実習費</u>（¥2,000）を支払う必要があります。		1. 海と生命 ー海水を調べるー 2. 細胞分裂の観察 ータマネギの根の細胞分裂を観察ー 3. 微生物の観察 ーカビ（麹）の観察ー 4. 微生物の有用性 ー味噌造りにおける微生物の役割ー 5. 光合成色素の観察 ーペーパークロマトグラフィーー 6. 光合成と糖質 ージャガイモからデンプンを精製ー 7. タンパク質の性質 ー豆腐造りから考えるー 8. 脂質の性質（1） ーバター造りから考えるー 9. 脂質の性質（2） ーマヨネーズと脂質ー 10. 動物組織の観察（1） ーメダカの色素胞を観察ー 11. 動物組織の観察（2） ー魚の脳を解剖ー 12. 動物組織の観察（3） ーイカの神経系を観察ー 13. 原生生物の観察 ーゾウリムシの観察ー 14. 発生の観察 ームラサキウニの発生を観察ー 15. プレゼンテーション	
到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：授業の最後に次回の概要を伝えますので、図書館等で関連文献を熟読してください。 事後学修：毎回レポートを作成して提出してください。		
テキスト、参考文献	資料を配付します。		
評価方法	各回のレポート（60%）、期末試験の結果（30%）、およびプレゼンテーション（10%）で評価します。		

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（自然観察 b） 自然・環境特殊研究Ⅱ（自然観察 b）	担当者	飯泉 恭一
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 科学の基本は実験と観察です。本講座では様々な実験と観察を通して科学的な物の見方を学びます。プレゼンテーションでは、文献調査や実験によって明らかにした内容を各自が発表します。友人たちとの質疑応答を通して知識を共有します。 【概要】 身近な生物と材料を用いて実験を行います。初回到注意事項を説明しますので、受講する意思のある学生は必ず出席して下さい。実験では衣服が汚れることがあります。汚れてもよい服を着用してください。 【注意】天候により生物の採集（または購入）が困難な場合、実験の順番や内容を変えることがあります。 ※本講座を受講する学生は<u>実習費</u>（¥2,000）を支払う必要があります。		1. 動物の再生 ープラナリアの再生ー 2. 微生物の有用性 ー酵母と発酵ー 3. DNA ーブロッコリーから DNA を抽出ー 4. 刺胞動物 ーヒドラの摂食行動を観察ー 5. 光合成と糖質（1） ーもち米とうち米の違いー 6. 光合成と糖質（2） ーさとうきびから砂糖をつくるー 7. 寄生生物 ー食べたらい!?! 魚に潜む寄生虫ー 8. 染色体 ーユスリカ唾腺染色体の観察ー 9. 節足動物 ークルマエビの心臓と神経系を観察ー 10. 魚類 ー魚類の標本を作製ー 11. 軟体動物 ーカキの心臓を調べるー 12. タンパク質の性質 ーうどん作りでグルテンを考えるー 13. 発生の観察 ーバフンウニの発生を観察ー 14. プレゼンテーション 15. まとめ	
到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：授業の最後に次回の概要を伝えますので、図書館等で関連文献を熟読してください。 事後学修：毎回レポートを作成して提出してください。		
テキスト、参考文献	資料を配付します。		
評価方法	各回のレポート（60%）、期末試験の結果（30%）、およびプレゼンテーション（10%）で評価します。		

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（情報検索演習） 多言語情報処理研究各論Ⅱ（情報検索と加工）	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】情報爆発といわれている現代社会において、情報検索の技術を駆使し、いかに必要な情報を素早く、的確に見つける能力は不可欠である。本講義は情報検索の仕組みを解説し、実習を通して「情報検索力」を身に付けることを目的とする。 【概要】情報検索システムの基本的な理論と方法について、講義と実習形式で解説する。 講義内容は、文系の学生でも理解できるように、情報検索の歴史、情報検索ための情報収集、情報整理、情報抽出、情報評価の順番で説明する。 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため、休まず出席すること。		1. 授業ガイダンス 2. 情報検索の基本（1）：パソコンの世界 3. 情報検索の基本（2）：情報の表現 4. 情報検索の基本（3）：データベース 5. 情報検索の種類 6. 情報検索システムの構成と役割 7. 情報の収集 8. 情報の整理（1） 9. 情報の整理（2） 10. 情報の抽出（1） 11. 情報の抽出（2） 12. 情報の検索と評価 13. 情報検索システムの例：図書検索 14. 情報検索システムの例：ネット検索 15. まとめ	
到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で指示した予習内容を事前に精読しておいてください。 また、出される課題やレポートなどを解いて提出してください。		
テキスト、参考文献	テキスト：必要に応じて資料を配布する 参考文献：原田、江草、小山、澤井共著『情報検索演習』 新・図書館学シリーズ 6, 2007（樹村房）		
評価方法	授業の参加態度（20%）、レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する。		

13 年度以降	総合科学特殊研究（生理学実習）	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 普段、何気なく生活している中では気づかないが、我々のからだは様々な環境・状況の変化に対して適応反応を示している。今、メディアなどでも盛んに健康に関する情報が伝えられているが、まずはもっとも身近な私たち自身の体の中のことを知って、快適な生活について考える、工夫するきっかけを提供することが本講義の目的である。 〔講義概要〕 講義内容はからだの仕組みや機能について概説し、実際に自分自身のからだを使ってその機能の一部を確かめる、つまり実験・測定を行う（グループワーク）。得られたデータを分析しまとめることで理解を深める（レポート作成）。		1. ガイダンス、自己紹介 2. 体温調節の基礎－冷え症・低体温、熱中症－ 3. 体温調節実験－寒冷血管拡張反応－ 4. 体温調節－まとめ（グループでデータの解析・討論） 5. 血圧調節の基礎－身近な健康のバロメーター－ 6. 血圧調節実験－様々な姿勢、運動－ 7. 血圧調節－まとめ（グループでデータの解析・討論） 8. 運動調節の基礎－スムーズに動くには－ 9. 運動調節実験－リズム順応－ 10. 運動調節－まとめ（グループでデータの解析・討論） 11. 学習・記憶の基礎－効率よく勉強するには－ 12. 学習効率実験－「ながら」暗記課題－ 13. 学習・記憶－まとめ（グループでデータの解析・討論） 14. 成果発表 15. 総合討論	
到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各テーマの実験課題を考えてくること、また生理機能の理解を深めるため実験のレポートを都度作成し提出すること		
テキスト、参考文献	特に指定しない（必要に応じてプリント等を配布する）		
評価方法	授業への参加態度・貢献度（40%）、レポート（40%）、発表（準備を含む：20%）。		

13 年度以降	総合科学特殊研究（サイエンスライティング a）	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
サイエンスライティングとは「科学について書く」ということです。広くとらえれば科学論文も含まれますが、ここでは、科学研究を専門としない人々が、科学に関する一般向け解説や新聞・雑誌の記事、科学読み物・エッセイ等を書くことを指すこととします。 サイエンスライティングは科学についての知識・理解を教養として高めるだけでなく、文章を通して考えていることを人々に伝える実践ともなります。これは、書く内容がサイエンスに限らずあらゆる分野に応用でき、社会に出てからも役に立つことです。 春学期「サイエンスライティング a」では、科学に関する一般向けの講義、ビデオ、書物の内容の一部を文章にまとめるという作業を通して、科学について書く能力を高めていきます。		- はじめに - 科学に関する講義の内容の一部をまとめる 1 - 科学に関する講義の内容の一部をまとめる 2 - 科学に関する講義の内容の一部をまとめる 3 - 科学に関する講義の内容の一部をまとめる 4 - まとめ文の講評 - 科学に関するビデオの内容の一部をまとめる 1 - 科学に関するビデオの内容の一部をまとめる 2 - 科学に関するビデオの内容の一部をまとめる 3 - 科学に関するビデオの内容の一部をまとめる 4 - まとめ文の講評 - 科学に関する本の内容の一部をまとめる 1 - 科学に関する本の内容の一部をまとめる 2 - 科学に関する本の内容の一部をまとめる 3 - まとめ文の講評	
到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ライティングの添削と講評を基に書き直したものを毎回提出		
テキスト、参考文献	テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介		
評価方法	各テーマにおける「まとめ文」の完成度を総合的に評価する		

13 年度以降	総合科学特殊研究（サイエンスライティング b）	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
サイエンスライティングとは「科学について書く」ということです。広くとらえれば科学論文も含みますが、ここでは、科学研究を専門としない人々が、科学に関する一般向け解説や新聞・雑誌の記事、科学読み物・エッセイ等を書くことを指すこととします。 サイエンスライティングは科学についての知識・理解を教養として高めるだけでなく、文章を通して考えていることを人々に伝える実践ともなります。これは、書く内容がサイエンスに限らずあらゆる分野に応用でき、社会に出てからも役に立つことです。 秋学期「サイエンスライティング b」では、春学期「サイエンスライティング a」での実践を前提に、科学に関する一般向けの講義、ビデオ、書物の解説文を実際にかくという作業を通して文章力をさらに高め、最終的に短い科学エッセイの創作をします。		- はじめに - 科学に関する講義の解説文を書く 1 - 科学に関する講義の解説文を書く 2 - 科学に関する講義の解説文を書く 3 - 解説文の講評 - 科学に関するビデオの解説文を書く 1 - 科学に関するビデオの解説文を書く 2 - 科学に関するビデオの解説文を書く 3 - 解説文の講評 - 科学に関する本の解説文を書く 1 - 科学に関する本の解説文を書く 2 - 科学に関する本の解説文を書く 3 - 解説文の講評 - 科学エッセイを書く 1 - 科学エッセイを書く 2	
到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ライティングの添削と講評を基に書き直したものを毎回提出		
テキスト、参考文献	テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介		
評価方法	各テーマにおける「解説文」と「科学エッセイ」の完成度を総合的に評価する		

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（自然言語処理 a） 多言語情報処理特殊研究 I（自然言語処理 a）	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
自然言語は日常生活で話したり書いたりする言葉のことで、コンピュータ用の人工言語と区別するために「自然」言語といいます。「処理」は自然言語をコンピュータで扱うための操作で、コンピュータが自然言語を理解したり生成したりするためのものです。本講義は、コンピュータを利用した自然言語の処理に関する方法、そして応用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身に付くことを目標とします。 本講義では、自然言語処理の基礎技術について解説します。ここでは、自然言語の形態素解析・構文解析、意味解析などの基礎理論を論述し、言語処理に欠かせない辞書・シソーラス・コーパスなどの構成と応用方法について学びます。コンピュータを使って言語データの収集し、オンラインソフトを使って演習を行います。		1. 言葉とコンピュータ 自然言語処理の諸方面 2. 自然言語処理の予備知識 3. 形態素解析（1）形態素解析の原理と方法 4. 形態素解析（2）日本語と英語の形態素解析実験 5. 単語処理 単語の同定、単語の統計処理 6. 構文解析（1） 文脈自由文法、句構造文法 7. 構文解析（2） 構文解析の原理と実験 8. 電子化辞書・シソーラスの構造と情報抽出 9. コーパス、言語データベースの構造と使い方 10. 単語と文の意味処理 11. 言語処理とオントロジー 12. 人工知能と言語処理 13. 総合演習 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定した内容を事前に予習し、毎回出される課題を指定期日まで提出してください。		
テキスト、参考文献	(1) 最初の講義で指示します。 (2) 必要な資料を配布します。		
評価方法	レポート、演習の完成度と筆記試験の結果を併せて評価します。		

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（コーパス言語学） 多言語情報処理研究各論Ⅵ（コーパス言語学）	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
コーパス言語学とは、電子化された大規模な言語テキストの集成体であるコーパスに基づき、コンピュータを駆使して、実証的観点から言語の諸特性を観察・調査・記述・分析する研究実践の総称です。 コーパス言語学は、言語に対する新しい見方をもたらすアプローチとして言語学はもとより、テキスト分析、言語教育、自然言語処理などの関連分野に大きな影響を与えています。 本講義は受講者にコーパスを学ぶ意義を解説からスタートし、コーパスの紹介・作成の方法を展開し、さらにコーパス検索技術、頻度の処理、コーパスによる語彙分析を多面的に考察します。		1. コーパスを学ぶ意義 2. コーパスとは何か 3. 主要な英語コーパスと日本語コーパス 4. 正規表現とコーパス検索（1） 5. 正規表現とコーパス検索（2） 6. コーパスの作成方法 7. コーパスの作成演習 8. 英語語彙の分析実例 9. 日本語語彙の分析実例 10. 英語文法の分析実例 11. 日本語文法の分析実例 12. コーパスと学習者の関わり 13. 総合演習 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された内容を事前に予習し、毎回出される課題を解いて提出してください。		
テキスト、参考文献	最初の授業に説明します。		
評価方法	定期試験 60%、小テスト 10%、課題 20%、授業への参加度 10%		

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（プログラミング論 a） 多言語情報処理特殊研究Ⅲ（プログラミング論 a）	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼びます。本講義では、プログラムの経験のない初心者から、プログラミングの基礎、すなわちプログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにします。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指します。 初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習します。いくつかのプログラムの設計について講義および実習を行います。		1. 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 2. プログラミング言語とプログラム 3. 開発ツールとしての Visual Basic の基本 4. Visual Basic の基本操作 5. 簡単なプログラムの作成 6. イベント駆動型プログラム 7. 文字の表示と計算プログラム 8. 選択構造をもつプログラム（1） 9. 選択構造をもつプログラム（2） 10. 繰り返しあるプログラムの作成（1） 11. 繰り返しあるプログラムの作成（2） 12. アルゴリズムの原理と演習 13. 総合練習、課題の作成 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定した内容を事前に予習し、毎回出される課題を指定期日まで提出してください。		
テキスト、参考文献	最初の授業に説明します。		
評価方法	定期試験 60%、小テスト 10%、課題 20%、授業への参加度 10%		

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（プログラミング論 b） 多言語情報処理特殊研究Ⅳ（プログラミング論 b）	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、プログラミングの知識を学べ、実際に各種のプログラムの作成練習を繰り返しプログラミングの技能を身に付くことを目的とします。 ここでは、Python というプログラミング言語を使って、Windows 環境でさまざまな機能を生かすためにプログラム作成の考え方ははじめ、文系の方に役立つ文字列の処理、テキストの処理、ファイル操作などについて学びます。さらに、各種な問題解決のアルゴリズムについて紹介し、実用なプログラムについて紹介します。プログラミングを学ぶにあたって実践が非常に重要であるので、実習の比重が大きく設定されています。		1. プログラミングの基礎知識 2. 言語研究とプログラミング 3. Python に触れてみよう 4. Python の基本知識 5. テキストデータに親しもう 6. Python を検索しよう：条件分析 7. 繰り返す処理：ループ 8. 総合演習（1） 9. Python でファイル処理 10. コーパス処理 11. 総合演習（2） 12. Python の応用 13. 総合演習（3） 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定した内容を事前に予習し、毎回出される課題を指定期日まで提出してください。		
テキスト、参考文献	最初の授業に説明します。		
評価方法	定期試験 60%、小テスト 10%、課題 20%、授業への参加度 10%		

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（マルチメディア論） 多言語情報処理特殊研究Ⅵ（マルチメディア論）	担当者	田中 雅英
講義目的、講義概要		授業計画	
マルチメディアというのは、文字だけに限らず画像（写真を含む）や音声もまとめて扱うことを意味しているが、ここででは画像（特に動画）に的を絞る。動画などは今やインターネットの世界では日常的なことになっているが、それはブログなどでただ単に指定通りに張り付けるだけであり、その原理を理解・認識している人は少ない。その基本的原理はパラパラ漫画にも見受けられるが、その処理などを理解し、インターネットの世界での標準ともいえるソフトのフラッシュを用いて自分の力でコントロールできるようになることを目指す。もちろんこれは、ソフトの使いこなしだけを目指すのではなく、自ら作画し、それを動かせるようにすることから始める。		1. ガイダンス 2. イラストの作成① 3. イラストの作成② 4. イラストの作成③ 5. イラストの作品制作 6. アニメーションの基礎。モーショントゥイーン 7. シンボルの政策、保存。レイヤーの利用 8. トゥイーンアニメーション 9. シェイプトゥイーン① 10. シェイプトゥイーン② 11. 作品の制作① 12. 作品の制作② 13. 作品の制作③ 14. 作品の制作④ 15. 作品の制作予備日	
到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	特別な準備は必要としないが、静止画については Windows に付録でついているペイントなどで基本を押さえておくことが望ましい。		
テキスト、参考文献	授業中に適宜指示する。		
評価方法	制作した作品で評価する。参加度を重視し、欠席回数が多いと不可とする。		

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（コンピュータ構造論） 多言語情報処理特殊研究Ⅴ（コンピュータ構造論）	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。単にコンピュータの操作技術を習熟することではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができます。本講義では、（１）情報に関する基本的な概念、（２）コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、（３）情報システムに関する基礎的な素養、（４）情報社会に関する基礎的な理解などの修得を目標とします。（５）コンピュータの最新技術を紹介します。本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施します。		1. 授業のガイダンスとコンピュータ技術の概要 2. ファイル編成とデータベース 3. データベース管理システム（DBMS） 4. SQL 言語とデータベース演習 5. コンピュータ・ネットワーク 6. インターネットの仕組み 7. インターネットサービス 8. セキュリティ、暗号システム、電子認証 9. コンピュータのハードウェア構造 10. マン・マシンインタフェース 11. 情報システムを支える技術 12. ソフトウェア開発手順 13. 人工知能とは 14. 総合演習 15. 授業のまとめ	
到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指示内容を事前に予習し、毎回出される課題を指示期日に提出してください。		
テキスト、参考文献	最初の講義で指示します。 毎回の講義で必要な教材は配布します。		
評価方法	定期試験 60%、小テスト 10%、課題 20%、授業への参加度 10%		

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（科学の方法と実験 a） 自然・環境特殊研究Ⅲ（観察と実験生物学 a）	担当者	内田 正夫
講義目的、講義概要		授業計画	
科学とはなんだろうか。小学校以来「理科」の授業で学んできた自然についてのいろいろな知識はどれだけ身についただろうか。科学とは私たちをとりまく自然世界についての体系的な知識であるが、同時にそれは、多様な要因が複合的に作用しあった結果として現実に生起する事象を、その絡み合った諸要因を丹念に解きほぐして本質を解明する学問の方法と言うことができよう。これは自然科学のみならず、あらゆる学問分野について言える。だから、身についたというのはそのような方法でものを考えることができる、ということである。そのためには紙の上での学習だけでなく、実験を交え経験を通して考察することが可能かつ必要である。「百聞は一"験"に如かず」である。 この授業では、いくつかの身近な～一見単純に見える～事象を、実験しながら自然の法則性を考え、理解を深めることを目標とする。具体的には以下のようなトピックスを計画している。なるべく通年で履修してほしい。		1. イントロダクション 科学的とはどういうことか 2. 記述的科学と論証的科学 定性と定量 3. 「はかる」① 科学における「はかる」ことの意義 4. 「はかる」② 単位のいろいろ 5. 「はかる」③ 精密さ・正確さと大雑把 6. 「はかる」④ 誤差 有効数字 7. 「はかる」⑤ 統計的確からしさ 8. 「ちから」① 力のつり合い 9. 「ちから」② 重力と落下運動 10. 「ちから」③ 力と運動の記述 11. 顕微鏡観察① 微小生物の観察 12. 顕微鏡観察② ブラウン運動 13. 顕微鏡観察③ 単レンズ顕微鏡の製作 14. 光合成① 光とデンプンの生産 15. 光合成② デンプンの分解	
到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で指定した参考文献の学習		
テキスト、参考文献	テキストなし プリントを配布する		
評価方法	実験レポート		

13 年度以降 12 年度以前	総合科学特殊研究（科学の方法と実験 b） 自然・環境特殊研究Ⅳ（観察と実験生物学 b）	担当者	内田 正夫
講義目的、講義概要		授業計画	
科学とはなんだろうか。小学校以来「理科」の授業で学んできた自然についてのいろいろな知識はどれだけ身についただろうか。科学とは私たちをとりまく自然世界についての体系的な知識であるが、同時にそれは、多様な要因が複合的に作用しあった結果として現実に生起する事象を、その絡み合った諸要因を丹念に解きほぐして本質を解明する学問の方法と言うことができよう。これは自然科学のみならず、あらゆる学問分野について言える。だから、身についたというのはそのような方法でものを考えることができる、ということである。そのためには紙の上での学習だけでなく、実験を交え経験を通して考察することが可能かつ必要である。「百聞は一"験"に如かず」である。この授業では、いくつかの身近な～一見単純に見える～事象を、実験しながら自然の法則性を考え、理解を深めることを目標とする。具体的には以下のようなトピックスを計画している。なるべく通年で履修してほしい。		1. 光と色① 光とはなにか：反射と屈折 2. 光と色② スペクトル 物質の色 3. 光と色③ 分光器を作る 4. 静水力学① 浮力（アルキメデスの原理） 5. 静水力学② 密度・比重 鉄船が浮くのはなぜか 6. 静水力学③ サイフォンはなぜ流れるか 浮沈子 7. 原子と分子① 原子の発見 原子構造 8. 原子と分子② 生物分子 9. 物質とエネルギー① エネルギーの発見 10. 物質とエネルギー② エントロピー増大とはなにか 11. 電気と磁気① ボルタ電池を作る 12. 電気と磁気② 回転子を作る 13. 科学と疑似科学① 14. 科学と疑似科学② 15. 科学と疑似科学③	
到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で指定した参考文献の学習		
テキスト、参考文献	テキストなし プリントを配布する		
評価方法	実験レポート		

13 年度 12 年度以前	卒業研究 卒業研究	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
国際教養学部では、全在学期間を通して学んだ集大成として、卒業研究を必修にしています。形式は、卒業論文や卒業制作などですが、各自、所属する演習の担当教員と相談してください。そこで指導をうけながら、卒業研究の進め方を決めていってください。		各担当教員による	
到達目標	特定研究課題を設定して詳細な調査等を行い、その成果を一定程度整理し、体系化できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各自が設定した研究テーマについて主体的に学習・研究を進めていくこと。		
テキスト、参考文献	各担当教員による		
評価方法	各担当教員による。ただし、卒業論文の提出は必須である。		

13 年度 12 年度以前	卒業研究 卒業研究	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期参照			
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

16 年度	スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム) 国際教養学部指定クラス	担当者	松原裕 依田珠江 和田智
講義目的、講義概要		授業計画	
[目的] この科目は、現在および将来の健康で充実した生活のために、健康を創り、維持し、守ること、自由時間をより充実させるための態度、知識、技術を身につけること、身体活動を通じて、国際教養学部新入生のコミュニケーションを図ることを目的にして設置されています。 [概要] この授業用に指定クラスを編成し、各クラスが3人の教員の授業をローテーションで受講します。松原担当はテニス・フットサル・アルティメットなどを人工芝グラウンドで行う予定。依田担当はボール・ラケット競技などをアリーナで行う予定。和田担当はコミュニケーションゲーム（アイスブレーキング）・イニシアティブゲーム・ペタンク・アウトドアクッキング又はレクリエーションalスポーツなどを行う予定。		1. 指定教室でガイダンスと写真付受講票作成 2. 実技 松原 AD 依田 BE 和田 CF 3. 実技 松原 AD 依田 BE 和田 CF 4. 実技 松原 AD 依田 BE 和田 CF 5. 実技 松原 AD 依田 BE 和田 CF 6. 実技 松原 AD 依田 BE 和田 CF 7. 実技 松原 CF 依田 AD 和田 BE 8. 実技 松原 CF 依田 AD 和田 BE 9. 実技 松原 CF 依田 AD 和田 BE 10. 実技 松原 CF 依田 AD 和田 BE 11. 実技 松原 CF 依田 AD 和田 BE 12. 実技 松原 BE 依田 CF 和田 AD 13. 実技 松原 BE 依田 CF 和田 AD 14. 実技 松原 BE 依田 CF 和田 AD 15. 実技 松原 BE 依田 CF 和田 AD	
到達目標			
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。		
テキスト、参考文献	必要に応じて紹介する。		
評価方法	毎回の参加度、受講態度を総合して評価する。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

13 年度以降	日本語 1	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業目的と概要】 本コースでは初級日本語の習得を目指す。 初級の文型の定着をはかりつつ、語彙数は約 1500 語、基礎漢字 300 字程度を学習する。 午前は文法、文型中心の総合テキストを使用した授業となり、初級文型の理解と運用力を養成する。午後の 1 コマは技能別の内容となり、授業での活動通じて、「聞く・話す・読む・書く」の 4 技能を伸ばす。 コース修了時には、日常的な場面で見たり聞いたりする基本的な日本語が理解でき、また、単文レベルで話したり、質問したりすることができるようになってほしい。		14 単位のコースで以下のクラスのすべてに参加することになる。 月、火、水、木：各 3 コマ（1～3 限） 金：2 コマ（1～2 限） 詳しい授業予定は、オリエンテーションで配布する。	
到達目標			
事前・事後学修の内容	学習項目の予習および復習		
テキスト、参考文献	初級日本語『げんきⅠ,Ⅱ』		
評価方法	中間テスト：25％，期末テスト：25％，スピーチ・プレゼンテーション：20％，クイズ：15％，態度・参加度：15％		

13 年度以降	日本語 2	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業目的と概要】 本コースでは日本語中級前半レベルに相当する4技能の総合的な能力を養うことを目的とする。 語彙数は4000語程度、漢字は600字程度の習得を目指す。 午前は文法、文型中心の総合テキストを使用した授業となり、中級文型の理解と運用力を養成する。午後の1コマは技能別の内容となり、授業での活動通じて、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を伸ばす。 このレベルでは、初級レベル（日常会話で聞いたり話したりするものが中心）に比べて話題も広がり、また、文型や語彙は「書き言葉」が多くなる。まとまった文章を読んで自分の意見や考えが言えること、また書けることができるようになってほしい。		14 単位のコースで以下のクラスのすべてに参加することになる。 月、火、水、木：各 3 コマ（1～3 限） 金：2 コマ（1～2 限） 詳しい授業予定は、オリエンテーションで配布する。	
到達目標			
事前・事後学修の内容	学習項目の予習および復習		
テキスト、参考文献	（『げんきⅡ』）『中級へ行こう』、『中級を学ぼう（中級前期）』		
評価方法	中間テスト：25％，期末テスト：25％，スピーチ・プレゼンテーション：20％，クイズ：15％，態度・参加度：15％		

13 年度以降	日本語 2	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業目的と概要】 本コースでは日本語中級前半レベルに相当する 4 技能の総合的な能力を養うことを目的とする。 語彙数は 4000 語程度、漢字は 600 字程度の習得を目指す。 午前は文法、文型中心の総合テキストを使用した授業となり、中級文型の理解と運用力を養成する。午後の 1 コマは技能別の内容となり、授業での活動通じて、「聞く・話す・読む・書く」の 4 技能を伸ばす。 このレベルでは、初級レベル（日常会話で聞いたり話したりするものが中心）に比べて話題も広がり、また、文型や語彙は「書き言葉」が多くなる。まとまった文章を読んで自分の意見や考えが言えること、また書けることができるようになってほしい。		14 単位のコースで以下のクラスのすべてに参加することになる。 月、火、水、木：各 3 コマ（1～3 限） 金：2 コマ（1～2 限） 詳しい授業予定は、オリエンテーションで配布する。	
到達目標			
事前・事後学修の内容	学習項目の予習および復習		
テキスト、参考文献	（『げんきⅡ』）『中級へ行こう』、『中級を学ぼう（中級前期）』		
評価方法	中間テスト：25％，期末テスト：25％，スピーチ・プレゼンテーション：20％，クイズ：15％，態度・参加度：15％		

13 年度以降	日本語 3	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業目的と概要】 本コースでは日本語中級後半レベルに相当する4技能の総合的な能力を養うことを目的とする。 語彙数は6000語程度、漢字は1000字程度の習得を目指す。 午前は日本文化、日本事情をテーマとした総合テキストを使用し、日本について理解を深めながら、中級の文型、語彙、表現を増やす。また、コース後半では各自の関心に基づいて調査を行い、発表へとつなげる。午後の1コマは技能別の内容となり、授業での活動通じて、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を伸ばす。		14 単位のコースで以下のクラスのすべてに参加することになる。 月、火、水、木：各 3 コマ（1～3 限） 金：2 コマ（1～2 限） 詳しい授業予定は、オリエンテーションで配布する。	
到達目標			
事前・事後学修の内容	学習項目の予習および復習		
テキスト、参考文献	『上級へのとびら』／『わたしの見つけた日本』		
評価方法	中間テスト：25％，期末テスト：25％， スピーチ・プレゼンテーション：20％，クイズ：15％，態度・参加度：15％		

13 年度以降	日本語 3	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業目的と概要】 本コースでは日本語中級後半レベルに相当する 4 技能の総合的な能力を養うことを目的とする。 語彙数は 6000 語程度、漢字は 1000 字程度の習得を目指す。 午前は日本文化、日本事情をテーマとした総合テキストを使用し、日本について理解を深めながら、中級の文型、語彙、表現を増やす。また、コース後半では各自の関心に基づいて、調査を行い、発表へとつなげる。午後の 1 コマは技能別の内容となり、授業での活動通じて、「聞く・話す・読む・書く」の 4 技能を伸ばす。		14 単位のコースで以下のクラスのすべてに参加することになる。 月、火、水、木：各 3 コマ（1～3 限） 金：2 コマ（1～2 限） 詳しい授業予定は、オリエンテーションで配布する。	
到達目標			
事前・事後学修の内容	学習項目の予習および復習		
テキスト、参考文献	『上級へのとびら』／『わたしの見つけた日本』		
評価方法	中間テスト：25％， 期末テスト：25％， スピーチ・プレゼンテーション：20％， クイズ：15％， 態度・参加度：15％		

13 年度以降	専門日本語	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業目的と概要】 本コースでは日本語中級後半から上級レベルに相当する4技能の総合的な能力を養うことを目的とする。 語彙数は8000語程度、漢字は1500字程度の習得を目指す。 午前は日本社会に関するテーマで構成された総合テキストを使用し、日本について理解を深めながら、自分の考えをまとめ、発信する。テキストの読み物（新聞記事や小説などから抜粋）から、中上級の文型、語彙、表現を増やしていく。また、コース後半では各自の関心に基づいて調査を行い、発表へとつなげる。 午後は技能別の内容となり、授業での活動通じて、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を伸ばす。		単位数：10 単位 各曜日 2 コマ、計 10 コマを 1 週間に履修する。 月、火、水、木、金：1 限、3 限 詳しい授業予定は、オリエンテーションで配布する。	
到達目標			
事前・事後学修の内容	学習項目の予習および復習		
テキスト、参考文献	『中・上級日本語教科書 日本への招待』		
評価方法	中間テスト：25％，期末テスト：25％，スピーチ・プレゼンテーション：20％，クイズ：15％，態度・参加度：15％		

13 年度以降	専門日本語	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業目的と概要】 本コースでは日本語中級後半から上級レベルに相当する 4 技能の総合的な能力を養うことを目的とする。 語彙数は8000 語程度、漢字は1500 字程度の習得を目指す。 午前は日本社会に関するテーマで構成された総合テキストを使用し、日本について理解を深めながら、自分の考えをまとめ、発信する。テキストの読み物（新聞記事や小説などから抜粋）から、中上級の文型、語彙、表現を増やしていく。また、コース後半では各自の関心に基づいて調査を行い、発表へとつなげる。 午後は技能別の内容となり、授業での活動通じて、「聞く・話す・読む・書く」の 4 技能を伸ばす。		単位数：10 単位 各曜日 2 コマ、計 10 コマを 1 週間に履修する。 月、火、水、木、金：1 限、3 限 詳しい授業予定は、オリエンテーションで配布する。	
到達目標			
事前・事後学修の内容	学習項目の予習および復習		
テキスト、参考文献	『中・上級日本語教科書 日本への招待』		
評価方法	中間テスト：2 5 %， 期末テスト：2 5 %， スピーチ・プレゼンテーション：2 0 %， クイズ：1 5 %， 態度・参加度：1 5 %		

シラバス 言語文化学科

2016年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1825



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	